



## ユーザー マニュアル

HP TeemTalk ターミナル エミュレーター、バージョン 7.3

Copyright 2008-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P. 本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

Microsoft、Windows、および Windows Vista は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の限定的保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Company の書面による承諾なしに複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

製品番号：578102-294

改訂第2版：2010年4月

このアプリケーションには以下の著作権が適用されます。

Copyright 1987, 1988 by Digital Equipment Corporation, Maynard, Massachusetts, and the Massachusetts Institute of Technology, Cambridge, Massachusetts.

All Rights Reserved. Digital Equipment Corporation は、商用性および適合性に対する暗黙の保証を含め、本ソフトウェアに関するいかなる保証も否認します。契約行為、過失、その他の不法行為のいずれにおいても、このソフトウェアの使用または実行に起因または関連する特別損害、間接的損害、または派生的損害、あるいは使用機会、データ、利益の損失による損害について、Digital Equipment Corporation は一切責任を負いません。

以下の著作権も適用されます。

Copyright (c) 1989 The Regents of the University of California.

All rights reserved.

本ソフトウェアは、カリフォルニア大学理事会および協力者から現状有姿のままで提供されたものです。これについては、商用

性、特定の目的への適合性に対する暗黙の保証を含むがこれに限定されない、明示的または黙示的ないかなる保証も提供されません。理事会または協力者は、事由を問わず、また責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失）であるかどうかを問わず、このソフトウェアの使用によって生じた直接的損害、間接的損害、偶発的損害、例外的損害、懲罰的損害、必然的損害のいずれに対しても（代替品またはサービスの提供、使用機会、データ、または利益の損失の補償、または業務の中断に対する補償を含めて）、一切責任を負いません。

以下の著作権も適用されます。

Copyright 1989 Massachusetts Institute of Technology. 本ソフトウェアのすべての複製に上記の著作権表示を記載すること、関連文書に上記の著作権表示と本許諾表示の両方を記載すること、およびソフトウェアを頒布する際に書面による明示的な承諾なしに広告または宣伝の目的で M.I.T. の名前を使用しないことを条件に、目的を問わず本ソフトウェアおよび関連文書を使用、複製、変更、頒布、および販売することを無償で許可します。M.I.T. は、本ソフトウェアのいかなる目的に対する適合性についても一切言明しません。本ソフトウェアは、明示的または黙示的な保証なく、現状有姿のまま提供されます。

M.I.T. は、商用性および適合性に対する暗黙の保証を含め、本ソフトウェアに関するいかなる保証も否認します。契約行為、過失、その他の不法行為のいずれにおいても、このソフトウェアの使用または実行に起因または関連する特別損害、間接的損害、または派生的損害、あるいは使用機会、データ、利益の損失による損害について、M.I.T. は一切責任を負いません。

以下の著作権も適用されます。

Copyright (c) 1996-1997 Sam Leffler

Copyright (c) 1996 Pixar

以下の著作権も適用されます。

Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler

Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

ソフトウェアは現状有姿のままで、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、または特定の目的への適合性についての保証も含みますが、それに限定されるものではありません。

損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、責任の根拠を問わず、このソフトウェアの使用または実行に起因または関連する特別損害、偶発的損害、間接的

損害、または派生的損害、あるいは使用機会、データ、利益の損失による損害について、Sam Leffler および Silicon Graphics は一切責任を負いません。

---

# 目次

<b>1</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>1</b>
	TeemTalk とは .....	1
	TeemTalk バージョン 7.3 での変更点 .....	1
	このマニュアルについて .....	1
	用語および表記規則 .....	2
	その他の情報の参照先 .....	2
<b>2</b>	<b>お使いになる前に</b> .....	<b>3</b>
	セッション ウィザードによるセッションの作成 .....	3
	はじめに .....	3
	セッション ウィザードの使用 .....	3
	セッション設定の実行 .....	7
	TeemTalk ウィンドウ .....	8
	設定バー .....	9
	セッション設定の保存 .....	10
	ステータス バー .....	10
<b>3</b>	<b>ホスト接続</b> .....	<b>11</b>
	はじめに .....	11
	Telnet 設定 .....	13
	TCP/IP トランスポート .....	14
	SSH2 トランスポート .....	14
	ホスト接続の作成 .....	15
	パスワードを使用する認証プロファイルの作成 .....	16
	新しい公開キーを使用した認証プロファイルの作成 .....	21
	SSL トランスポート .....	27
	ホスト接続の作成 .....	28
	エラー メッセージ .....	30
	証明書について .....	30
	証明書の保存場所 .....	31
	シリアル トランスポート .....	31
	自動ログオン .....	34

<b>4</b>	<b>キーボード設定</b>	<b>36</b>
	キーボード マッピング	36
	キーの機能の定義	36
	合成文字シーケンス	39
<b>5</b>	<b>マウスの機能</b>	<b>44</b>
	マウスの初期設定の機能	44
	マウスの機能の定義	44
	マウスの標準機能	45
	マクロの定義	46
<b>6</b>	<b>ホットスポット</b>	<b>48</b>
	はじめに	48
	ホットスポットの使用	48
	Hotspot Editor (ホットスポット エディター)	48
	ホットスポットの定義	49
	ホットスポットの保存	50
	ホットスポットのエクスポート	50
	ホットスポットのインポート	50
<b>7</b>	<b>Soft Buttons (ソフト ボタン)</b>	<b>51</b>
	はじめに	51
	ソフト ボタンの機能の定義	52
<b>8</b>	<b>表示属性</b>	<b>54</b>
	はじめに	54
	[Attributes] (属性) ダイアログ	54
	画面の背景色の変更	56
	テキストの前景色および背景色の変更	56
	属性の無効化	56
	設定	57
<b>9</b>	<b>編集オプション</b>	<b>59</b>
	[Edit] (編集) メニュー	59
	Clipboard Options (クリップボード オプション)	60

<b>10 印刷</b> .....	<b>62</b>
[File] (ファイル) メニューの印刷オプション .....	62
Print Screen (画面を印刷) .....	62
Print Buffer (印刷バッファ) .....	64
Auto Print (自動印刷) .....	64
Eject Page (ページ送り) .....	64
エミュレーション プリンターの設定 .....	64
Status (ステータス) .....	64
Settings (設定) .....	65
Advanced (詳細設定) .....	67
Print to File (ファイルに印刷する) .....	67
Print to System Printer (システム プリンターに印刷する) .....	69
Print to Serial Device (シリアル デバイスに印刷する) .....	71
ラインプリンター デバイスへの印刷 .....	73
Print to LPR (LPR に印刷する) .....	75
<b>11 FTP ファイル転送</b> .....	<b>77</b>
<b>12 VT シリーズ エミュレーション</b> .....	<b>80</b>
はじめに .....	80
VT シリーズ エミュレーション セッションの作成 .....	81
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	81
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	82
キーボード マッピング .....	82
101/102 キーボード レイアウト/通常モード .....	83
101/102 キーボード レイアウト/DEC モード .....	85
ステータス バー .....	86
表示のスクロール .....	87
ヘブライ語の入力方向 .....	87
TTY 印刷モード .....	87
AT&T 4410 エミュレーション .....	88
キーボード マッピング .....	88
表示 .....	88
ファンクション キーとボタンのプログラミング .....	88
セットアップ オプション .....	89
一般設定 .....	90
ディスプレイの設定 .....	95

設定 .....	98
タブの設定 .....	101
補助ポートの設定 .....	101
<b>13 HP 700-92/96 エミュレーション .....</b>	<b>104</b>
HP 700-92/96 エミュレーション セッションの作成 .....	104
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	104
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	105
キーボード マッピング .....	105
表示の設定 .....	107
ファンクション キーおよびボタン .....	107
モード選択 .....	108
設定の選択 .....	110
デバイス制御 .....	111
デバイス モード .....	112
マージン、タブ、および開始カラム .....	114
ファンクション キーとボタンのプログラミング .....	115
ユーザー キー モード .....	115
ユーザー キー定義 .....	116
初期設定の定義 .....	116
キー文字列の処理 .....	116
機能のインジケーター .....	117
キー文字列の定義 .....	117
文字表示の属性 .....	118
セットアップ オプション .....	119
一般設定 .....	120
構成設定 .....	122
設定 .....	125
<b>14 IBM 3151 エミュレーション .....</b>	<b>128</b>
IBM 3151 エミュレーション セッションの作成 .....	128
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	128
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	129
キーボード マッピング .....	129
ステータス行 .....	132
ファンクション キーの定義 .....	134
セットアップ オプション .....	135

一般設定 .....	136
ディスプレイの設定 .....	139
設定 .....	142
<b>15 IBM 3270 ディスプレイ エミュレーション .....</b>	<b>145</b>
IBM 3270 ディスプレイ エミュレーション セッションの作成 .....	145
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	145
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	146
IBM 3270 ディスプレイ エミュレーションの機能 .....	146
キーボード マッピング .....	146
SysReq キーのサポート .....	149
ネットワーク仮想ターミナル モード .....	150
ステータス行 .....	150
動作モードおよび通信 .....	150
入力不可 .....	151
入力方向 .....	152
バイリンガル キーボード モード .....	152
数値ロック .....	152
挿入モード .....	152
表示方向 .....	152
カーソル位置 .....	152
テキスト表示オプション .....	152
右から左に表示 .....	152
入力方向 .....	153
クローズ キー .....	153
プッシュ モード .....	153
バイリンガル キーボードのサポート .....	153
代替コード ページ .....	154
キーストロークの記録および再生機能 .....	154
キーストロークの記録 .....	154
キーストロークの再生 .....	155
マクロの編集 .....	156
エラー コード .....	157
Notice Board 機能 .....	157
はじめに .....	157
キーの機能 .....	158
画面データのディスプレイへのコピー .....	158

画面データのファンクション キーへのコピー .....	158
セットアップ オプション .....	159
モデルの設定 .....	160
各国語の設定 .....	162
ディスプレイの設定 .....	166
キーボードの設定 .....	167
Notice Board の設定 .....	168
<b>16 IBM 3270 プリンター エミュレーション .....</b>	<b>170</b>
IBM 3270 プリンター エミュレーション セッションの作成 .....	170
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	170
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	171
IBM 3287-1 プリンターのサポート .....	171
セットアップ オプション .....	172
モデルの設定 .....	173
各国語の設定 .....	175
印刷バイパスの設定 .....	180
<b>17 IBM 5250 ディスプレイ エミュレーション .....</b>	<b>182</b>
IBM5250 ディスプレイ エミュレーション セッションの作成 .....	182
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	182
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	183
IBM5250 エミュレーションの機能 .....	183
キーボード マッピング .....	183
ネットワーク仮想ターミナル モード .....	186
ステータス行 .....	187
動作モードおよび通信 .....	187
入力不可 .....	187
入力方向 .....	187
バイリンガル キーボード モード .....	187
挿入モード .....	188
表示方向 .....	188
カーソル位置 .....	188
FAX 画像のサポート .....	188
ワード プロセッシング モード .....	188
テキスト表示オプション .....	189
右から左に表示 .....	189



入力方向 .....	189
クローズ キー .....	190
プッシュ モード .....	190
バイリンガル キーボードのサポート .....	190
代替コード ページ .....	190
キーストロークの記録および再生機能 .....	190
キーストロークの記録 .....	191
キーストロークの再生 .....	192
エラー コード .....	192
セットアップ オプション .....	193
モデルの設定 .....	194
各国語の設定 .....	196
ディスプレイの設定 .....	200
環境変数 .....	202
<b>18 IBM 5250 プリンター エミュレーション .....</b>	<b>205</b>
IBM5250 プリンター エミュレーション セッションの作成 .....	205
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	205
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	206
セットアップ オプション .....	206
モデルの設定 .....	207
各国語の設定 .....	208
環境変数 .....	212
<b>19 TA6530 エミュレーション .....</b>	<b>217</b>
TA6530 エミュレーション セッションの作成 .....	217
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	217
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	218
動作モード .....	218
会話モード .....	218
ブロック モード .....	219
ANSI モード .....	219
罫線カーソル .....	219
キーボード マッピング .....	219
ステータス行 .....	222
セットアップ オプション .....	223
一般設定 .....	224

ディスプレイの設定 .....	226
設定 .....	228

## **20 Wyse エミュレーション ..... 230**

はじめに .....	230
Wyse エミュレーション セッションの作成 .....	230
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	231
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	231
表示形式 .....	232
キーボード マッピング .....	232
ステータス行 .....	235
セットアップ オプション .....	237
一般設定 .....	238
表示 .....	242
設定 .....	245
タブの設定 .....	247

## **21 MDIS Prism エミュレーション ..... 249**

はじめに .....	249
MD Prism エミュレーション セッションの作成 .....	249
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	249
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	250
キーボード マッピング .....	250
ステータス バー .....	252
セットアップ オプション .....	254
一般設定 .....	255
ディスプレイの設定 .....	257
設定 .....	259

## **22 ICL DOC-18 エミュレーション ..... 261**

はじめに .....	261
DOC-18 エミュレーション セッションの作成 .....	261
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	261
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	262
キーボード マッピング .....	262
ステータス バー .....	264
セットアップ オプション .....	266

一般設定 .....	267
ディスプレイの設定 .....	269
設定 .....	271
<b>23 Siemens 97801 エミュレーション .....</b>	<b>273</b>
はじめに .....	273
Siemens 97801 エミュレーション セッションの作成 .....	273
TeemTalk セッション ウィザードの使用 .....	273
TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用 .....	274
キーボード マッピング .....	274
ステータス バー .....	276
セットアップ オプション .....	278
一般設定 .....	279
ディスプレイの設定 .....	281
設定 .....	283
<b>24 スクリプトの実行 .....</b>	<b>285</b>
はじめに .....	285
[Tools] (ツール) メニューのスクリプト項目 .....	285
キーまたはボタンの定義の使用 .....	286
<b>25 ホスト通信のキャプチャ .....</b>	<b>287</b>
はじめに .....	287
ファイルをキャプチャ .....	288
ファイルを再生 .....	289
<b>26 設定およびコマンド ライン オプション .....</b>	<b>291</b>
設定 .....	291
コマンド ライン オプション .....	292
セッション設定 .....	292
ウィンドウの外観 .....	294
エミュレーション ワークスペース .....	298
<b>付録 A キーとボタンのプログラミング .....</b>	<b>299</b>
はじめに .....	299
キーの機能の組み合わせおよびシーケンスの設定 .....	299
仮想キーの名前 .....	299

キーの組み合わせ .....	299
キー シーケンス .....	300
特殊文字の設定 .....	300
制御文字 .....	300
バックスラッシュ値 .....	300
ユーロ文字 .....	300
スクリプト ファイルの実行 .....	300

## **付録 B 仮想キーの名前 ..... 302**

はじめに .....	302
標準仮想キーの名前 .....	302
マウス ボタン .....	305
拡張キーボードの機能 .....	305
AT&T 4410 の仮想キーの名前 .....	306
DEC VT510 の仮想キーの名前 .....	307
HP 700-92/96 の仮想キーの名前 .....	308
IBM 3151 の仮想キーの名前 .....	310
IBM 3270 の仮想キーの名前 .....	312
IBM 5250 の仮想キーの名前 .....	314
IBM 5250 ワード プロセッシング モード .....	316
TA6530 の仮想キーの名前 .....	317
Wyse 仮想キーの名前 .....	319
MDIS Prism 仮想キーの名前 .....	321
Siemens 97801 仮想キーの名前 .....	322

## **付録 C 製品仕様 ..... 325**

はじめに .....	325
全般 .....	325
Telnet .....	325
AixTerm .....	325
DEC VT シリーズ エミュレーション .....	326
HP 700-92/96 エミュレーション .....	326
IBM 3270 エミュレーション .....	326
IBM 5250 エミュレーション .....	326
IBM 3151 ネイティブ エミュレーション モデル 11 および 31 .....	327
Stratus V102 .....	327
Tandem 6526/6530 エミュレーション .....	327

Televideo 955 .....	328
Wyse 60 ネイティブ エミュレーション .....	328
Wyse 50、50+、TVI 910、950、ADDS-A2、HZ 1500、Wyse PC-Term .....	329
Siemens 97801 .....	329

<b>索引 .....</b>	<b>330</b>
-----------------	------------



# 1 はじめに

この章では、TeemTalk の概要およびこのマニュアルの内容について説明します。

## TeemTalk とは

HP の TeemTalk ホスト アクセス ソフトウェアを使用すると、メインフレームおよびミッドレンジシステム上のアプリケーションに接続してそれらのアプリケーションと通信できます。Microsoft® Windows®または Linux を実行するデスクトップ コンピューターであれば事実上どのコンピューターからでも接続できます。TeemTalk では、IBM 3270、5250、DEC VT、HP、MDIS Prism、DOC18、Siemens、Wyse など、30 種類以上のグリーン スクリーン ターミナルをエミュレートできます。

また、TeemTalk には、ターミナル エミュレーション操作に役立つさまざまな機能が用意されています。たとえば、以下のものが含まれます。

- ソフト ボタンのプログラミング
- キーおよびマウス ボタンの機能変更
- ディスプレイの属性および色の変更
- 複数セッションの同時実行およびタブ別表示
- 自動ログオンによるホスト ログオン手順の全自動化または一部自動化
- スクリプト言語による操作の自動化

## TeemTalk バージョン 7.3 での変更点

- Microsoft Windows 2000 オペレーティング システムでの TeemTalk のサポートが終了しました。
- FTP ファイル転送がサポートされるようになりました。
- Siemens 97801 ターミナル エミュレーションのサポートが追加されました。
- ICL DOC-18 ターミナル エミュレーションのサポートが追加されました。

## このマニュアルについて

このマニュアルでは、TeemTalk バージョン 7.3 の使用方法について説明します。TeemTalk を実行するオペレーティング システムの操作方法は理解しているものとして説明を進めます。お使いの TeemTalk のバージョンによっては、このマニュアルで説明している一部のエミュレーションまたは機能がサポートされていないことがあります。

## 用語および表記規則

このマニュアルでは、以下の用語および表記を使用します。

### キー操作

2 つ以上のキーを同時に押す必要があるとき (**Shift** キーと **F4** キーなど) は、キー名の間にはプラス記号を入れて表記します。たとえば、**Shift + F4** となります。「+」記号のキーを押す必要はありません。

### クリック

クリックは、画面上の特定の項目 (アイコンなど) の上にマウス ポインターがあるときに、マウスの左ボタンを 1 回押し、さらに押したボタンから指を離すまでの操作を示します。マウスの他のボタンを明示的に指定していないかぎり、左ボタンを使用します。

### ダブルクリック

ダブルクリックは、画面上の特定の項目 (アイコンなど) の上にマウス ポインターがあるときに、マウスの左ボタンをすばやく 2 回クリックする操作を示します。マウスの他のボタンを明示的に指定していないかぎり、左ボタンを使用します。

### ドラッグ

ドラッグは、画面上の特定の項目 (ウィンドウの端など) の上にマウス ポインターを置き、マウスの左ボタンを押し下げたままマウスを動かす操作を示します。

## その他の情報の参照先

### 技術サポート

最新のソフトウェア更新プログラムなど、HP 製品の最新情報については、以下を参照してください。

<http://www.hp.com/#support/>

このユーザー マニュアルおよびその他の HP 製品ドキュメントを参照またはダウンロードすることもできます。

### HP へのお問い合わせ

HP へのお問い合わせ方法については、以下の Web サイトを参照してください。

[http://welcome.hp.com/country/jp/ja/contact\\_us.html](http://welcome.hp.com/country/jp/ja/contact_us.html)



## 2 お使いになる前に

この章では、TeemTalk セッション ウィザードを使用してセッション設定ファイルを作成する方法およびセッション設定のさまざまな実行方法について説明します。さらに、TeemTalk ウィンドウに表示される各項目の概要、および設定バーとステータス バーについて説明します。

### セッション ウィザードによるセッションの作成

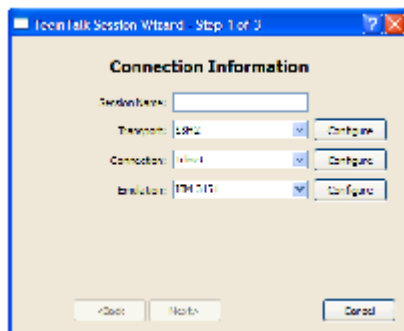
#### はじめに

TeemTalk では、実行するターミナル エミュレーションとその設定、ホストへの接続方法、およびその他の機能（ディスプレイの色、ソフト ボタンの定義、キーボード マクロなど）を指定するセッション設定ファイルを作成できます。

TeemTalk のセッション設定ファイルを作成する方法には、これから説明するように TeemTalk セッション ウィザードを使用する方法と、TeemTalk でセッションを実行中に **[File]**（ファイル）メニューの **[Save Session As]**（セッションに名前を付けて保存）を選択する方法があります。

#### セッション ウィザードの使用

1. **[スタート]**メニュー→**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]**（セッション ウィザード）の順に選択して、TeemTalk セッション ウィザードを起動します。



2. **[Session Name]**（セッション名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。

ここで指定した名前は、作成される **.fts** セッション設定ファイルのファイル名として使用されます。また、セッションの実行中に TeemTalk ウィンドウのタイトル バーにかっこで囲まれて表示されます。

3. **[Transport]** (トランスポート) の方法を選択し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックして設定を指定します。

- **SSH2**

SSH2 (Secure Shell) クライアント/サーバー プロトコルを使用して、パスワードとキーまたはそのどちらかによる認証を行い、データを暗号化して、ネットワーク経由でデータを安全に転送します。詳しくは、[14 ページの「SSH2 トランスポート」](#)のセクションを参照してください。

- **Serial** (シリアル)

シリアル転送プロトコルを使用してホストと通信します。詳しくは、[31 ページの「シリアル トランスポート」](#)のセクションを参照してください。

- **TCP/IP**

TCP/IP プロトコルを使用してホストと通信します。詳しくは、[14 ページの「TCP/IP トランスポート」](#)のセクションを参照してください。

- **SSL**

SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用して、クライアントとサーバー間で認証を行い、暗号化された通信を行います。詳しくは、[27 ページの「SSL トランスポート」](#)のセクションを参照してください。

4. **[Connection]** (接続) の種類を選択し (現在サポートされているのは Telnet のみです)、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します。

5. **[Emulation]** (エミュレーション) 一覧でターミナル エミュレーションを選択し、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します。

- **VT Series** (VT シリーズ)

DEC VT シリーズおよび VT ベースのターミナルをエミュレートします。詳しくは、[80 ページの「VT シリーズ エミュレーション」](#)の章および[89 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **HP70092**

Hewlett-Packard HP 700-92/96 ターミナルをエミュレートします。詳しくは、[104 ページの「HP 700-92/96 エミュレーション」](#)の章および[119 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **IBM 3151**

IBM 3151 ターミナルをエミュレートします。詳しくは、[128 ページの「IBM 3151 エミュレーション」](#)の章および[135 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **IBM3270 Display** (IBM3270 ディスプレイ)

IBM 3270 ターミナルをエミュレートします。詳しくは、[145 ページの「IBM 3270 ディスプレイ エミュレーション」](#)の章および[159 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **IBM3270 Printer** (IBM3270 プリンター)

IBM 3270 プリンターをエミュレートします。詳しくは、[170 ページの「IBM 3270 プリンター エミュレーション」](#)の章および[172 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **IBM5250 Display** (IBM5250 ディスプレイ)

IBM 5250 ターミナルをエミュレートします。詳しくは、[182 ページの「IBM 5250 ディスプレイ エミュレーション」](#)の章および[193 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **IBM5250 Printer** (IBM5250 プリンター)

IBM 5250 プリンターをエミュレートします。詳しくは、[205 ページの「IBM 5250 プリンター エミュレーション」](#)の章および[206 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **TA6530**

Tandem TA 6530 ターミナルをエミュレートします。詳しくは、[217 ページの「TA6530 エミュレーション」](#)の章および[223 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **Wyse**

Wyse シリーズのターミナルおよび Wyse ターミナルをエミュレートします。詳しくは、[230 ページの「Wyse エミュレーション」](#)の章および[237 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **MDIS Prism**

MDIS P8/P12 または P9 ターミナルをエミュレートします。詳しくは、[249 ページの「MDIS Prism エミュレーション」](#)の章および[254 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

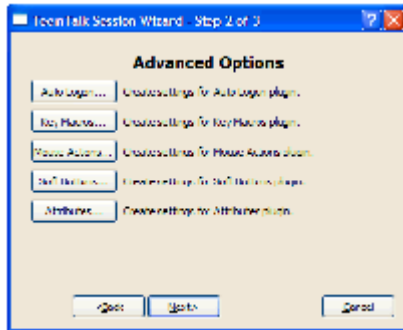
- **Doc 18**

ICL DOC-18 ターミナルをエミュレートします。詳しくは、[261 ページの「ICL DOC-18 エミュレーション」](#)の章および[266 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

- **Siemens 97801**

Siemens 97801 ターミナルをエミュレートします。詳しくは、[273 ページの「Siemens 97801 エミュレーション」](#)の章および[278 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションを参照してください。

6. **[Next]** (次へ) をクリックして、**[Advanced Options]** (詳細設定オプション) ダイアログを表示します。



- **Auto Logon** (自動ログオン)

ホスト ログイン手順を全自動化または一部自動化できます。[34 ページの「自動ログオン」](#)のセクションを参照してください。

- **Key Macros** (キー マクロ)

キーボードの単独のキーおよびキーの組み合わせの機能を定義できます。[36 ページの「キーの機能の定義」](#)のセクションを参照してください。

- **Mouse Actions** (マウス動作)

マウス ボタンをクリックしたとき、およびモディファイア キーを押しながらクリックしたときの機能を定義できます。[44 ページの「マウスの機能の定義」](#)のセクションを参照してください。

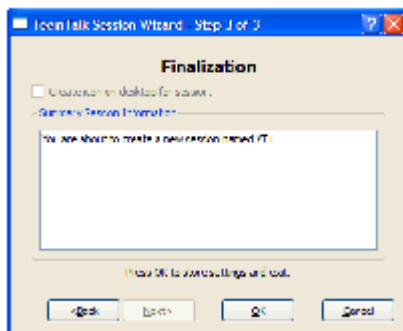
- **Soft Buttons** (ソフト ボタン)

初期設定で TeemTalk ウィンドウの下部に表示されるソフト ボタンの機能を定義できます。[52 ページの「ソフト ボタンの機能の定義」](#)のセクションを参照してください。

- **Attributes** (属性)

エミュレーション ワークスペースでの色およびテキスト属性の表示を変更できます。[54 ページの「表示属性」](#)の章を参照してください。

7. [Next] をクリックして、[Finalization] (確定) ダイアログを表示します。



8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、[Create icon on desktop for session] (デスクトップにセッションのアイコンを作成する) チェック ボックスにチェックを入れます。

9. **[Summary Session Information]** (セッション情報の概要) ボックスに表示された情報が正しいことを確認します。正しくない情報がある場合は、**[<Back]** (<戻る) ボタンをクリックして編集します。
10. **[OK]** をクリックしてセッション設定ファイル (拡張子 **.fts**) を作成し、ウィザードを終了します。

## セッション設定の実行

TeemTalk のセッション設定は以下のどれかの方法で実行できます。

- デスクトップ アイコン

セッション設定のデスクトップ アイコンを作成した場合は、アイコンをダブルクリックすると、自動的に TeemTalk が起動し、セッション設定ファイルに保存された設定が読み込まれます。

- TeemTalk メニュー

TeemTalk を起動してセッション設定ファイルを実行するときは、デスクトップにある **[TeemTalk]** アイコンをダブルクリックするか、**[スタート]** メニュー → **[すべてのプログラム]** → **[HP]** → **[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]** → **[TeemTalk]** の順に選択して、TeemTalk を起動してから、**[File]** (ファイル) メニュー → **[Open Session]** (セッションを開く) の順に選択します。該当する **.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

- コマンド ライン オプション

TeemTalk 実行可能ファイルを実行するためのコマンド ラインに、指定したセッション設定ファイルに保存された設定を読み込むコマンドを含めることができます。コマンドの形式は以下のとおりです。

**+lsf" sessionfile.fts "**

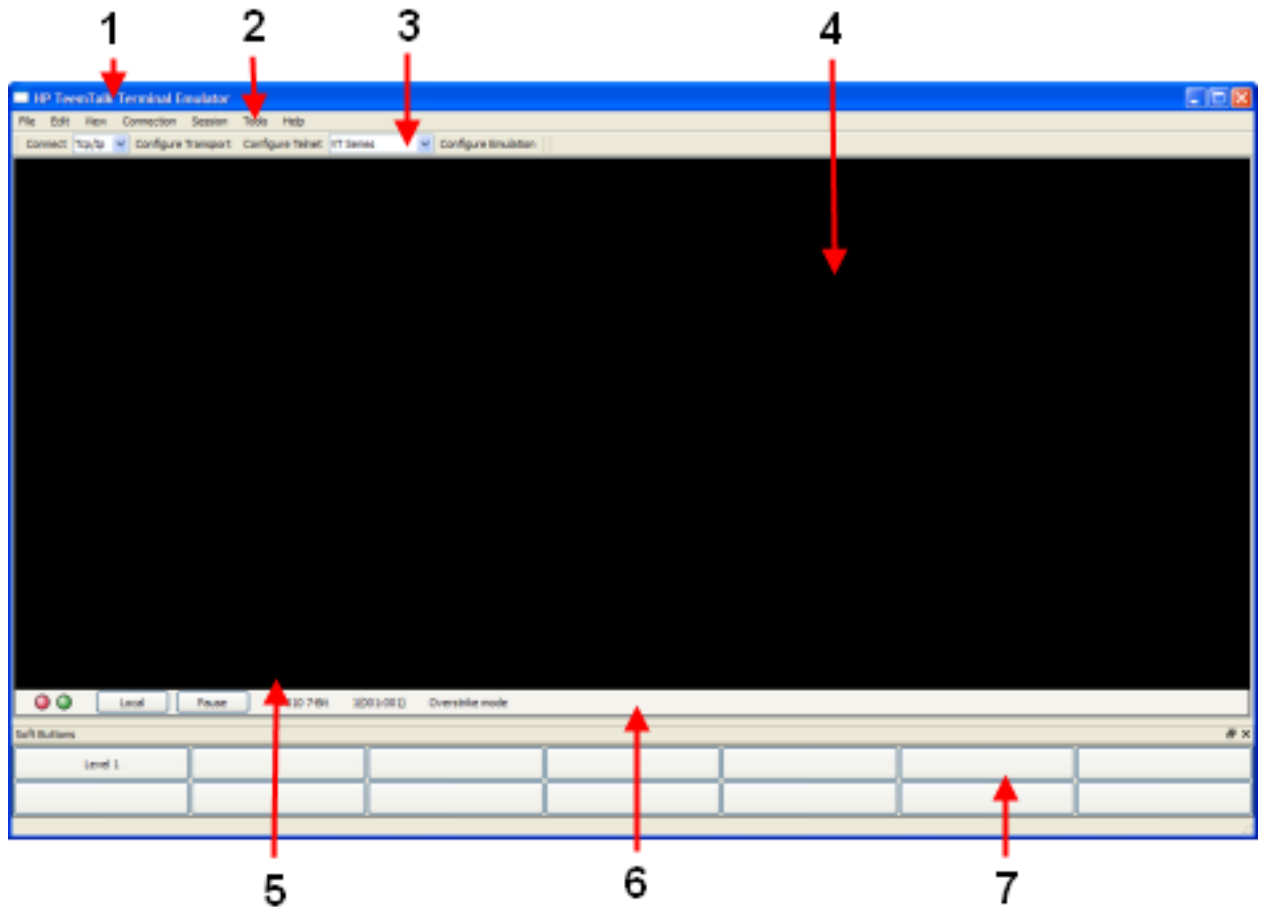
ファイル名には拡張子 **.fts** を含める必要があり、名前全体を二重引用符で囲む必要があります。また、前にある TeemTalk 実行可能ファイル名またはその他のコマンド ライン オプションとこのコマンドとの間に半角スペースを入れる必要もあります。

たとえば、TeemTalk を起動し、**mysettings.fts** という名前のセッション設定ファイルに保存された設定を読み込む場合は、「teemtalk.exe +lsf"mysettings.fts"」と入力します。コマンド ライン オプションについて詳しくは、[291 ページの「設定およびコマンド ライン オプション」](#)の章を参照してください。

# TeemTalk ウィンドウ

ここでは、TeemTalk ウィンドウに表示されるさまざまな項目について説明します。設定バー、ステータスバー、およびソフト ボタンは、**[View]**（表示）メニューから表示/非表示を切り替えることができます。TeemTalk ウィンドウに表示される個々の要素は、コマンド ライン オプションを使用して非表示にすることもできます。詳しくは、[291 ページの「設定およびコマンド ライン オプション」](#)の章を参照してください。

図 2-1 TeemTalk ウィンドウ



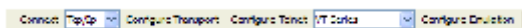
番号	名前	説明
1	タイトル バー	タイトル バーには、現在実行中のセッションの名前がかっこに囲まれて表示されます
2	メニュー バー	メニュー バーでは、各種の操作を実行したり TeemTalk やターミナル エミュレーションを設定したりするための一連のコマンドおよび設定ダイアログにアクセスできます。個々のメニューおよびメニュー項目は、コマンド ライン オプションを使用して非表示にできます
3	設定バー	設定バーでは、ボタンおよびドロップダウン リスト ボックスを使用してセッションをすばやく作成または設定できます。詳しくは、 <a href="#">9 ページの「設定バー」</a> のセクションを参照してください

番号	名前	説明
4	エミュレーション ワークスペース	エミュレーション ワークスペースは、TeemTalk ウィンドウの中でターミナル エミュレーションが表示される領域です。 <b>[File]</b> (ファイル) メニューの <b>[New Tab]</b> (新規タブ) を選択することによって、TeemTalk ウィンドウ内の個別のタブに複数のエミュレーション ワークスペースを作成できます。エミュレーション ワークスペースを新しいタブではなく新しい TeemTalk ウィンドウに表示する場合は、 <b>[File]</b> メニューの <b>[New Window]</b> (新規ウィンドウ) を選択します
5	エミュレーション ステータス行	一部のターミナル エミュレーションでは、ディスプレイの最後の行が、各種操作の状態を示すステータス行として使用されます
6	ステータス バー	ステータス バーには、TeemTalk の各種操作の状態が表示されます。表示される情報は、現在実行しているターミナル エミュレーションによって異なります。詳しくは、 <a href="#">10 ページの「ステータス バー」</a> のセクションを参照してください
7	ソフト ボタン	初期設定では TeemTalk ウィンドウの下部に、プログラム可能な一連のソフト ボタンが表示されます。ソフト ボタンは別のウィンドウに切り離して表示することもできます  ソフト ボタンは 4 つのレベルに分けられます。各レベルに 12 個のボタンが含まれるので、プログラム可能なボタンを合計 48 個利用できます。必要であれば、4 つすべてのレベルを同時に表示できます。すべてを表示しない場合でも各レベルにいつでもアクセスできます。 <b>[Level #]</b> (レベル#) ボタンをクリックすると、画面に表示されていないレベルがスクロールして表示されます  詳しくは、 <a href="#">51 ページの「Soft Buttons (ソフト ボタン)」</a> の章を参照してください

## 設定バー

設定バーでは、ボタンおよびドロップダウン リスト ボックスを使用してセッションをすばやく作成または設定できます。

### 図 2-2 設定バー



**[Tools]** (ツール) メニュー → **[Toolbars]** (ツールバー) → **[Configuration]** (設定) の順に選択して、TeemTalk ウィンドウから設定バーを取り除くこともできます。この操作によって、設定バーの表示/非表示が切り替わります。

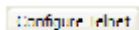
**[Connect]** は、現在のトランスポート、**Telnet**、およびエミュレーションの設定を使用してホスト接続を試みます。正しく接続できた場合は、**[Disconnect]** (切断) ボタンに変わり、クリックすることでホストから切断できます。

### 図 2-3 トランスポート ボタン



ホストとの通信に使用するトランスポートを選択および設定できます。

### 図 2-4 Telnet の設定ボタン



Telnet ホスト接続を設定できます。

図 2-5 ターミナル エミュレーション ボタン



ターミナル エミュレーションを選択および設定できます。

## セッション設定の保存

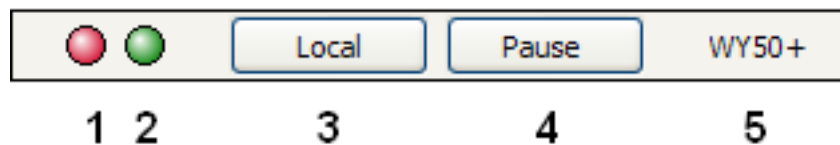
[File] (ファイル) メニューから [Save Session] (セッションを保存) (既存のセッション設定ファイルを上書きする場合) または [Save Session As] (セッションに名前を付けて保存) (新規のセッション設定ファイルを作成する場合) を選択することによって、セッション設定を保存できます。

## ステータス バー

ステータス バーには、TeemTalk の各種操作の状態が表示されます。また、ここから操作モードを切り替えることができます。[Tools] (ツール) メニュー → [Status Bar] (ステータス バー) の順に選択して、TeemTalk ウィンドウからステータス バーを取り除くこともできます。この操作によって、ステータス バーの表示/非表示が切り替わります。

ステータス バーに表示される情報は、現在実行しているターミナル エミュレーションによって異なります。

図 2-6 ステータス バー



番号	説明
1	このシミュレートされたランプ表示は、ホストに接続されているかどうかを示します。接続されていないときは赤色に、接続されているときは緑色に点灯します
2	このシミュレートされたランプ表示は、ホストとの間でデータが送受信されているかどうかを示します。操作が行われていないときは暗い緑色に、ホストにデータが送信されているときは赤色に、ホストからデータを受信しているときは明るい緑色に点灯します
3	このボタンを使用すると、[Local] (ローカル) モードと [Online] (オンライン) モードを切り替えることができます。このラベルは、ボタンをクリックしたときの切り替え先のモードを示します
4	このボタンを使用すると、ウィンドウ内のデータのスクロールを [Pause] (一時停止) または [Resume] (再開) できます。このラベルは、ボタンをクリックしたときに実行される操作を示します
5	現在のターミナル エミュレーションを示します



## 3 ホスト接続

この章では、ホストと通信するための TeemTalk の設定方法について説明します。

### はじめに

ホスト接続の設定は、**[Transport]**（トランスポート）および**[Connection]**（接続）オプションを使用して指定します。これらのオプションは以下の3つの場所にあります。

- TeemTalk セッション ウィザード

TeemTalk Session Wizard - Step 1 of 3

### Connection Information

Session Name:

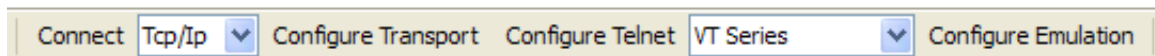
Transport: SSH2

Connection: Telnet

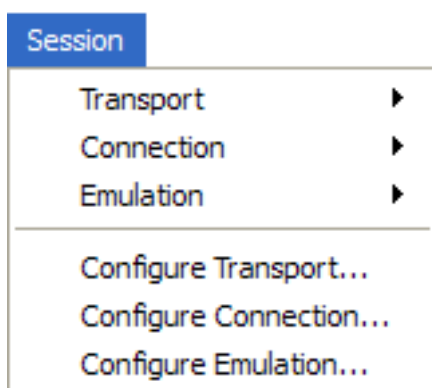
Emulation: IBM 3151

<Back    Next>    Cancel

- TeemTalk 設定バー



- TeemTalk [Session] (セッション) メニュー



**[Transport]**設定では、ホストと接続するための物理的な方法を指定します。TeemTalk では、ホストとの通信方法として4つのトランスポート プロトコルがサポートされています。

- **TCP/IP**

TCP (Transport Control Protocol) と IP (Internet Protocol) を組み合わせたインターネット プロトコルを使用してホストと通信します。 [14 ページの「TCP/IP トランスポート」](#)を参照してください。

- **SSH2**

SSH (Secure Shell) クライアント/サーバー プロトコルを使用して、パスワードとキーまたはそのどちらかによる認証を行い、データを暗号化して、ネットワーク経由でデータを安全に転送します。 [14 ページの「SSH2 トランスポート」](#)を参照してください。

- **Serial (シリアル)**

データを順次に、一度に1ビットずつ送信してホストと通信します。 [31 ページの「シリアル トランスポート」](#)を参照してください。

- **SSL**

SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用して通信を暗号化し、ホストとクライアント間で正当性の確認を行ってホストと接続します。 [27 ページの「SSL トランスポート」](#)を参照してください。

**[Connection]**設定では、ホストと接続するためのプロトコルを指定します。現時点では、**[Telnet]**のみがサポートされます。

TeemTalk では、自動ログオン機能も設定できます。ホストのログオン画面に表示されるプロンプトに対して入力する内容を指定しておくことによって、ログオン手順を全自動化または一部自動化できます。[34 ページの「自動ログオン」](#)を参照してください。

## Telnet 設定

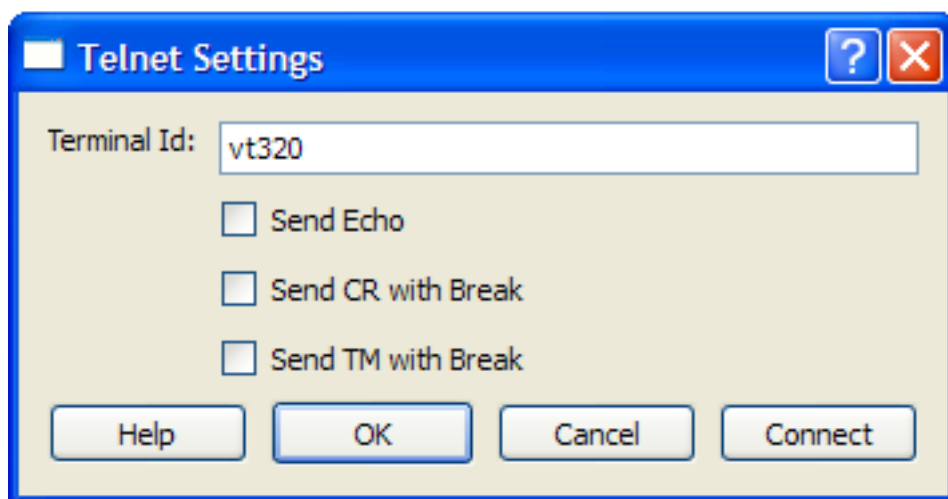
Telnet ホスト接続の設定は、**[Telnet Settings]** (Telnet の設定) ダイアログで指定します。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

### セッション ウィザードの使用

- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Connection]** (接続) を **[Telnet]** に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

### TeemTalk ウィンドウの使用

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Connection]** → **[Telnet]** の順に選択し、**[Configure Connection...]** (接続の設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Configure Telnet]** (Telnet の設定) をクリックします。



以下のオプションを使用して必要な設定を指定し、**[Connect]** (接続) ボタンをクリックします。

- **Terminal Id** (端末 ID)  
工場出荷時の設定：選択したターミナル エミュレーションによって異なります。  
ホストに渡されるターミナル識別文字列を指定します。
- **Send Echo** (エコーを送信する)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションのチェックを外すと、接続時に Telnet エコー オプションが生成されません。
- **Send CR with Break** (ブレイクとともに CR を送信する)

工場出荷時の設定：未チェック

Telnet ブレイク パケットの送信時にキャリッジ リターンを送信するかどうかを指定します。

- **Send TM with Break**（ブレイクとともに TM を送信する）

工場出荷時の設定：未チェック

Telnet ブレイク パケットの送信時にタイミング マークを送信するかどうかを指定します。

## TCP/IP トランスポート

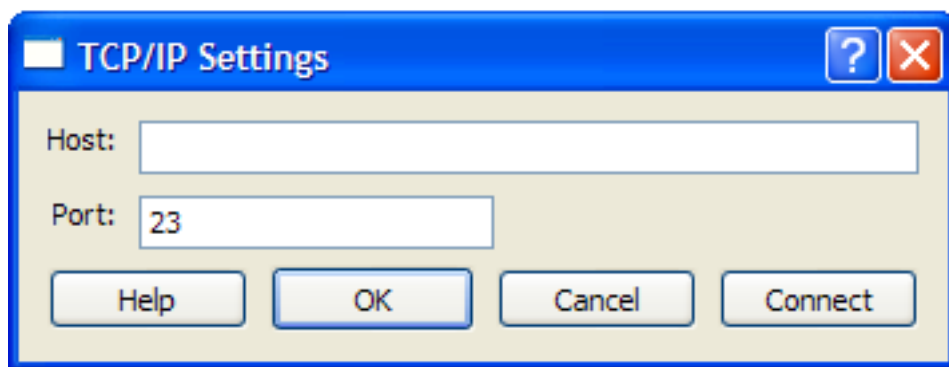
TCP/IP プロトコルを使用するホスト接続は、**[TCP/IP Settings]**（TCP/IP の設定）ダイアログで作成します。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用

- **[Step 1]**（ステップ 1）で、**[Transport]**（トランスポート）を**[TCP/IP]**に設定し、**[Configure]**（設定）ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用

- **[Session]**（セッション）メニューで、**[Transport]**→**[TCP/IP]**の順に選択し、**[Configure Transport...]**（トランスポートの設定...）を選択します。
- 設定バーで、**[Transport]**の一覧から**[TCP/IP]**を選択し、**[Configure Transport]**（トランスポートの設定）をクリックします。



1. **[Host]**（ホスト）ボックスに、接続するホストの URL または IP アドレスを入力します。
2. **[Port]**（ポート）ボックスで、接続するホスト ポートの番号を指定します（初期設定は 23 です）。
3. **[Connect]**（接続）ボタンをクリックします。

## SSH2 トランスポート

SSH2（Secure Shell）クライアント/サーバー プロトコルを使用して、パスワードとキーまたはそのどちらかによる認証を行い、データを暗号化して、ネットワーク経由でデータを安全に転送します。

## ホスト接続の作成

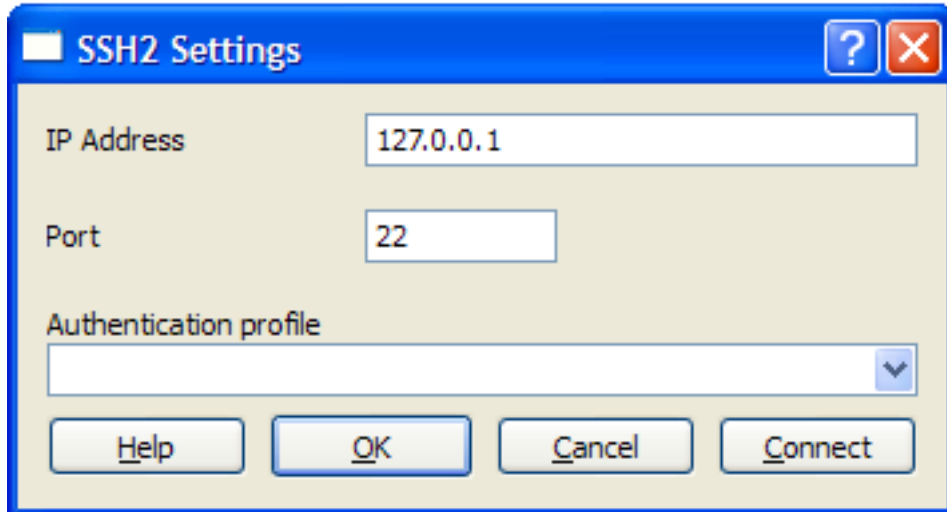
SSH2 プロトコルを使用するホスト接続は、**[SSH2 Settings]** (SSH2 の設定) ダイアログで作成します。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用 :

- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Transport]** (トランスポート) を**[SSH2]**に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Transport]** →**[SSH2]**の順に選択し、**[Configure Transport...]** (トランスポートの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Transport]**の一覧から**[SSH2]**を選択し、**[Configure Transport]** (トランスポートの設定) をクリックします。



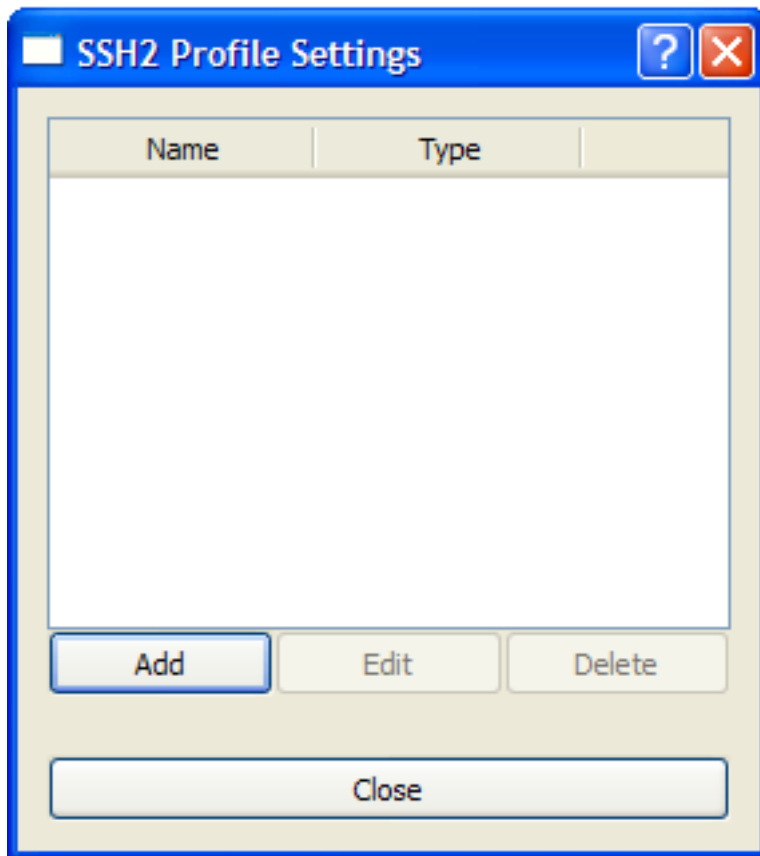
SSH2 接続の基本的な作成手順は以下のとおりです。

1. **[IP Address]** (IP アドレス) ボックスで、接続するホストの IP アドレスを指定します。
2. **[Port]** (ポート) ボックスで、ホストの SSH ポートの番号を指定します (初期設定は 22 です)。
3. **[Authentication profile]** (認証プロファイル) ボックスで、認証プロファイルを選択します (プロファイルの作成方法については以下のセクションを参照してください)。
4. **[Connect]** (接続) ボタンをクリックします。

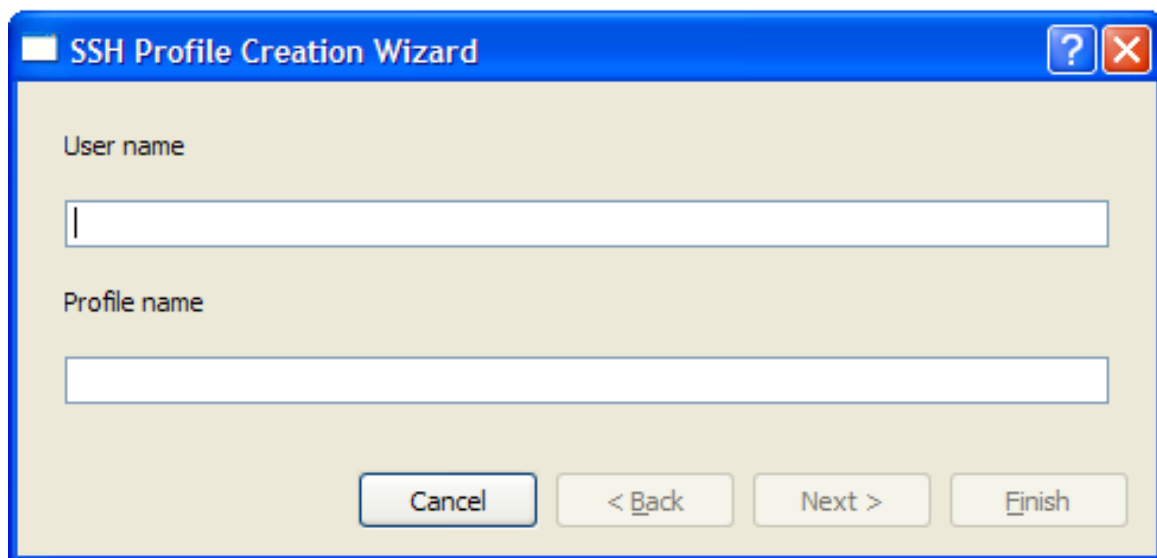
## パスワードを使用する認証プロファイルの作成

パスワードを使用する認証プロファイルを作成するには、以下の操作を行います。

1. **[Tools]** (ツール) メニューの**[SSH2 Profile...]** (SSH2 プロファイル...) を選択します。

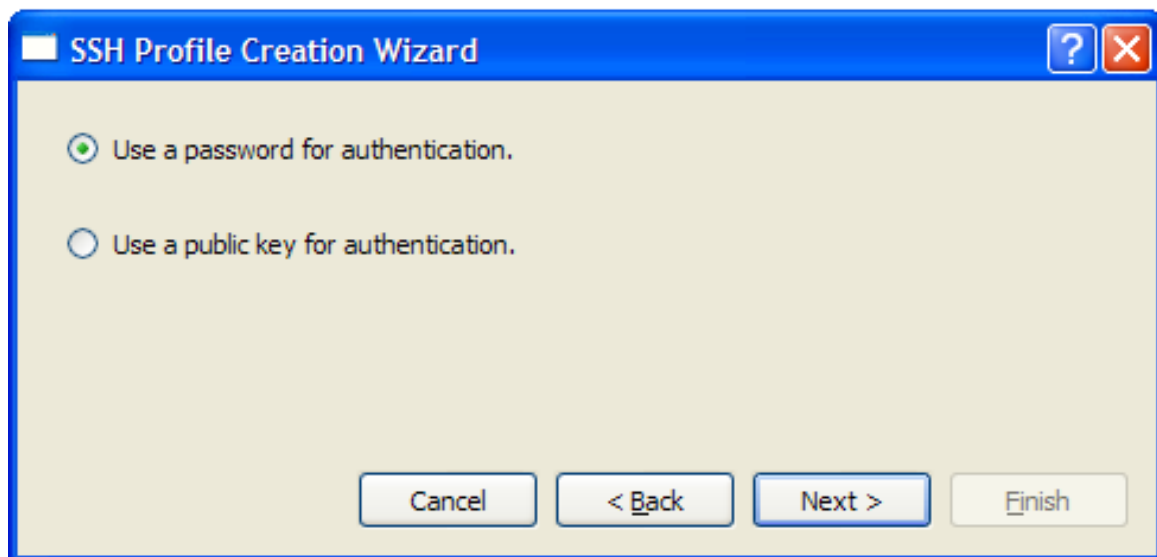


2. **[Add]** (追加) ボタンをクリックします。



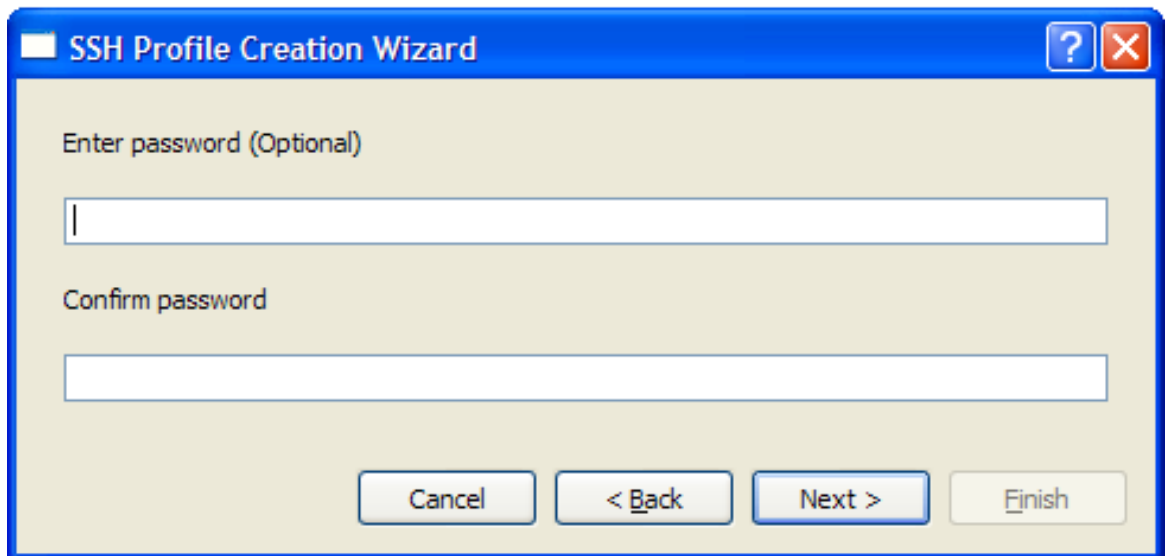
The screenshot shows a dialog box titled "SSH Profile Creation Wizard". It has a standard Windows-style title bar with a question mark icon and a close button. The main area contains two text input fields. The first is labeled "User name" and is empty. The second is labeled "Profile name" and is also empty. At the bottom of the dialog, there are four buttons: "Cancel", "< Back", "Next >", and "Finish".

3. **[User name]** (ユーザー名) ボックスにユーザー名を入力します。**[Profile name]** (プロファイル名) ボックスに、**[User name]**に入力した名前が自動的に表示されます。必要に応じて名前を変更することもできます。**[Next >]** (次へ>) をクリックします。



The screenshot shows the same "SSH Profile Creation Wizard" dialog box. In this step, the input fields are not visible. Instead, there are two radio button options for authentication. The first option, "Use a password for authentication.", is selected with a filled radio button. The second option, "Use a public key for authentication.", is unselected with an empty radio button. The same four buttons ("Cancel", "< Back", "Next >", "Finish") are present at the bottom.

4. **[Use a password for authentication]** (認証にパスワードを使用する) を選択して、**[Next >]** をクリックします。



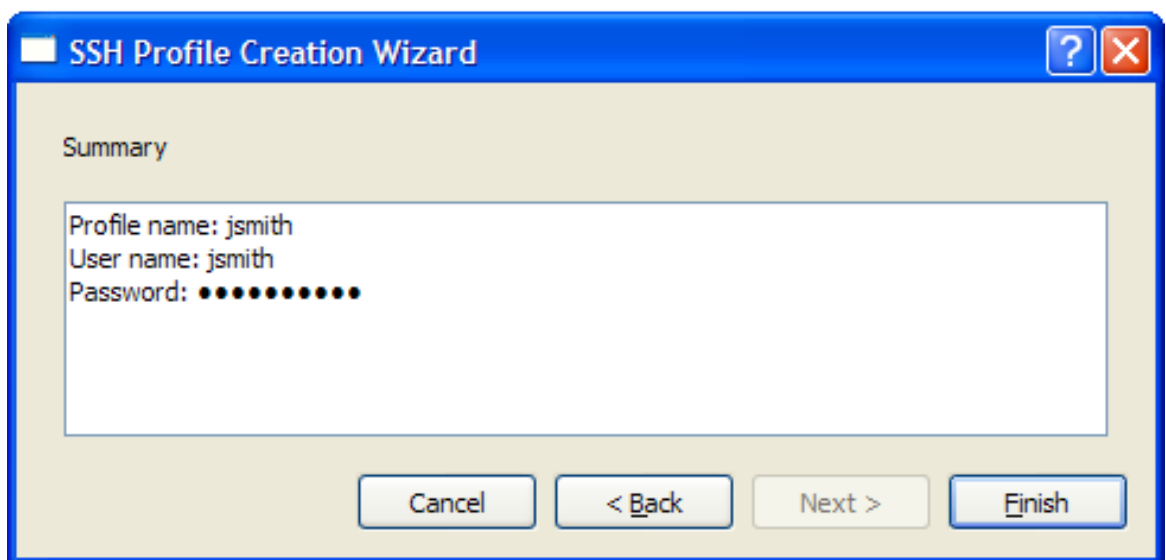
SSH Profile Creation Wizard

Enter password (Optional)

Confirm password

Cancel < Back Next > Finish

5. パスワードの入力と確認を行い、**[Next >]** をクリックします。



SSH Profile Creation Wizard

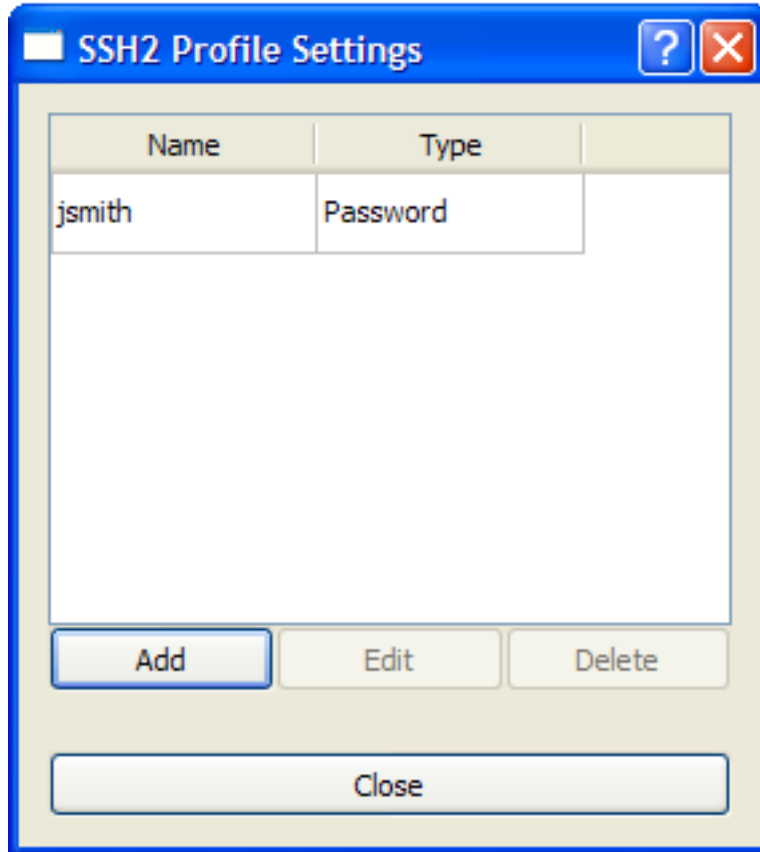
Summary

Profile name: jsmith  
User name: jsmith  
Password: ●●●●●●●●

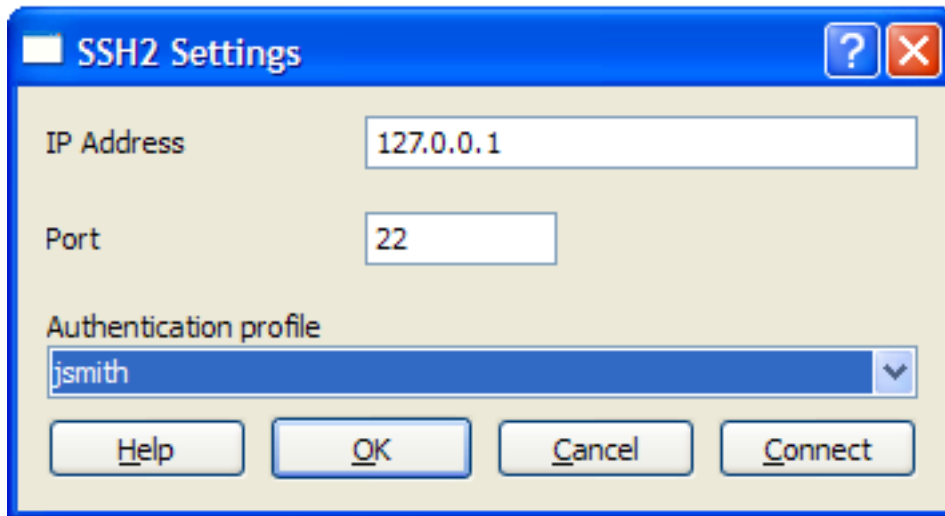
Cancel < Back Next > Finish



- 設定内容を確認します。間違いがある場合は、[< Back] (<戻る) ボタンをクリックして前のページに戻り、変更を行います。設定が正しい場合は、[Finish] (終了) をクリックして認証プロファイルを生成します。これで、新しいプロファイルが[SSH2 Profile Settings] (SSH2 プロファイルの設定) ダイアログに表示されます。



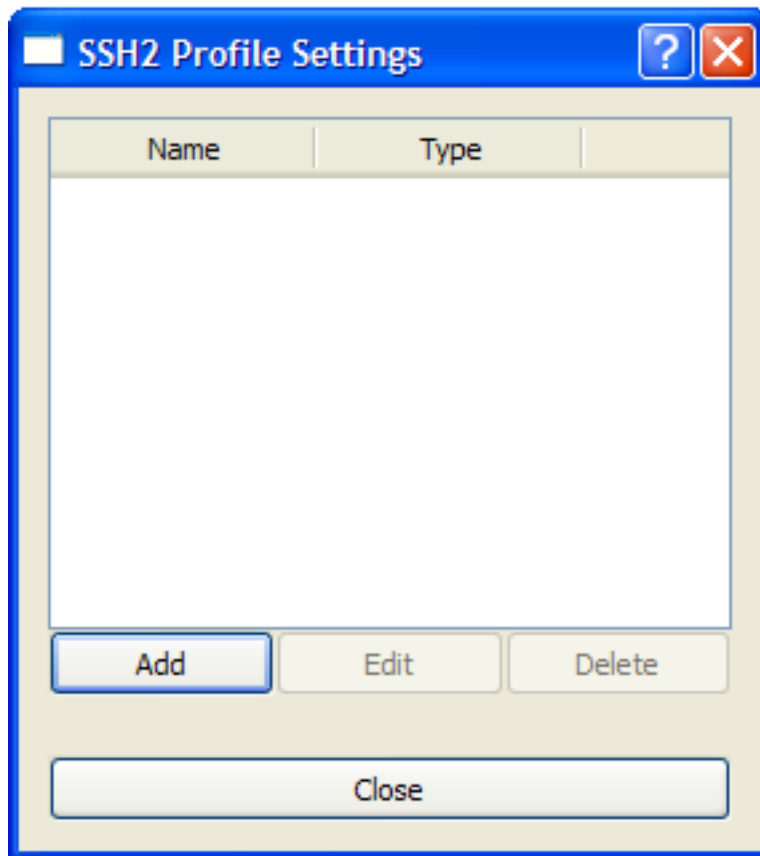
7. 新しいプロファイルを使用するには、**[SSH2 Settings]**（SSH2 の設定）ダイアログを表示し（[28 ページの「ホスト接続の作成」](#)を参照してください）、**[Authentication profile]**（認証プロファイル）リスト ボックスからそのプロファイルの名前を選択します。



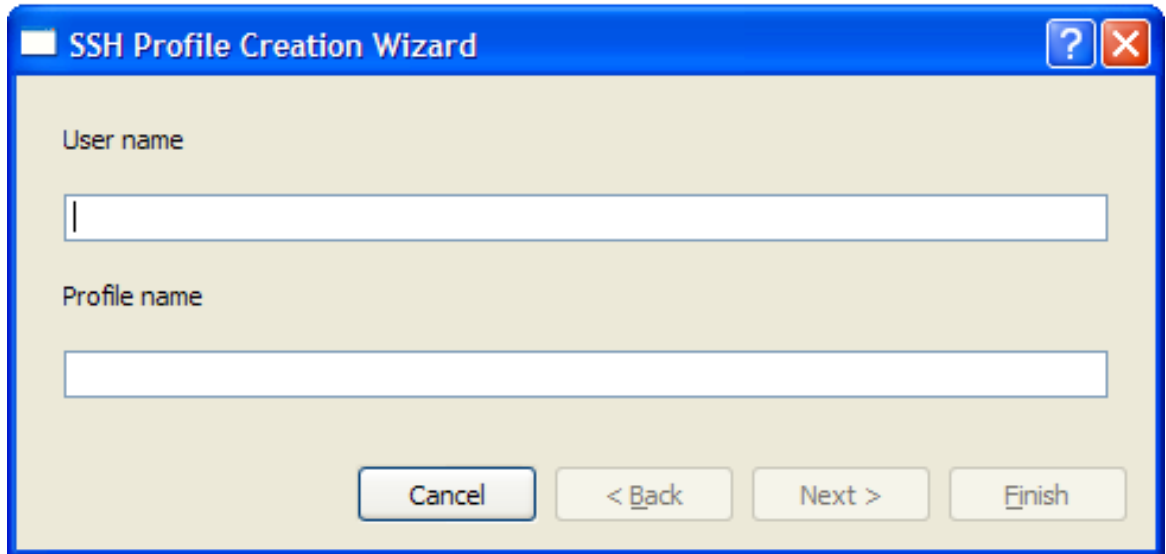
## 新しい公開キーを使用した認証プロファイルの作成

新しい公開キーを使用して認証プロファイルを作成するには、以下の操作を行います。

1. **[Tools]** (ツール) メニューの**[SSH2 Profile...]** (SSH2 プロファイル...) を選択します。



2. **[Add]** (追加) ボタンをクリックします。



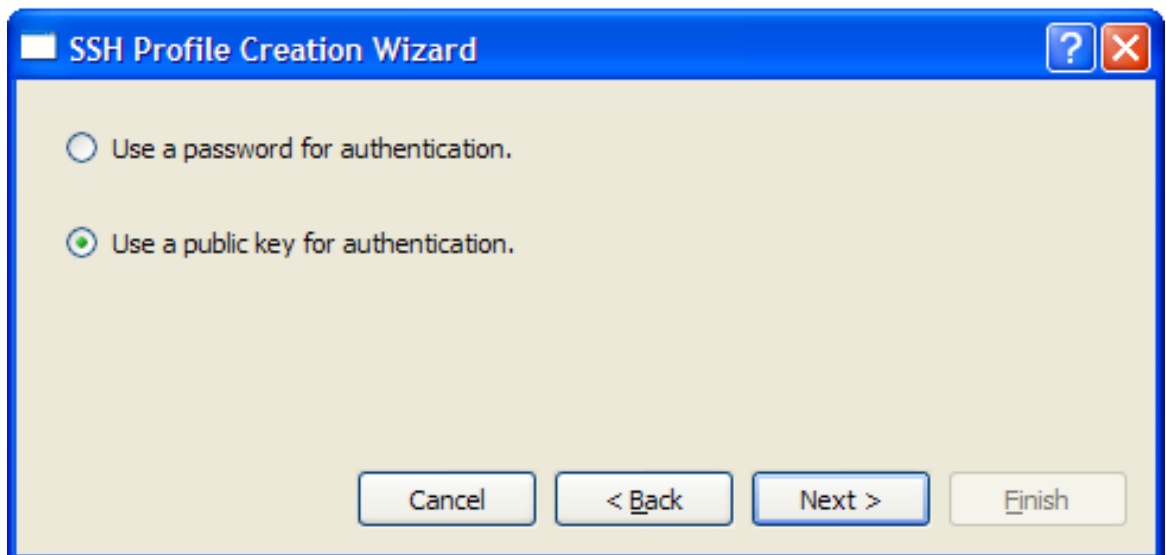
SSH Profile Creation Wizard

User name

Profile name

Cancel < Back Next > Finish

3. **[User name]** (ユーザー名) ボックスにユーザー名を入力します。**[Profile name]** (プロファイル名) ボックスに、[User name]に入力した名前が自動的に表示されます。必要に応じて名前を変更することもできます。**[Next >]** (次へ>) をクリックします。



SSH Profile Creation Wizard

Use a password for authentication.

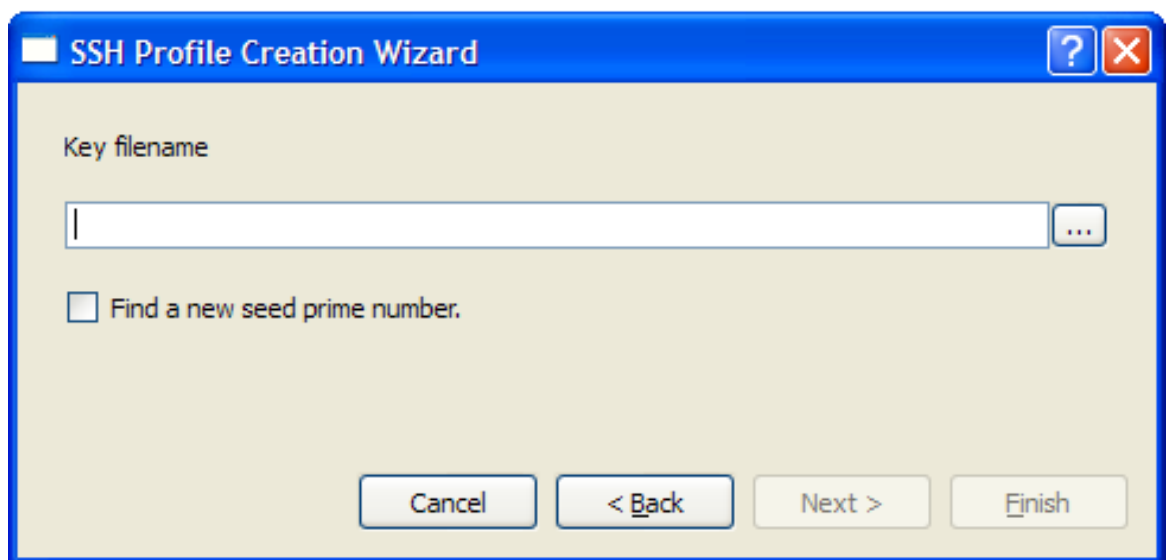
Use a public key for authentication.

Cancel < Back Next > Finish

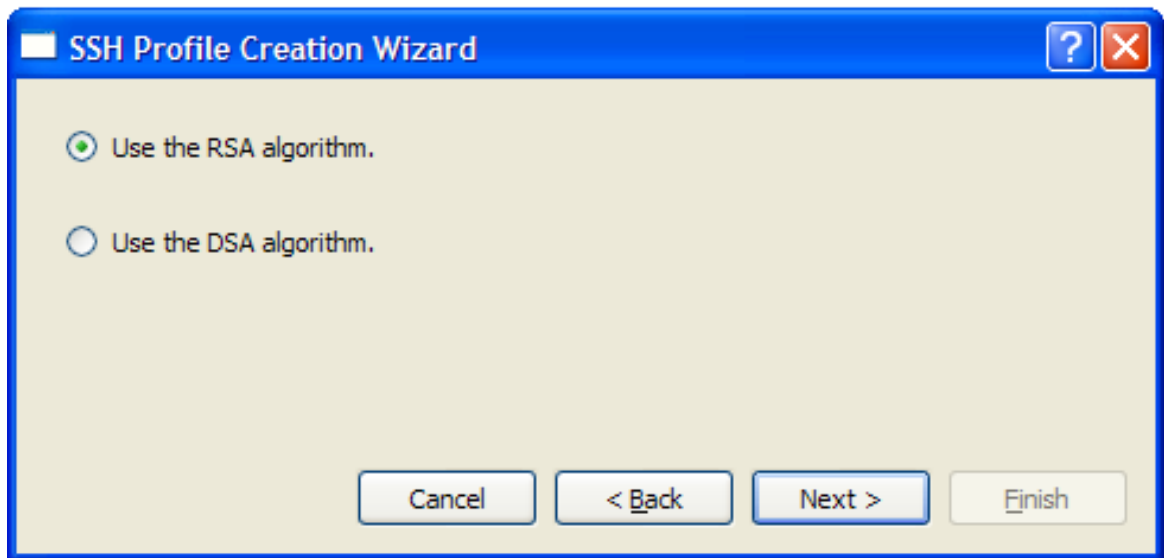
4. **[Use a public key for authentication]** (認証に公開キーを使用する) を選択して、**[Next >]** をクリックします。



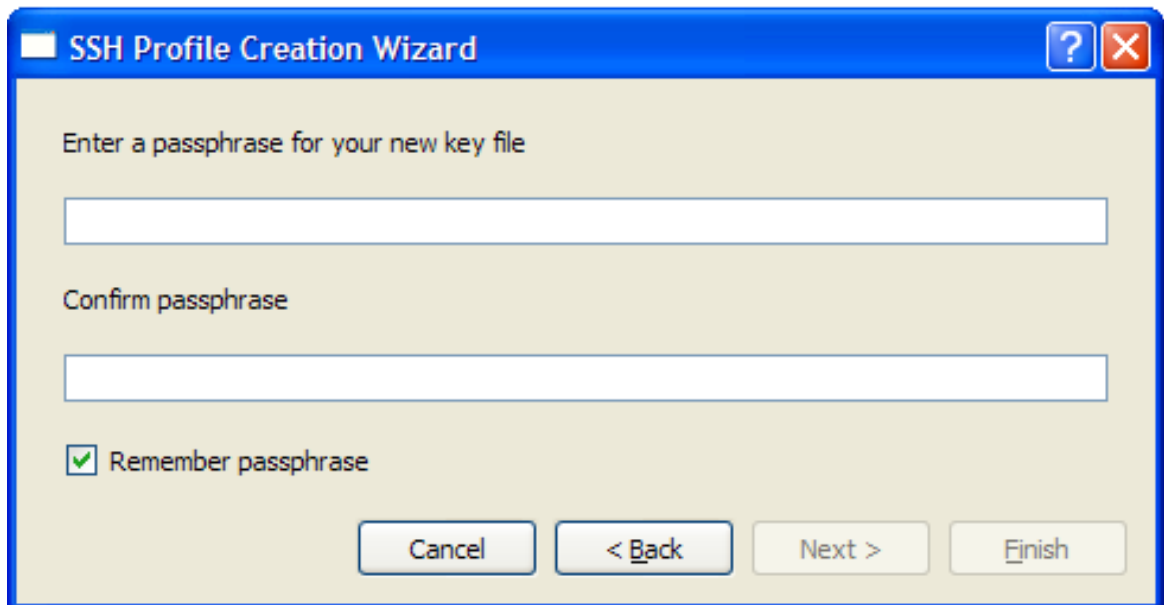
5. **[Create a new key]** (新しいキーを作成する) を選択して、**[Next >]** をクリックします。



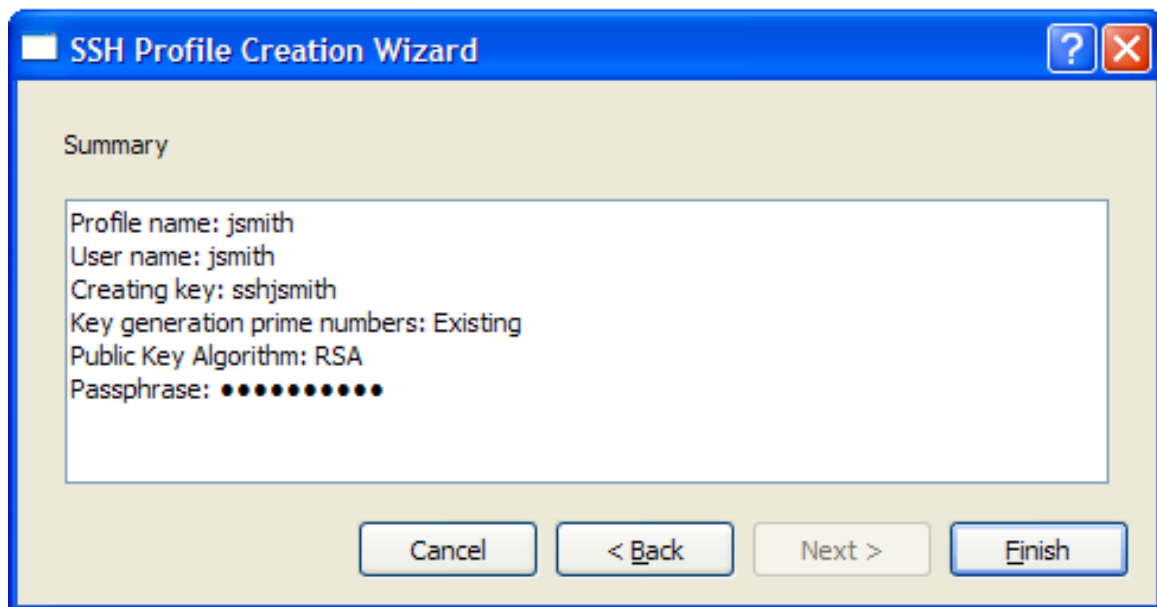
6. **[Key filename]** (キー ファイル名) ボックスにキー ファイルの名前を入力します。必要に応じて、**[Find a new seed prime number]** (新しいシード素数を検索する) ボックスにチェックを入れます。 **[Next >]** をクリックします。



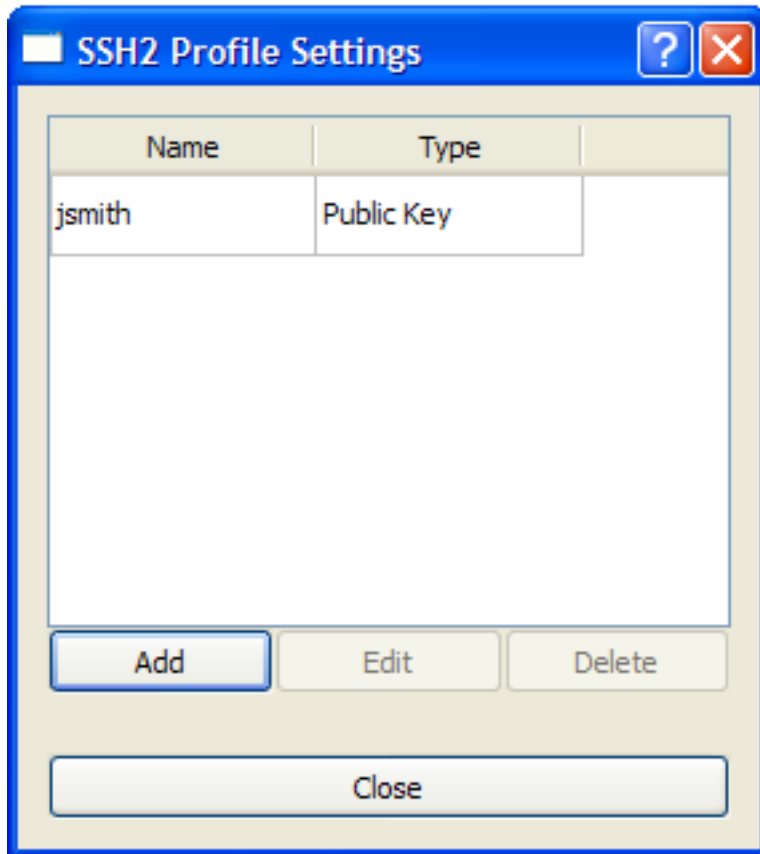
7. **[Use the RSA algorithm]** (RSA アルゴリズムを使用する) または **[Use the DSA algorithm]** (DSA アルゴリズムを使用する) のどちらかを選択して、 **[Next >]** をクリックします。



8. 新しいキー ファイルに使用するパスフレーズの入力と確認を行い、**[Next >]**をクリックします。



- 設定内容を確認します。間違いがある場合は、[< Back] (<戻る) ボタンをクリックして前のページに戻り、変更を行います。設定が正しい場合は、[Finish] (終了) をクリックして認証プロファイルを生成します。これで、新しいプロファイルが[SSH2 Profile Settings] (SSH2 プロファイルの設定) ダイアログに表示されます。

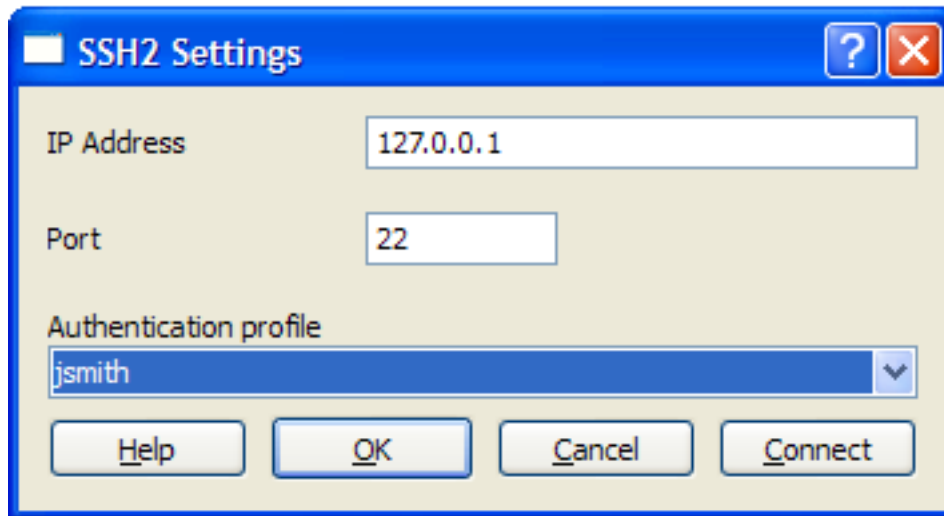


作成したキーを使用するには、以下の操作を行ってサーバーにキーをコピーする必要があります。

- [SSH2 Profile Settings] ダイアログで目的のプロファイルの名前を選択して、[Edit] (編集) ボタンをクリックします。
- 新しいウィンドウに表示された内容をすべて選択してコピーします。
- ユーザー名およびパスワードを使用してサーバーにログオンします。
- ホーム ディレクトリ内に、**.ssh** という名前のサブディレクトリが必要です。このディレクトリがない場合は作成します。**.ssh** ディレクトリ内に、**authorized\_keys** という名前のファイルが必要です。このファイルがない場合は作成します。
- サーバーで利用できるエディターを使用して、コピーしたキーをこのファイルに貼り付け、ファイルを保存します。



15. 新しいプロファイルを使用するには、[SSH2 Settings] (SSH2 の設定) ダイアログを表示し (28 ページの「[ホスト接続の作成](#)」を参照してください)、[Authentication profile] (認証プロファイル) リスト ボックスからそのプロファイルの名前を選択します。



## SSL トランスポート

SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用して、クライアントとサーバー間で認証を行い、暗号化された通信を行います。

ユーザーがサーバーに接続できるようにするには、まず、システム管理者が、サーバーの ID 証明書に署名するためのルート証明書のコピー、およびサーバーが接続をリッスンする Telnet ポートの番号 (セキュリティ保護された Telnet の初期設定は 992 です) を用意する必要があります。

さらに、必要に応じて、接続するユーザーまたはターミナルごとに、パスワード保護されたクライアント証明書を発行します。

## ホスト接続の作成

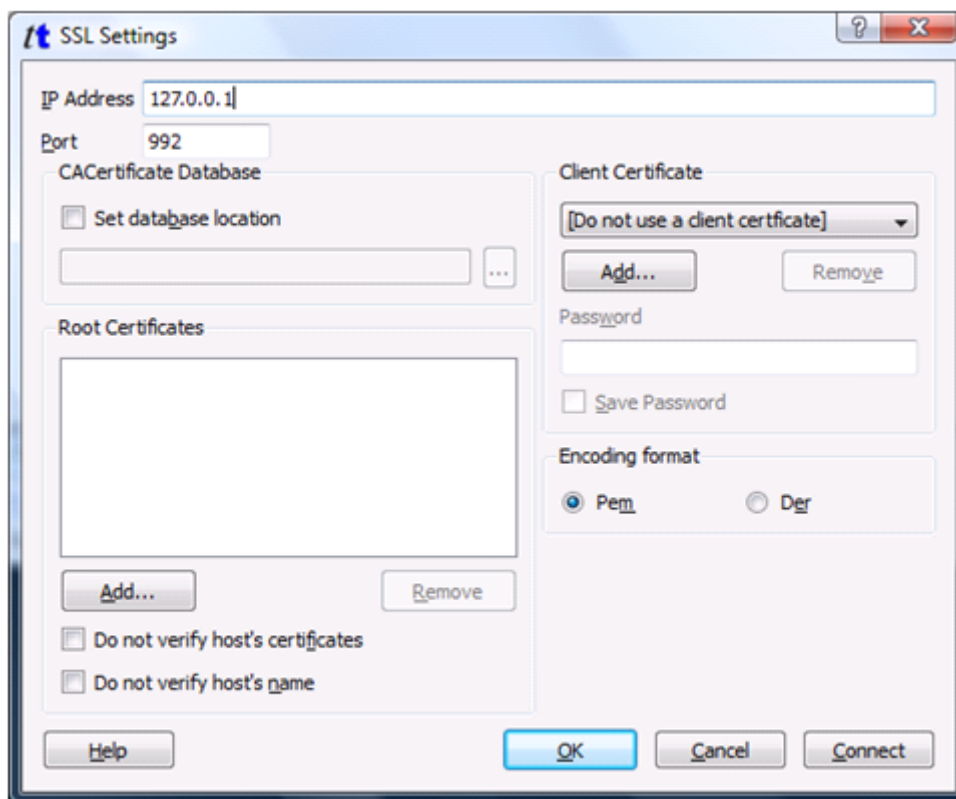
SSL プロトコルを使用するホスト接続は、[SSL Settings] (SSL の設定) ダイアログで作成します。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

### セッション ウィザードの使用

- [Step 1] (ステップ 1) で、[Transport] (トランスポート) を [SSL] に設定し、[Configure] (設定) をクリックします。

### TeemTalk ウィンドウの使用

- [Session] (セッション) メニューで、[Transport] → [SSL] の順に選択し、[Configure Transport...] (トランスポートの設定...) を選択します。
- 設定バーで、[Transport] の一覧から [SSL] を選択し、[Configure Transport] (トランスポートの設定) をクリックします。



SSL 接続の基本的な作成手順は以下のとおりです。

**1.** サーバーのルート証明書を追加します。

接続するサーバーの正当性を証明する証明書を取得済みの場合は、TeemTalk のルート証明書一覧にその証明書を追加する必要があります。

追加するには、**[Root Certificates]**（ルート証明書）一覧の下にある**[Add]**（追加）をクリックし、ファイル選択ダイアログで、証明書が含まれるファイルを選択して開きます。これにより、その証明書の名前が一覧に追加されます。

CA 証明書テキスト データベースをローカルで設定済みの場合は、**[Set database location]**（データベースの場所の設定）オプションを選択し、下のボックスで、CA 証明書データベースが含まれるフォルダーを指定します。


サーバーの検証が不要な場合は、**[Do not verify host's certificate]**（ホスト証明書を検証しない）オプションを選択します。

**2.** クライアント証明書を選択します。

接続するサーバーがクライアント証明書を確認するように設定されている場合は、**[Client Certificate]**（クライアント証明書）ドロップ ダウン リストから適切な証明書を選択します。

クライアント証明書をまだインストールしていない場合は、**[Client Certificate]**ドロップ ダウン リストの下にある**[Add]**をクリックし、証明書が含まれるファイルを選択します。これにより、証明書がインポートされ、その名前が一覧に追加されます。

必要に応じて、クライアント証明書のパスワードを入力できます。**[Save Password]**（パスワードを保存）にチェックを入れると、パスワードが暗号化されて証明書とともに保存されます。

 **注記：** パスワードを保存すると、ローカル システムにアクセスできるすべてのユーザーがホストに接続できるようになるため、セキュリティ上のリスクがあります。

**3.** **[Encoding format]**（エンコーディング形式）で**[Pem]**（ASCII テキストファイル Base64 エンコード）または**[Der]**（バイナリ ファイル）のどちらかを選択して、証明書のエンコーディング形式を指定します。

**4.** **[IP Address]**（IP アドレス）ボックスで、ホスト名または IP アドレスを指定します。

**5.** **[Port]**（ポート）ボックスで、ホストの SSL ポート番号を指定します（初期設定は 992 です）。

**6.** **[Connect]**（接続）をクリックします。

**7.** Telnet のログイン プロンプトが表示されたら、通常どおりにログインします。

## エラー メッセージ

### **Connection Failed SSL to host :port** (ホスト:ポートへの SSL 接続に失敗しました)

このエラーは通常、サーバーでサービスが実行されていないか、ポート番号が間違っている場合に発生します。

サーバーで SSL 接続が拒否された場合にも、このメッセージが表示されることがあります。その原因としては、サーバーがクライアント証明書を要求しているときに、クライアント証明書が指定されていないか、指定されたクライアント証明書が何らかの理由で無効であることが考えられます。さらに、サーバーが互換性のないバージョンの SSL を実行している場合にも、このエラーが発生することがあります。TeemTalk で現在サポートされているのは、SSL2、SSL3、および TLS です。

### **No Root Certificate assigned** (ルート証明書が割り当てられていません)

このエラーは、使用している接続の[SSL Settings] (SSL の設定) ダイアログで[Root Certificate] (ルート証明書) または[CACertificate Database] (CACertificate データベース) が指定されていない場合に発生します。ルート証明書を利用できない場合は、[Do not verify host's certificate] (ホスト証明書を検証しない) オプションを選択することによって、サーバー証明書の確認を省略できます。

### **The issuer certificate of a locally looked up certificate could not be found. (ローカルで検索した証明書の発行者証明書が見つかりませんでした) / No certificates could be verified. (証明書を検証できませんでした。)**

サーバーの ID 証明書が、TeemTalk にインストールされているルート証明書によって署名されていません。TeemTalk では、正当性を確認できないホストには接続できません。

### **The host name did not match any of the valid hosts for this certificate** (ホスト名がこの証明書の有効なホスト名と一致しませんでした)

サーバーの証明書には共通名の項目が含まれます。SSL では、この共通名が、[SSL Settings] ダイアログの[IP Address] (IP アドレス) ボックスに指定されているホスト名と一致するものと想定されます。一致しない場合、TeemTalk ではホストに接続できません。

## 証明書について

SSL プロトコルでは、以下の 3 種類の証明書がサポートされます。

- **サーバー証明書**。これらは常にサーバーからクライアントに送信され、サーバーの正当性を確認するために使用されます。SSL によって内部的に処理され、クライアントに保存されることはありません。
- **クライアント証明書**。これらはサーバーが要求した場合にのみクライアントからサーバーに送信され、クライアントの正当性を確認するために使用されます。クライアントはこれらの証明書をローカルに保存しておく必要があります。通常、クライアントは、特定のサーバーに対して正当性を証明するための 1 つの証明書のみを持ちますが、複数のサーバーがある場合は異なるクライアント証明書が必要になることがあります。
- **CA (認証局) 証明書またはルート証明書**。これらは、前に述べた 2 種類の証明書を認証するために使用されます。クライアントはこれらの証明書をローカルに保存しておく必要があります。

## 証明書の保存場所

以前のバージョンの TeemTalk では、証明書がローカル システムのレジストリにインポートされて保存されていました。現在のバージョンの TeemTalk では、証明書が保存されている元のファイルから必要に応じて証明書の値が読み取られます。証明書ファイルを移動または削除した場合は、**[SSL Settings]** (SSL 設定) ダイアログで証明書情報を変更する必要があります。変更しないと、SSL 接続に失敗します。

## シリアル トランスポート

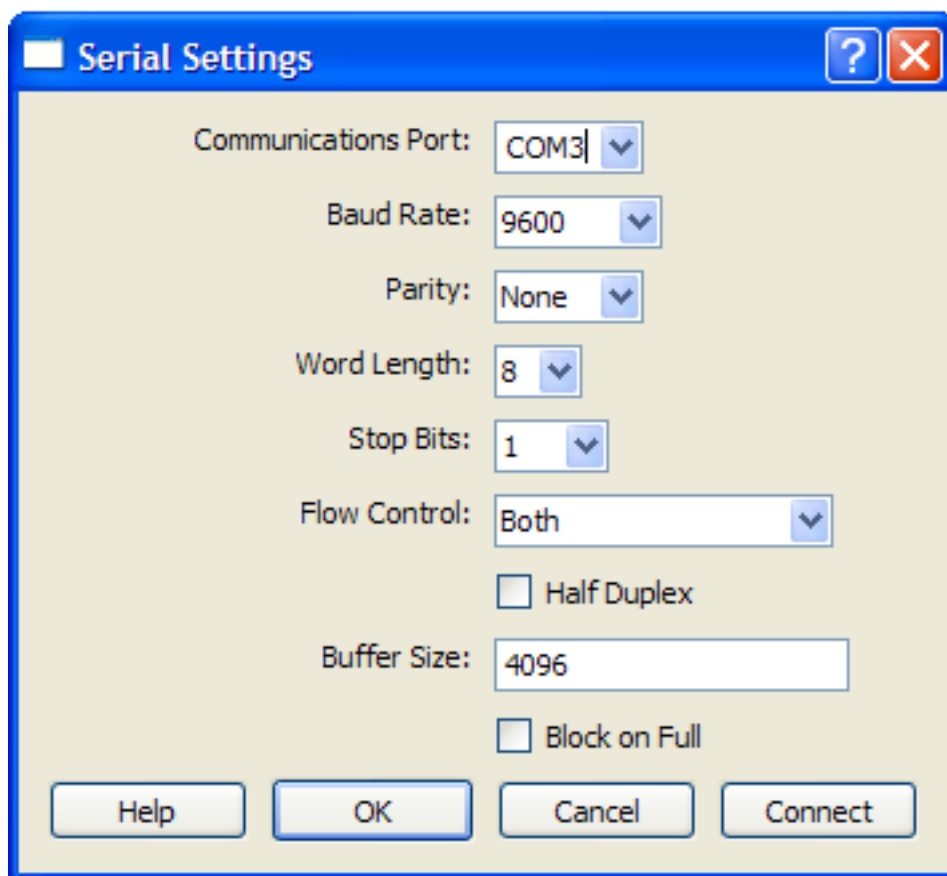
シリアル ホスト接続は、**[Serial Settings]** (シリアルの設定) ダイアログで作成します。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

### セッション ウィザードの使用

- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Transport]** (トランスポート) を **[Serial]** (シリアル) に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

### TeemTalk ウィンドウの使用

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Transport]** → **[Serial]** の順に選択し、**[Configure Transport...]** (トランスポートの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Transport]** の一覧から **[Serial]** を選択し、**[Configure Transport]** (トランスポートの設定) をクリックします。



以下のオプションを使用して必要な設定を指定し、**[Connect]**（接続）ボタンをクリックします。

- **Communications Port**（通信ポート）

工場出荷時の設定：[COM3]

ホストとの通信に使用するポートを指定します。

- **Baud Rate**（ボーレート）

工場出荷時の設定： 9600

接続速度を 110～115200 ボーの範囲で指定します。

- **Parity**（パリティ）

工場出荷時の設定：[None]（なし）

このオプションは、転送される各文字のパリティ モードを指定します。**[Word Length]**（ワード長）で指定されるデータ ビットの数 **8** の場合は、このオプションを **[None]** に設定します。

**[Odd]**（奇数）を選択すると、1 番目から 7 番目までのビットの合計が偶数の場合は 1、奇数の場合は 0 の値を持つ 8 番目のビットが追加されます。**[Even]**（偶数）を選択すると、1 番目から 7 番目までのビットの合計が奇数の場合は 1、偶数の場合は 0 の値を持つ 8 番目のビットが追

加されます。**[Mark]**（マーク）のパリティは 8 番目のビットを常に 1 に、**[Space]**（スペース）のパリティは 8 番目のビットを常に 0 に設定します。

- **Word Length**（ワード長）

工場出荷時の設定： 8

このオプションは、転送される文字ごとに送信されるデータ ビットの数指定します。

- **Stop Bits**（ストップ ビット）

工場出荷時の設定： 1

転送される文字ごとに送信されるストップ ビットの数指定します。

- **Flow Control**（フロー制御）

工場出荷時の設定： [Both]（両方）

このオプションで、ホストとのデータ送受信の準備状態を通信するためにライン ポートが使用するフロー制御の種類を指定できます。

フロー制御の設定	適用されるフロー制御
<b>None</b> （なし）	フロー制御なし
<b>Input</b> （入力）	受信データに対する XON/XOFF
<b>Output</b> （出力）	送信データに対する XON/XOFF
<b>Both</b>	送信および受信データに対する XON/XOFF
<b>Hardware</b> （ハードウェア）	RTS/CTS ハードウェア フロー制御

- **Half Duplex**（半二重）

工場出荷時の設定： 未チェック

キーボードから入力した文字がホストに転送されたときに、その文字をローカルの画面にただちに表示するかどうかを指定します（ローカル エコーとも呼ばれます）。チェックを外すと、文字が転送されたときに、ホストがエコーを返さないかぎり、文字はローカルに表示されません。

- **Buffer Size**（バッファ サイズ）

工場出荷時の設定： 4096

入力および出力データの一時保存に使用されるバッファのサイズを指定します。

- **Block on Full**（満杯時にブロックする）

工場出荷時の設定： 未チェック

バッファが満杯になったときの処理を指定します。このオプションにチェックを入れると、バッファで新しいデータを受け入れる準備ができるまで、すべての操作がブロックされます。

## 自動ログオン

TeemTalk では、ホスト ログオン手順を全自動化または一部自動化できます。**[AutoLogon Options]** (自動ログオン オプション) ダイアログの設定を使用して、ホストの画面に表示されるプロンプトに対して入力する内容を指定できます。

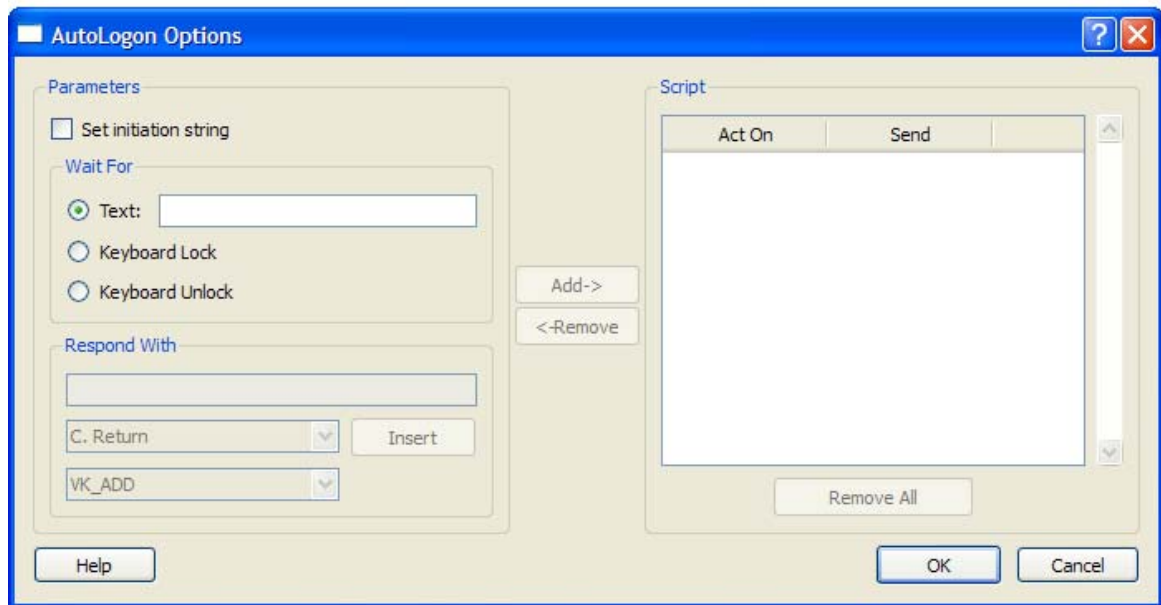
**[AutoLogon Options]** ダイアログは、以下のどちらかの方法で表示できます。

### セッション ウィザードの使用

- **[Step 2]** (ステップ 2) で、**[Auto Logon...]** (自動ログオン...) ボタンをクリックします。

### TeemTalk ウィンドウの使用


- **[Tools]** (ツール) メニューで、**[Auto Logon...]** を選択します。





自動ログオン設定を指定するには、以下の操作を行います。

1. 接続の確立時にホストに対して開始文字列を入力する必要がある場合は、**[Set initiation string]**（開始文字列を設定する）ボックスにチェックを入れ、**[Initiate with]**（開始内容）ボックス（上の図では**[Respond With]**（応答内容）ボックス）に必要な文字列を入力して、**[Add]**（追加）ボタンをクリックします。開始文字列が右側の**[Script]**（スクリプト）ウィンドウに追加されます。
2. **[Wait For]**（待機内容）オプションで、プロンプトを指定するか、自動ログイン処理を待機するためのキーボード ロックまたはロック解除コマンドを指定します。システムによっては大文字と小文字が区別されるので、**[Text]**（テキスト）の内容はシステムの仕様に合わせて正しく入力してください。

 **注記：** IBM 3270 または IBM 5250 エミュレーションを実行する場合、**[Text]**の入力は NVT モードのときのみ必要です。

3. **[Respond With]**ボックスに、必要な応答を入力します。入力したテキストをホストに送信するには、末尾にキャリッジ リターンのコマンドを追加する必要があります。追加するには、下のリスト ボックスで定義済みのコマンドの一覧から**[C. Return]**（キャリッジ リターン）を選択して、**[Insert]**（挿入）ボタンをクリックします。**[Respond With]**ボックスに、**<CR>**の文字が表示されます。

**[Respond With]**ボックスに、定義済みのキー機能を入力することもできます。その場合は、下のリスト ボックスで定義済みのコマンドの一覧から**[Key Definition]**（キー定義）を選択し、さらにその下のボックスで一覧から仮想キー名を選択して、**[Insert]**ボタンをクリックします。

定義済みのコマンドの一覧から**[UserName]**（ユーザー名）（**<UN>**と表示されます）および**[Password]**（パスワード）（**<PW>**と表示されます）を挿入することもできます。これらを選択した場合は、ホストへのログオン時にダイアログ ボックスが表示され、ユーザー名またはパスワード（該当するほう）の入力を求められます。さらに、スクリプトの応答を遅らせることもできます。**[Delay (2s)]**（遅延（2 秒））（**<D>**と表示されます）を選択すると 2 秒、**[Pause (0.25s)]**（一時停止（0.25 秒））（**<P>**と表示されます）を選択すると 0.25 秒の遅延時間が入ります。

4. 特定のプロンプトに対する応答の指定が終わったら、**[Add]**ボタンをクリックして右側の**[Script]**ウィンドウに定義を追加します。

スクリプトでは、**[Script]**ウィンドウに表示されている順序で操作が実行されます。スクリプト行の順序を変更するには、**[Script]**ウィンドウの右側にある上矢印ボタンおよび下矢印ボタンを使用します。

5. 必要なプロンプトの数だけこの手順を繰り返します。

特定のスクリプト行を編集する場合は、**[Script]**ウィンドウでその行を選択し、**[Remove]**（削除）をクリックして、左側の編集ボックスに設定を移します。変更を行ってから**[Add]**をクリックして、スクリプトに戻します。この場合、戻した行はスクリプトの一番下に追加されます。

6. 必要なプロンプトに対するすべての応答を正しい順序で**[Script]**ウィンドウに追加したら、**[Finish]**（終了）をクリックします。

## 4 キーボード設定

この章では、キーボードの設定方法、キー機能の定義方法、および特殊な文字の合成方法について説明します。

### キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、[Tools] (ツール) メニューの [Key Macros...] (キー マクロ...) を選択して表示される [Key Macro Settings] (キー マクロの設定) ダイアログにある [Emulation Keys] (エミュレーション キー) 一覧を参照することによって特定できます。

右のカラムにあるかっこ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は **Shift** キーを、**C+**は **Control** キーを、**A+**は **Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

WY\_INSLINE (S+C+VK\_INSERT)

これは、Wyse エミュレーションの **Insert Line** の機能が、**Shift + Control + Insert** というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

各ターミナル エミュレーションでサポートされる特殊なキー機能は、[Key Macro Settings] ダイアログの一覧にある定義済みのマクロを使用してキーにマッピングできます。

### キーの機能の定義

[Key Macro Settings] (キー マクロの設定) ダイアログで、キーボードのキーの機能を再定義できます。ダイアログ内のオプションを使用すれば、以下の組み合わせを含むほとんどのキーの機能を再定義できます。

- キー
- Shift + キー
- Control + キー
- Control + Shift + キー
- Alt + キー
- Alt + Shift + キー
- Alt + Control + キー
- Alt + Control + Shift + キー

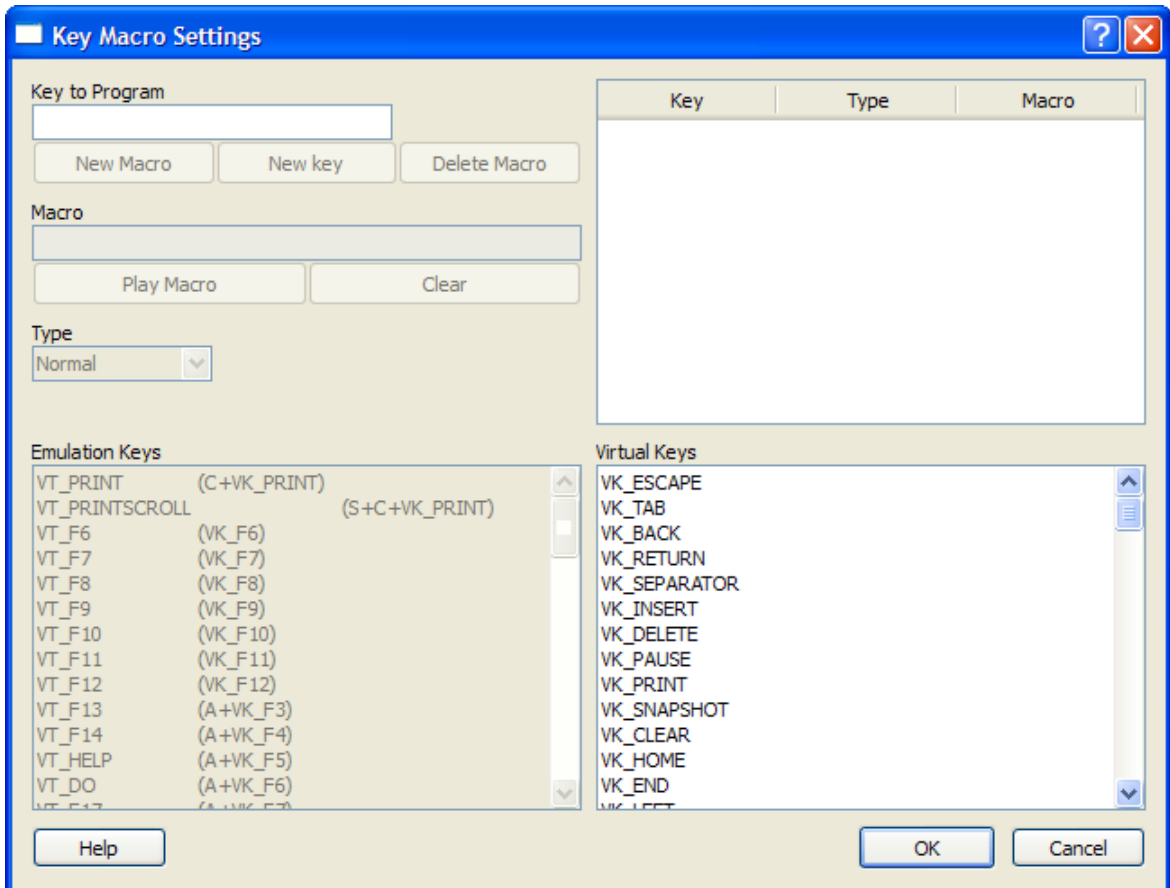
[Key Macro Settings] ダイアログは、以下のどちらかの方法で表示できます。

#### セッション ウィザード

- [Step 2] (ステップ 2) で、[Key Macros...] (キー マクロ...) ボタンをクリックします。

#### TeemTalk ウィンドウ

- [Tools] (ツール) メニューで、[Key Macros...] を選択します。



右側のパネルには、プログラム済みのキーに関する情報が表示されます。キーを編集または削除するときは、ここでキーを選択します。[Key] (キー) 列には、プログラム済みのキーが仮想キー名で表示されます。[Type] (種類) 列には、マクロの処理方法が示されます。[Macro] (マクロ) 列には、機能の定義が示されます。

[Emulation Keys] (エミュレーション キー) リスト ボックスでは、現在選択しているターミナルエミュレーションに固有の標準キー機能を一覧から選択できます。右のカラムにあるかっこ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は **Shift** キーを、**C+**は **Control** キーを、**A+**は **Alt** キーを示します。

たとえば、以下のように指定します。

WY\_INSERTLINE (S+C+VK\_INSERT)

これは、Wyse エミュレーションの **Insert Line** の機能が、**Shift + Control + Insert** というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

**[Virtual Keys]**（仮想キー）リスト ボックスでは、すべてのターミナル エミュレーションで利用できる標準キー機能を一覧から選択できます。

キーをプログラムするには、以下の操作を行います。

1. キーボードで、定義する単独のキーまたはキーの組み合わせを押します。**[Key to Program]**（プログラムするキー）ボックスに、押した各キーに対応する仮想キー名が表示されます。

2. **[Macro]**ボックスに、キーまたはキーの組み合わせの機能定義を入力します。

定義には、127 文字までの文字列を指定できます。全体でキーにプログラムできる文字の合計数は、1 定義あたり 127 文字という制限、およびお使いのコンピューターで利用可能なメモリの量によって決まります。

定義には、通常のテキストのほか、実行するキー機能および制御文字を含めることができます。詳しくは、[299 ページの「キーとボタンのプログラミング」](#)を参照してください。

**[Emulation Keys]** リスト ボックスまたは**[Virtual Keys]** リスト ボックスでキーをダブルクリックすると、そのキーの機能がキー定義に適用されます。

マクロを消去するときは、**[Clear]**（クリア）ボタンをクリックします。

3. **[Play Macro]**（マクロを再生）ボタンをクリックして、機能定義をテストします。
4. **[Type]**（種類）リスト ボックスで以下のオプションのどれかを選択して、マクロの処理方法を指定します。

- **Normal**（通常）

キーまたはキーの組み合わせを押したときに、現在の操作モードに応じてマクロが処理されます。

- **Remote**（リモート）

マクロがホストに転送されます。

- **Local**（ローカル）

マクロがローカルで実行されます。

- **Startup**（起動）

起動時にマクロが自動的に処理されます。

5. 現在のマクロ定義を使用して別のキーをプログラムする場合は、**[New Key]**（新規キー）ボタンをクリックします。

別のマクロ定義を使用して別のキーをプログラムする場合は、**[New Macro]**（新規マクロ）ボタンをクリックします。

キー定義を削除する場合は、定義済みのキーの一覧（右上）でキーを選択して、**[Delete Macro]**（マクロを削除）ボタンをクリックします。

6. キー機能の定義が完了したら、**[OK]**をクリックします。
7. キー定義を保存するには、**[File]**（ファイル）→**[Save Session]**（セッションを保存）の順に選択します。


## 合成文字シーケンス

合成文字シーケンスを使用して、お使いのキーボードには刻印されていない文字のコードを生成できます。合成できる文字は、ターミナル エミュレーションが各国語文字セット モードであるか多国語文字セット モードであるかによって異なります。ターミナル エミュレーションが各国語文字セット モードのときは、選択したキーボード言語に対応する文字セット内の文字のみを合成できます。ターミナル エミュレーションが多国語文字セット モードのときは、すべての国のキーボード レイアウトに含まれる文字を合成できます。

目的の文字が発音区別符号で、その符号がキーボードにない場合は、その符号に相当する文字を使用できる場合があります。発音区別符号および使用できる可能性がある代用の文字を以下に示します。曲折アクセント符号およびチルダ記号には代用できる文字はありません。

発音区別符号	代用の文字
´ (アキュート アクセント)	' (アポストロフィ)
¨ (ウムラウト)	" (二重引用符)
˘ (グレーブ アクセント)	' (一重引用符)
° (リング符号)	* (アスタリスクまたは度数記号)

文字を合成するには、まず、下に示す表の左側の列で目的の文字を見つけます。右側の列に示されている2つの文字が、左側の文字を作成するために使用するキー シーケンスです。1つの文字に対して複数のシーケンスがある場合もあります。合成シーケンスの入力を開始するには、**Alt + C** キーを押します。その後、シーケンスの1つ目の文字のキーを押し、次に2つ目の文字のキーを押します。

 **注記：** 仮想キー名 **COMPOSE** が定義されたキーを押すことによって合成文字シーケンスの入力を開始する方法もあります。

合成文字シーケンスの入力が完了する前に **Delete** キーを押すと、シーケンスの入力を中止できます。合成文字シーケンスの入力が完了する前に **Alt + C** キー（または仮想キー名 **COMPOSE** が定義されたキー）をもう一度押すと、シーケンスの入力が中止され、次のシーケンスの入力が開始されます。入力した合成文字シーケンスが無効な場合は、警告音が鳴ります。

下の表を使用する際の注意点がいくつかあります。

- 合成文字シーケンスに含まれる文字のキーは、「(順序どおり)」と示していないかぎり、好きな順序で押すことができます。
- 「(DEC 多国語)」は、ターミナル エミュレーションが多国語モードで、[Character Set] (文字セット) オプションが[Multinational] (多国語) に設定されている場合にのみ合成できる文字を示します。
- 「(Latin-1)」は、ターミナル エミュレーションが多国語モードで、[Character Set] オプションが[ISO Latin-1] に設定されている場合にのみ合成できる文字を示します。
- 文字の説明に国が示されているものは、「(オランダ語)」など、ターミナル エミュレーションが各国語モードで、システム言語がその国の言語に設定されている場合にのみ合成できる文字を示します。

表 4-1 合成文字シーケンス

"	引用符	" スペース
#	シャープ記号	++
'	アポストロフィ	' スペース
@	アット マーク	a a または A A (多国語) a a または A A または a A (各国語)
[	開き角かっこ	((
\	バック スラッシュ	// または / <
]	閉じ角かっこ	))
^	曲折アクセント	^ スペース
`	グレーブ アクセント	` スペース
{	開き波かっこ	(-
	縦線	/ ^
}	閉じ波かっこ	)-
~	チルダ	~ スペース
!	逆感嘆符	!!
¢	セント記号	c / または C / または c   または C
£	ポンド記号	l - または L - または l = または L =
¥	円記号	y - または Y - または y = または Y =
§	セクション記号	s o または S O または s ! または S ! または s 0 または S 0 (各国語および多国語) s O または S o (各国語のみ)
✕	不特定通貨記号	x o または X O または x 0 または X 0
©	著作権マーク	c o または C O または c 0 または C 0
ª	女性序数標識	a - または A _
«	開き二重山かっこ	<<
°	度数記号	0 ^ (多国語) ° スペース (各国語)
±	プラスマイナス記号	+ -
²	2 の上付き文字	2 ^
³	3 の上付き文字	3 ^
µ	マイクロ記号	/ u または / U (順序どおり)

表 4-1 合成文字シーケンス (続き)

¶	段落記号	p !または P !
·	中点	. ^
¹	1 の上付き文字	1 ^
°	男性序数標識	o _または O _
»	閉じ二重山かっこ	> >
¼	4 分の 1 の分数	1 4 (順序どおり)
½	2 分の 1 の分数	1 2 (順序どおり)
¾	4 分の 3 の分数 (オランダ語)	3 4 (順序どおり)
f	フローリン記号 (オランダ語)	f   (順序どおり)
	i j 合字 (オランダ語)	i j (順序どおり)
¿	逆疑問符	? ?
À	グレーブ付き A	A `
Á	アキュート付き A	A ´
Â	曲折付き A	A ^
Ã	チルダ付き A	A ~
Ä	ウムラウト付き A	A "または" A
Å	リング付き A	A *または A ° (度数記号)
Æ	A E 二重母音	A E (順序どおり)
Ç	セディユー付き C	/ uまたは/ U (順序どおり)
È	グレーブ付き E	E `
É	アキュート付き E	E ´
Ê	曲折付き E	E ^
Ë	ウムラウト付き E	E "または" E
Ì	グレーブ付き I	I `
Í	アキュート付き I	I ´
Î	曲折付き I	I ^
Ï	ウムラウト付き I	I "または" I
Ñ	チルダ付き N	N ~
Ò	グレーブ付き O	O `
Ó	アキュート付き O	O ´
Ô	曲折付き O	O ^

表 4-1 合成文字シーケンス (続き)

Ö	チルダ付き O	O ~
Ö	ウムラウト付き O	O "または" O
œ	O E 二重母音 (DEC 多国語)	O E (順序どおり)
ø	スラッシュ付き O	O /
Û	グレーブ付き U	U `
Ú	アキュート付き U	U '
Û	曲折付き U	U ^
Ü	ウムラウト付き U	U "または" U
ÿ	ウムラウト付き Y (DEC 多国語)	Y "または" Y
ß	ドイツ語エスツェット	ss
à	グレーブ付き a	a `
á	アキュート付き a	a '
â	曲折付き a	a ^
ã	チルダ付き a	a ~
ä	ウムラウト付き a	a "または" a
å	リング付き a	a * または a ° (度数記号)
æ	a e 二重母音	a e (順序どおり)
ç	セディーユ付き c	c, (コンマ)
è	グレーブ付き e	e `
é	アキュート付き e	e '
ê	曲折付き e	e ^
ë	ウムラウト付き e	e "または" e
ì	グレーブ付き i	i `
í	アキュート付き i	i '
î	曲折付き i	i ^
ï	ウムラウト付き i	i "または" i
ñ	チルダ付き n	n ~
ò	グレーブ付き o	o `
ó	アキュート付き o	o '
ô	曲折付き o	o ^
ö	チルダ付き o	o ~



表 4-1 合成文字シーケンス (続き)

ö	ウムラウト付き o	
œ	o e 二重母音 (DEC 多国語)	o E (順序どおり)
ø	スラッシュ付き o	o /
ù	グレーブ付き u	u `
ú	アキュート付き u	u ´
û	曲折付き u	u ^
ü	ウムラウト付き u	u "または" u
ÿ	ウムラウト付き y	y 'または" y
nbsp	改行なしスペース	スペース スペース
¡	破断線 (Latin-1)	または! ^
¬	論理否定 (Latin-1)	-, (順序どおり)
	ソフト (音節区切り) ハイフン (Latin-1)	--
®	登録商標マーク (Latin-1)	R O
-	長音記号 (Latin-1)	- ^または_ ^
¾	4 分の 3 (Latin-1)	3 4
÷	除算記号 (Latin-1)	- :
×	乗算記号 (Latin-1)	x x
´	アキュート アクセント (Latin-1)	´ ´
¨	分音記号 (ウムラウト) (Latin-1)	" "または" スペース
Ý	アキュート付き Y (Latin-1)	Y ´
ý	アキュート付き y (Latin-1)	y ´
Þ	アイスランド語大文字ゾーン (Latin-1)	T H (順序どおり)
þ	アイスランド語小文字ゾーン (Latin-1)	t h (順序どおり)
Ð	アイスランド語大文字エズ (Latin-1)	- D
ð	アイスランド語小文字エズ (Latin-1)	- d

## 5 マウスの機能

### マウスの初期設定の機能

モディファイア キーとの組み合わせを使用して、各マウス ボタンに最大 16 種類の機能を割り当てることができます。初期設定では以下の機能が定義されています。

マウス ボタン	モディファイア キー	クリック	ダブルクリック
左ボタン	なし	Select (選択)	Move Cursor (カーソルを移動)
	Shift +	Extend Selection (選択を拡張)	
	Control +	Paste (貼り付け)	
	Shift + Control +	Copy Paste (コピー/貼り付け)	
右ボタン	Alt +	Select Rect (矩形選択)	
	なし	Copy (コピー)	
	Shift +		Select Word (単語選択)
	Shift + Control +		Select Line (行選択)
中ボタン	Alt +	Send CR (CR を送信)	
	なし	Paste	Move Cursor

### マウスの機能の定義

**[Mouse Action Settings]** (マウス動作の設定) ダイアログで、マウス ボタンの機能を再定義できます。マウス ボタンをクリックしたとき、ダブルクリックしたとき、およびモディファイア キーを押しながらクリックしたときの機能を指定できます。

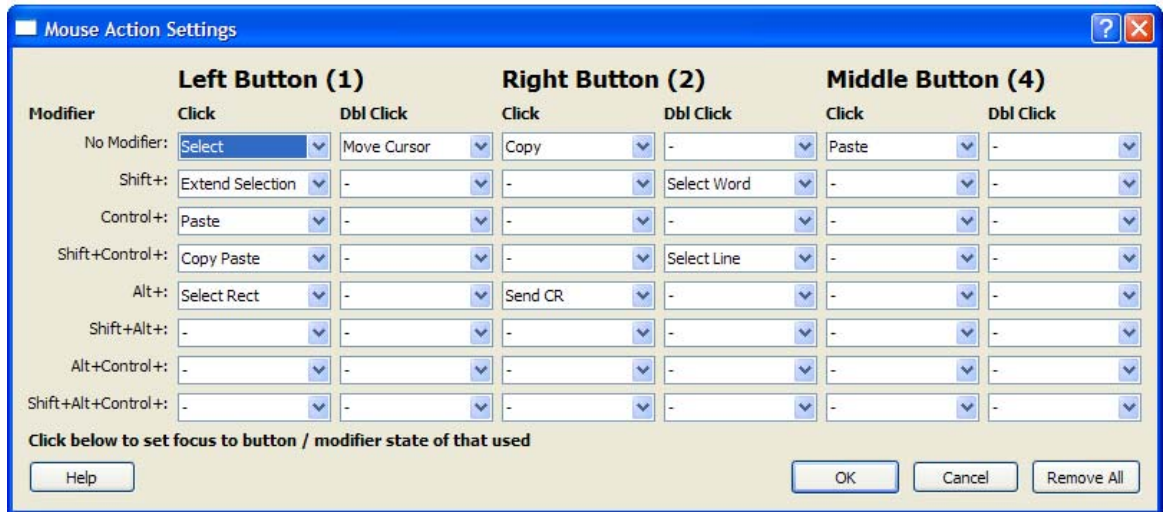
**[Mouse Action Settings]** ダイアログは、以下のどちらかの方法で表示できます。

#### セッション ウィザードの使用

- **[Step 2]** (ステップ 2) で、**[Mouse Actions...]** (マウス動作...) ボタンをクリックします。

#### TeemTalk ウィンドウの使用

- **[Tools]** (ツール) メニューで、**[Mouse Actions...]** を選択します。



次のセクションで説明する標準機能を一覧から選択するか、[46 ページの「マクロの定義」](#)の説明に沿ってマクロを定義することによって、各ボタンに最大 16 種類の機能を割り当てることができます。

## マウスの標準機能

- **Select** (選択)

開始地点 (マウス ボタンを押した地点) から終了地点 (マウス ボタンを離した地点) までのすべてのテキストを選択します。画面の幅全体で左から右に動作します。

- **Extend Selection** (選択を拡張)

現在の選択範囲を広げます。

- **Copy** (コピー)

現在の選択範囲をクリップボードにコピーします。

- **Paste** (貼り付け)

現在カーソルが置かれている位置にクリップボードの内容を貼り付けます。

- **Move Cursor** (カーソルを移動)

エミュレーターがローカル ブロック モードのどこかにあるときに、カーソル キーの代わりにマウスを使用してテキスト カーソルの位置を移動します。

- **Select Rect** (矩形選択)

開始地点 (マウス ボタンを押した地点) を左上とし、終了地点 (マウス ボタンを離した地点) を右下とする矩形領域内のテキストを選択します。

- **Select Word** (単語選択)

マウス カーソルが置かれている単語を選択します。

- **Select Line** (行選択)

マウス カーソルが置かれている行全体を選択します。

- **Copy Paste** (コピー/貼り付け)

現在の選択範囲をコピーし、ホストに送信します。

- **Macro** (マクロ)

ユーザー定義のマクロを実行します。[46 ページの「マクロの定義」](#)を参照してください。

- **Send CR** (CR を送信)

キャリッジ リターン コマンドを送信します。

- **Paste Rect** (矩形貼り付け)

[Select Rect]機能で選択した矩形領域にクリップボードの内容を貼り付けます。

- **Cursor Select** (選択カーソル)

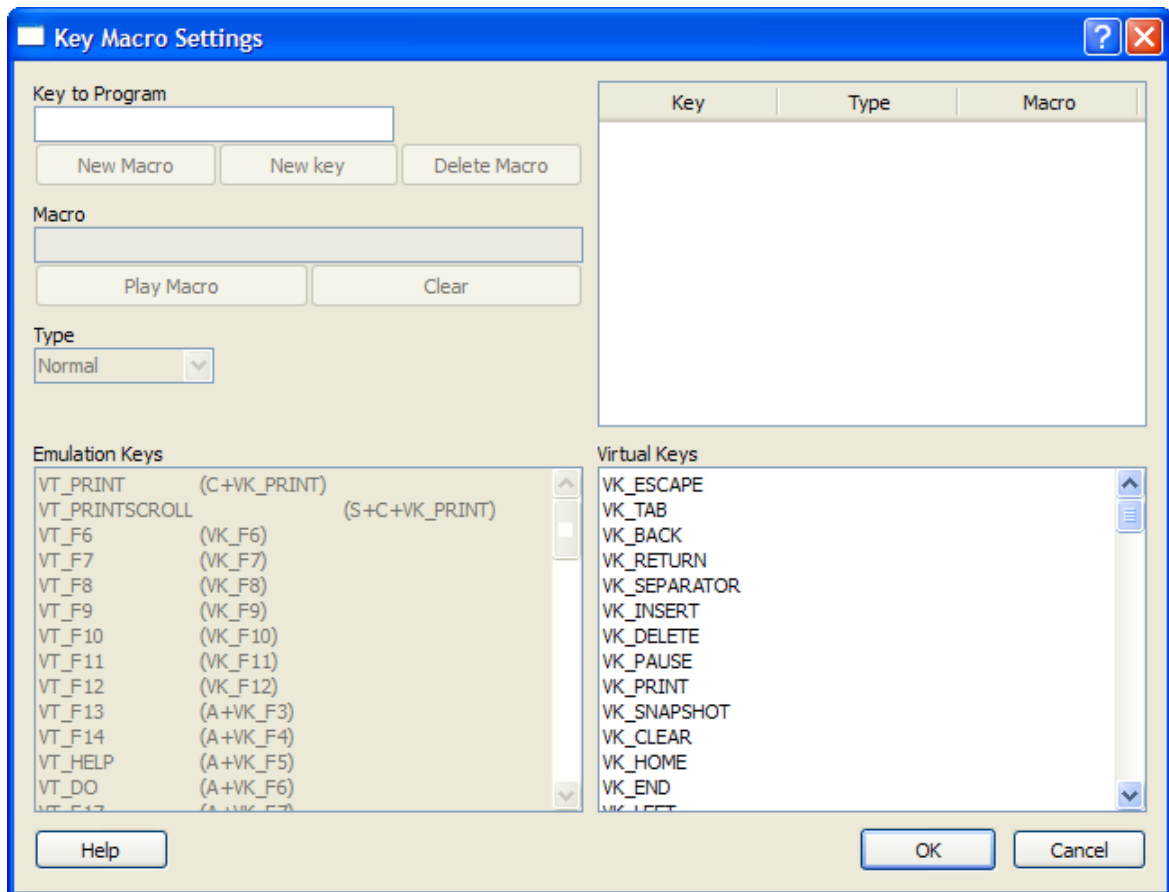
[Move Cursor]と同じですが、IBM 3270 または IBM 5250 エミュレーションの実行時にはカーソル選択も行います。

## マクロの定義

以下の操作を行って、マウス ボタンまたはマウス ボタンとモディファイア キーの組み合わせにマクロを割り当てることができます。

1. **[Mouse Action Settings]** (マウス動作の設定) ダイアログで、設定するボタンまたはボタンとモディファイア キーの組み合わせのドロップダウン リストから**[Macro]** (マクロ) オプションを選択します。**[OK]**をクリックしてダイアログを閉じます。


2. **[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) ダイアログを表示します。



3. **[Virtual Keys]** (仮想キー) ボックスで一覧の下部までスクロールし、3つのマウス ボタンのクリック時 (**VK\_MSE\_B#\_CLK**) およびダブルクリック時 (**VK\_MSE\_B#\_DBL**) に対応する6つの仮想キー名を見つけます。中ボタンは番号が **4** になることに注意してください。
4. ボタンとモディファイア キーの組み合わせに機能を定義する場合は、モディファイア キーを押したままにします。
5. プログラムするボタンの仮想キー名をダブルクリックします (その後、モディファイア キーを押していた場合はそのキーを離します)。

**[Key to Program]** (プログラムするキー) フィールドに、ボタンおよび押したモディファイア キーに対応する仮想キー名が表示されます。

6. **[Macro]** (マクロ) ボックスにマクロ定義を入力します。[299 ページの「キーとボタンのプログラミング」](#)の説明に沿って独自の定義を入力するか、**[Emulation Keys]** (エミュレーションキー) および**[Virtual Keys]** (仮想キー) の一覧から標準キー機能を選択できます。

 **ヒント:** **[Key Macro Settings]** ダイアログの使用方法について詳しくは、[36 ページの「キーの機能の定義」](#)のセクションを参照してください。

7. 完了したら、**[OK]** をクリックします。

## 6 ホットスポット

この章では、ホットスポット機能の概要および**[Hotspot Editor]**（ホットスポット エディター）を使用したホットスポットの定義方法について説明します。

### はじめに

ホットスポット機能を使用すると、エミュレーション ワークスペースに表示されている特定のキーワードをマウスでクリックすることによって何らかの機能呼び出すことができます。たとえば、あるアプリケーションに、特定の機能を実行するためのキーの情報が表示されるとします。キーボードでそのキーを押す代わりに、**[Action Hotspot]**（ホットスポットの実行）機能を割り当てたマウス ボタンまたはキーとマウス ボタンの組み合わせを使って画面上のキー名をクリックすることによって、該当する機能呼び出すことができます。

ホットスポットは、すべてのターミナル エミュレーション モードでサポートされます。モードごとに一連の初期設定キーワードが用意されています。これらのキーワードは、各エミュレーションに固有のキー機能に関連付けられています。たとえば、VT500 モードでは、画面に表示された「**Help**」という単語をクリックすると、**Help** キーに関連付けられた機能が実行されます。

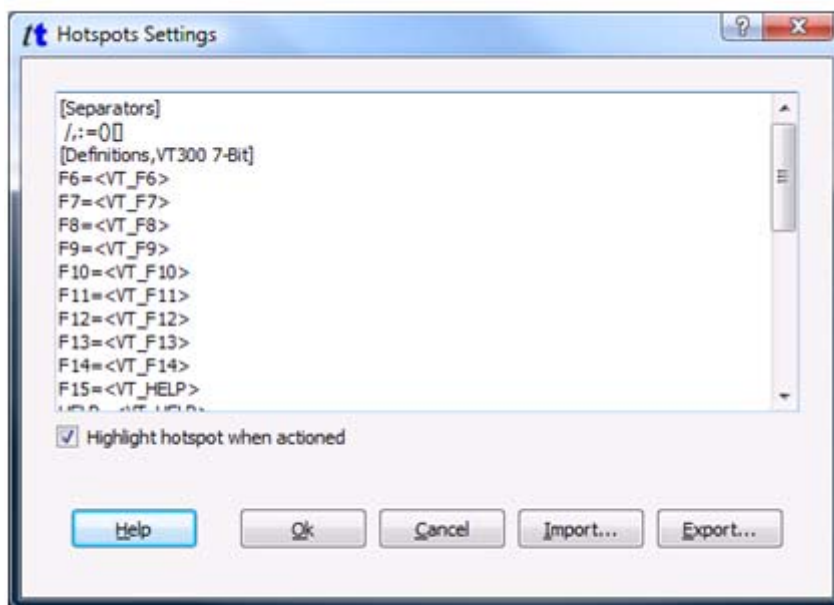
### ホットスポットの使用

ホットスポットを使用するには、まず、**[Mouse Action Settings]**（マウス動作の設定）ダイアログでマウス ボタンまたはキーとマウス ボタンの組み合わせに**[Action Hotspot]**（ホットスポットの実行）機能を割り当てる必要があります（このダイアログについて詳しくは、[44 ページの「マウスの機能」](#)の章を参照してください）。

また、**[Mouse Action Settings]**ダイアログでマウス ボタンまたはキーとマウス ボタンの組み合わせに**[Show Hotspots]**（ホットスポットの表示）機能を割り当てれば、ディスプレイ メモリに現在保存されているホットスポットを確認できます。割り当てたマウス ボタンまたはキーとマウス ボタンの組み合わせを押すと、表示色に関するすべての属性が一時的に無効になり、ホットスポットのテキストの色が赤に変わります。マウス ボタンまたはキーとマウス ボタンの組み合わせを離すと、元の表示状態に戻ります。

### Hotspot Editor（ホットスポット エディター）


**[Hotspot Editor]**では、現在の TeemTalk セッションで利用可能なホットスポットをカスタマイズできます。**[Hotspot Editor]**を表示するには、**[File]**（ファイル）メニューから**[Hotspots...]**（ホットスポット...）を選択します。



## ホットスポットの定義

[Hotspots Settings] (ホットスポットの設定) ダイアログの上部には、ホットスポットの詳細が記述された編集可能なテキストボックスがあります。詳細は、[[Separators]] ([セパレーター]) と [[Definitions, emulation]] ([定義、エミュレーション]) (**emulation** の部分には、現在選択されているエミュレーションモードが入ります) の2つのセクションに分けられます。

[Separators] セクションでは、画面上でホットスポット定義の区切りとなる文字を指定します。

 **注記:** 区切り文字には、ここで指定されている文字のほかにスペースおよび **NULL** も含まれます。

始まりの区切り文字と終わりの区切り文字が同じである必要はありません。区切り文字は、単語の中にホットスポットの文字列と同じ文字列がたまたま含まれているときにホットスポットと見なされることを避けるために使用されます。たとえば、**end** というキーワードでホットスポットを定義した場合、区切り文字によって、**append** という単語に含まれる **end** がホットスポットになるのを避けることができます。

[Definitions] セクションには、ホットスポット定義の一覧が含まれます。各ホットスポット定義は、1行につき1つずつ、「**キーワード=アクション**」の形式で指定します。キーワードの部分には、ホットスポットとなる表示文字列を指定します。アクションの部分には、[Action Hotspot] (ホットスポットの実行) を割り当てたマウスボタンまたはキーとマウスボタンの組み合わせを使ってホットスポットをクリックしたときに実行する機能を指定します。ホットスポット定義の機能には、単一のキー機能 (仮想キー名) を指定できます。選択されているエミュレーションモードに有効なキーについては、[302 ページの「仮想キーの名前」](#)を参照してください。

## ホットスポットの保存


[File] (ファイル) メニューから [Save Session] (セッションを保存) または [Save Session As] (セッションに名前を付けて保存) を選択することによって、セッションとともにホットスポット定義を保存できます。ホットスポット定義は、他のセッション情報とともにセッション ファイルに保存されます。

## ホットスポットのエクスポート

ホットスポット定義を別のセッションで使用したい場合、またはホットスポット定義のバックアップを作成したい場合は、[Hotspot Editor] (ホットスポット エディター) で [Export] (エクスポート) をクリックして、現在のホットスポット定義をエクスポートできます。Windows 標準の [名前を付けて保存] ダイアログが表示されるので、定義の保存先パスとファイル名を指定します。ファイル名に .xml 拡張子を付けると、TeemTalk によって定義が XML 形式で保存されます。それ以外の場合は、プレーン テキスト形式でエクスポートされます。ファイル名を指定するときに拡張子を付ける必要があります。ファイル名を入力したら、[保存] をクリックします。

## ホットスポットのインポート

[Hotspot Editor] (ホットスポット エディター) で [Import] (インポート) をクリックすると、以前にエクスポートしたホットスポット定義をインポートしたり、別の TeemTalk セッションからホットスポット定義を直接インポートしたりできます。ファイル ブラウザーで、インポートするホットスポット定義が含まれるファイルを探して選択し、[Open] (開く) をクリックします。

 **注記:** 現在選択されているエミュレーションに対応する定義のみがインポートされます。インポート操作では、現在の定義がすべて置き換えられます。

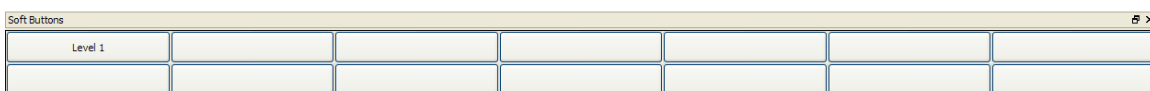


# 7 Soft Buttons (ソフト ボタン)

この章では、ソフト ボタンの使用方法について説明します。

## はじめに

さまざまな機能をクリック操作で実行できるようにするため、プログラム可能な一連のソフト ボタンが用意されています。これらのボタンは、初期設定では TeemTalk ウィンドウの下部に表示されません。



ソフト ボタンは 4 つのレベルに分けられます。各レベルに 12 個のボタンが含まれるので、プログラム可能なボタンを合計 48 個利用できます。必要であれば、4 つすべてのレベルを同時に表示できます。すべてを表示しない場合でも各レベルにいつでもアクセスできます。**[Level #]** (レベル#) ボタンをクリックすると、画面に表示されていないレベルがスクロールして表示されます

各レベルの **[Level #]** ボタンの下にあるボタンは、プログラムできませんが、2 つの用途に使用できます。利用可能なレベルを逆順でスクロールできるほか、各レベルに含まれるボタン全体の説明テキストをラベルとして表示できます。

右上のソフト ボタンの上にある **[Restore Down]** (元に戻す (縮小)) ボタンをクリックするか、**[Soft Button Settings]** (ソフト ボタンの設定) ダイアログで **[Attached to the window]** (ウィンドウに固定する) オプションのチェックを外すことによって、ソフト ボタンを別のウィンドウに切り離して表示できます。

ソフト ボタンを TeemTalk ウィンドウに再度固定するには、**[Soft Buttons]** (ソフト ボタン) ウィンドウのタイトル バーをダブルクリックするか、**[Soft Button Settings]** ダイアログで **[Attached to the window]** オプションにチェックを入れます。

**[View]** (表示) メニュー → **[Windows]** (ウィンドウ) → **[Soft Buttons]** の順に選択してこの項目のチェックを外すか、**[Soft Button Settings]** ダイアログで **[Visible Levels]** (表示されるレベル) オプションを **0** に設定することによって、ソフト ボタンを非表示にできます。

ソフト ボタンを再度表示するには、**[View]** メニュー → **[Windows]** → **[Soft Buttons]** の順に選択して項目にチェックを入れるか、**[Soft Button Settings]** ダイアログで **[Visible Levels]** オプションを **0** 以外の値に設定します。

## ソフト ボタンの機能の定義

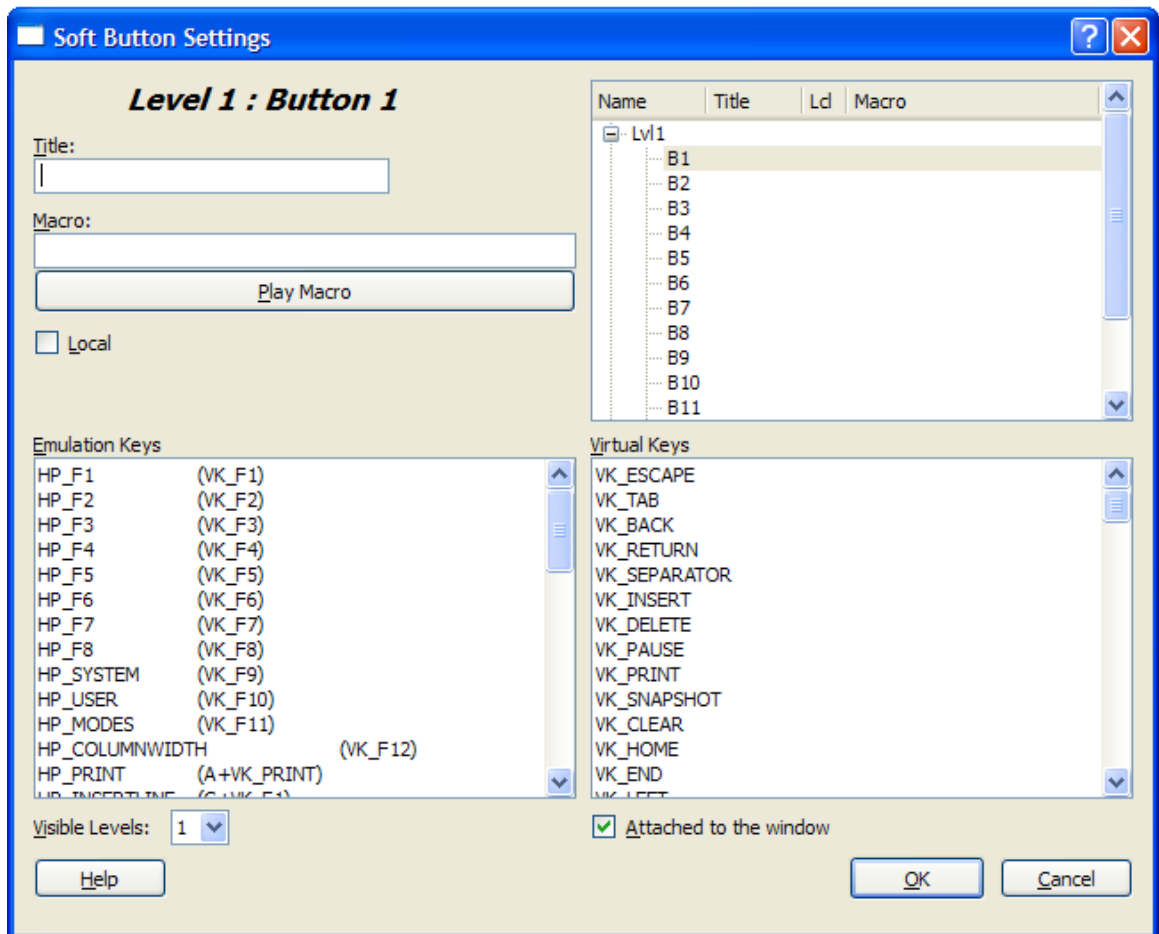
ソフト ボタンの機能は、[Soft Button Settings] (ソフト ボタンの設定) ダイアログで定義します。このダイアログは、以下のどちらかの方法で表示できます。

### セッション ウィザードの使用

- [Step 2] (ステップ 2) で、[Soft Buttons...] (ソフト ボタン...) をクリックします。

### TeemTalk ウィンドウの使用

- [Tools] (ツール) メニューで、[Soft Buttons...] を選択します。



右側のパネルには、プログラム済みのソフト ボタンに関する情報が表示されます。ソフト ボタンを編集または削除するときは、ここでソフト ボタンを選択します。[Title] (タイトル) 列には、ソフト ボタンに表示されるテキストが表示されます。[Ld] 列にアスタリスクが表示されている場合は、機能がローカルで実行されることを示します。[Macro] (マクロ) 列には、機能の定義が示されます。

[Emulation Keys] (エミュレーション キー) リスト ボックスでは、現在選択しているターミナルエミュレーションに固有の標準キー機能を一覧から選択できます。右のカラムにあるかっこ内の情

報は、TeemTalk によるキーの機能の初期設定のマッピングを示します。たとえば、以下のように指定します。

WY\_INSLINE (S+C+VK\_INSERT)

これは、Wyse エミュレーションの **Insert Line** の機能が、標準的な拡張 AT キーボードの **Shift + Control + Insert** というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

**[Virtual Keys]** (仮想キー) リスト ボックスでは、すべてのターミナル エミュレーションで利用できる標準キー機能を一覧から選択できます。

ソフト ボタンを定義するには、以下の操作を行います。

1. 右上のパネルで、使用するレベル (**[Lvl1]**~**[Lvl4]**) のボタン番号 (**[B1]**~**[B12]**) を選択します。

**[Lvl#]** ボタン レベルのどれかを選択すると、そのレベルに含まれるボタン全体を表すタイトルを指定できます。このタイトルは、**[Level #]** ボタンのすぐ下にあるボタンに表示されますが、このボタンはプログラムできません。

2. **[Title]** ボックスに、ボタンに表示するテキスト (20 文字以下) を入力します。

3. **[Macro]** ボックスに、ボタンの機能定義を入力します。

定義には、通常のテキストのほか、実行するキー機能および制御文字を含めることができます。詳しくは、[299 ページの「キーとボタンのプログラミング」](#)を参照してください。

**[Emulation Keys]** リスト ボックスまたは**[Virtual Keys]** リスト ボックスでキーをダブルクリックすると、そのキーの機能がボタン定義に適用されます。

4. **[Play Macro]** (マクロを再生) ボタンをクリックして、機能定義をテストします。

5. 機能をローカルのみで実行する場合は、**[Local]** (ローカル) ボックスにチェックを入れます。

6. **[Visible Levels]** (表示されるレベル) リストで、一度に表示するソフト ボタン レベルの数を指定します。一度に最大 4 つのレベル (各レベルにはプログラム可能なソフト ボタンが 12 個含まれます) を表示できます。**0** を選択すると、ソフト ボタンが非表示になります。

7. ソフト ボタンを別のウィンドウに表示する場合は、**[Attached to the window]** (ウィンドウに固定する) オプションのチェックを外します。

8. ソフト ボタン機能の定義が完了したら、**[OK]** をクリックします。

9. ソフト ボタンの設定を保存するには、**[File]** (ファイル) →**[Save Session]** (セッションを保存) の順に選択します。

## 8 表示属性

この章では、エミュレーション ワークスペースで使用される色の変更方法、および属性付きテキストの表示の指定方法について説明します。

### はじめに

TeemTalk には、エミュレーション ワークスペースの表示をカスタマイズするためのさまざまなオプションがあります。画面の背景の色および前景のテキストの色を変更できます。また、特定の属性または属性の組み合わせが付いたテキストに異なる色を割り当てたり、初期設定のテキスト属性を変更したりできます。

属性付きテキストはさまざまな方法で表示できます。たとえば、下線の属性が設定された文字を標準の表示にしたり（下線のみ）、特定の色だけを付けて表示したり（下線なしで緑色など）、属性と色の両方を付けて表示したり（下線付きで緑色など）することができます。

この章では、**[Attributes]**（属性）ダイアログを使用して表示設定をカスタマイズする方法について説明します。

### **[Attributes]**（属性）ダイアログ

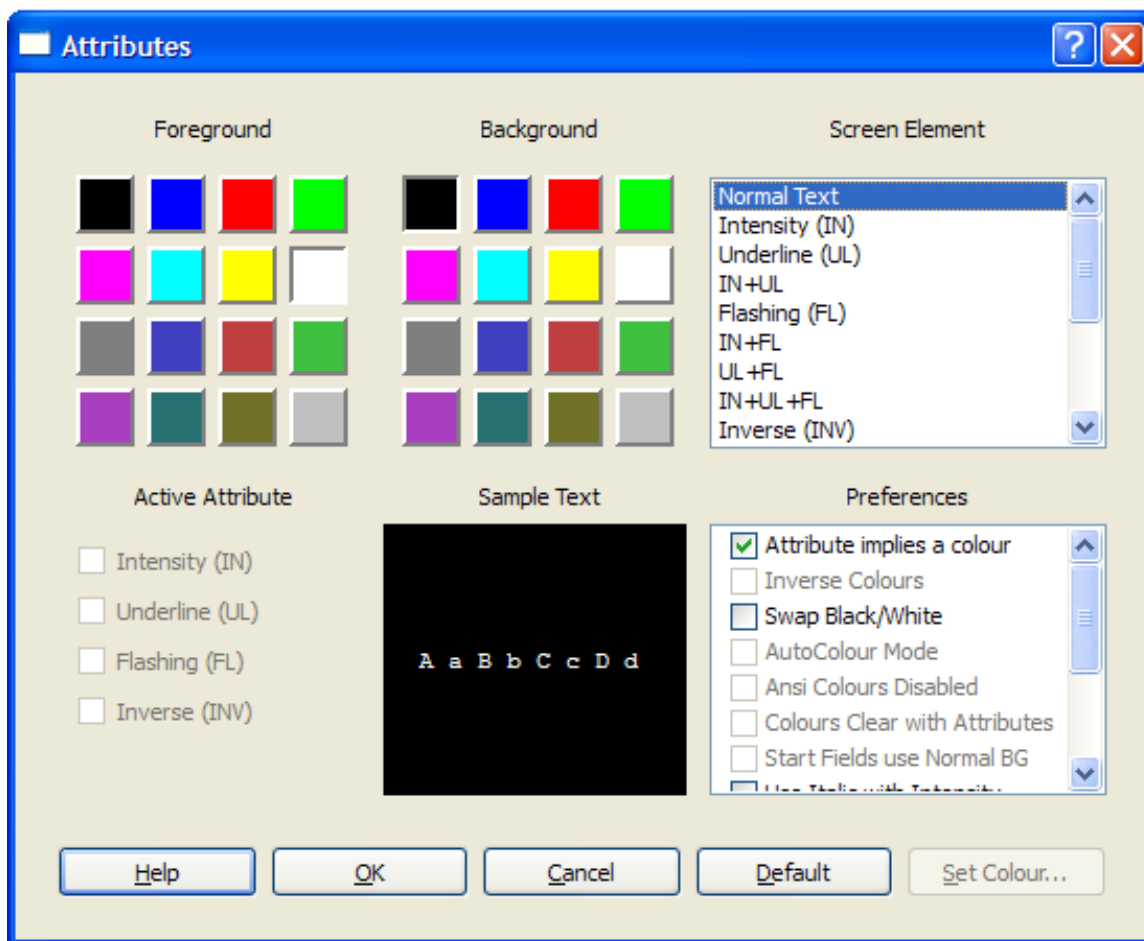
[Attributes]ダイアログは、以下のどちらかの方法で表示できます。

#### セッション ウィザードの使用

- **[Step 2]**（ステップ 2）で、**[Attributes...]**（属性...）ボタンをクリックします。

#### TeemTalk ウィンドウの使用

- **[Tools]**（ツール）メニューで、**[Attributes...]**を選択します。



**[Screen Element]** (画面要素) リスト ボックスでは、変更する表示要素を選択します。これには、文字の各属性 (太字、下線など) および属性の組み合わせ (太字+下線など) が含まれます。

**[Foreground]** (前景) および**[Background]** (背景) カラー パレットでは、**[Screen Element]** で選択した要素の色を指定します。**[Set Colour]** (色の設定) ボタンをクリックすると、パレットに表示される色を変更できます。

**[Active Attribute]** (有効な属性) オプションでは、初期設定でテキストに割り当てられる属性を有効または無効にできます。たとえば、通常は下線の属性付きで表示される文字を下線なしで表示したい場合は、**[Screen Element]** リスト ボックスで**[Underline (UL)]** (下線 (UL)) オプションを選択してから、**[Active Attribute]** で**[Underline (UL)]** オプションのチェックを外します。

**[Sample Text]** (サンプル テキスト) には、選択した画面要素に現在適用されている属性設定が、画面上でどのように表示されるかが示されます。

**[Preferences]** (設定) リスト ボックスでは、追加の表示オプションを選択できます。これには、ターミナル エミュレーションに固有のオプションも含まれます。たとえば、**[AutoColour Mode]** (自動カラー モード) オプションは DEC VT ターミナル エミュレーションでのみ使用できます。このオプションを選択すると、文字の種類 (数字、アルファベットなど) に応じて色が変わります。

## 画面の背景色の変更


画面の背景色を変更するには、以下の操作を行います。

1. **[Screen Element]** (画面要素) リスト ボックスで**[Screen Background]** (画面の背景) を選択します。**[Sample Text]** (サンプル テキスト) ボックスに、現在割り当てられている色が表示されます。
2. **[Foreground]** (前景) または**[Background]** (背景) カラー パレットで、設定する色をクリックします。**[Sample Text]** ボックスに、選択した色が表示されます。

## テキストの前景色および背景色の変更

テキストの前景色および背景色を変更するには、以下の操作を行います。

1. **[Screen Element]** (画面要素) テキストボックスで、**[Normal Text]** (通常のテキスト) または属性付き文字オプションのどれか (**[Underline (UL)]** (下線 (UL))、太字+下線を表す**[IN+UL]**など) を選択します (下記の注を参照してください)。**[Sample Text]** (サンプル テキスト) ボックスに、現在割り当てられている色が表示されます。
2. **[Foreground]** (前景) カラー パレットで、テキストの文字に設定する色をクリックし、**[Background]** (背景) カラー パレットで、文字セルの背景に設定する色をクリックします。**[Sample Text]** ボックスに、選択した色が表示されます。

 **注記:** 文字属性および属性の組み合わせごとに、独自の前景および背景設定が適用されます。**[Normal Text]** オプションは、属性の付いていないテキストにのみ適用されます。

## 属性の無効化

テキストに割り当てられている属性を無効にするには (点滅の属性を無効にするなど)、以下の操作を行います。

1. **[Screen Element]** (画面要素) リスト ボックスで、無効にする属性が含まれるテキスト属性または属性の組み合わせを選択します。
2. **[Active Attribute]** (有効な属性) リストで、無効にする属性のボックスのチェックを外します。

## 設定

[Attributes] (属性) ダイアログの[Preferences] (設定) オプションでは、追加の表示オプションを選択できます。一部のオプションは、ターミナル エミュレーションに固有のオプションです。

- **Attribute implies a colour** (属性に色が含まれる)  
工場出荷時の設定：未チェック  
属性に関連付けられた色を有効または無効にできます。
- **Inverse Colours** (色を反転)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションにチェックを入れると、反転の属性が付いた文字でテキスト (前景) の色がテキスト セル (背景) の色と入れ替わります。
- **Swap Black/White** (白黒反転)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションにチェックを入れると、白の属性が付いた文字が黒で、黒の属性が付いた文字が白で表示されます。
- **Autocolour Mode** (自動カラー モード)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションは DEC VT ターミナル エミュレーションにのみ適用されます。チェックを入れると、文字の表示色が種類に応じて変わります。たとえば、数字はすべて特定の色で表示され、アルファベットはすべて別の特定の色で表示されます。このオプションのチェックを外すと、このダイアログの設定に沿って文字が表示されます。
- **Ansi Colours Disabled** (ANSI カラー無効)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションにチェックを入れると、ANSI カラー コマンドが無視されます。
- **Colours Clear with Attributes** (属性命令受信時に色をクリア)  
工場出荷時の設定：チェック済み  
ANSI クリア属性コマンドの受信時に前景色および背景色をクリアして初期設定の色にするかどうかを指定します。
- **Start Fields use Normal BG** (開始フィールドで通常の背景を使用)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションは、IBM 3270 ディスプレイ エミュレーションにのみ適用されます。このオプションにチェックを入れると、属性インジケータが画面上の文字位置を占める場合に、それらの位置に属性ではなく通常の背景色を表示できます。
- **Use Italic with Intensity** (太字の斜体を使用)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションにチェックを入れると、太字の属性が付いた文字が斜体で表示されます。

- **Use Font with Intensity** (太字フォントを使用)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションにチェックを入れると、すべての文字が太字フォントで表示されます。
- **Blink Underline** (下線を点滅)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションにチェックを入れると、下線の属性が付いた文字が点滅します。
- **Blink Column Separators** (カラム セパレーターを点滅)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションにチェックを入れると、カラム セパレーターが点滅します。
- **Blink Foreground/Background** (前景/背景を点滅)  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションにチェックを入れると、前景色および背景色が交互に表示されます。

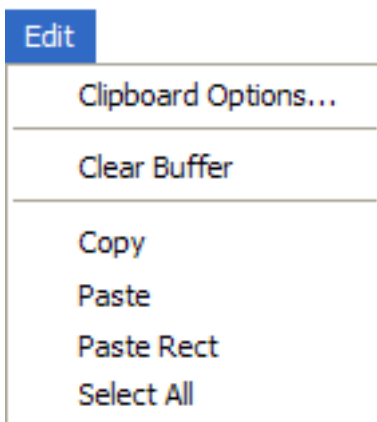


## 9 編集オプション

この章では、[Edit]（編集）メニューにある編集オプションの使用方法について説明します。

### [Edit]（編集）メニュー

[Edit]メニューには、さまざまな編集オプションがあります。



- **Clipboard Options**（クリップボード オプション）

データのコピー方法を指定できる**[Clipboard Options]**ダイアログが表示されます。このダイアログのオプションについては、[60 ページの「Clipboard Options \(クリップボード オプション\)」](#)のセクションを参照してください。
- **Clear Buffer**（バッファをクリア）

ウィンドウの内容およびスクロール バッファを消去します。
- **Copy**（コピー）

[Copy]コマンドは、データを選択した状態で利用可能になります。**[Clipboard Options]**ダイアログで指定されている形式で、現在選択されているテキストをクリップボードにコピーします。コピーしたデータは、**[Paste]**（貼り付け）コマンドを使用して別の場所に挿入できます。データをコピーすると、前にコピーしてクリップボードに保存されていたデータは削除されません。
- **Paste**（貼り付け）

クリップボードにコピーされたデータを現在のカーソル位置に貼り付けます。再度**[Copy]**コマンドを使用するまでデータはクリップボードに保存されるため、同じデータを繰り返し貼り付けることができます。
- **Paste Rect**（矩形貼り付け）

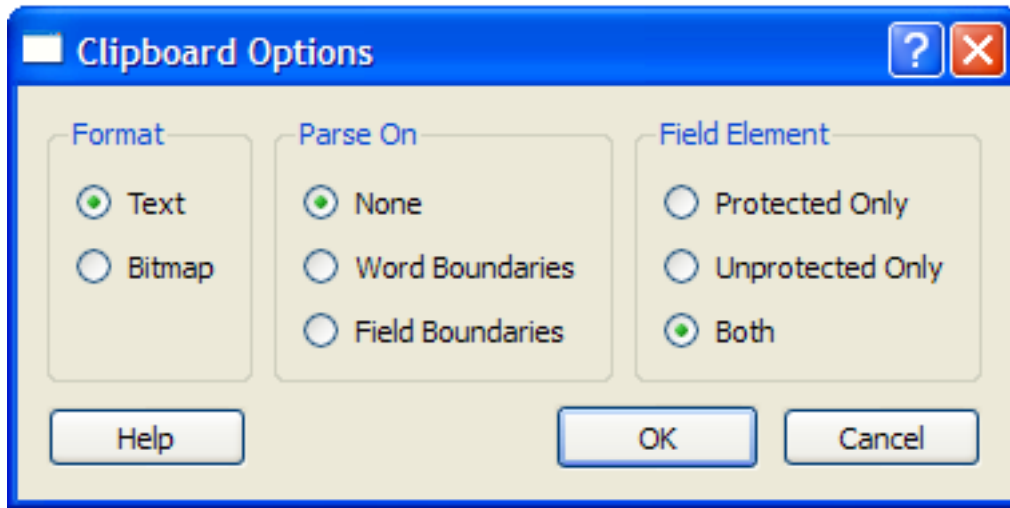
**[Select Rect]**（矩形選択）機能で選択した矩形領域にクリップボードの内容を貼り付けます。

初期設定では、**[Select Rect]**機能を実行するには、**Alt** キーを押したままマウスの左ボタンを押します。開始地点（マウス ボタンを押した地点）を左上とし、終了地点（マウス ボタンを離れた地点）を右下とする矩形領域内のテキストを選択できます。詳しくは、[44 ページの「マウスの機能」](#)の章を参照してください

- **Select All**（すべて選択）

ウィンドウの内容（バッファ全体ではありません）を選択します。

## Clipboard Options（クリップボード オプション）



**[Edit]**（編集）メニューの**[Clipboard Options...]**（クリップボード オプション...）を選択すると、**[Clipboard Options]**ダイアログが表示されます。

- **Format**（形式）

工場出荷時の設定：Text（テキスト）

データをコピーする形式を選択します。

**[Text]**を選択すると、選択したテキストを標準の形式でコピーできます。

**[Bitmap]**（ビットマップ）を選択すると、デバイスに依存しないビットマップ形式でグラフィックスをコピーできます。

- **Parse On**（解析対象）

工場出荷時の設定：[None]（なし）

コピーしたテキストを単語またはフィールドごとにタブ区切りにするかどうかを指定します。このオプションは、データをセルに貼り付ける場合に役立ちます。

- **Field Element**（フィールド要素）

工場出荷時の設定：[Both]（両方）

保護されたフィールドのテキストのみをコピーするか、保護されていないフィールドのテキストのみをコピーするか、または両方をコピーするかを指定します。

# 10 印刷

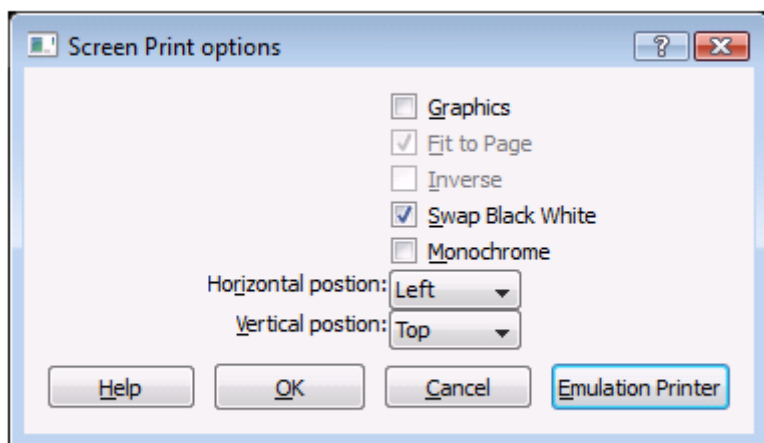
この章では、TeemTalk の印刷オプションについて説明します。

## [File] (ファイル) メニューの印刷オプション

このセクションでは、[File]メニューで利用できる印刷オプションについて説明します。

### Print Screen (画面を印刷)

[File] (ファイル) メニューの[Print Screen...] (画面を印刷...) を選択すると、現在の画面のデータをハードコピーできるダイアログが表示されます。



初期設定の印刷オプションでは、**[Fit to Page]**（ページに合わせる）および**[Inverse]**（反転）オプションが無効になった状態で、プレーンテキストが印刷されます。

- **Graphics**（グラフィックス）

工場出荷時の設定：未チェック

エミュレーション ワークスペース内のすべてのデータがビットマップ画像として印刷されません。ハードコピー出力は、表示されているエミュレーション ワークスペースとほぼ同じになります。グラフィックスの印刷は、テキストの印刷よりも時間がかかります。

- **Fit to Page**（ページに合わせる）

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションは、**[Graphics]**印刷オプションを選択したときにのみ有効になります。このオプションを選択すると、プリンターの用紙サイズに合わせてできるだけ大きい画像で印刷されます。このオプションを選択しないと、画面はピクセル単位で印刷されます。この場合は、プリンターの解像度にもよりますが、多くの場合で用紙サイズに対して小さく印刷されます。

- **Inverse**（反転）

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションは、**[Graphics]**印刷オプションを選択したときにのみ有効になります。このオプションを選択すると、画面のビットマップがネガ画像として印刷されます。

- **Swap Black White**（黒と白を反転）

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションは、**[Graphics]**オプションを選択していないときにのみ有効になります。このオプションを選択すると、白が黒として、黒が白として印刷されます。その他の色には影響しません。

- **Monochrome**（モノクロ）

工場出荷時の設定：未チェック

白黒のみで印刷されます。

- **Horizontal position**（水平位置）

工場出荷時の設定：[Left]（左）

印刷出力の位置をページの左端、右端、または中央のどれに合わせるかを指定します。

- **Vertical position**（垂直位置）

工場出荷時の設定：Top（上）

印刷出力の位置をページの上、下、または中央のどれに合わせるかを指定します。

**[OK]**をクリックすると、エミュレーション プリンター機能を使用することなく画面が印刷されます。**[Emulation Printer]**（エミュレーション プリンター）をクリックすると、エミュレーションプリンターで処理して印刷が出力されます。

## Print Buffer (印刷バッファ)

[File] (ファイル) メニューの [Print Buffer] を選択すると、ウィンドウ バッファに保存されたすべてのデータのコピーが、現在選択されているプリンターに送信されます。

## Auto Print (自動印刷)

[File] (ファイル) メニューの [Auto Print] を選択すると、自動印刷モードのオンとオフが切り替わります。自動印刷モードがオンのときは、[File] メニューにそれが示されます。自動印刷モードのときは、キャリッジ リターン、ライン フィード、垂直タブ、またはフォーム フィードによってカーソルが新しいデータ行に移動するたびに、各行がプリンターに転送されます。

## Eject Page (ページ送り)

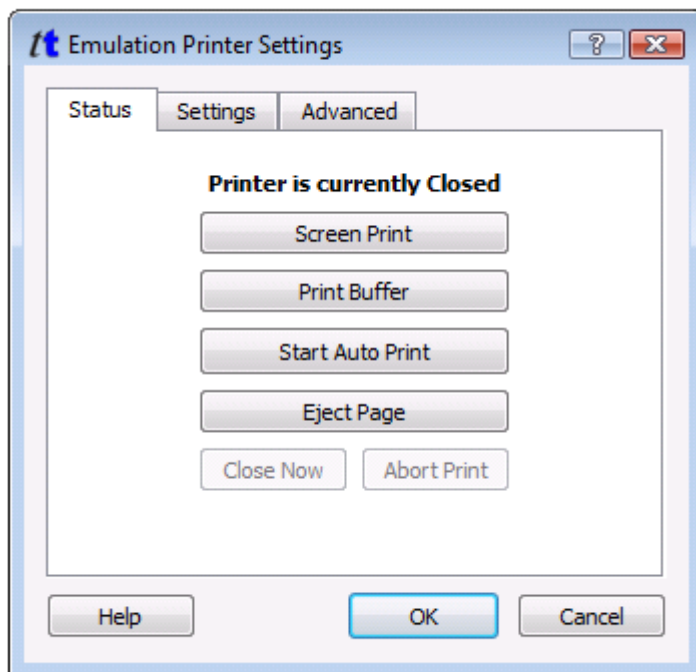
[File] (ファイル) メニューの [Eject Page] を選択すると、プリンターにスプールされたデータが印刷されます。

## エミュレーション プリンターの設定

[File] (ファイル) メニューの [Emulation Printer...] (エミュレーション プリンター...) を選択すると、[Emulation Printer Settings] (エミュレーション プリンターの設定) ダイアログが表示されます。以下のセクションでは、このダイアログの各タブに表示される機能について説明します。

## Status (ステータス)

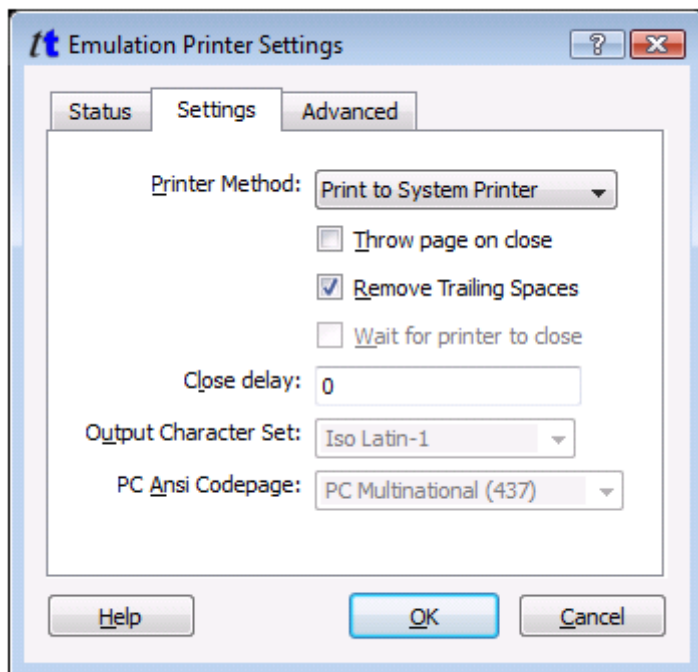
[Status] タブには、プリンターの現在の状態が示されます。また、いくつかの印刷操作を実行するためのボタンもあります。



- **Screen Print** (画面印刷)  
Unicode を使用して画面を高速に印刷します。
- **Print Buffer** (印刷バッファ)  
ウィンドウ バッファに保存されたすべてのデータのコピーを、選択されているプリンターに送信します。
- **Start/End Auto Print** (自動印刷の開始/終了)  
自動印刷モードのオンとオフを切り替えます。自動印刷モードのときは、キャリッジ リターン、ライン フィード、垂直タブ、またはフォーム フィードによってカーソルが新しいデータ行に移動するたびに、各行がプリンターに転送されます。
- **Eject Page** (ページ送り)  
プリンターにスプールされたデータを印刷します。
- **Close Now** (今すぐ閉じる)  
プリンターを閉じます。
- **Abort Print** (印刷を中止)  
[Screen Print] (画面を印刷) 操作または[Print Buffer]操作をキャンセルします。

## Settings (設定)

[Settings] タブには、データをプリンターに送信する方法を詳細に調整するためのコントロールがあります。



- **Printer Method** (印刷方式)

工場出荷時の設定 : [Print to System Printer] (システム プリンターに印刷する)

- **[Print to File]** (ファイルに印刷する) : ファイルに印刷データを送信します。
- **[Print to System Printer]** : システムに接続されたプリンターに印刷データを送信します。
- **[Print to Serial Device]** (シリアル デバイスに印刷する) : シリアル デバイスに印刷データを送信します。
- **[Print to LinePrinter Device]** (ラインプリンター デバイスに印刷する) : ライン プリンター (LPT) に印刷データを送信します。
- **[Print to LPR]** (LPR に印刷する) : ネットワーク プリンターに印刷データを送信します。

- **Throw page on close** (閉じるときにページをスローする)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションにチェックを入れると、プリンターを閉じるときにフォーム フィードが発行されます。これは、ほとんどのページ プリンターに必要な操作です。

- **Remove Trailing Spaces** (末尾のスペースを削除する)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションにチェックを入れると、行がプリンターに送信される前に末尾のスペースが削除されます。

- **Wait for printer to close** (プリンターが閉じるのを待機する)



工場出荷時の設定：未チェック

このオプションは、印刷方式として[Print to Serial Device]または[Print to LinePrinter Device]を選択したときにのみ利用可能です。このオプションにチェックを入れると、印刷中に他のすべての処理がブロックされます。バッファのフラッシュが必要な場合は、閉じている間にアプリケーションがロックされることに注意してください。

- **Close delay** (クローズ遅延)

工場出荷時の設定：0 (ゼロ)

閉じるまでの待機時間 (10 分の 1 秒単位) を指定します。タイムアウトになる前に、新しく開く要求があった場合は閉じられません。バッファのフラッシュが必要な場合は、閉じている間にアプリケーションがブロックされます。大きい値を指定するとブロックを避けることができます。

- **Output Character Set** (出力文字セット)

工場出荷時の設定：[Iso Latin-1]

プリンターで使用される文字変換を指定します。

- **PC Ansi Codepage** (PC ANSI コードページ)

工場出荷時の設定：[PC Multinational (437)] (PC 多国語 (437))

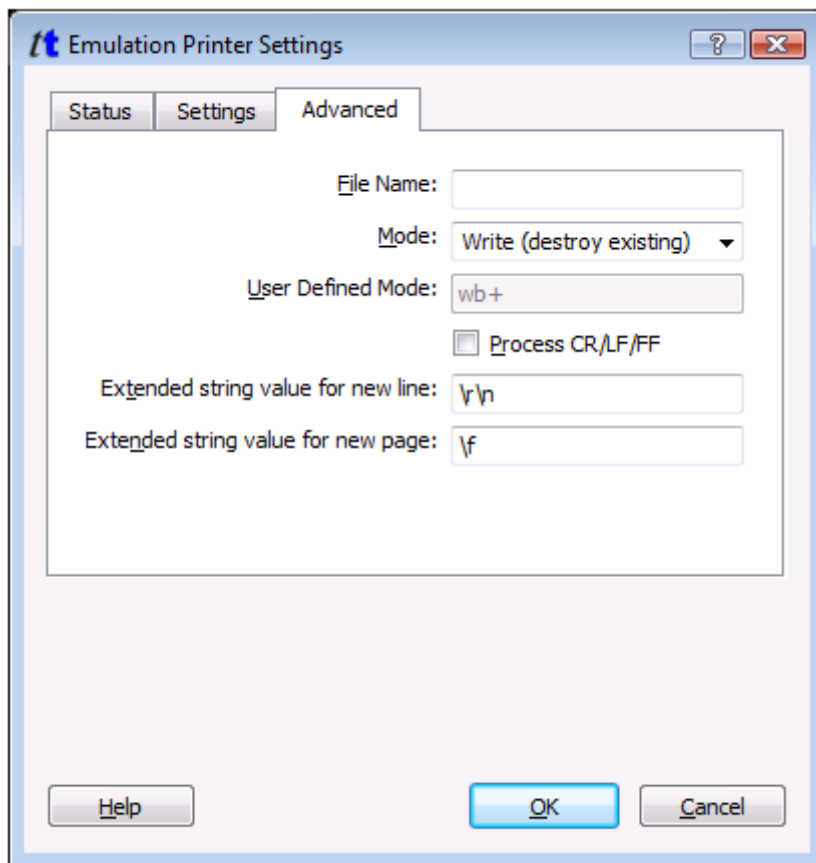
[Output Character Set]を[PC Ansi]に設定したときに、コードページの値を指定します。

## Advanced (詳細設定)

以下のセクションでは、[Emulation Printer Settings] (エミュレーション プリンターの設定) ダイアログの[Advanced]タブで利用できるオプションについて説明します。利用できるオプションは、[Settings] (設定) タブの[Printer Method] (印刷方式) で現在指定されている設定によって異なります。

### Print to File (ファイルに印刷する)

以下のオプションは、[Settings] (設定) タブの[Printer Method] (印刷方式) オプションが[Print to File] (ファイルに印刷する) に設定されているときに利用できます。



- **File Name** (ファイル名)  
工場出荷時の設定 : 未指定  
印刷データを送信するファイルの名前を指定します。
- **Mode** (モード)  
工場出荷時の設定 : [Write (destroy existing)] (書き込み (既存を破棄))  
ファイルを開くときのモードを指定します。
  - **[Write]** : ファイルの既存の内容を新しい印刷データで置き換えます。
  - **[Append]** (追加) : ファイルの既存の内容に印刷データを追加します。
  - **[User Defined]** (ユーザー定義) : **[User Defined Mode]** (ユーザー定義モード) オプションを有効にします。
- **User Defined Mode** (ユーザー定義モード)  
工場出荷時の設定 : wb+  
**[Mode]** を **[User Defined]** に設定したときは、この設定でファイルを開くときのモードを指定できます。
- **Process CR/LF/FF** (CR/LF/FF を処理する)

工場出荷時の設定：未チェック

チェックを入れると、キャリッジ リターンまたはライン フィード コマンドで改行が出力され、フォーム フィード コマンドで改ページが出力されます。

- **Extended string value for new line** (改行用の拡張文字列の値)

工場出荷時の設定：\r\n

改行用の拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。\**a**、\**b**、\**f**、\**n**、\**r**、\**t**、\**v**、または\**(10 進数)**、\**(8 進数)**、\**(0x16 進数)**

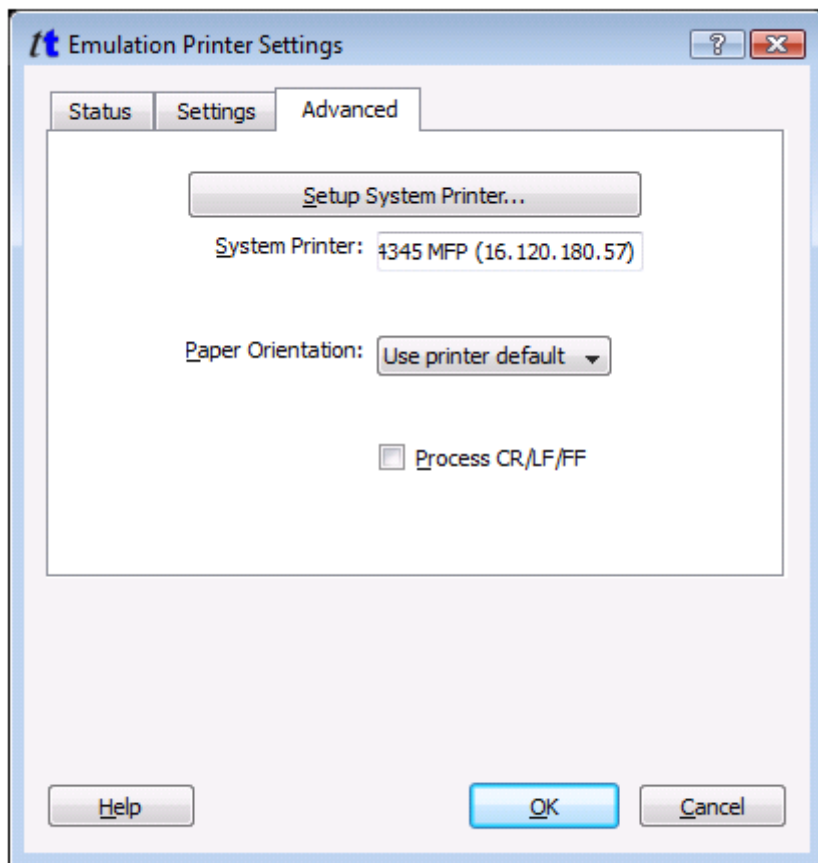
- **Extended string value for new page** (改ページ用の拡張文字列の値)

工場出荷時の設定：\f

改ページ用の拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。\**a**、\**b**、\**f**、\**n**、\**r**、\**t**、\**v**、または\**(10 進数)**、\**(8 進数)**、\**(0x16 進数)**

## Print to System Printer (システム プリンターに印刷する)

以下のオプションは、[**Settings**] (設定) タブの[**Printer Method**] (印刷方式) オプションが[**Print to System Printer**]に設定されているときに利用できます。

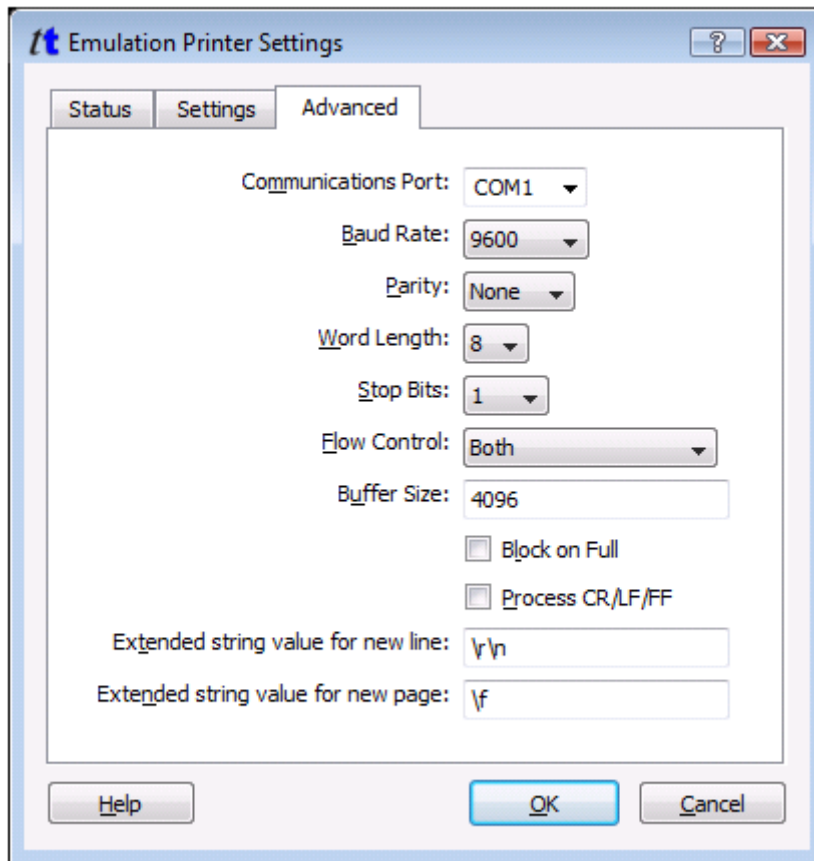


- **Setup System Printer** (システム プリンターの設定)  
このボタンをクリックすると、プリンター設定を指定するための Windows 標準の [印刷] ダイアログが表示されます。
- **System Printer** (システム プリンター)  
現在選択されているシステム プリンターの名前が表示されます。
- **Paper Orientation** (用紙の向き)  
工場出荷時の設定 : [Use printer default] (プリンターの初期設定を使用)  
印刷出力の用紙の向きを指定します。
  - **[Use printer default]** : Windows 標準の [印刷] ダイアログの設定によって用紙の向きが決まります。
  - **[Landscape]** (横) : 横向き印刷モードで出力します。
  - **[Portrait]** (縦) : 縦向き印刷モードで出力します。
- **Process CR/LF/FF** (CR/LF/FF を処理する)  
工場出荷時の設定 : 未チェック

チェックを入れると、キャリッジ リターンまたはライン フィード コマンドで改行が出力され、フォーム フィード コマンドで改ページが出力されます。

## Print to Serial Device (シリアル デバイスに印刷する)

以下のオプションは、[Settings] (設定) タブの[Printer Method] (印刷方式) オプションが[Print to Serial Device] (シリアル デバイスに印刷する) に設定されているときに利用できます。



- **Communications Port** (通信ポート)  
工場出荷時の設定 : COM1  
プリンターとの通信に使用する COM ポートを指定します。
- **Baud Rate** (ボーレート)  
工場出荷時の設定 : 9600  
接続速度を 110~115200 ボーの範囲で指定します。
- **Parity** (パリティ)  
工場出荷時の設定 : [None] (なし)

このオプションは、転送される各文字のパリティ モードを指定します。**[Word Length]** (ワード長) で指定されるデータ ビットの数**[8]**の場合は、このオプションを**[None]**に設定します。

**[Odd]** (奇数) を選択すると、1 番目から 7 番目までのビットの合計が偶数の場合は 1、奇数の場合は 0 の値を持つ 8 番目のビットが追加されます。

**[Even]** (偶数) を選択すると、1 番目から 7 番目までのビットの合計が奇数の場合は 1、偶数の場合は 0 の値を持つ 8 番目のビットが追加されます。

**[Mark]** (マーク) のパリティでは 8 番目のビットがすべて 1 に設定されます。

**[Space]** (スペース) のパリティではすべてのビットが 0 に設定されます。

- **Word Length** (ワード長)

工場出荷時の設定 : 8

転送される文字ごとに送信されるデータ ビットの数指定します。

- **Stop Bits** (ストップ ビット)

工場出荷時の設定 : 1

転送される文字ごとに送信されるストップ ビットの数指定します。

- **Flow Control** (フロー制御)

工場出荷時の設定 : [Both] (両方)

このオプションで、ホストとのデータ送受信の準備状態を通信するためにライン ポートが使用するフロー制御の種類を指定できます。

- **[None]** (なし) : フロー制御はなし。
- **[Input]** (入力) : 受信データに対する XON/XOFF。
- **[Output]** (出力) : 送信データに対する XON/XOFF。
- **[Both]** : 送信および受信データに対する XON/XOFF。
- **[Hardware]** (ハードウェア) : RTS/CTS ハードウェア フロー制御。

- **Buffer Size** (バッファ サイズ)

工場出荷時の設定 : 4096

入力および出力データの一時保存に使用されるバッファのサイズを指定します。

- **Block on Full** (満杯時にブロックする)

工場出荷時の設定 : 未チェック

印刷バッファが満杯になったときの処理を指定します。このオプションにチェックを入れると、印刷バッファで新しいデータを受け入れる準備ができるまで、すべての操作がブロックされます。

- **Process CR/LF/FF** (CR/LF/FF を処理する)

工場出荷時の設定 : 未チェック

チェックを入れると、キャリッジ リターンまたはライン フィード コマンドで改行が出力され、フォーム フィード コマンドで改ページが出力されます。

- **Extended string value for new line** (改行用の拡張文字列の値)

工場出荷時の設定 : `\r\n`

改行用の拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。`\a`、`\b`、`\f`、`\n`、`\r`、`\t`、`\v`、または`\ (10 進数)`、`\ (8 進数)`、`\ (0x16 進数)`

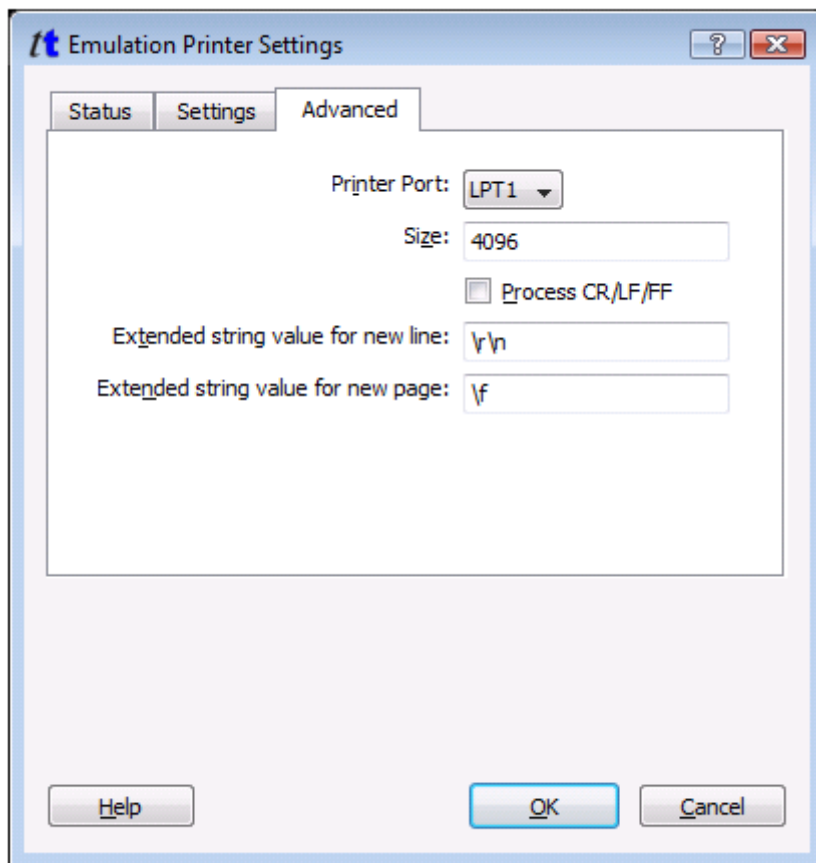
- **Extended string value for new page** (改ページ用の拡張文字列の値)

工場出荷時の設定 : `\f`

改ページ用の拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。`\a`、`\b`、`\f`、`\n`、`\r`、`\t`、`\v`、または`\ (10 進数)`、`\ (8 進数)`、`\ (0x16 進数)`

## ラインプリンター デバイスへの印刷

以下のオプションは、**[Settings]** (設定) タブの**[Printer Method]** (印刷方式) オプションが**[Print to LinePrinter Device]** (ラインプリンター デバイスに印刷する) に設定されているときに利用できます。



- **Printer Port** (プリンター ポート)  
工場出荷時の設定 : LPT1  
プリンターとの通信に使用する LPT ポートを指定します。
- **Size** (サイズ)  
工場出荷時の設定 : 4096  
入力および出力データの一時保存に使用されるバッファのサイズを指定します。
- **Process CR/LF/FF** (CR/LF/FF を処理する)  
工場出荷時の設定 : 未チェック  
チェックを入れると、キャリッジ リターンまたはライン フィード コマンドで改行が出力され、フォーム フィード コマンドで改ページが出力されます。
- **Extended string value for new line** (改行用の拡張文字列の値)  
工場出荷時の設定 : \r\n  
改行用の拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。 \**a**、 \**b**、 \**f**、 \**n**、 \**r**、 \**t**、 \**v**、または \**(10 進数)**、 \**(8 進数)**、 \**(0x16 進数)**
- **Extended string value for new page** (改ページ用の拡張文字列の値)

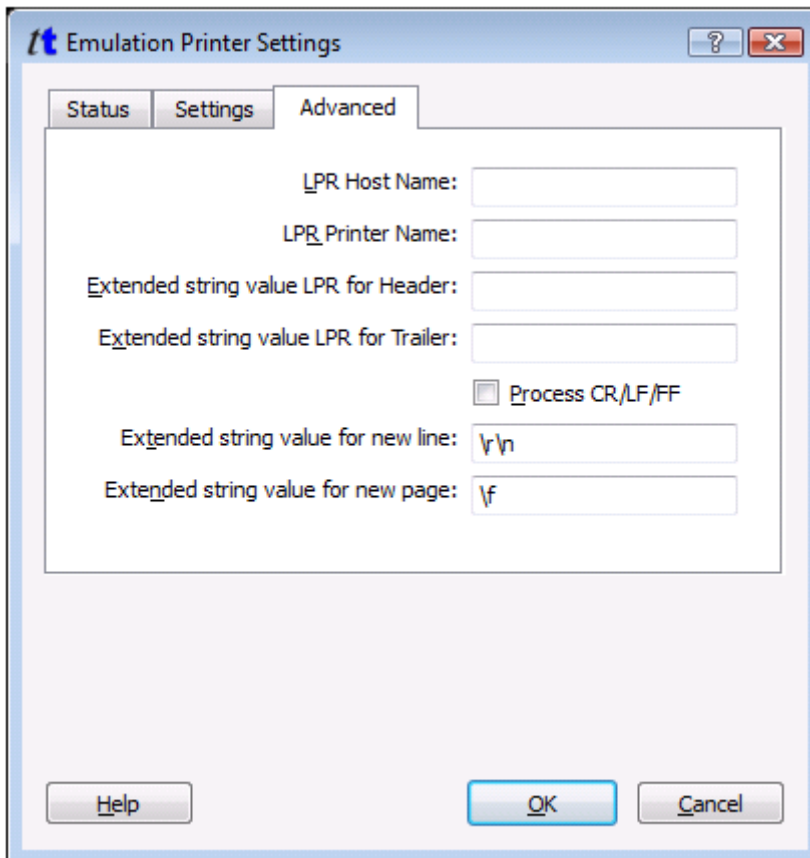


工場出荷時の設定 : \f

改ページ用の拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。\**a**、\**b**、\**f**、\**n**、\**r**、\**t**、\**v**、または\**(10進数)**、\**(8進数)**、\**(0x16進数)**

## Print to LPR (LPRに印刷する)

以下のオプションは、[Settings] (設定) タブの[Printer Method] (印刷方式) オプションが[Print to LPR] (LPRに印刷する) に設定されているときに利用できます。



- **LPR Host Name** (LPR ホスト名)  
工場出荷時の設定 : 未指定  
プリンター ホストの名前または IP アドレスを指定します。
- **LPR Printer Name** (LPR プリンター名)  
工場出荷時の設定 : 未指定  
LPR プリンターの名前を指定します。
- **Extended string value for LPR Header** (LPR ヘッダー用の拡張文字列の値)  
工場出荷時の設定 : 未指定

LPR を初期化するために送信するの拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。\**a**、\**b**、\**f**、\**n**、\**r**、\**t**、\**v**、または\**(10進数)**、\**(8進数)**、\**(0x16進数)**

- **Extended string value for LPR Trailer** (LPR トレーラー用の拡張文字列の値)

工場出荷時の設定 : 未指定

LPR の終端として送信するの拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。\**a**、\**b**、\**f**、\**n**、\**r**、\**t**、\**v**、または\**(10進数)**、\**(8進数)**、\**(0x16進数)**

- **Process CR/LF/FF** (CR/LF/FF を処理する)

工場出荷時の設定 : 未チェック

チェックを入れると、キャリッジ リターンまたはライン フィード コマンドで改行が出力され、フォーム フィード コマンドで改ページが出力されます。

- **Extended string value for new line** (改行用の拡張文字列の値)

工場出荷時の設定 : \**r\n**

改行用の拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。\**a**、\**b**、\**f**、\**n**、\**r**、\**t**、\**v**、または\**(10進数)**、\**(8進数)**、\**(0x16進数)**

- **Extended string value for new page** (改ページ用の拡張文字列の値)

工場出荷時の設定 : \**f**

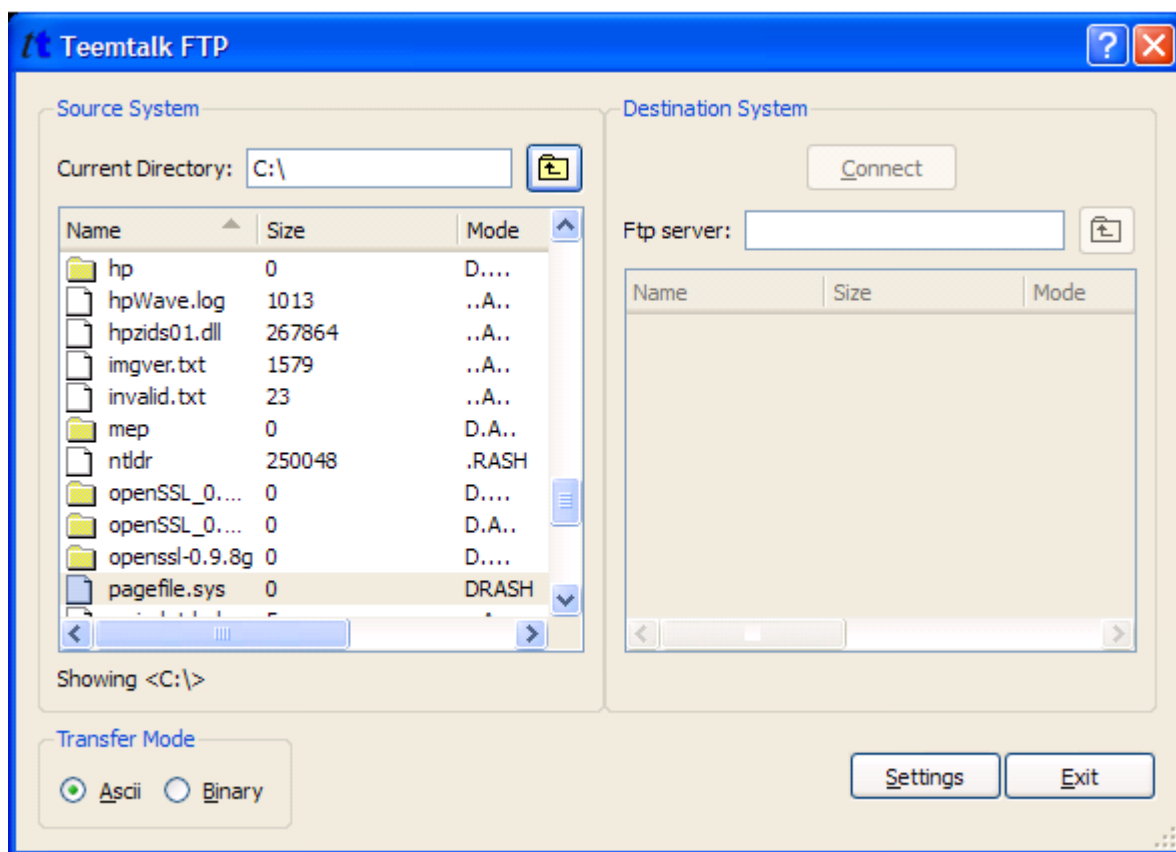
改ページ用の拡張文字列の値を指定します。次の値を使用できます。\**a**、\**b**、\**f**、\**n**、\**r**、\**t**、\**v**、または\**(10進数)**、\**(8進数)**、\**(0x16進数)**

# 11 FTP ファイル転送

1. **[Tools]** (ツール) メニューで、**[FTP]**を選択します。

ネットワーク デバイスを含め、ローカルで定義された利用可能なデバイスがすべて確認された後、**[TeemTalk FTP]**ダイアログが表示されます。この処理には数秒かかることがあります。左側のパネルには、現在のドライブ上にあるローカル ホーム ディレクトリの内容が表示されます。上部にある**[Current Directory]** (現在のディレクトリ) フィールドで別の場所を指定できます。

図 11-1 TeemTalk FTP (切断時)



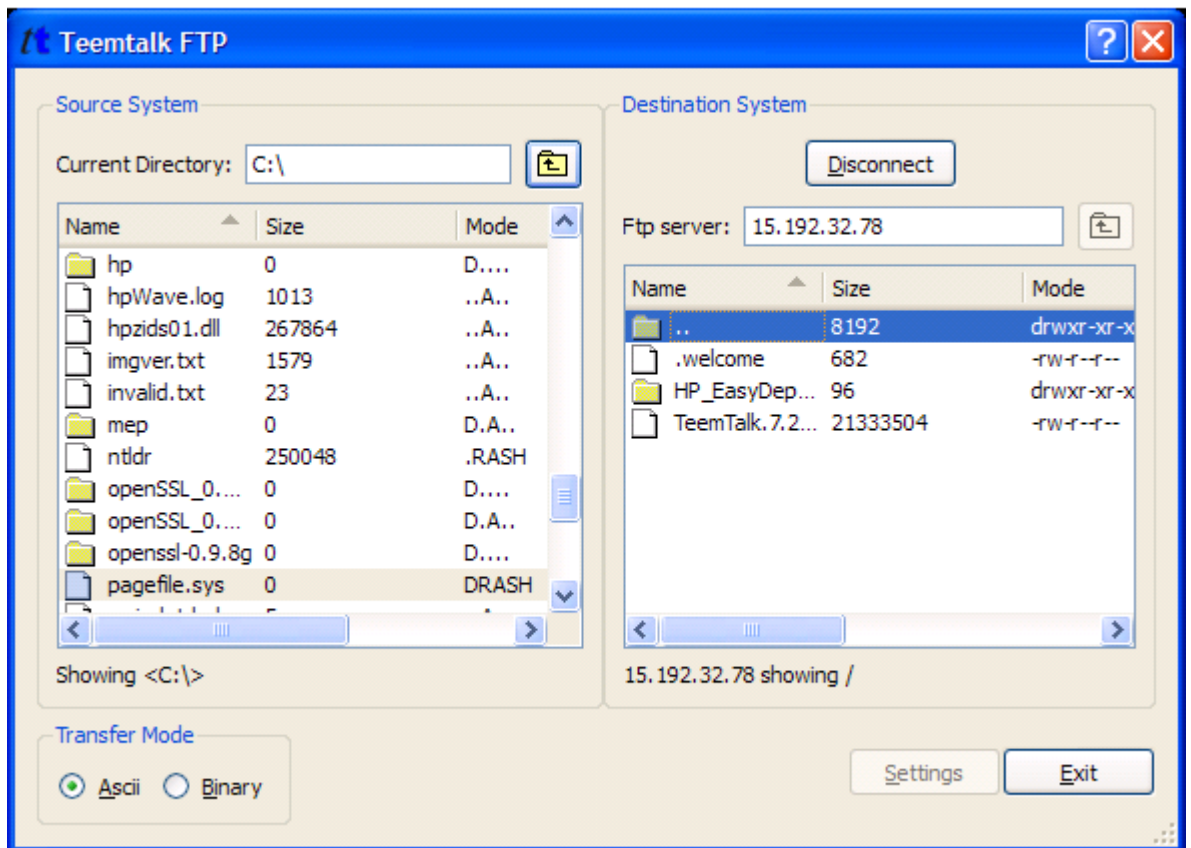
2. リモート ホスト接続を作成するには、**[Settings]** (設定) をクリックし、**[Remote\Local Settings]** (リモート/ローカルの設定) ダイアログで接続先のサーバーの詳細およびログインパラメーターを入力します。
3. **[Hostname]** (ホスト名) フィールドに、有効なホスト名または IP アドレスを入力します。**[User Name]** (ユーザー名) および**[Password]** (パスワード) に、ホストに接続するために必要な情報を入力します。ネットワーク環境によっては、**[Proxy server]** (プロキシ サー

バー) にプロキシ サーバーを指定し、[Port] (ポート) に値を入力する必要が生じることもあります。

[Local] (ローカル) および[Remote Directory] (リモート ディレクトリ) の各ボックスでは、[TeemTalk FTP] ウィンドウでセッション接続時に自動的に検索および表示される開始ディレクトリ (および必要に応じてドライブ名) を指定できます。ディレクトリを指定していない場合、または指定したディレクトリにアクセスできない場合は、初期設定のディレクトリが表示されます。[Connect at startup] (起動時に接続) オプションを選択すると、次回の FTP 開始時に、保存されたパラメーターを使用して指定したホストに自動的に接続が試みられます。[OK] をクリックして設定を確定します。

4. [Teemtalk FTP] ウィンドウが再度表示されて、[Connect] (接続) ボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、接続が試みられます。接続に成功すると、右側のパネルにサーバーのディレクトリ内のファイルが表示され、[Connect] ボタンが[Disconnect] (切断) ボタンに変わります。

図 11-2 TeemTalk FTP (接続時)



5. [Transfer Mode] (転送モード) フィールドで、ファイルの転送に使用するデータ形式を選択します。ドキュメント ファイルの転送には通常、[ASCII]を使用します。この形式では、転送先のコンピュータで使用される行末のキャリッジ リターン形式に合わせてファイルのデータがわずかに変更されます。転送中にデータ形式を元のまま維持する必要がある実行可能ファイルやその他のファイルには、[Binary] (バイナリ)を使用します。

6. 転送元ディレクトリのリスト ボックスで、転送するファイルまたはディレクトリを選択します。単一の項目（ファイルまたはディレクトリ）を選択するときは、その項目名の行のどこかをクリックします。複数の連続する項目を選択するときは、**[Shift]**キーを押したまま項目をクリックします。複数の連続していない項目を選択するときは、**[Ctrl]**キーを押したまま項目をクリックします。
7. 転送するファイルまたはディレクトリを選択したら、選択した項目の上にマウス ポインターを置き、マウスの左ボタンを押したまま転送先ディレクトリのリスト ボックスの方にドラッグします。転送先ディレクトリのアイコンの上または転送先ディレクトリ内にマウス ポインターを移動してから、マウス ボタンを離します。この操作によって、ファイルが転送されます。
8. ファイルの転送が終了したら、**[Disconnect]**をクリックしてホストから切断します。
9. **[TeemTalk FTP]**ウィンドウを閉じるには、**[Exit]**（終了）をクリックします。ホストから切断しないで終了しようとした場合は、ホストからすぐに切断された後でウィンドウが閉じます。

# 12 VT シリーズ エミュレーション

この章では、Digital Equipment Corporation VT のターミナル エミュレーション スイートの機能について説明します。

## はじめに

VT シリーズのターミナル エミュレーション スイートは、以下のエミュレーションで構成されています。これらのエミュレーションは、[**VT Series Settings**] (VT シリーズの設定) ダイアログの [**Emulation mode**] (エミュレーション モード) オプションを使用して選択できます。

- **AIXTerm**

X Window を使用して X ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **Ansi BBS**

このエミュレーションは、DOS ベースのすべての PC に付属し、DOS コンソール画面の画面管理機能を提供する ANSI デバイス ドライバーの ANSI.SYS から派生したものです。PC ベースの UNIX システムや掲示板システム (BBS) は多くの場合、PC によってアクセスされるときに ANSI エミュレーションに依存します。ANSI BBS モードでは、画面サイズは 25 行に調整され、優先文字セットは ANSI に設定されます。

- **AT 386**

AT&T AT 386 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **ATT4410**

AT&T Dataspeed 4410 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。詳しくは、[88 ページの「AT&T 4410 エミュレーション」](#)のセクションを参照してください。

- **SCO Console**

これは SCO UNIX ボックスのエミュレーションです。

- **VT PCTerm**

DEC でサポートされている PC Term モード用に設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **VT52 および VT100**

これらのエミュレーションでは、それぞれ、DEC VT52 ターミナルと DEC VT100 ターミナル用に記述されたアプリケーションを実行できます。

- **VT100+**

このエミュレーションはVT100 エミュレーションの機能強化版であり、色などの追加機能を提供します。0~127 (10 進数) の ASCII 文字のみがサポートされている点を除き、VT-UTF8 エミュレーションと同じです。

- **VT+HP220**

このエミュレーションはVT500 ターミナル シリーズに基づいており、HP のファンクションキー **F1~F8** (ユーザーによるプログラミングは不可) を含みます。端末 ID は VT220 に設定されます。

- **VT510 7-Bit** (VT510 7 ビット) および **VT510 8-Bit** (VT510 8 ビット)

これらのエミュレーションでは、DEC VT320 ターミナル用に記述されたアプリケーションを実行できます。その違いは、8 ビット制御コードの処理にあります。[VT510 7-Bit]が選択されている場合は、すべての8 ビット コードが対応する7 ビット コードに変換されます。これに対して、[VT510 8-Bit]では、8 ビット コードが変更されずに残ります。VT200 アプリケーションを使用している場合は、[VT510 7-Bit]を選択します。

- **VT-UTF8**

このエミュレーションはVT100 エミュレーションの機能強化版であり、英語以外の言語および描画文字をサポートします。1 バイトと2 バイトの文字セットのローカライズ、および Windows でサポートされている他のすべての言語をサポートします。また、色などの追加機能も提供されます。

## VT シリーズ エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、VT シリーズ エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. **[スタート]**メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]** (セッション ウィザード) の順に選択します。
2. **[Session Name]** (セッション名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. **[Transport]** (トランスポート) の方法を選択し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックして設定を指定します。
4. **[Connection]** (接続) の種類を選択し、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します。
5. **[Emulation]** (エミュレーション) 一覧の**[VT Series]** (VT シリーズ) を選択し、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します (これらのオプションについては、[89 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します)。

6. **[Next]** (次へ) をクリックして、**[Advanced Options]** (詳細設定オプション) ダイアログを表示します。
7. **[Next]** をクリックして、**[Finalization]** (確定) ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**[Create icon on desktop for session]** (デスクトップにセッションのアイコンを作成する) チェック ボックスにチェックを入れます。
9. **[OK]** をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。該当する**.fts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから VT シリーズ エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから**[Session]** (セッション) メニューを表示し、**[Transport...]** (トランスポート...) を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]** メニューを表示し、**[Connection...]** (接続...) を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]** メニューを表示し、**[Emulation...]** (エミュレーション...) を選択します。エミュレーションを**[VT Series]** (VT シリーズ) に設定します。
4. **[Session]** メニューで、関連する**[Configure]** (設定) オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) を選択することによって表示されるオプションは、[89 ページの「セツトアップ オプション」](#)のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Save Session As]** (セッションに名前を付けて保存) を選択します。**[File Name]** (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]** (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は**.fts**になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]** メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。**.fts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、**[Tools]** (ツール) メニューの**[Key Macros...]** (キー マクロ...) を選択して表示される**[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) ダイアログにある**[Emulation Keys]** (エミュレーション キー) 一覧を参照することによって特定できます。



右のカラムにあるカッコ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は **Shift** キーを、**C+**は **Control** キーを、**A+**は **Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

VT\_F20 (A+VK\_F10)

これは、**F20** の機能が、**Alt + F10** というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

キーボードには、通常モードと DEC モードの 2 つの動作モードがあります。この 2 つのモードは、**Alt + Num Lock** キーを一緒に押すことによって切り替えることができます。キーボードが DEC モードのとき、ステータス バーの 9 番目の項目には **[DEC]** が表示されます。

通常 DEC VT キーボード上にある特殊キーの機能は、**[Key Macro Settings]** ダイアログに一覧表示されている **VT** 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、DEC VT510 キーボードの機能が、101/102 キーのキーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

## 101/102 キーボード レイアウト/通常モード

図 12-1 通常モードの 101/102 キー キーボード レイアウト

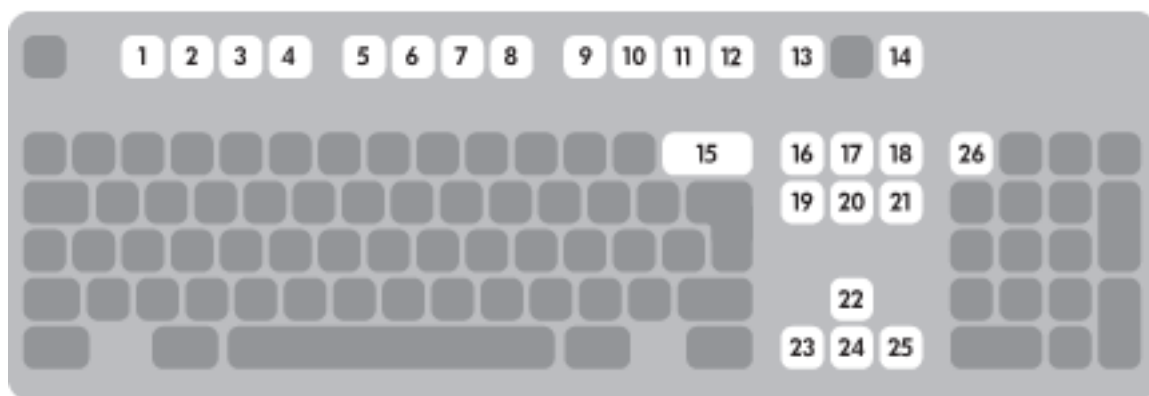



表 12-1 VT シリーズ キーボード レイアウト : 通常モード

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
1	なし Alt +	PF1 F11	14		BREAK
2	なし Alt +	PF2 F12	15	なし Shift +	DELETE BACKSPACE
3	なし Alt +	PF3 F13	16		FIND

表 12-1 VT シリーズ キーボード レイアウト : 通常モード (続き)

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
4	なし Alt +	PF4 F14	17		INSERT HERE
5	Alt +	HELP	18		REMOVE
6	なし Alt +	F6 DO	19		SELECT
7	なし Alt +	F7 F17	20		PREVIOUS SCREEN
8	なし Alt +	F8 F18	21		NEXT SCREEN
9	なし Alt +	F9 F19	22	なし Alt + Ctrl +	UP COMPOSE CHARACTER SCROLL UP
10	なし Alt +	F10 F20	23	なし Ctrl +	LEFT SCROLL LEFT
11		F11	24	なし Alt + Ctrl +	DOWN DATATALK SCROLL DOWN
12		F12	25	なし Ctrl +	RIGHT SCROLL RIGHT
13	Ctrl + Shift + Ctrl +	PRINT PRINT SCROLLING REGION	26	なし Alt +	NUMLOCK 通常モード/DEC モード

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

**注記:** **Alt + NumLock** キーを押すと、通常モードと DEC モードが切り替わります。

## 101/102 キーボード レイアウト/DEC モード

図 12-2 DEC モードの 101/102 キー キーボード レイアウト




表 12-2 DEC モードの VT シリーズ キーボード レイアウト

キー	キーモディファイア	判定	キー	キーモディファイア	判定
1	なし Alt +	PF1 F11	13	なし Alt +	BACKSPACE DELETE
2	なし Alt +	PF2 F12	14		FIND
3	なし Alt +	PF3 F13	15		INSERT HERE
4	なし Alt +	PF4 F14	16		REMOVE
5	なし Alt +	BREAK HELP	17		SELECT
6	なし Alt +	F6 DO	18		PREVIOUS SCREEN
7	なし Alt +	F7 F17	19		NEXT SCREEN
8	なし Alt +	F8 F18	20	なし Alt +	PF1 通常モード/DEC モード

表 12-2 DEC モードの VT シリーズ キーボード レイアウト (続き)

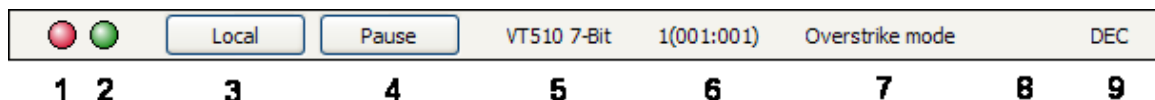
キー	キーモディファイア	判定	キー	キーモディファイア	判定
9	なし	F9	21		PF2
	Alt +	F19			
10	なし	F10	22		PF3
	Alt +	F20			
11		F11	23	なし	PF4
				Alt +	-
12		F12	24	なし	+
				Alt +	,

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

**注記:** **Alt + NumLock** キーを押すと、通常モードと DEC モードが切り替わります。

## ステータス バー

TeemTalk ウィンドウ内のエミュレーション ワークスペースの下には、さまざまな動作のステータスを示すとともに、モードを切り替えるためのボタンを備えたステータス バーがあります。このステータス バーに表示される情報は、現在のターミナル エミュレーションによって異なります。



番号	説明
1	このランプは、ホストに接続されているかどうかを示します。接続されていないときは赤色に、接続されているときは緑色に点灯します
2	このランプは、ホストとの間でデータが送受信されているかどうかを示します。操作が行われていないときは暗い緑色に、ホストにデータが送信されているときは赤色に、ホストからデータを受信しているときは明るい緑色に点灯します
3	このボタンを使用すると、 <b>[Local]</b> (ローカル) モードと <b>[Online]</b> (オンライン) モードを切り替えることができます。このラベルは、ボタンをクリックしたときの切り替え先のモードを示します
4	このボタンを使用すると、ウィンドウ内のデータのスクロールを <b>[Pause]</b> (一時停止) または <b>[Resume]</b> (再開) できます。このラベルは、ボタンをクリックしたときに実行される操作を示します
5	現在のターミナル エミュレーションを示します
6	アクティブなセッションと現在のページ番号 (常に <b>1</b> )、およびテキスト カーソルの場所を行: <b>カラム</b> の形式で表示します

番号	説明
7	現在、 <b>[Overstrike mode]</b> （上書きモード）と <b>[Insert mode]</b> （挿入モード）のどちらがアクティブかを示します。 <b>[Overstrike mode]</b> （初期設定）では、新しい文字が、カーソル位置にある既存の文字を置き換えます。 <b>[Insert mode]</b> がアクティブな場合、新しい文字は既存の文字を削除することなくカーソル位置に挿入され、既存の文字は右に移動します
8	DEC VT500 モードのときに、VT525 の時刻設定コマンドをホストから受信すると、24 時間形式の時刻を表示します
9	現在のキーボード モードを示します。キーボードが通常モードのときは何も表示されず、DEC モードのときは[DEC]が表示されます。 <b>Alt + Num Lock</b> キーを押して、キーボードの通常モードと <b>DEC</b> モードを切り替えることができます

## 表示のスクロール

**Ctrl** キーを押しながら上または下カーソル キーを押すことによって、表示を垂直方向にスクロールできます。

**[VT Series Settings]**（VT シリーズの設定）ダイアログにある**[Columns per page]**（ページあたりのカラム数）設定を変更することによって、表示メモリの幅をウィンドウの幅より大きくすることができます。画面外に保存されたカラムを表示する場合は、**Ctrl** キーを押しながら左または右カーソル キーを押すことによって、水平方向にスクロールできます。

## ヘブライ語の入力方向

**[VT Series Settings]**（VT シリーズの設定）ダイアログで**[Preferred character set]**（優先文字セット）として**[Iso Hebrew]**（ISO ヘブライ語）または**[Ansi PC Hebrew 862]**（ANSI PC ヘブライ語 862）が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1**  
[Multinational]（多国語）の 8 ビット モードおよび左から右への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F2**  
[National]（各国語）の 7 ビット モード（小文字の英字がヘブライ語として表示される）および右から左への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F3**  
左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

## TTY 印刷モード

エミュレーションが TTY 印刷モードの場合は、受信したすべての画面データ（ただし、**CR** と **LF** 以外の制御コードを除く）がプリンターに送信されます。TTY 印刷モードは、初期設定では、拡張 AT キーボードで **Shift + F4** キーを押すことによってオンとオフが切り替わります。このキーの機能は、仮想キーの名前 **VT\_PRINTTTY** を使用して別のキーにマッピングできます。

# AT&T 4410 エミュレーション

## キーボード マッピング

通常 AT&T 4410 キーボード上にある特殊キーの機能は、[Key Macro Settings] (キー マクロの設定) ダイアログに一覧表示されている AT 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。このダイアログは、[Tools] (ツール) メニューの[Key Macros...] (キーマクロ...) を選択することによって表示されます。詳しくは、[36 ページの「キーの機能の定義」](#)のセクションを参照してください。

## 表示

AT&T 4410 エミュレーションを実行している場合、表示サイズは 25 行×80 (または 132) カラムであり、さらに 24 行のスクロール領域があります。

ウィンドウの下部に沿って、一列の機能ボタンが表示されます。これらのボタンは、キーボード上のファンクション キー **F1** ~ **F8** に対応しています。

f1	f2	f3	f4	AT&T 4410	f5	f6	f7	f8
----	----	----	----	--------------	----	----	----	----

ファンクション キーを押すか、または画面に表示されている同等のボタンをクリックすることによって、プログラムされた機能を実行できます。中央のボタンには、クリックされたときの機能はありません。

## ファンクション キーとボタンのプログラミング

ファンクション キーとボタンをプログラムするには、**Shift** キーを押しながら **F1** ~ **F8** の任意のキーを押します。[Program Function Keys] (プログラム ファンクション キー) メニューが表示されます。

PROGRAM FUNCTION KEYS		F1-End Entry	F7-Exit and Save	F8-Exit
f1	f1			<code>EO P</code>
f2	f2			<code>EO Q</code>
f3	f3			<code>EO R</code>
f4	f4			<code>EO S</code>
f5	f5			<code>EO T</code>
f6	f6			<code>EO U</code>
f7	f7			<code>EO V</code>
f8	f8			<code>EO W</code>

各行が、特定の 1 つのファンクション キーとそのボタンに関連しています。ファンクション キー番号に続く 2 つのフィールドを使用して、ディスプレイ上の該当のボタンに対して最大 16 文字の 2 行のラベルを入力できます。これらのフィールドの後に、初期設定ではエスケープ シーケンスを含む定義行があります。各定義には、最大 50 の ASCII 文字を含めることができます。

ファンクション キーをプログラムするには、**F1** キーを押してカーソルを対象の行に移動し、カーソル キーを使用してその行内のあるセクションから別のセクションに移動します。各定義行の入力を終了するには **F1** キーを押して、余分なスペースがホストに送信されないようにする必要があります。カーソル キーを使用して次の行に移動すると、定義行の残りがスペースとして送信されることに注意してください。

ファンクション キーの定義を完了したら、**F7** キーを押して定義を保存し、このメニューを終了します。設定を保存しないで終了する場合は、**F8** キーを押します。

## セットアップ オプション

VT シリーズ エミュレーションは、**[VT Series Settings]** (VT シリーズの設定) ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定します。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用 :

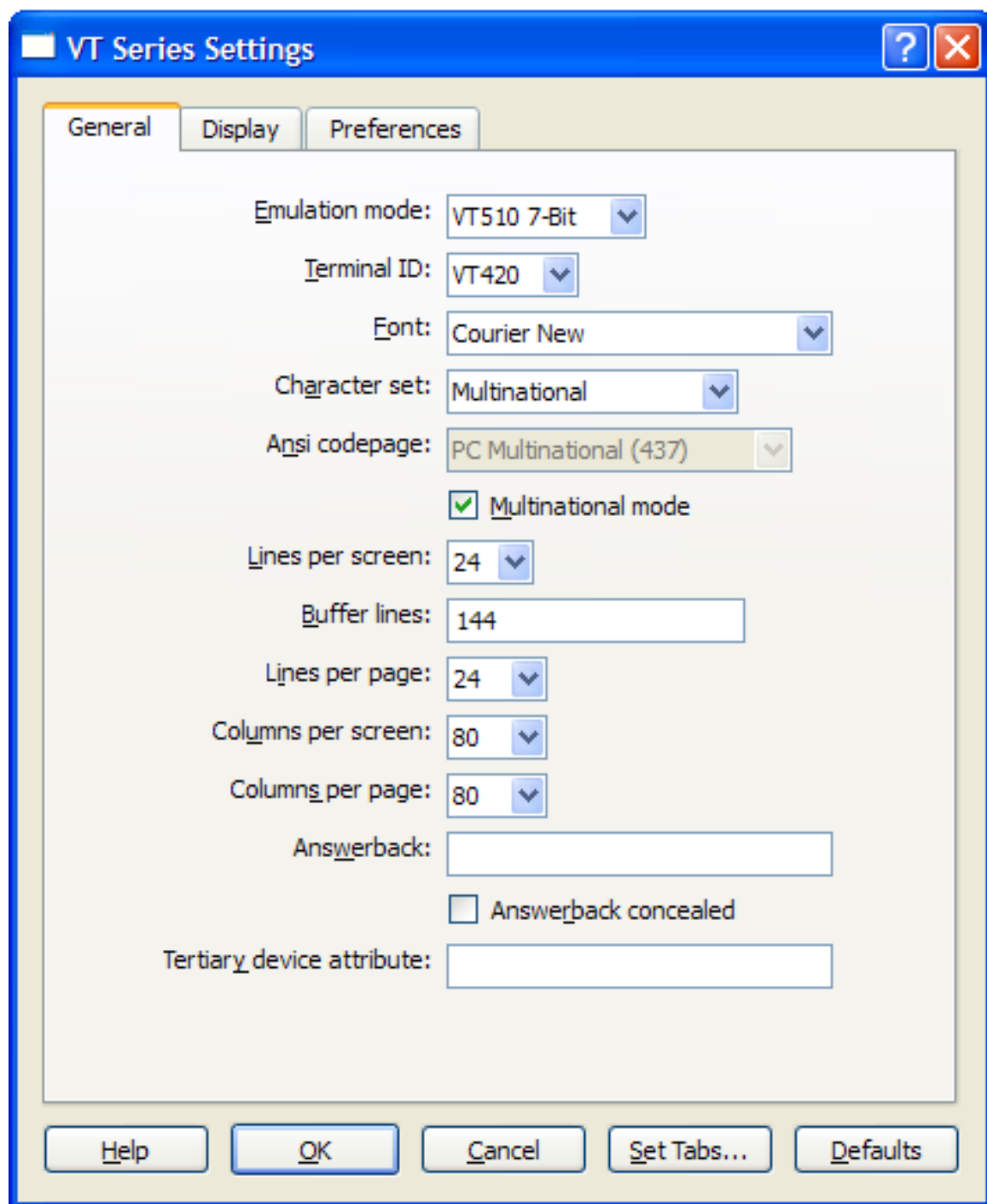
- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を**[VT Series]** (VT シリーズ) に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用 :

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]** → **[VT Series]** の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]** 一覧の**[VT Series]**を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[General]** (全般)、**[Display]** (ディスプレイ)、**[Preferences]** (設定) というラベルの付いた 3 つのタブにグループ化されています。

## 一般設定



- **Emulation mode** (エミュレーション モード)  
工場出荷時の設定 : [VT510 7-Bit] (VT510 7 ビット)



エミュレートする特定の VT シリーズ ターミナルを指定します。以下の中から選択します。

- **AIXTerm**

X Window を使用して X ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **Ansi BBS**

このエミュレーションは、DOS ベースのすべての PC に付属し、DOS コンソール画面の画面管理機能を提供する ANSI デバイス ドライバーの ANSI.SYS から派生したものです。PC ベースの UNIX システムや掲示板システム (BBS) は多くの場合、PC によってアクセスされるときに ANSI エミュレーションに依存します。ANSI BBS モードでは、画面サイズは 25 行に調整され、優先文字セットは ANSI に設定されます。

- **AT 386**

AT&T AT 386 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **ATT4410**

AT&T Dataspeed 4410 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。詳しくは、[88 ページの「AT&T 4410 エミュレーション」](#)のセクションを参照してください。

- **SCO Console**

これは SCO UNIX ボックスのエミュレーションです。

- **VT PCTerm**

DEC でサポートされている PC Term モード用に設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **VT52 および VT100**

これらのエミュレーションでは、それぞれ、DEC VT52 ターミナルと DEC VT100 ターミナル用に記述されたアプリケーションを実行できます。

- **VT100+**

このエミュレーションは VT100 エミュレーションの機能強化版であり、色などの追加機能を提供します。0~127 (10 進数) の ASCII 文字のみがサポートされている点を除き、VT-UTF8 エミュレーションと同じです。

- **VT+HP220**

このエミュレーションは VT500 ターミナル シリーズに基づいており、HP のファンクション キー **F1~F8** (ユーザーによるプログラミングは不可) を含みます。端末 ID は VT220 に設定されます。

- **VT510 7-Bit** (VT510 7 ビット) および **VT510 8-Bit** (VT510 8 ビット)

これらのエミュレーションでは、DEC VT320 ターミナル用に記述されたアプリケーションを実行できます。その違いは、8 ビット制御コードの処理にあります。**[VT510 7-Bit]**が選択されている場合は、すべての 8 ビット コードが対応する 7 ビット コードに変換され

ます。これに対して、[**VT510 8-Bit**]では、8ビットコードが変更されないで残ります。VT200アプリケーションを使用している場合は、[**VT510 7-Bit**]を選択します。

- **VT-UTF8**

このエミュレーションはVT100エミュレーションの機能強化版であり、英語以外の言語および描画文字をサポートします。1バイトと2バイトの文字セットのローカライズ、およびWindowsでサポートされている他のすべての言語をサポートします。また、色などの追加機能も提供されます。

- **Terminal ID** (端末 ID)

工場出荷時の設定 : [VT420]

端末 ID 要求に応答してホストに返される内容を指定します。指定されたターミナルの一部の機能がサポートされない可能性があることに注意してください。

- **Font** (フォント)

工場出荷時の設定 : [Courier New]

表示される文字に使用するフォントを指定できます。使用可能な設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。

- **Character set** (文字セット)

工場出荷時の設定 : [Multinational] (多国語)

表示される文字に使用する文字セットを指定します。

[**Iso Hebrew**] (ISO ヘブライ語) が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1**

[Multinational]の8ビットモードおよび左から右への入力を選択します。

- **Ctrl + Alt + F2**

[National] (各国語) の7ビットモード (小文字の英字がヘブライ語として表示される) および右から左への入力を選択します。

- **Ctrl + Alt + F3**

左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

- **Ansi codepage** (ANSI コードページ)

工場出荷時の設定 : [PC Multinational (437)] (PC 多国語 (437))

このオプションは、[**Character set**] (文字セット) オプションが[**PC Ansi**] (PC ANSI) に設定されている場合に、表示のために使用する文字セットを指定します。ANSI BBSエミュレーションを選択すると、優先フォントが自動的に[**PC Ansi**]に設定されることに注意してください。

各コード ページは、2つの文字テーブルで構成されます。最初のテーブルは、標準のASCII文字セットです。2つ目のテーブルには、コード ページごとに異なる特殊文字が含まれています。

[**PC Hebrew (862)**] (PC ヘブライ語 (862)) が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1**

[Multinational] (多国語) の 8 ビット モードおよび左から右への入力を選択します。

- **Ctrl + Alt + F2**

[National] (各国語) の 7 ビット モード (小文字の英字がヘブライ語として表示される) および右から左への入力を選択します。

- **Ctrl + Alt + F3**

左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

- **Multinational mode** (多国語モード)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションは、システムに、各国語置換文字セットをサポートする言語が設定されている場合にのみ使用できます。

このオプションの設定によって、文字を生成するために使用される文字セットの種類が決定されます。チェックを外すと、TeemTalk は、選択されたキーボード言語に固有の文字セットが使用される各国語モードになります。チェックを入れると (初期設定)、TeemTalk は、2 つの文字テーブルからなる文字セットが使用される多国語モードになります。これにより、任意のキーボード言語の文字を生成できます。

- **Lines per screen** (画面あたりの行数)

工場出荷時の設定：24

メモリ内に保存されている総行数のうち、常にワークスペース内に表示できるテキストの行数を指定します。最大で 64 まで設定できます。メモリ内に保存される行数は、[**Buffer lines**] (バッファ行数) オプションで指定されることに注意してください。

- **Buffer lines** (バッファ行数)

工場出荷時の設定：144

このオプションによって、メモリ内に保存されるテキストの行数が決定されます。これは、初期設定では 0~528 行に設定できます。[**Display Rows**] (表示行数) オプションは、常にワークスペース内に表示できるメモリの行数を指定します。

- **Lines per page** (ページあたりの行数)

工場出荷時の設定：24

TeemTalk が VT420 モードの場合は、144 行の表示メモリを複数のページに分割できません (最大ページ数は、1 ページあたり 24 行で 6 ページ)。このオプションの設定によって、1 ページあたりの行数と、それから計算される使用可能なページ数が決定されます。ページ サイズは、[**Lines per screen**] (画面あたりの行数) 設定より大きくできることに注意してください。この場合は、**Ctrl** キーを押しながら上または下カーソル キーを押すことによって、ウィンドウ内でページを上下にスクロールできます。TeemTalk が VT420 以外のモードの場合は常に、ページ サイズは [**Lines per screen**] 設定と同じです。

- **Columns per screen** (画面あたりのカラム数)

工場出荷時の設定 : 80

このオプションを使用すると、ワークスペースの幅として 80 または 132 カラムを指定できます。[132]に設定されている場合は、[Use 80 column font] (80 カラムのフォントを使用する) オプションの設定によって、幅の狭いフォントを使用して 132 カラムをすべて表示するか、または通常の (80 カラムの) フォントを使用して一度に 80 カラムのみを表示し、残りのカラムを表示するために水平方向にスクロールできるようにするかが決定されます。

- **Columns per page** (ページあたりのカラム数)

工場出荷時の設定 : 80

このオプションは、DEC VT モードの表示メモリの幅を 80~132 カラムの範囲で指定します。[Columns per screen] (画面あたりのカラム数) の数がここで指定されたページの幅より小さい場合は、Ctrl キーを押しながら左または右カーソル キーを押すことにより、水平方向にスクロールして隠れたカラムを表示できます。

- **Answerback** (アンサーバック)

工場出荷時の設定 : 未指定

これにより、ANSI モード問い合わせコマンドに応答してホストに送信されるアンサーバック文字列を指定できます。この文字列は、最大 30 文字の長さにすることができます。

- **Answerback concealed** (アンサーバックを表示しない)

工場出荷時の設定 : 未チェック

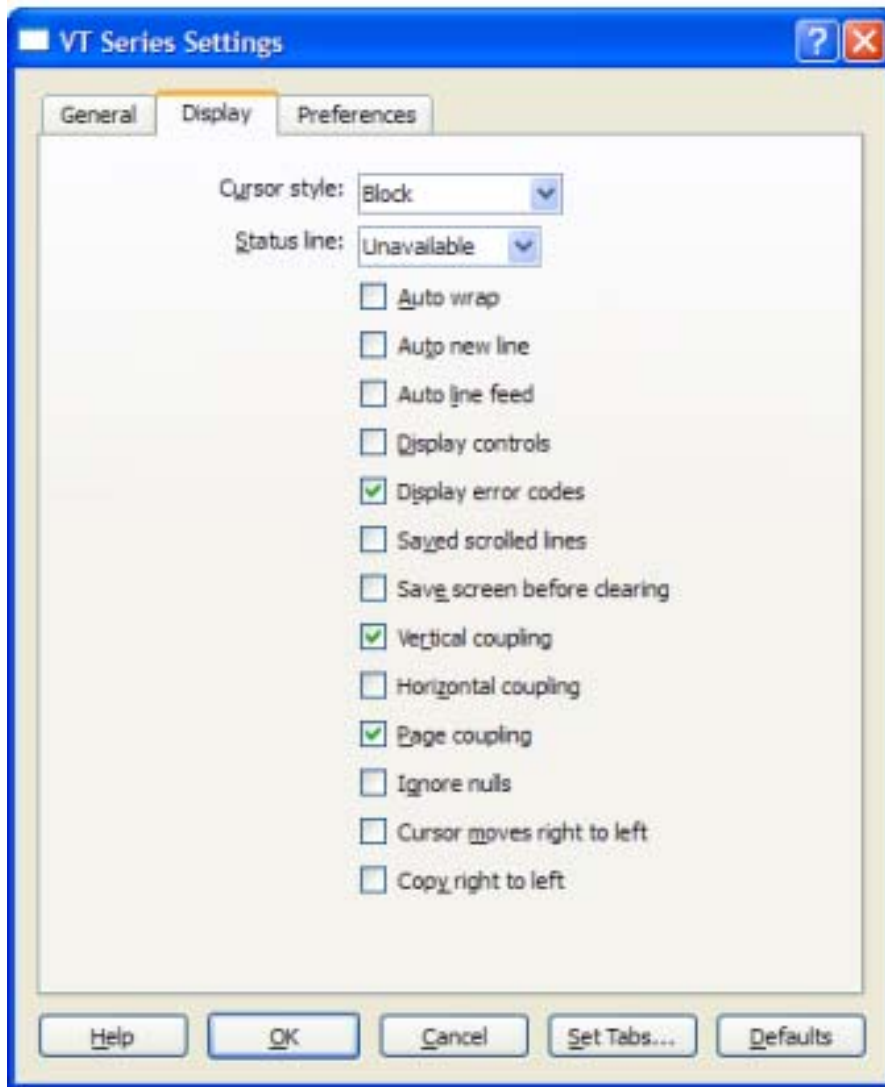
このオプションを選択すると、上のテキスト ボックスで指定されたアンサーバック文字列が変更されないようにロックされ、アスタリスクとして表示されます。このオプションのチェックを外すと、アンサーバック文字列が削除されることに注意してください。

- **Tertiary device attribute** (第 3 のデバイス属性)

工場出荷時の設定 : 未指定

TeemTalk が VT420 モードにある ([Emulation mode] (エミュレーション モード) が [VT510] に設定され、[Terminal ID] (端末 ID) が [VT420] に設定されている) 場合は、このオプションを使用すると、ホストからの要求に応答して送信される第 3 のデバイス属性レポートを指定できます。

## ディスプレイの設定



- **Cursor style** (カーソル スタイル)  
工場出荷時の設定 : [Block] (ブロック)  
これにより、テキスト カーソルの表示方法を指定できます。**[Block]**、**[Underline]** (下線)、**[Static block]** (静的なブロック)、**[Static underline]** (静的な下線)、または**[None]** (なし) から選択します。
- **Status line** (ステータス行)  
工場出荷時の設定 : [Unavailable] (使用不可)  
このオプションによって、TeemTalk がどれかの DEC VT ターミナル エミュレーション モードの場合に、画面の 25 行目がステータス行として使用されるかどうか決定されます。**[Unavailable]** または **[Host writable]** (ホスト書込可) が選択されている場合、ホストは、25 行目にアプリケーション固有のメッセージを書き込むことができます。**[None]** (なし) を選択すると、これが防止されます。

- **Auto wrap** (自動折り返し)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、右マージンに達したときに文字が次の行に折り返すかどうかが決まります。チェックを外すと、右マージンに達したときに、新しい文字が受信されるたびに最後の文字位置がその文字で上書きされます。

- **Auto new line** (自動改行)

工場出荷時の設定：未チェック

チェックを入れると、受信したすべてのライン フィード コマンドにキャリッジ リターン コマンドが追加されます。

- **Auto line feed** (自動ライン フィード)

工場出荷時の設定：未チェック

チェックを入れると、受信したすべてのキャリッジ リターン コマンドにライン フィード コマンドが追加されます。

- **Display controls** (制御文字を表示する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、受信した制御コードを処理するか、または表示するかが決定されます。チェックを入れると、ほとんどの制御コードについて、制御コードを表す文字が画面に表示されます。

- **Display error codes** (エラー コードを表示)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションによって、削除コードを受信したときに市松模様の記号を表示するかどうかが決まります。

- **Save scrolled lines** (スクロールされた行を保存する)

工場出荷時の設定：未チェック

スクロール領域が設定されている場合は、このオプションを選択すると、その領域外にスクロールされたデータが履歴バッファに保存されます。

- **Save screen before clearing** (クリアの前に画面を保存する)

工場出荷時の設定：未チェック

これは、VT340 と VT420 を除くすべての DEC VT エミュレーションに適用されます。これにより、ホストから受信した画面クリア コマンドの効果が決定されます。チェックを外すと、現在のページの内容がクリアされます。チェックを入れると、現在のページの内容が保存され、表示は次のページにスクロールします。

- **Vertical coupling** (垂直カップリング)

工場出荷時の設定：チェック済み

この VT420 モード オプションの設定によって、表示されている行数がページ サイズより小さい場合に、アプリケーションがカーソルを現在ウィンドウ内に表示されていない行に移動したときの動作が決定されます。チェックを入れると、カーソルをビュー内に維持するために、表示が

自動的に垂直方向にスクロールします。チェックを外すと、表示はそのままの状態に残り、カーソルが画面外の、メモリ内に保存されている該当する行に移動します。**Ctrl** キーを押しながら上または下カーソル キーを押すことによって、表示をスクロールして画面外に保存された行を表示できます。

- **Horizontal coupling** (水平カップリング)

工場出荷時の設定：未チェック

この DEC VT モード オプションの設定によって、画面外に保存されているカラムが存在する場合に、カーソルが現在ウィンドウ内に表示されている最後のカラムを超えて移動したときの動作が決定されます。チェックを入れると、カーソルをビュー内に維持するために、表示が自動的に水平方向にスクロールします。チェックを外すと、表示はそのままの状態に残り、カーソルが画面外に移動します。水平方向にスクロールして隠れたカラムを表示するには、**Ctrl** キーを押しながら**左**または**右**カーソル キーを押します。

- **Page coupling** (ページ カップリング)

工場出荷時の設定：チェック済み

この VT420 モード オプションの設定によって、カーソルを別のページに移動するリモート コマンドの効果が決定されます。チェックを入れると、カーソルを移動する先のページが自動的に表示されます。チェックを外すと、表示は変更されないで残り、カーソルが画面外の、メモリ内に保存されている該当するページに移動します。

- **Ignore nulls** (null を無視する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、ホストから受信した NULL 文字を処理するか、または無視するかが決定されます。

- **Cursor moves right to left** (カーソルを右から左に移動する)

工場出荷時の設定：未チェック

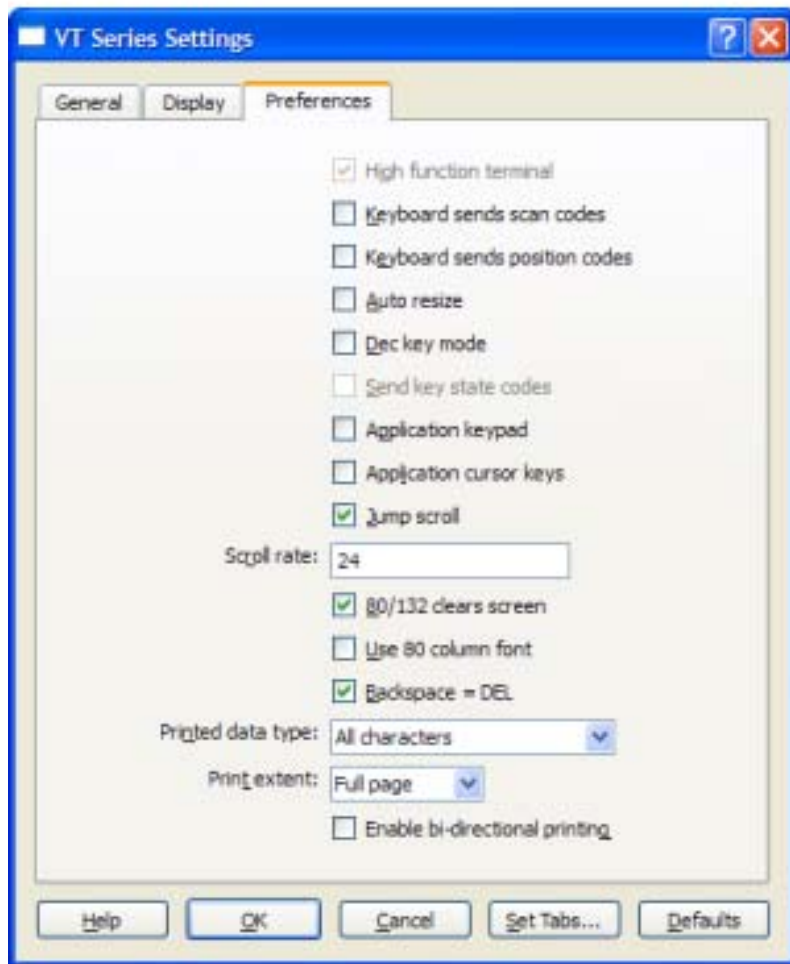
これは、DEC VT、AIXTerm、Ansi BBS、AT 386、および Sco Console エミュレーションに適用されます。これにより、テキスト カーソルがディスプレイ上を移動する方向を変更できます。

- **Copy right to left** (右から左にコピーする)

工場出荷時の設定：未チェック

これは、DEC VT、AIXTerm、Ansi BBS、AT 386、および Sco Console エミュレーションに適用されます。これにより、コピー コマンドを右から左の表示モードで動作させることができます。

## 設定



- **High function terminal** (高機能端末)  
工場出荷時の設定：チェック済み  
これは AIXTerm エミュレーションに適用されます。これにより、HFT (高機能端末) モード (初期設定) と VT100 モードを切り替えることができます。
- **Keyboard sends scan codes** (キーボードはスキャンコードを送信する)  
工場出荷時の設定：未チェック  
これは DEC VT520 および VT PC-Term エミュレーションに適用されます。キーを押したり離したりしたときに、ホストにキーボードのスキャンコードを送信するか、または ASCII コードを送信するかが決定されます。これは [**Keyboard sends position codes**] (キーボードは位置コードを送信する) オプションと同時に選択できないことに注意してください。
- **Keyboard sends position codes** (キーボードは位置コードを送信する)  
工場出荷時の設定：未チェック



これは DEC VT520 および VT PC-Term エミュレーションに適用されます。キーを押したり離したりしたときに、ホストにキーボードの位置コードを送信するか、または ASCII コードを送信するかが決定されます。これは [Keyboard sends scan codes] (キーボードはスキャンコードを送信する) オプションと同時に選択できないことに注意してください。

- **Auto resize** (自動サイズ変更)

工場出荷時の設定：未チェック

これは DEC VT520 エミュレーションにのみ適用されます。このオプションにチェックを入れると、バッファ サイズがホストまたはセットアップによって変更されるたびに、ウィンドウ サイズが自動的に調整されます。以下の表は、指定されたページあたりの行数に対して使用されるウィンドウ サイズ (画面あたりの行数) を示しています。

ページあたりの行数：	24	25	36	42	43	48	52	72
画面あたりの行数：	26	26	43	43	43	52	52	52

- **Dec key mode** (DEC キー モード)

工場出荷時の設定：未チェック

キーボードは、[Normal] (通常) (初期設定) または [DEC] の 2 つのモードのどちらかで使用できます。このオプションを使用すると、その初期設定モードを変更できます。この 2 つのモードは、**Alt + Num Lock** キーを一緒に押すことによって切り替えることができます。キーボードが DEC モードのとき、ステータス バーの 10 番目の項目には **[DEC]** が表示されます。通常モードのとき、このフィールドは空白になります。

- **Send key state codes** (キー状態コードを送信)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションにチェックを入れると、モディファイア キーを押したときのエスケープ シーケンスがホストに送信されます。

- **Application keypad** (アプリケーション キーパッド)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、キーボードの右側にあるキーパッドでキーを押したときの効果が決定されます。

チェックを外すと、キーパッドは数値モードになり、キーはキー キャップに表示されている文字を生成します。チェックを入れると、キーパッドはアプリケーション モードになり、キーは押されたときに制御機能を生成します。4 つのキーからなる一番上の並びは、同等の DEC ファンクション キー **PF1 ~ PF4** として機能します。

- **Application cursor keys** (アプリケーション カーソル キー)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションにチェックを入れると、カーソル キーは押されたときにアプリケーション プログラム コードを生成します。チェックを外すと、キーは通常のカーソル移動コマンドを生成します。

- **Jump scroll** (ジャンプ スクロール)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、ウィンドウがいっぱいになったときに、データが1行スクロールされるか、または一度に複数行スクロールされるかが決定されます。

チェックを入れると、下の[**Scroll rate**] (スクロール速度) 設定に従って、データは一度に複数行上にスクロールされます。

- **Scroll rate** (スクロール速度)

工場出荷時の設定：24

これにより、上の[Jump scroll] (ジャンプ スクロール) オプションが選択されている場合にスクロールされる行数が決定されます。

- **80/132 clears screen** (80/132 画面クリア)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションによって、カラムの数が変更されたときにデータの表示がクリアされるかどうか決定されます。

- **Use 80 column font** (80 カラムのフォントを使用する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションにチェックを入れると、132 カラム書き込みモードで使用されるフォントが、80 カラム モードで使用されるフォントと同じになります。

- **Backspace = DEL**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、バックスペース コマンドで削除が実行されるかどうか決定されます。

- **Printed data type** (印刷されるデータの種類)

工場出荷時の設定：[All characters] (すべての文字)

このオプションの設定によって、プリンターに送信される文字の範囲が決定されます。[All characters]、[Ascii characters] (ASCII 文字)、[National only] (各国語のみ)、[Multinational + line drawing] (多国語+行描画)、または[National + line drawing] (各国語+行描画) から選択します。

- **Print extent** (印刷の範囲)

工場出荷時の設定：[Full page] (ページ全体)

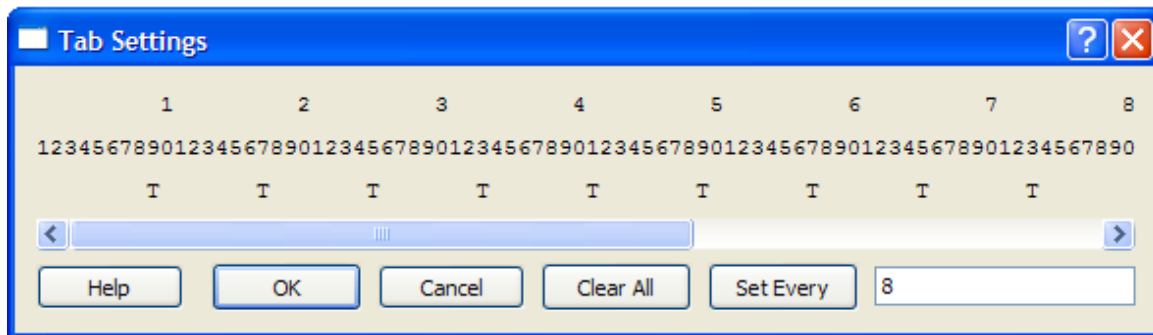
このオプションの設定によって、画面印刷コマンドで印刷される表示領域が決定されます。[Full page]または[Scroll region] (スクロール領域) のどちらかを選択します。

- **Enable bi-directional printing** (双方向印刷を有効にする)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、プリンターからのデータを、印刷コントローラー モード中にホストに転送できるかどうか決定されます。

## タブの設定



[**VT Series Settings**] (VTシリーズの設定) ダイアログの一番下にある[**Set Tabs...**] (タブの設定...) ボタンをクリックすると、DEC VT、ANSI、および Sco Console エミュレーションのタブ ストップを設定できる[**Tab Settings**] (タブの設定) ダイアログが表示されます。

初期設定では、タブ ストップは8カラムごとに設定され、該当するカラム番号の下にある**T**の文字で示されています。タブ ストップを8カラムごと以外の規則的な間隔で設定する場合は、[**Set Every**] (設定間隔) ボタンの横にあるボックスに各タブ ストップ間に必要なカラムの数を入力してから、このボタンをクリックします。

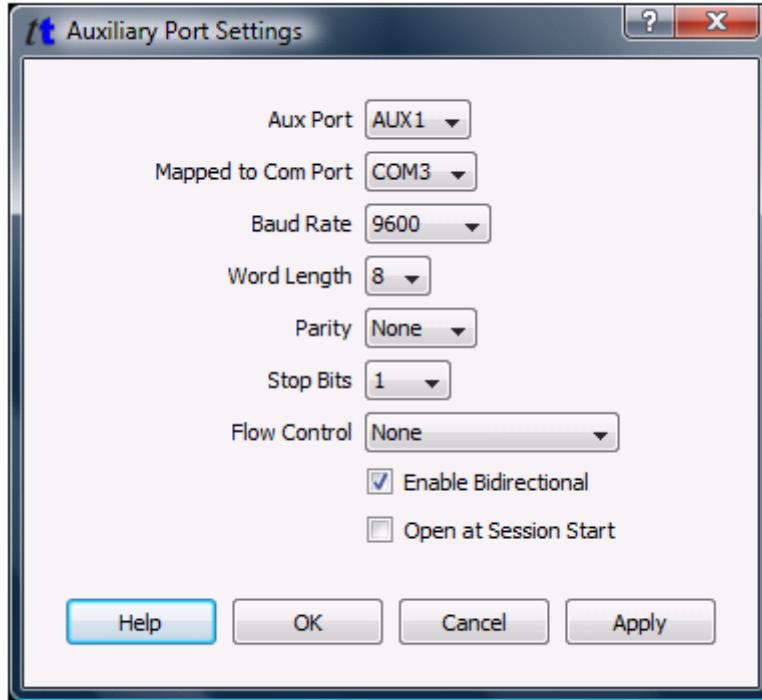
関連するカラム番号の上または下にあるマウス ポインターをクリックすることによって、個々のタブ ストップのオン/オフを切り替えることができます。

すべてのタブ ストップを削除するには、[**Clear All**] (すべてクリア) をクリックします。

現在のタブ ストップを保存するには、[**File**] (ファイル) メニューの[**Save Session**] (セッションを保存) を選択します。

## 補助ポートの設定

このダイアログは、VTシリーズ エミュレーション モードが選択されている場合にのみ使用でき、[**File**] (ファイル) メニューの[**Auxiliary Ports...**] (AUXポート...) を選択することによって表示できます。このダイアログでは、すべてのVTシリーズ エミュレーションでの、双方向出力のためのCOMまたはLPTポートを指定できます。



下で説明されているオプションを使用して補助ポート デバイスに必要な設定を指定し、[OK]をクリックします。

- **Aux Port** (Aux ポート)

工場出荷時の設定 : [AUX1]

設定を適用する、使用されている補助ポート デバイスを指定します。このドロップダウン リストには設定済みの補助ポートのみが、少なくとも1つ表示されます。[Apply] (適用) ボタンをクリックすると、表示されているパラメーターが現在選択されている Aux ポートに保存され、次の使用可能な Aux ポートの設定に進みます。最大 16 の Aux ポートを設定できます。

- **Mapped to Com Port** (COM ポートにマッピング)

工場出荷時の設定 : [COM3]

補助ポート デバイスとの通信に使用されるポートを指定します。

- **Baud Rate** (ボーレート)

工場出荷時の設定 : 9600

接続速度を 110~115200 ボーの範囲で指定します。

- **Word Length** (ワード長)

工場出荷時の設定 : 8

このオプションは、転送される文字ごとに送信されるデータ ビットの数を指定します。

- **Parity** (パリティ)

工場出荷時の設定 : [None] (なし)

このオプションは、転送される各文字のパリティ モードを指定します。[Word Length] (ワード長) で指定されるデータ ビットの数が 8 の場合は、このオプションを [None] に設定します。

[Odd] (奇数) を選択すると、1 番目から 7 番目までのビットの合計が偶数の場合は 1、奇数の場合は 0 の値を持つ 8 番目のビットが追加されます。

[Even] (偶数) を選択すると、1 番目から 7 番目までのビットの合計が奇数の場合は 1、偶数の場合は 0 の値を持つ 8 番目のビットが追加されます。

[Mark] (マーク) のパリティは 8 番目のビットを常に 1 に、[Space] (スペース) のパリティは 8 番目のビットを常に 0 に設定します。

- **Stop Bits** (ストップ ビット)

工場出荷時の設定 : 1

転送される文字ごとに送信されるストップ ビットの数を指定します。

- **Flow Control** (フロー制御)

工場出荷時の設定 : [Both] (両方)

このオプションは、補助ポート デバイスとのデータ送受信の準備状態を通信するためにラインポートによって使用されるフロー制御の種類を指定します。

- **None** (なし)

フロー制御なし。

- **Input** (入力)

受信データに対する XON/XOFF。

- **Output** (出力)

送信データに対する XON/XOFF。

- **Both**

送信および受信データに対する XON/XOFF。

- **Hardware** (ハードウェア)

RTS/CTS ハードウェア フロー制御。

- **Enable Bidirectional** (双方向を有効にする)

工場出荷時の設定 : チェック済み

このオプションの設定によって、TeemTalk セッションを介して、補助ポート デバイスからのデータをホストに転送すると同時にホストから受信できるかどうかが決まります。

- **Open at Session Startup** (セッション開始時に開く)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションを選択すると、TeemTalk セッションが開始されたらすぐに Aux ポートが開かれます。

# 13 HP 700-92/96 エミュレーション

この章では、Hewlett-Packard 700-92/96 ターミナル エミュレーションの機能について説明します。

## HP 700-92/96 エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、HP 700-92/96 エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. **[スタート]**メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]**（セッション ウィザード）の順に選択します。
2. **[Session Name]**（セッション名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. **[Transport]**（トランスポート）の方法を選択し、**[Configure]**（設定）ボタンをクリックして設定を指定します。
4. **[Connection]**（接続）の種類を選択し、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します。
5. **[Emulation]**（エミュレーション）一覧の**[HP70092]**を選択し、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します（これらのオプションについては、[119 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します）。
6. **[Next]**（次へ）をクリックして、**[Advanced Options]**（詳細設定オプション）ダイアログを表示します。
7. **[Next]**をクリックして、**[Finalization]**（確定）ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**[Create icon on desktop for session]**（デスクトップにセッションのアイコンを作成する）チェック ボックスにチェックを入れます。
9. **[OK]**をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、**[File]**（ファイル）メニューを表示し、**[Open Session]**（セッションを開く）を選択します。該当する**.tts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]**（開く）をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから HP 700-92/96 エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから **[Session]** (セッション) メニューを表示し、**[Transport...]** (トランスポート...) を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]** メニューを表示し、**[Connection...]** (接続...) を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]** メニューを表示し、**[Emulation...]** (エミュレーション...) を選択します。エミュレーションを **[HP70092]** に設定します。
4. **[Session]** メニューで、関連する **[Configure]** (設定) オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) を選択することによって表示されるオプションは、[119 ページの「セットアップ オプション」](#) のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Save Session As]** (セッションに名前を付けて保存) を選択します。**[File Name]** (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]** (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は **.fts** になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]** メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、**[Tools]** (ツール) メニューの **[Key Macros...]** (キー マクロ...) を選択して表示される **[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) ダイアログにある **[Emulation Keys]** (エミュレーション キー) 一覧を参照することによって特定できます。

右のカラムにあるかっこ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+** は **Shift** キーを、**C+** は **Control** キーを、**A+** は **Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

HP\_SOFTRESET (C+VK\_F7)

これは、**Soft Reset** の機能が、**Ctrl + F7** というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

通常 HP 700-92/96 キーボード上にある特殊キーの機能は、**[Key Macro Settings]** ダイアログに一覧表示されている HP 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、HP 700-92/96 キーボードの機能が、101/102 キーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

図 13-1 HP 700-92/96 エミュレーションの 101/102 キーボード レイアウト

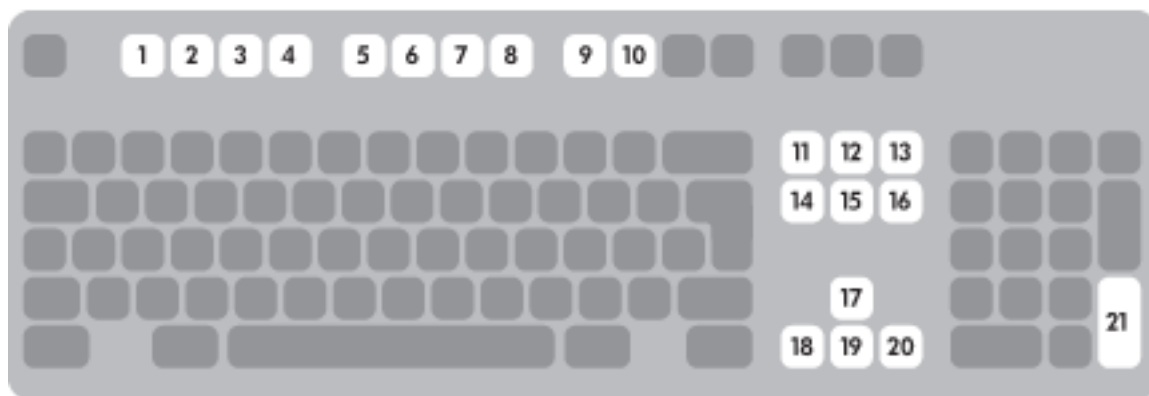



表 13-1 HP 700-92/96 のキーボード マッピング

キー	キーモ ディファイ ア	判定	キー	判定
1	Ctrl + なし	F1 INSERT LINE	11	INSERT MODE
2	なし Ctrl +	F2 DELETE LINE	12	HOME UP
3	なし Ctrl +	F3 CLEAR LINE	13	PREVIOUS PAGE
4	なし Ctrl +	F4 CLEAR DISPLAY	14	DELETE CHAR
5	なし Ctrl +	F5 SELECT	15	HOME DOWN
6		F6	16	NEXT PAGE
7	なし Ctrl +	F7 SOFT RESET	17	CURSOR UP
8	なし Ctrl +	F8 HARD RESET	18	CURSOR LEFT



表 13-1 HP 700-92/96 のキーボード マッピング (続き)

キー	キーモ ディファ イア	判定	キー	判定
9	なし	USER SYSTEM	19	CURSOR DOWN
	Shift +	MENU		
10	なし	USER KEYS MODE	20	CURSOR RIGHT
	Shift +	USER KEY DEF. MODE		
			21	ENTER

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

## 表示の設定

HP 700-92/96 エミュレーションを実行すると、TeemTalk ウィンドウの下部に沿って一列のボタンが表示されます。

Line Modify	Modify All	Block Mode	Remote* Mode	1 1	Terminal Test	Memory Lock	Display Functns	Auto LF
----------------	---------------	---------------	-----------------	-----	------------------	----------------	--------------------	------------

これらのボタンはキーボード上のキー **F1**~**F8** の現在の機能を示しており、これらの機能は次のセクションで説明します。中央にある 2 つの数字は、カーソルの現在の行とカラム位置を示しています。

表示領域は、初期設定では 24 行×80 カラムであり、さらに 168 行が画面外に保存されています。ファンクション キー **F12** を押すことによって、80 カラムと 132 カラムの表示を切り替えることができます。表示メモリは、[**HP70092 Settings**] (HP70092 の設定) ダイアログにある [**Display pages**] (表示ページ数) オプションを使用して、2、4、6、または 8 ページに分割できます ([119 ページの「セットアップ オプション」](#)を参照してください)。

## ファンクション キーおよびボタン

HP 700-92/96 ウィンドウの下部に沿って表示されているボタンは、キーボード上のキー **F1**~**F8** の現在の機能を示します。これらのボタンおよび対応するファンクション キーを使用すると、さまざまな動作モードや表示の設定を選択できます。ボタンのクリックは、対応する **F<数字>** キーを押すのと同じ効果があります。キーまたはボタンの特性がオン/オフの切り替え操作である場合は、その機能が選択されると、ボタンにアスタリスクが表示されます。

HP 700-92/96 エミュレーションを実行する場合は、ボタンとファンクション キーの初期設定により、さまざまな動作モードを選択できます。これらのボタンには、[**Mode Selection**] (モード選択) の設定が示されます。


## モード選択

Line Modify	Modify All	Block Mode	Remote* Mode	1 1	Terminal Test	Memory Lock	Display Functns	Auto LF
----------------	---------------	---------------	-----------------	-----	------------------	----------------	--------------------	------------

HP 700-92/96 エミュレーションを初めて実行すると、ボタンとファンクション キーに**[Mode Selection]**（モード選択）機能が割り当てられます。これらの機能がエミュレーションの使用中に変更された場合は、**F9** キー（**User System** キーに対応）を押し、次に **F4** キーを押すことによって、これらの機能を再度有効にできます。

- **[Line Modify] : F1**

この機能を使用すると、エミュレーションがリモート モードおよび文字モードで、ホストと対話形式で通信しているときに、誤って入力したコマンド文字列を編集して再送できます。これにより、文字列全体を再度入力し直す必要がなくなります。

 **注記：** この機能は、エミュレーションがブロック モードまたはフォーマット モードのときは動作しません。


ホストで、文字列が誤って入力されたことを示すエラーメッセージが表示された場合は、**F1** キーを押すか、または対応するボタンをクリックします。この機能が選択されたことを示すアスタリスクがボタンの上に表示されます。エラーが含まれる行にカーソルを移動し、その行を編集してから、**Return** または **Enter** キーを押します。これにより、編集された文字列が転送され、[Line Modify]モードが終了します。

[Line Modify]モードを有効にした後にそれをキャンセルする場合は、単に **F1** キーを押すか、またはこのボタンを再度クリックします。


- **[Modify All] : F2**

これは、前に説明した **F1** の[Line Modify]機能に似ています。唯一の違いは、**Return** または **Enter** キーを押したときに編集モードが終了しないことです。**F2** キーおよび対応するボタンは切り替えキーとして機能し、このモードのオン/オフを切り替えます。この設定は、**[File]**（ファイル）メニューの**[Save Session]**（セッションを保存）を選択することによって保存できます。

**F2** の[Modify All]のキーとボタンを使用すると、エミュレーションが文字モードのときに、誤って入力されたコマンド文字列を編集して再送できます。これにより、文字列全体を再度入力し直す必要がなくなります。

 **注記：** この機能は、エミュレーションがブロック モードまたはフォーマット モードのときは動作しません。

ホストで、文字列が誤って入力されたことを示すエラーメッセージが表示された場合は、**F2** キーを押します。この機能が選択されたことを示すアスタリスクがボタンの上に表示されます。エラーが含まれる行にカーソルを移動し、その行を編集してから、**Return** または **Enter** キーを押します。これにより、編集された文字列が転送されます。[Modify All]モードを終了するには、**F2** キーを押すか、またはこのボタンを再度クリックします。

 **注記：** この機能はブロック モードの特殊な形式ですが、ブロック モードからは完全に切り離されているため、[Modify All]機能を使用する前にブロック モードを有効にする必要はありません。

- **[Block Mode] (ブロック モード) : F3**

データをホストに一度に1文字、または文字のブロックとして転送できます。**F3** キーおよび対応するボタンは、データ転送の形式を文字モードとブロック モードの間で切り替えます。この設定は、**[File]** (ファイル) メニューの**[Save Session]** (セッションを保存) を選択することによって保存できます。

このボタンにアスタリスクが表示されていない場合、エミュレーションは文字モードです。各文字は、キーボードで入力された時点でホストに送信されます。

ブロック モードが有効になっている場合 (アスタリスクで示される)、キーボードで入力されたデータは、**Enter** キーが押されるまではホストに送信されません。このモードでは、表示されているテキストを、ホストに転送する前にローカルで編集できます。**CR** (キャリッジ リターン) や **LF** (ライン フィード) などの制御コードはローカルで処理され、**Enter** キーが押されてもホストには転送されません。

- **[Remote Mode] : F4**

このボタンの現在の設定によって、英数字キーを押したときに文字がホストに送信されるか (リモート)、またはディスプレイにのみ送信されるか (ローカル) が決定されます。このボタンと **F4** キーは、リモート モードとローカル モードを切り替えます。この設定は、**[File]** (ファイル) メニューの**[Save Session]** (セッションを保存) を選択することによって保存できます。

このボタンにアスタリスクが表示されていない場合、エミュレーションはローカル モードです。英数字キーを押すと、文字がディスプレイにのみ送信されます。

リモート モードが有効になっている場合 (アスタリスクで示される) は、英数字キーを押すと、文字がホストに送信されます。

- **[Terminal Test] : F5**


このボタンまたは **F5** キーが押されると、HP 700-92/96 エミュレーションはセルフテストを実行し、表示可能なすべての文字を示すテスト画面を表示します。

- **[Memory Lock] : F6**

これにより、表示メモリがいっぱいになったときにデータがウィンドウの上端から外にスクロールされないように、データをディスプレイ上にロックできます。いったん有効になると、このボタンまたは **F6** キーが再度押されるか、リセットが実行されるか、またはエミュレーションが終了した場合にのみ無効にすることができます。

最初の行にカーソルを置いて[Memory Lock]を有効にすると、表示メモリがいっぱいになったときにデータが自動的にディスプレイの上端から外にスクロールされることが防止されます。代わりに、[MEMORY FULL Press RETURN to clear] (メモリがいっぱいです。クリアするには [Return]キーを押してください) というメッセージが表示されます。カーソル キーを使用して、すでに表示されたデータを編集できます。[Memory Lock]を無効にして新しいデータの入力を行うするには、**F6** キーを押すか、またはこのボタンを再度クリックし、カーソルを最後の行のすぐ下に置きます。

また、[Memory Lock]機能を使用すると、ディスプレイの上端からの特定の行数をロックし、残りの行を引き続きそれらの行を超えてスクロールさせることもできます。これは、カラムの見出しや指示をディスプレイ上に残したい場合に役立ちます。特定の行数をロックするには、ロックする最後の行にカーソルを置き、**F6** キーを押すか、またはこのボタンをクリックします。これにより、ディスプレイの上端からカーソル行までの行がロックされます。


 **注記：** ロックされた行に含まれているデータを編集することはできますが、新しいデータが挿入されると、ロックされている領域の最後の行にあるデータがスクロール領域に押し出される場合があります。

- **[Display Functions] : F7**

このボタンと **F7** キーは、[Display Functions]モードのオン/オフを切り替えます。[Display Functions]モードを有効にした場合の効果は、エミュレーションがローカル モードとリモートモードのどちらであるかによって異なります。ローカル モードでは、[Display Functions]モードを有効にすると、それ以降に受信された制御コードやエスケープ シーケンスは画面に表示されますが、処理はされません。このルールの例外は、このボタンまたは **F7** キーが押されたときに発行されるコマンドと、キャリッジ リターンおよびライン フィード コマンドです。これらのコマンドは実行されます。

リモート モードでは、[Display Functions]モードを有効にすると、それ以降に受信された制御コードやエスケープ シーケンスはホストに転送されますが、ローカルでは処理されません。このルールの例外は、このボタンまたは **F7** キーが押されたときに発行されるコマンドと、キャリッジ リターンおよびライン フィード コマンドです。これらのコマンドは実行されます。

**[HP70092 Settings]** (HP70092 の設定) ダイアログで **[Local Echo]** (ローカル エコー) オプションが有効になっている場合、コマンドはホストに転送されるだけでなく、画面にも表示されます。

 **注記：** **[HP70092 Settings]** (HP70092 の設定) ダイアログで **[XmitFunctn (A)]** オプションが選択されている場合は (詳しくは [119 ページの「セットアップ オプション」](#) を参照してください)、このボタンや **F7** キーでは [Display Functions]モードが無効になりません。

- **[Auto LF] : F8**

このボタンと **F8** キーは、自動ライン フィード モードを有効または無効にします。有効になっている場合は、キーボードから生成されたすべてのキャリッジ リターン コマンドにライン フィード コマンドが自動的に追加されます。この設定は、**[File]** (ファイル) メニューの **[Save Session]** (セッションを保存) を選択することによって保存できます。

## 設定の選択

Device Control	Margins/Tabs/Col		Modes	1	1				
----------------	------------------	--	-------	---	---	--	--	--	--

この一連の機能は、**F9** キー（**User System** キーに対応）を押すことによって有効にします。これにより、以下の 3 組の機能設定にアクセスできます。

- **[Device Control] : F1**

このボタンをクリックするか、または **F1** キーを押すと、**[Device Control]**機能が有効になります。これらのボタンとキー **F1**～**F8** は、[111 ページの「デバイス制御」](#)のセクションで説明されているように機能します。

- **[Margins/Tabs/Col] : F2**

このボタンをクリックするか、または **F2** キーを押すと、**[Margins/Tabs/Col]**機能が有効になります。これらのボタンとキー **F1**～**F8** は、[114 ページの「マージン、タブ、および開始カラム」](#)のセクションで説明されているように機能します。

- **[Modes] : F4**

このボタンをクリックするか、または **F4** キーを押すと、**[Mode Selection]**（モード選択）機能が有効になります。これらのボタンとキー **F1**～**F8** は、[108 ページの「モード選択」](#)のセクションで説明されているように機能します。

## デバイス制御

Device Modes	To Ext	* Dev	To Display	Advance Page	1	1	Advance Line	Copy All	Copy Page	Copy Line
--------------	--------	-------	------------	--------------	---	---	--------------	----------	-----------	-----------

この一連の機能は、**F9** キー（**User System** キーに対応）を押し、次に **F1** キーを押すことによって有効にします。これらの機能を使用すると、データの送信先のデバイスを選択したり、またデータの一部を表示メモリからプリンターにコピーしたりすることもできます。

- **[Device Modes] : F1**

このボタンをクリックするか、または **F1** キーを押すと、**[Device Modes]**機能が有効になります。キー **F1**～**F8** は、[112 ページの「デバイスモード」](#)のセクションで説明されているように機能します。

- **[To Ext Dev] : F2**

この切り替え機能によって、データがプリンターに送信されるかどうかが決まります。このボタンにアスタリスクが表示されている場合、データはプリンターに送信されます。

- **[To Display] : F3**

この切り替え機能によって、データがディスプレイに送信されるかどうかが決まります。このボタンにアスタリスクが表示されている場合、データはディスプレイに送信されます。

- **[Advance Page] : F4**

プリンターが接続され、**[To Ext Dev]**機能によって有効になっている場合は、このボタンをクリックするか、または **F4** キーを押すと、プリンター内の用紙が次のページの先頭に送られます。


- **[Advance Line] : F5**

プリンターが接続され、[To Ext Dev]機能によって有効になっている場合は、このボタンをクリックするか、または **F5** キーを押すと、プリンター内の用紙が 1 行送られます。

- **[Copy All] : F6**

プリンターが接続され、[To Ext Dev]機能によって有効になっている場合は、このボタンをクリックするか、または **F6** キーを押すと、現在のカーソル行から表示メモリ内の最後の行までのすべての行のコピーがプリンターに送信されます。


現在の行が印刷されると、カーソルは次の行の左端のカラムに移動します。**Return** キーを押すことによって、現在の行の最後で印刷をキャンセルできます。

 **注記：** カーソルが、表示可能な最後のデータ行の下の方に置かれている場合、プリンターには何も送信されません。

- **[Copy Page] : F7**


プリンターが接続され、[To Ext Dev]機能によって有効になっている場合は、このボタンをクリックするか、または **F7** キーを押すと、現在のカーソル行から画面に表示されている最後の行までのすべての行のコピーがプリンターに送信されます。

現在の行が印刷されると、カーソルは次の行の左端のカラムに移動します。**Return** キーを押すことによって、現在の行の最後で印刷をキャンセルできます。

 **注記：** カーソルが、表示可能な最後のデータ行の下の方に置かれている場合、プリンターには何も送信されません。

- **[Copy Line] : F8**

プリンターが接続され、[To Ext Dev]機能によって有効になっている場合は、このボタンをクリックするか、または **F8** キーを押すと、カーソル位置の行のコピーがプリンターに送信されます。この行が印刷されると、カーソルは次の行の左端のカラムに移動します。

 **注記：** カーソルが、表示可能な最後のデータ行の下の方に置かれている場合、プリンターには何も送信されません。カーソルが、2つのデータ ブロックの間にある空の行に置かれている場合、プリンターはキャリッジ リターンとライン フィードを実行します。

## デバイス モード

Device Control	Record Mode	Log Bottom	Log Top	1	1				
----------------	-------------	------------	---------	---	---	--	--	--	--


この一連の機能は、**F9** キー (**User System** キーに対応) を押した後、**F1** キーを押し、**F1** キーを再度押すことによって有効にします。

- **[Device Control] : F1**

このボタンをクリックするか、または **F1** キーを押すと、[Device Control]機能が有効になります。これらの機能を使用すると、データの送信先のデバイスを選択したり、またデータの一部を表示メモリからプリンターにコピーしたりすることもできます。これらのボタンとキー **F1** ~ **F8** は、[111 ページの「デバイス制御」](#)のセクションで説明されているように機能します。

- **[Record Mode] : F2**


この機能は、**[Device Control]**メニュー内の**[To Ext Dev]**および**[To Display]**ラベルの設定に応じて、ホストから受信されたデータをプリンターまたはディスプレイ、あるいはその両方にコピーするために使用されます。

 **注記:** この機能は、エミュレーションがローカル モードのときは有効になりません。リモートモードでは、受信されたデータは選択されたデバイスに直接送信されます。

記録モードが有効になっている場合は、このモードを終了するために使用される **F2** キーを除き、キーボードが無効になります。

- **[Log Bottom] : F3**

この機能が有効になっている場合は、カーソルが明示的なライン フィードまたは行末からの折り返しの結果として次の行に移動したとき、カーソルが移動する前の行のデータがプリンターに送信されます。これにより、すべての行のハードコピーを、キーボードからの入力またはホストからの受信順で作成できます。


 **注記:** ターミナル エミュレーションとホストの両方が ENQ/ACK または Xon/Xoff ハンドシェイク、あるいはプリンターでサポートされている速度以下のボーレートを使用している必要があります。

**[Log Bottom]**は、このボタンまたは **F3** キーのどちらかが再度押されるか、**[Log Top]**が有効になるか、リセットが実行されるか、またはエミュレーションが終了するまで有効のままになります。


- **[Log Top] : F4**

表示メモリがいっぱいになり、ホストまたはキーボードからそれ以上のデータを受信したとき、その新しいデータを収容するためにディスプレイの上端からデータの行が削除されます。

**[Device Control]**メニューで**[To Ext Dev]**機能が有効になっている場合は、[Log Top]機能を使用すると、ディスプレイの上端から削除されたデータをプリンターに送信できます。

 **注記:** ターミナル エミュレーションとホストの両方が ENQ/ACK または Xon/Xoff ハンドシェイク、あるいはプリンターでサポートされている速度以下のボーレートを使用している必要があります。

**[Log Top]**は、このボタンまたは **F4** キーのどちらかが再度押されるか、**[Log Bottom]**が有効になるか、リセットが実行されるか、またはエミュレーションが終了するまで有効のままになります。

 **注記:** この機能は、**[Memory Lock]**が有効になっている場合は有効になりません。

## マージン、タブ、および開始カラム

Start Column	Set Tab	Clear Tab	Clr All Tabs	1 1	Left Margin	Right Margin	Clr All Margins	
--------------	---------	-----------	--------------	-----	-------------	--------------	-----------------	--

この一連の機能は、**F9** キー（**User System** キーに対応）を押し、次に **F2** キーを押すことによって有効にします。これらの機能を使用すると、開始カラムを再定義したり、タブを設定したり、左および右マージンを指定したりすることができます。

- **[Start Column] : F1**

この機能は、論理的なテキスト開始ポインターが存在しないときに **[Line Modify]** モードまたは **[Modify All]** モードで **Return** キーまたは **Enter** キーが押された場合に、転送されるデータの開始カラムを一時的に再定義するために使用されます。


 **注記：** 初期設定の開始カラムは、**[HP70092 Settings]**（HP70092 の設定）ダイアログで指定されます（[119 ページの「セットアップ オプション」](#)を参照してください）。

通常、現在の行が表示メモリ内の最後のデータの行である場合は、その行の左端の文字を指定するためにテキスト開始ポインターが自動的に生成されます。このポインターは、その行が削除されるまで表示メモリ内に残ります。その行にテキスト開始ポインターが存在しない場合は、このオプションで指定される開始カラムからデータ転送が開始されます。指定できるカラムの範囲は 1~80 です。

現在の開始カラムを変更するには、カーソルを新しい開始ポイントに移動し、このボタンをクリックするか、または **F1** キーを押します。エミュレーションがリセットされるか、または再開された場合、開始カラムはセットアップで指定された値に戻ります。

- **[Set Tab] : F2**

この機能を使用すると、タブ ストップを定義できます。タブ ストップを定義するには、タブを追加するカラムにカーソルを移動し、このボタンをクリックするか、または **F2** キーを押します。

 **注記：** **Tab** キーが押されたとき、左マージンと右マージンの範囲内に存在しないタブ ストップは無視されます。エミュレーションがフォーマット モードの場合は、すべてのタブ ストップが無視されます。

- **[Clear Tab] : F3**

この機能を使用すると、個々のタブ ストップをクリアできます。タブ ストップをクリアするには、そのタブ ストップを含むカラムにカーソルを移動し、このボタンをクリックするか、または **F3** キーを押します。

- **[Clr All Tabs] : F4**

このボタンをクリックするか、または **F4** キーを押すと、定義されているすべてのタブ ストップがクリアされます（暗黙のタブ ストップである左マージンを除く）。


- **[Left Margin] : F5**

この機能を使用すると、左マージンを定義できます。マージンによって、特定のカーソル移動コマンド（キャリッジ リターンやカーソル ホームなど）のほか、文字の挿入や文字の削除機能のための境界が決定されます。このマージンの左にあるデータにも、引き続きアクセスできます。左マージンは暗黙のタブ ストップです。



ホストから受信されたデータまたはキーボードから入力されたデータが右マージンに達すると、カーソルは次の行にある指定された左マージンに移動します（[HP70092 Settings]（HP70092 の設定）ダイアログで [InhEolWrp] が選択されておらず（119 ページの「セットアップ オプション」を参照してください）、かつキーボードから入力されたデータについては自動ライン フィード モードが有効になっている場合のみ）。

左マージンを指定するには、マージンの場所のカラムにカーソルを置き、このボタンをクリックするか、または **F5** キーを押します。左マージンは、**F7** キーを押すことによってカラム 1 にリセットできます（これにより、右マージンもカラム 80 にリセットされます）。


 **注記：** データが表示メモリからホストに転送されるときにマージンは無視されます。フォーマット モードが有効になると、マージンはクリアされます。

- **[Right Margin] : F6**

この機能を使用すると、右マージンを定義できます。マージンによって、特定のカーソル移動コマンド（キャリッジ リターンやカーソル ホームなど）のほか、文字の挿入や文字の削除機能のための境界が決定されます。このマージンの右にあるデータにも、引き続きアクセスできます。

ホストから受信されたデータまたはキーボードから入力されたデータが指定された右マージンに達すると、カーソルは次の行にある左マージンに移動します（[HP70092 Settings]（HP70092 の設定）ダイアログで [InhEolWrp] が選択されておらず（119 ページの「セットアップ オプション」を参照してください）、かつキーボードから入力されたデータについては自動ライン フィード モードが有効になっている場合のみ）。

右マージンを指定するには、マージンの場所のカラムにカーソルを置き、このボタンをクリックするか、または **F6** キーを押します。右マージンは、**F7** キーを押すことによってカラム 80 にリセットできます（これにより、左マージンもカラム 1 にリセットされます）。

 **注記：** データが表示メモリからホストに転送されるときにマージンは無視されます。フォーマット モードが有効になると、マージンはクリアされます。

- **[Clr All Margins] : F7**

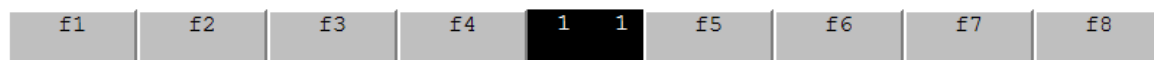
この機能では、左マージンと右マージンの両方の設定をリセットして、左マージンがカラム 1、右マージンがカラム 80 になるようにします。

## ファンクション キーとボタンのプログラミング

キー **F1**~**F8** およびこれらに対応するボタンは、先に説明した機能に対する追加機能を実行するように、ホストまたはユーザーがプログラムできます。これらのキーには英数字または制御コード、あるいはその両方の文字列を割り当てることができ、さらにそのキー文字列をローカルで実行するか、またはホストに転送するか、あるいはその両方を行うかを定義できます。また、ユーザー キー モードの場合は、これらのボタンをプログラムして新しい機能を表示することもできます。

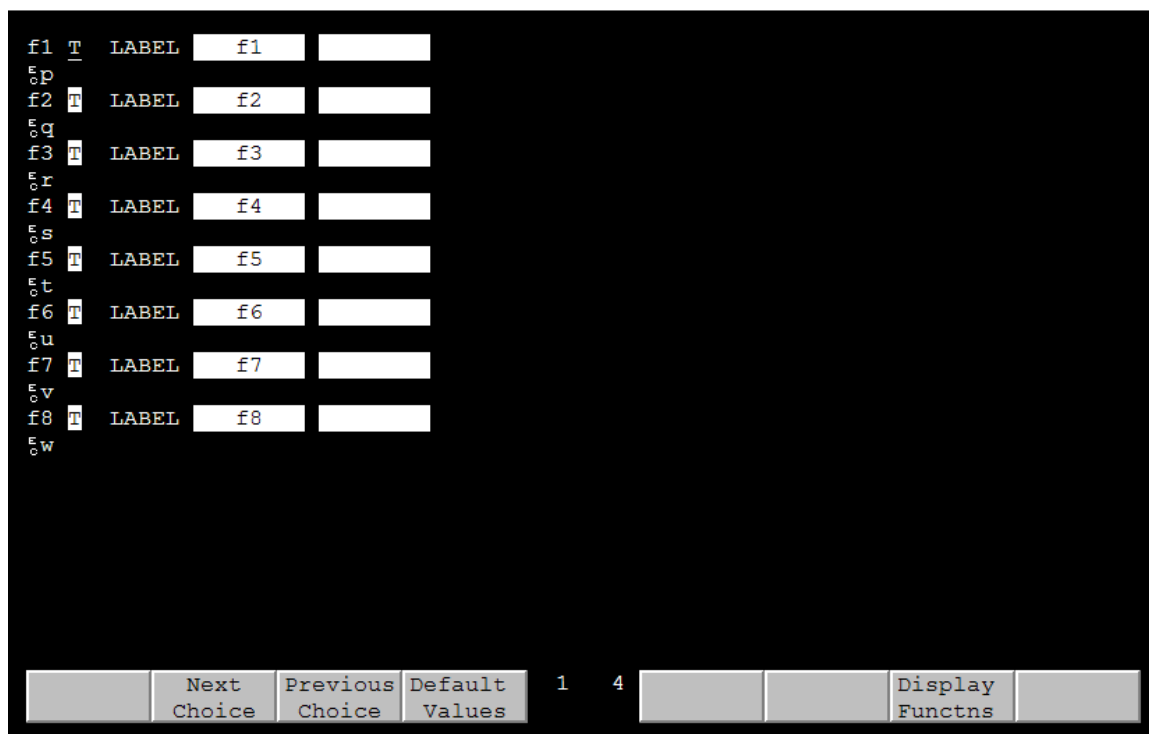
### ユーザー キー モード

ユーザー キー モードを開始するには、**F10** キーを押します。画面に表示されるファンクション キー ボタンは、現在のユーザー キー定義を表示するように変更されます。ユーザーまたはホストのどちらによっても定義が割り当てられていない場合、これらのボタンには、各ファンクション キーの凡例が表示されます。



## ユーザー キー定義

ファンクション キーまたは対応するボタンの機能をローカルで定義するには、**Shift + F10** キーを押して[User Key Definition] (ユーザー キー定義) 画面を表示します。この画面は、**F9** キーを押すことによって終了できます。



## 初期設定の定義

この画面が表示されている間、ファンクション キーおよび対応するボタンは、TeemTalk ウィンドウの一番下にあるボタンに示されている機能を持っています。そのため、**F4** キーまたは**[Default Values]**ボタンを押すと、初期設定のキーとボタンの定義が有効になります。これらの初期設定の定義は、[User Key Definition]画面が終了すると有効になります。

## キー文字列の処理

[User Key Definition] (ユーザー キー定義) 画面に表示される各ファンクション キーとボタンの定義は 2 行で構成されています。最初の行はファンクション キー番号で始まり、次のスペースの後に 1

文字の属性フィールドがあります。このフィールドには、大文字の **L**、**T**、**N** のどれかが含まれています。これらの文字は、以下の内容を示します。

- **L** のキー文字列は、ローカルで実行されます。
- **T** のキー文字列は、ホストにのみ転送されます。
- **N** のキー文字列は、キーボードから入力されたデータとして処理されます。

初期設定の選択は、すべてのファンクション キーに対して **T** です。この設定を変更するには、**Tab** キーまたは **Shift + Tab** キーを使用してカーソルをこのフィールドに移動した後、**F2** キー（**[Next Choice]** ボタン）または **F3** キー（**[Previous Choice]** ボタン）を押して該当する文字が表示されるまでオプションを切り替えます。

## 機能のインジケータ

最初の行の残りは、この機能を示すために画面のボタンに表示される文字列を指定するために使用されます。初期設定では、ファンクション キーの番号が表示されます。

**LABEL** に続く 2 つのフィールドは、ボタンに表示できる上の行と下の行を表します。現在の定義を変更するには、**Tab** キーまたは **Shift + Tab** キーを使用してカーソルを関連するフィールドに移動し、新しい定義を入力します。この定義はフィールドあたり 8 文字、最大 16 文字で構成できます。

## キー文字列の定義


各ファンクション キー定義の 2 行目には、キーまたはボタンが押されたときに表示されるか、実行されるか、またはホストに転送される文字列が含まれます。この文字列には、**F7** キーまたは **[Display Functions]** ボタンを押して **[Display Functions]** モードが有効になっているときに入力される英数字、制御文字、および明示的なエスケープ シーケンス文字を含めることができます。

初期設定のファンクション キー文字列は、各エスケープ シーケンスを開始するために使用されるエスケープ コードを表す文字 **EC** で始まります。**EC** の文字は、**[Display Functions]** モードが有効になっているときに **Esc** キーまたは **Ctrl + [キーを一緒に押すこと]** によってキー定義行に表示されます。**F7** キーを再度押して **[Display Functions]** モードを無効にする前に、エスケープ シーケンス全体を入力する必要がありますことに注意してください。

**[Display Functions]** が有効になっている場合は、**Return** キーを使用して、文字列内にキャリッジ リターン コード (**CR**) を挿入できます。**[Mode Selection]** (モード選択) 機能のメニューで **[Auto LF]** モードが選択されている場合は、**Return** キーによって、キャリッジ リターンだけでなくライン フィールド (**LF**) コードも生成されます。

ファンクション キー/ボタンの文字列の定義を変更するには、**Tab** キーまたは **Shift + Tab** キーを使用してカーソルを 2 行目 (そのキー/ボタンの **LABEL** 定義に続く行) に移動し、最大 80 文字で構成できる新しい定義を入力します。

ファンクション キー/ボタンの文字列の定義を完了したら、**F9** キーを押してこのメニューを終了します。新しい定義を有効にし、該当する機能をこれらのボタンに表示するには、**F10** キーを押します。

 **注記：** アプリケーションの必要に応じて、これらのファンクション キー定義がホストによって初期設定値にリセットされることがあります。

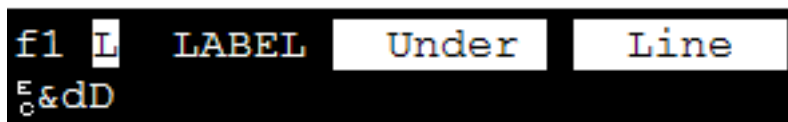
## 文字表示の属性

HP 700-92/96 エミュレーションには、ホスト コマンドによって、またはユーザーがキーボードから有効にすることのできる、さまざまな表示属性が組み込まれています。ある属性または一連の属性が有効になると、属性終了のコマンドまたは別の属性コマンドが受信されるか、あるいは行の最後に達するまで、その後に表示されるすべての文字が影響を受けます。属性は有効になった表示の場所にとどまり、文字が挿入されたり、削除されたりしても移動しません。

ファンクション キーやボタンを設定して、それらが押されたときに、これらの属性が有効になるようにすることができます。その手順は以下のとおりです。

1. **Shift + F10** キーを一緒に押すことによって、[User Key Definition] (ユーザー キー定義) 画面を表示します。
2. **Tab** キーまたは **Shift + Tab** キーを押して、定義されるファンクション キーの番号の横にある最初のフィールドにカーソルを置きます。
3. [Local] (ローカル) を示す英字 **L** が表示されるまで、**F2** キーを押します。
4. **Tab** キーを押し、このキーの表示ラベルに表示されるテキストを入力します。たとえば、「**Under Line**」の場合は、最初のフィールドに「**Under**」を、2 番目のフィールドに「**Line**」を入力します。**Tab** キーを押して、次の行に移動します。
5. **F7** キーを押して、[Display Functions] モードを有効にします。
6. **Ctrl +**[キーを一緒に押すか、または **Esc** キーを押してから、文字**&d**と属性文字(下線の場合は**D**)を入力します。

**F1** キーが下線属性を有効にするように定義されている場合、キー定義は以下のようになります。



他の任意の属性または属性の組み合わせの場合は、2 行目の最後の文字(上の例では **D**)を以下の表の該当する文字に置き換えます。

	ⓐ	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	S
Half-Brightness									●	●	●	●	●	●	●	●	
Underline				●	●	●	●					●	●	●	●		
Inverse Video			●	●			●	●			●	●			●	●	
Flashing		●		●		●		●		●		●		●		●	
Invisible																	●
End Attribute	●																

7. 完了したら、**F9** キーを押して[User Key Definition] (ユーザー キー定義) メニューを終了した後、**F10** キーを押してユーザー キーを有効にし、定義された属性ラベルを表示します。

## セットアップ オプション

HP 700-92/96 エミュレーションは、**[HP70092 Settings]** (HP70092 の設定) ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定します。このダイアログは、以下の3つの方法のどれかを使用して表示できます。

**セッション ウィザードの使用 :**

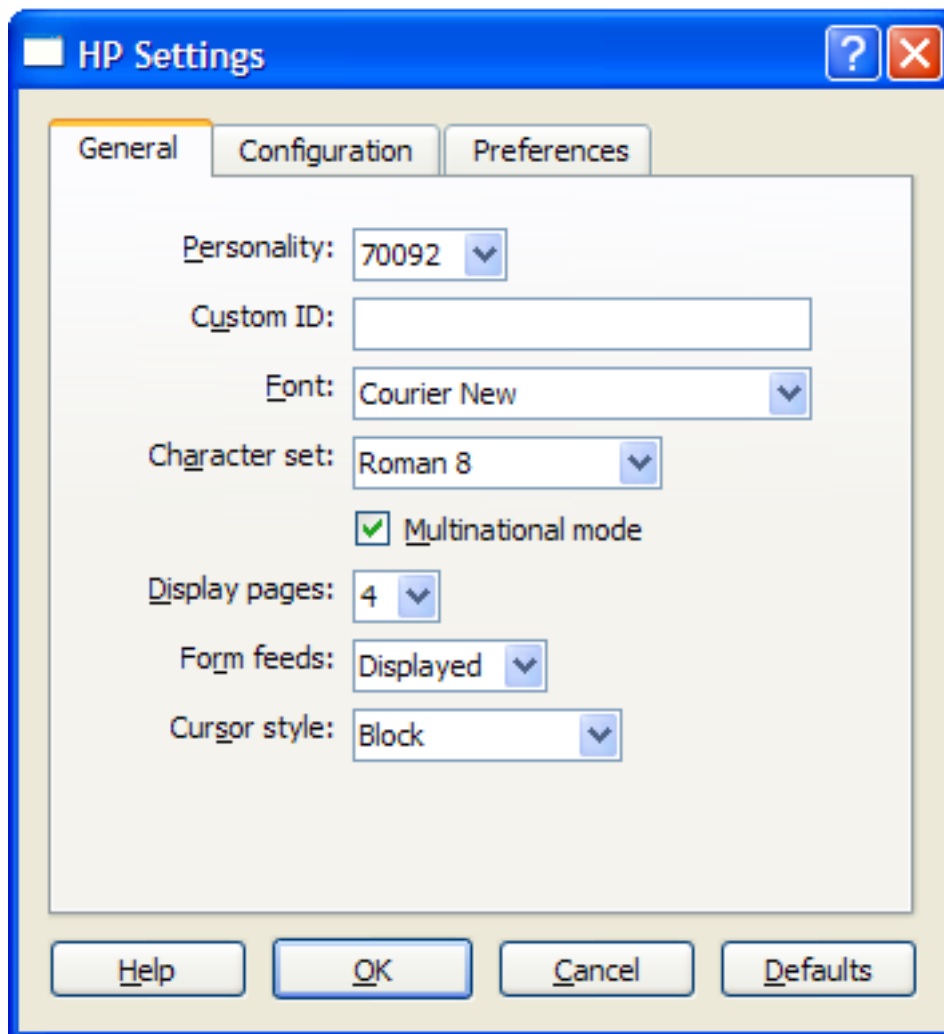
- **[Step 1]** (ステップ1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を**[HP 700-92/96]**に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

**TeemTalk ウィンドウの使用 :**

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]**→**[HP 700-92/96]**の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]**一覧の**[HP 700-92/96]**を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[General]** (全般)、**[Configuration]** (設定)、**[Preferences]** (設定) というラベルの付いた3つのタブにグループ化されています。

## 一般設定



- **Personality** (個人設定)

工場出荷時の設定 : 70092

端末 ID 要求に回答してホストに返される内容を指定します (指定されたターミナルの一部の機能がサポートされない可能性があることに注意してください)。

使用可能な個人設定は、[2392A]、[2622A]、[70092]、[70094]、または[70096]です。この一覧から選択するか、または下の[Custom ID] (カスタム ID) テキスト ボックスにカスタム端末 ID を入力できます。

- **Custom ID** (カスタム ID)

工場出荷時の設定 : 未指定

端末 ID 要求に回答してホストに返されるカスタム端末 ID を指定できます。

- **Font** (フォント)

工場出荷時の設定 : [Courier New]

表示される文字に使用するフォントを指定できます。使用可能な設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。

- **Character set** (文字セット)

工場出荷時の設定 : [Roman 8]

表示される文字に使用する文字セットを指定します。

- **Multinational mode** (多国語モード)

工場出荷時の設定 : チェック済み

このオプションは、システムに、各国語置換文字セットをサポートする言語が設定されている場合にのみ使用できます。

このオプションの設定によって、文字を生成するために使用される文字セットの種類が決定されます。チェックを外すと、TeemTalk は、選択されたキーボード言語に固有の文字セットが使用される各国語モードになります。チェックを入れると (初期設定)、TeemTalk は、2 つの文字テーブルからなる文字セットが使用される多国語モードになります。これにより、任意のキーボード言語の文字を生成できます。

- **Display pages** (表示ページ数)

工場出荷時の設定 : 4

HP 700-92/96 モードでは、表示領域は 24 行×80 または 132 カラムであり、さらに 168 行が画面外に保存されているため合計で 192 行の表示メモリになります。このオプションを使用すると、表示メモリを **2**、**4**、**6**、または **8** ページに分割するかどうかを指定できます。

- **Form feeds** (フォーム フィード)

工場出荷時の設定 : [Displayed] (表示する)

これにより、フォーム フィードを **[Displayed]**、**[Actioned]** (処理する)、**[Ignored]** (無視する) のどの処理を行うかが決定されます。

**[Displayed]** を選択すると、フォーム フィードはディスプレイ上で **FF** 文字として表されます。

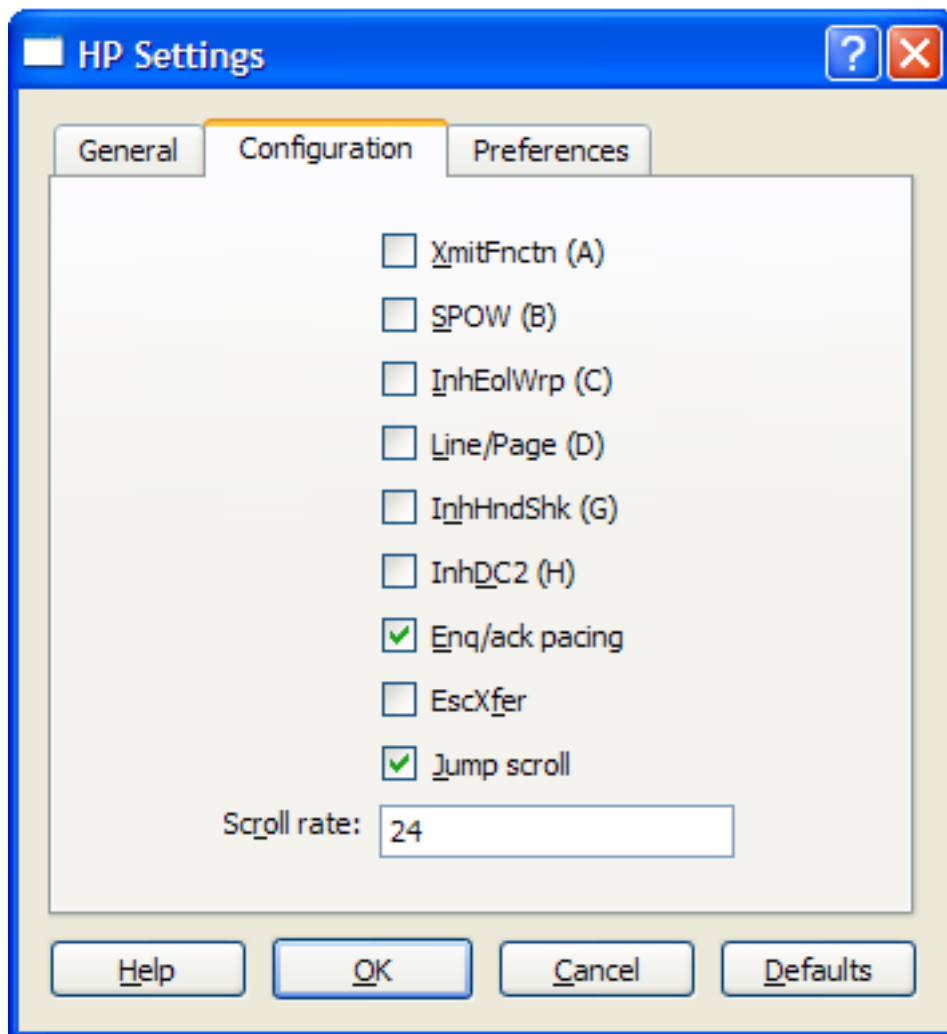
TeemTalk がホストからフォーム フィード コマンドを受信した場合、そのコマンドは通常、ディスプレイ上でライン フィードになります。**[Ignored]** を選択すると、TeemTalk はすべてのフォーム フィード コマンドを無視します。

- **Cursor style** (カーソル スタイル)

工場出荷時の設定 : [Block] (ブロック)

これにより、テキスト カーソルの表示方法を指定できます。**[Block]**、**[Underline]** (下線)、**[Static block]** (静的なブロック)、**[Static underline]** (静的な下線)、または **[None]** (なし) から選択します。

## 構成設定



- **XmitFunctn (A)**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションによって、制御キーやファンクション キーによって生成されたエスケープ シーケンスがホストに送信されるか、またはターミナル エミュレーションにのみ送信されるかが決定されます。

チェックを外すと、エスケープ シーケンスはターミナル エミュレーションにのみ送信されません。チェックを入れると、エスケープ シーケンスはホストに送信されます。[**Local Echo**] (ローカル エコー) オプションにチェックが入っている場合は、ターミナル エミュレーションにも送信されます。



- **SPOW (B)**

工場出荷時の設定：未チェック

スペース上書き (**SP**ace **O**ver**W**rite) オプションの設定によって、キーボードから入力されたスペースによって既存の文字が上書きされるかどうかが決まります。チェックを外すと、キーボードから入力されたスペースによって既存の文字が上書きされます。

このオプションにチェックを入れると、SPOW ラッチが有効になります。このラッチはその後、キャリッジ リターンで有効にすることができます。有効になっている場合、キーボードからスペースを入力すると、カーソルは既存の文字を削除することなく前方に移動します。このラッチは、タブ、ライン フィード、またはホームアップ コマンドで無効にすることができます。これにより、通常どおりに、スペースによって既存の文字が上書きされます。

- **InhEolWrp (C)**

工場出荷時の設定：未チェック

行末折り返しの禁止 (**Inhibit End of line Wrap**) オプションによって、右マージンに達したときに文字が次の行に折り返すかどうかが決まります。チェックを入れると（つまり、折り返しを禁止すると）、右マージンに達したときに、キャリッジ リターンまたはその他のカーソル移動コマンドが発行されるまで、新しい文字が受信されるたびに最後の文字位置がその文字で上書きされます。

- **Line/Page (D)** (行/ページ (D))

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、編集モードのときに、データが一度に 1 行送信されるか、または一度に 1 ページ送信されるかが決まります。

このオプションにチェックを入れると、データは一度に 1 行転送されます。

チェックを外すと、データは一度に 1 ページ転送されます。ページ データは、表示メモリの先頭、または現在のカーソル位置のどちらかから始まります。

- **InhHndShk (G) InhDC2 (H)**

工場出荷時の設定：未チェック

これらの 2 つのオプションの設定の組み合わせによって、データ ブロックがホストに転送されるときに使用されるハンドシェイクの種類が決まります。

以下の 3 つの種類のハンドシェイクのどれかを使用できます。

- ハンドシェイクなし。データ ブロックは、対応する転送キーが押されるとすぐに送信されます。
- DC1 ハンドシェイク。データは、ホストが ASCII **DC1** 制御コードを送信して要求した場合にのみホストに送信されます。
- DC1/DC2/DC1 ハンドシェイク。ホストが ASCII **DC1** 制御コードを送信します。それに対して、TeemTalk は転送の準備ができると、**DC2** コードを送信することによって応答します。ホストは **DC1** コードを再度送信して、データ ブロックが転送されるようにします。

ブロック転送に使用されるハンドシェイクの種類は、実行されるブロック転送の種類、HP70092 エミュレーションが現在動作しているモード（文字、ブロック行、ブロック ページ、または変更モード）、およびこれらの2つのオプションの設定によって決定されます。

これらの2つのオプションの設定による一般的な影響は以下のとおりです。

- **[InhHndShk]**のみを選択：DC1/DC2/DC1 ハンドシェイクが使用されるか、またはハンドシェイクが使用されません。
- **[InhDC2]**のみを選択：DC1 ハンドシェイクが使用されるか、またはハンドシェイクが使用されません。
- **[InhHndShk]**と**[InhDC2]**を選択：ハンドシェイクは使用されません。

- **Enq/ack pacing** (Enq/Ack ペーシング)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、Hewlett Packard **ENQ ACK** ハンドシェイクが使用されるかどうか決定されます。

チェックを入れると、ホストは転送の最後に、データが処理されたかどうかを尋ねる ASCII **ENQ** (問い合わせ) 制御コードを送信できます。それに対して、TeemTalk はデータを処理した後、**ACK** (確認応答) コードを送信することによって応答します。この形式のハンドシェイクが、ハードウェアおよび **XON/XOFF** ハンドシェイクの後の最も低い優先度を持っていることに注意してください。

- **EscXfer**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションによって、表示メモリがプリンターに転送されるときに、表示に関連したエスケープ シーケンスが送信されるかどうか決定されます。

チェックを外すと、表示に関連したエスケープ シーケンスはプリンターに送信されません。

チェックを入れると、プリンターに転送される各行は主要な文字セットを選択するためのエスケープ シーケンスで始まり、文字の機能拡張はすべて停止されます。表示に関連した (たとえば、文字セットを変更するための) エスケープ シーケンスがデータ内に存在した場合、それらのエスケープ シーケンスはプリンターに送信されます。

- **Jump scroll** (ジャンプ スクロール)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、ウィンドウがいっぱいになったときに、データが1行スクロールされるか、または一度に複数行スクロールされるかが決定されます。

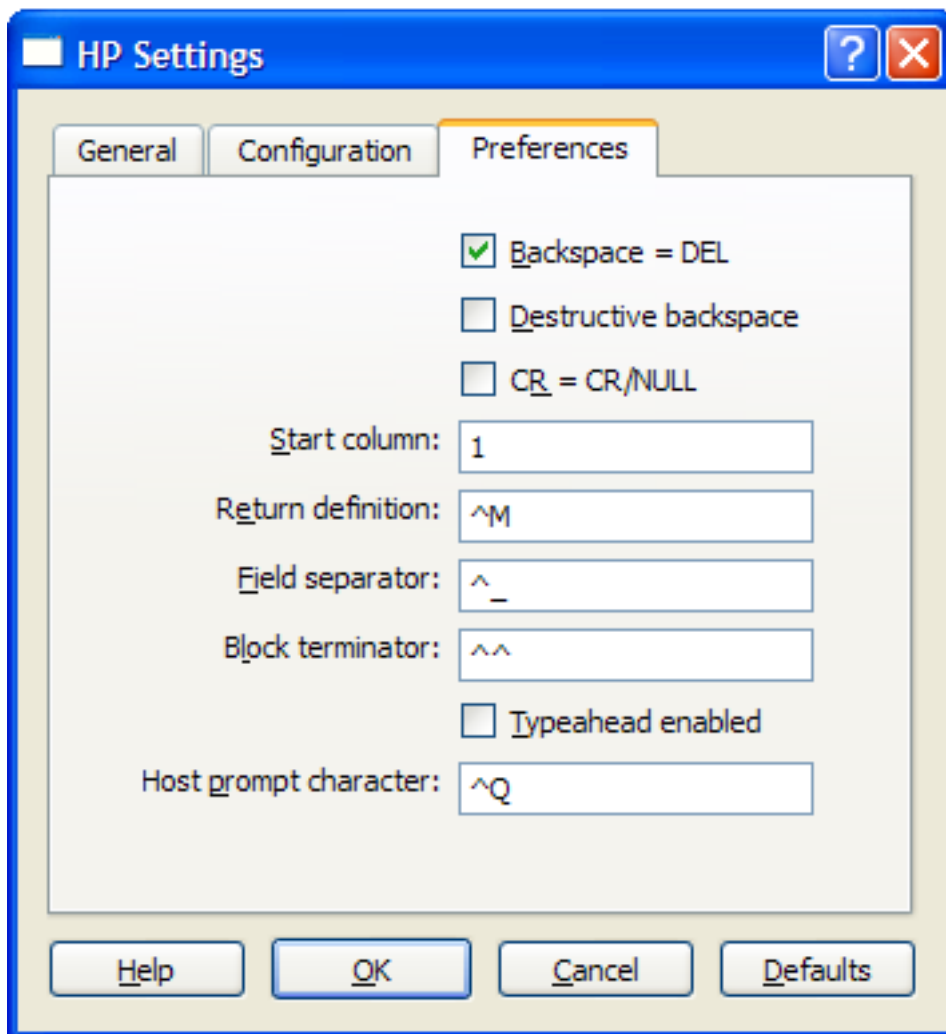
チェックを入れると、下の**[Scroll rate]** (スクロール速度) 設定に従って、データは一度に複数行上にスクロールされます。

- **Scroll rate** (スクロール速度)

工場出荷時の設定：24

これにより、上の**[Jump scroll]** (ジャンプ スクロール) オプションが選択されている場合にスクロールされる行数が決定されます。

## 設定



- **Backspace = DEL**  
工場出荷時の設定：チェック済み  
このオプションの設定によって、バックスペース コマンドで削除も実行されるかどうかが決まります。
- **Destructive backspace (破壊的バックスペース)**  
工場出荷時の設定：未チェック  
このオプションの設定によって、**Backspace** キーを押したときに文字が削除されるかどうかが決まります。
- **CR = CR/NULL**  
工場出荷時の設定：未チェック

このオプションは、**QEDIT** アプリケーションを使用する場合にのみ選択する必要があります。これにより、ターミナルが **CR/LF** を転送した場合に **LF** 文字が無視される、**QEDIT** 内のバグが対処されます。**CR** 文字の後に **NULL** を挿入すると、この問題が解決されます。

- **Start column** (開始列)

工場出荷時の設定 : 1

これにより、論理的なテキスト開始ポインターが存在しないときに **[Line Modify]** または **[Modify All]** モードで **Return** または **Enter** キーが押された場合に、転送されるデータの開始カラムを指定できます。

通常、現在の行が表示メモリ内の最後のデータの行である場合は、その行の左端の文字を指定するためにテキスト開始ポインターが自動的に生成されます。このポインターは、その行が削除されるまで表示メモリ内に残ります。その行にテキスト開始ポインターが存在しない場合は、このオプションで指定される開始カラムからデータ転送が開始されます。カラムの範囲は 1~80 です。

 **注記** : このオプションの設定は、**[Margins/Tabs/Col]** ファンクション キーのどれかを使用して一時的に再定義できます。詳しくは、[114 ページの「マージン、タブ、および開始カラム」](#)のセクションを参照してください。

- **Return definition** ([Return]の定義)

工場出荷時の設定 : [^M] (つまり、CR)

これにより、**Return** キーの機能を定義できます。このキーの定義には、最大 2 文字を使用できます。2 番目の文字がスペースの場合、その文字は無視されます。

現在の定義を変更するには、テキスト ボックスに表示されている定義を削除し、該当する制御キー文字か、または ASCII 文字の 10 進数値のどちらかで新しい定義を入力します。

たとえば、**Return** キーの機能である **CR** (キャリッジ リターン) に対する初期設定のコードは、文字 ^ と **M** を入力することによって指定できます。これは、一緒に押されると **CR** コードを生成する **Ctrl + M** キーを表します。

10 進数値は、直前にアンダースコアが付いた 3 桁の数字を入力します。値が 2 桁のみの場合は、その前に 0 を付ける必要があります。たとえば、**CR** の 10 進数値は 13 であるため、**\_013** を入力します。

- **Field separator** (フィールド セパレーター)

工場出荷時の設定 : [^\_] (つまり、US)

編集モードで送信される保護された各フィールド (最後のフィールドを除く) の最後を示すために使用される ASCII 文字を指定します。

現在の定義を変更するには、テキスト ボックスに表示されている定義を削除し、該当する制御キー文字か、または ASCII 文字の 10 進数値のどちらかで新しい定義を入力します。たとえば、初期設定の ASCII 文字である **US** は、文字 ^ と **\_** を入力することによって指定できます。これは、一緒に押されると **US** コードを生成する **Ctrl + \_** キーを表します。

10 進数値は、直前にアンダースコアが付いた 3 桁の数字を入力します。値が 2 桁のみの場合は、その前に 0 を付ける必要があります。たとえば、**US** の 10 進数値は 31 であるため、**\_031** を入力します。

- **Block terminator** (ブロック ターミネータ)

工場出荷時の設定 : [^^] (つまり、RS)

データ ブロック転送の最後を示すためにホストに送信される ASCII 文字を指定します。

現在の定義を変更するには、テキスト ボックスに表示されている定義を削除し、該当する制御キー文字か、または ASCII 文字の 10 進数値のどちらかで新しい定義を入力します。たとえば、初期設定の ASCII 文字である **RS** は、文字^を 2 回入力することによって指定できます。これは、一緒に押されると **RS** コードを生成する **Ctrl + ^** キーを表します。

10 進数値は、直前にアンダースコアが付いた 3 桁の数字を入力します。値が 2 桁のみの場合は、その前に 0 を付ける必要があります。たとえば、**RS** の 10 進数値は 30 であるため、**\_030** を入力します。

- **Typeahead enabled** (先行入力を有効にする)

工場出荷時の設定 : 未チェック

TeemTalk が HP 3000 に接続されている場合は通常、キーボードで新しいデータを入力する前に、ホストがプロンプトを送信するのを待つ必要があります。そうしないと、データが無視されます。このオプションを選択すると、プロンプトを待つことなく、連続して入力できます。データはキーボード バッファ内に保存され、TeemTalk は、プロンプトを受信するたびにホストにデータの行を送信します。先行入力はブロック モードでもサポートされます。

- **Host prompt character** (ホスト プロンプト文字)

工場出荷時の設定 : [^Q] (つまり、DC1)

一部のホストは、次の行またはデータのブロックを受信する準備ができたことを示すために、ターミナルにプロンプト文字を送信します。このオプションを使用すると、特定のホスト用のプロンプト文字を指定できます。ほとんどのホストは、**DC1** (^Q) の文字 (たとえば、HP 3000) か、プロンプトなし (^@) の文字のどちらかを使用します。

**[Typeahead enabled]** (先行入力を有効にする) オプションにチェックが入っている場合、TeemTalk はキーボード バッファから次の行を送信する前に、ホストからの指定されたプロンプト文字を待ちます。

# 14 IBM 3151 エミュレーション

この章では、IBM 3151 ターミナル エミュレーションの機能について説明します。

## IBM 3151 エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、IBM 3151 エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. **[スタート]**メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]**（セッション ウィザード）の順に選択します。
2. **[Session Name]**（セッション名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. **[Transport]**（トランスポート）の方法を選択し、**[Configure]**（設定）ボタンをクリックして設定を指定します。
4. **[Connection]**（接続）の種類を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します。
5. **[Emulation]**（エミュレーション）一覧の**[IBM 3151]**を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します（これらのオプションについては、[135 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します）。
6. **[Next]**（次へ）をクリックして、**[Advanced Options]**（詳細設定オプション）ダイアログを表示します。
7. **[Next]**をクリックして、**[Finalization]**（確定）ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**[Create icon on desktop for session]**（デスクトップにセッションのアイコンを作成する）チェック ボックスにチェックを入れます。
9. **[OK]**をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、**[File]**（ファイル）メニューを表示し、**[Open Session]**（セッションを開く）を選択します。該当する**.tts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]**（開く）をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから IBM 3151 エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから **[Session]** (セッション) メニューを表示し、**[Transport...]** (トランスポート...) を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]** メニューを表示し、**[Connection...]** (接続...) を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]** メニューを表示し、**[Emulation...]** (エミュレーション...) を選択します。エミュレーションを **[IBM 3151]** に設定します。
4. **[Session]** メニューで、関連する **[Configure]** (設定) オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) を選択することによって表示されるオプションは、[135 ページの「セットアップ オプション」](#) のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Save Session As]** (セッションに名前を付けて保存) を選択します。**[File Name]** (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]** (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は **.fts** になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]** メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、**[Tools]** (ツール) メニューの **[Key Macros...]** (キー マクロ...) を選択して表示される **[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) ダイアログにある **[Emulation Keys]** (エミュレーション キー) 一覧を参照することによって特定できます。

右のカラムにあるかっこ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は **Shift** キーを、**C+**は **Control** キーを、**A+**は **Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

I51\_TRACE (C+VK\_F1)

これは、**Trace** の機能が、**Ctrl + F1** というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

通常 IBM 3151 キーボード上にある特殊キーの機能は、**[Key Macro Settings]** ダイアログに一覧表示されている **I51** 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、IBM 3151 キーボードの機能が、101/102 キー キーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

図 14-1 IBM 3151 エミュレーションの 101/102 キー キーボード レイアウト



表 14-1 IBM 3151 のキーボード マッピング

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
1	なし	ESC	23	なし	BACK TAB
	Shift +	F13		Ctrl +	LOCAL
2	なし	F1	24	なし	ERASE EOF
	Shift +	F14		Ctrl +	ERASE EOP
	Ctrl +	RESET			
3	なし	F2	25		CURSOR UP
	Shift +	F15			
	Ctrl +	PRINT MESSAGE			
4	なし	F3	26		CURSOR LEFT
	Shift +	F16			
	Ctrl +	BREAK			
5	なし	F4	27		CURSOR DOWN
	Shift +	F17			
	Ctrl +	Setup			




表 14-1 IBM 3151 のキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
	なし	F5			
6	Shift +	F18	28		CURSOR RIGHT
	Ctrl +	JUMP			
	なし	F6			
7	Shift +	F19	29	なし	/
	Ctrl +	PRINT SCREEN		Ctrl +	JUMP
	なし	F7			
8	Shift +	F20	30	なし	SEND LINE
	Ctrl +	SEND MESSAGE		Ctrl +	SEND MESSAGE
	なし	F8			
9	Shift +	F21	31	なし	-
	Ctrl +	SEND LINE		Ctrl +	SETUP
	なし	F9			
10	Shift +	F22	32	なし	7
	Ctrl +	CURSOR SELECT		Ctrl +	SUP
	なし	F10			
11	Shift +	F23	33	なし	8
	Ctrl +	DISPLAY MESSAGE		Ctrl +	CURSOR SELECT
	なし	F11			
12	Ctrl +	ALRM UP	34	なし	9
				Ctrl +	DISPLAY MESSAGE
	なし	F12			
13	Ctrl +	ALRM DOWN	35	なし	-
				Ctrl +	LOCAL
				Alt +	,
14		PRINT VIEW	36	なし	4
				Ctrl +	SUB
15		PRINT LINE	37		5
16		HOLD	38		6
	なし	RETURN			
17	Ctrl +	LINE FEED	39	なし	1
				Ctrl +	PA1

表 14-1 IBM 3151 のキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
18		SEND	40	なし Ctrl +	2 PA2
19	なし Ctrl + Shift +	INSERT INSERT LINE PF キーの定義	41	なし Ctrl +	3 PA3
20	なし Ctrl +	HOME DEL	42	なし Ctrl +	ENTER SEND
21	なし Ctrl +	CLEAR ERASE INPUT	43		0
22	なし Ctrl +	DELETE DELETE LINE	44		.

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

## ステータス行

エミュレーション表示の最後の行は、さまざまな動作のステータスを示すステータス行として使用されます。

ECHO	INSERT	001,001
1	2	3

フィールド	説明
1	<p>現在の動作モードを示します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>BLOCK</b>                      キーボードで入力されたデータは表示され、ローカルで処理されるため、ホストに送信される前にデータのブロックを編集できます                 </li> <li> <b>CHAR</b>                      キーボードで入力されたデータは、ホストとディスプレイに同時に送信されます                 </li> <li> <b>ECHO</b>                      キーボードで入力されたデータは、ホストにのみ送信されます。その後、ホストがそのデータをディスプレイに戻す役割を果たします                 </li> </ul>

フィールド	説明
2	<p><b>[INSERT]</b>は、<b>Insert</b> キーが押されたとき、または文字挿入コマンドが受信されたときに挿入モードがアクティブであることを示します。<b>[IBM 3151 Settings]</b> (IBM 3151 の設定) ダイアログにある<b>[Insert character]</b> (挿入文字) オプションが<b>[Mode]</b> (モード) に設定されていない場合、メッセージが表示されないことに注意してください。挿入モードは、<b>Insert</b> キーまたは <b>Reset</b> キーを押すことにより終了します</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li> <p><b>• HOLD SCREEN</b></p> <p>画面の更新を中断するために <b>Hold Screen</b> キーが押されていることを示します。画面の更新を有効にするには、<b>Hold Screen</b> キーを再度押します</p> </li> <li> <p><b>• INVALID KEY</b></p> <p>無効なキーが押されたことを示します</p> </li> <li> <p><b>• KEYS LOCKED</b></p> <p>キーボードがロックされていることを示します。<b>[Keyboard Unlock]</b> (キーボードのロック解除) コマンドが受信されたとき、または <b>Cancel</b> キーが押されたときに、キーのロックが解除されます</p> </li> <li> <p><b>• NUMERIC</b></p> <p>保護されていない数値フィールド内にカーソルがあることを示します</p> </li> <li> <p><b>• PRINTING</b></p> <p>データがプリンターに送信されていることを示します</p> </li> <li> <p><b>• SENDING</b></p> <p>データがホストに送信されていることを示します</p> </li> <li> <p><b>• WRONG PLACE</b></p> <p>保護されたフィールドまたはフィールド属性文字の位置で無効なキーが押されたことを示します。また、<b>[IBM 3151 Settings]</b> (IBM 3151 の設定) ダイアログにある<b>[Forcing insert]</b> (強制挿入) オプションが<b>[Off]</b> (オフ) に設定されているときに、すでにいっぱいになっている画面で文字または行を挿入しようとした場合にも表示されます</p> <p>特定のフィールドに 2 つ以上のメッセージが送信された場合は、優先度の最も高いメッセージが表示されます。メッセージは以下の順序で表示されます</p> <p>HOLD SCREEN</p> <p>SENDING</p> <p>PRINTING</p> <p>KEYS LOCKED</p> <p>INVALID KEY</p> <p>WRONG PLACE</p> <p>NUMERIC</p> </li> </ul>
4	<p><b>(rrr,ccc)</b>は、カーソルの現在の行とカラム位置を示します</p>

## ファンクション キーの定義

**F1**～**F12** としてマッピングされたキーは、キーボードまたはホストから再定義できます。各ファンクション キーには最大 128 文字を保存することができ、文字列に加えてエスケープ シーケンスや ASCII 制御文字を含めることができます。ここでは、キーボードからファンクション キーを定義する方法について説明します。

1. **Shift + Esc** キーを押して、画面の下部に沿って[Define F key] (ファンクション キーの定義) の行を表示します。

```
DEF F:  | ..... AID
```

この行には、2つのユーザー入力フィールドがあります。最初の小さいフィールドは定義するファンクション キーを指定し、2番目のフィールドでは、プログラムされた内容の入力と表示を行います。


2. 最初のフィールドに2桁の数字を入力することによって、定義するファンクション キーを指定し (たとえば、**F1** の場合は **01**、**F12** の場合は **12**)、**Enter** キーを押します。2番目のフィールドに、そのファンクション キーの現在の定義が表示されます。
3. 2番目のフィールドに、そのファンクション キーの新しい定義を入力します。これには、文字列、エスケープ シーケンス、または制御文字を含めることができます。

```
DEF F: 01 |f..... AID
```

制御文字は、それに相当するキーボード キーを入力することによって入力されます。たとえば、**CR** (キャリッジ リターン) 文字は、**Ctrl + M** キーを押すことによって入力されます。

**Ctrl + 2** キーを押すことによって、現在のカーソル位置にある文字を消去できます。初期設定の定義を復元する場合は、**Clear** キーを押します。

4. **Send** キーを押して、キー定義を保存します。次のキー定義を入力できるように、[Define F key] (ファンクション キーの定義) の行がクリアされます。定義を保存しない場合は、**Enter** キーの代わりに **Shift + Esc** キーを押します。

 **注記:** 各ファンクション キーには最大 128 文字を保存できます。この数に達するか、またはこの数を超えると、フィールド **A** が点滅し始め、128 番目の文字に続く文字はすべて破棄されます。

5. ファンクション キーの定義を完了するまで、手順 **2**～**4** を繰り返します。
6. [Define F key]の表示を終了するには、**Shift + Esc** キーを押します。

## セットアップ オプション

IBM 3151 エミュレーションは、**[IBM 3151 Settings]** (IBM 3151 の設定) ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定されます。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

**セッション ウィザードの使用 :**

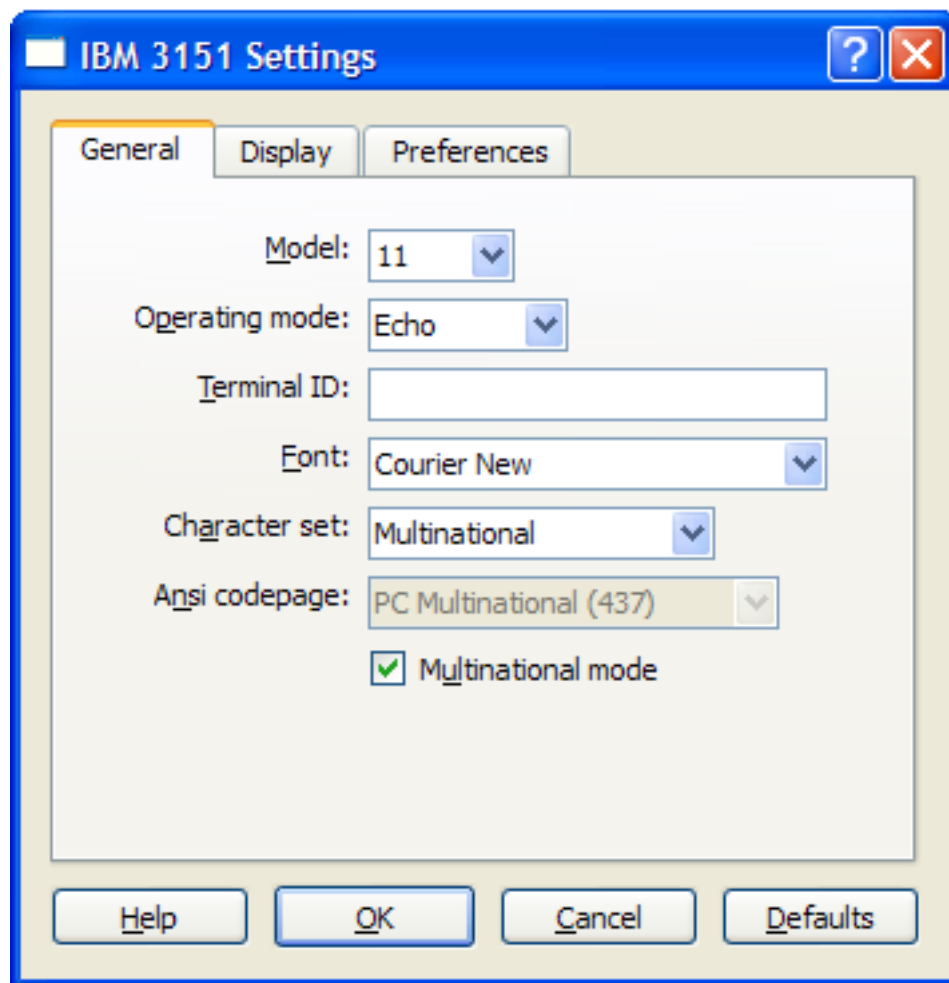
- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を **[IBM 3151]** に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

**TeemTalk ウィンドウの使用 :**

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]** → **[IBM 3151]** の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]** 一覧の **[IBM 3151]** を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[General]** (全般)、**[Display]** (ディスプレイ)、**[Preferences]** (設定) というラベルの付いた 3 つのタブにグループ化されています。

## 一般設定



- **Model** (モデル)

工場出荷時の設定 : 11

このオプションは、ホストからの端末 ID 要求に回答して、エミュレートされるターミナル モデルを識別します。【**Model 11**】(モデル 11) は、24 または 25 行×80 カラムが含まれる 1 つのビューポートのみをサポートします。【**Model 31**】(モデル 31) は、最大 3 つのビューポート (80 または 132 カラム幅) とパススルー印刷をサポートします。

- **Operating mode** (動作モード)

工場出荷時の設定 : [Echo] (エコー)

このオプションの設定によって、キーボードから入力されたデータがホストに送信されたり、画面に表示されたりする方法が決定されます。

- **[Echo]**モード。キーボードから入力されたデータは、ホストにのみ送信されます。その後、ホストがそのデータをディスプレイに戻す役割を果たします
- **[Character]**（文字）モード。キーボードから入力されたデータは、ホストとディスプレイに同時に送信されます。
- **[Block]**（ブロック）モード。キーボードから入力されたデータは表示され、ローカルで処理されるため、ホストに送信される前にデータのブロックを編集できます。

- **Terminal ID**（端末 ID）

工場出荷時の設定：未指定

端末 ID 要求に回答してホストに返される内容を指定します。端末 ID は、最大 20 文字の長さにすることができます。指定されたターミナルの一部の機能がサポートされない可能性があることに注意してください。

- **Font**（フォント）

工場出荷時の設定：[Courier New]

これにより、文字を表示するために使用されるフォントを指定できます。使用可能な設定は、インストールされているフォントによって異なります。

- **Character set**（文字セット）

工場出荷時の設定：[Multinational]（多国語）

これにより、文字を表示するために使用される文字セットを指定できます。

**[PC Ansi]**（PC ANSI）の設定では、**[Ansi codepage]**（ANSI コードページ）オプションで指定された PC（ANSI）文字セットが使用されます。

**[Iso Hebrew]**（ISO ヘブライ語）が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1** は、[Multinational]の 8 ビット モードおよび左から右への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F2** は、[National]（各国語）の 7 ビット モード（小文字の英字がヘブライ語として表示される）および右から左への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F3** は、左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

- **Ansi codepage**（ANSI コードページ）

工場出荷時の設定：[PC Multinational (437)]（PC 多国語（437））

このオプションは、**[Character set]**（文字セット）オプションが**[PC Ansi]**（PC ANSI）に設定されている場合に、表示のために使用する文字セットを指定します。

各コード ページは、2 つの文字テーブルで構成されます。最初のテーブルは、標準の ASCII 文字セットです。2 つ目のテーブルには、コード ページごとに異なる特殊文字が含まれています。

**[PC Hebrew (862)]** (PC ヘブライ語 (862)) が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1** は、[Multinational] (多国語) の 8 ビット モードおよび左から右への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F2** は、[National] (各国語) の 7 ビット モード (小文字の英字がヘブライ語として表示される) および右から左への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F3** は、左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

- **Multinational mode** (多国語モード)

工場出荷時の設定 : チェック済み

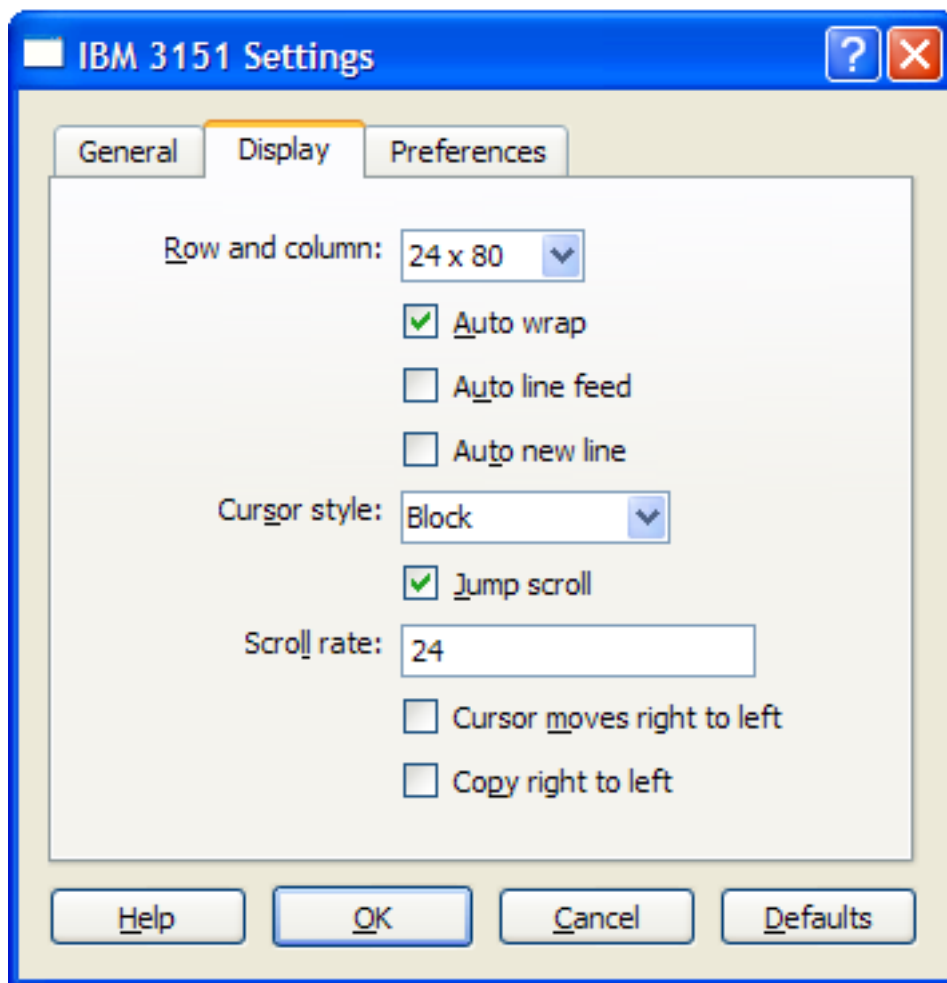
このオプションの設定によって、文字を生成するために使用される文字セットの種類が決定されます。

チェックを外すと、選択されたキーボード言語に固有の文字セットが使用される **[National]** (各国語) モードがアクティブになります。

チェックを入れると (初期設定)、2 つの文字テーブルからなる文字セットが使用される **[Multinational]** (多国語) モードがアクティブになります。これにより、任意のキーボード言語の文字を生成できます。



## ディスプレイの設定




- **Row and column** (行とコラム)

工場出荷時の設定 : 24 x 80

このオプションを使用すると、以下のいくつかの表示形式のどれかを選択できます。

行とコラムの設定	表示への影響
24 x 80	24 行×80 コラム
25 x 80	25 行×80 コラム
28 x 80	28 行×80 コラム
24 x 132	24 行×132 コラム
25 x 132	25 行×132 コラム
28 x 132	28 行×132 コラム

 **注記：** 表示形式を変更すると、表示の内容がクリアされます。

- **Auto wrap** (自動折り返し)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、現在の行の最後に達したときのカーソルの動作およびディスプレイに送信されるデータが決定されます。

チェックを入れると、カーソルは次の行の先頭に自動的に移動します。ブロック モードまたは書式設定されたページでは、このオプションの設定には関係なく、常にこのように動作することに注意してください。

チェックを外すと、カーソルは現在の行の最後にとどまり、新しい文字がディスプレイに送信されるたびに、その文字によってカーソル位置にある既存の文字が上書きされます。

- **Auto line feed** (自動ライン フィード)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定と、**[Auto new line]** (自動改行) オプションの設定の組み合わせによって、**Return** キーが押されるか、または **CR** 文字が受信されたときのカーソルの移動先が決定されます。

このオプションと **[Auto new line]** オプションの両方のチェックを外すと、**Return** キーが押されるか、または **CR** 文字が受信されたときに、カーソルは現在の行の最初の位置に移動します。

このオプションのチェックを外し、**[Auto new line]** オプションにチェックを入れると、**Return** キーが押されたときに、カーソルは次の行の最初の位置に移動します。

このオプションにチェックを入れ、**[Auto new line]** オプションのチェックを外すと、**Return** キーが押されるか、または **CR** 文字が受信されたときに、カーソルは次の行の最初の位置に移動します。

このオプションと **[Auto new line]** オプションの両方にチェックを入れると、**Return** キーが押されたときに、カーソルは次の行の後にある行の最初の位置に移動します。

- **Auto new line** (自動改行)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、**Return** キーを押したときの効果が決定されます。

チェックを外すと、**Return** キーによって、**CR** (キャリッジ リターン) 文字が生成されます。

チェックを入れると、**Return** キーによって、**CR** 文字と **LF** (ライン フィード) 文字が生成されます。

- **Cursor style** (カーソル スタイル)

工場出荷時の設定：**[Block]** (ブロック)

これにより、テキスト カーソルの表示方法を指定できます。**[Block]**、**[Underline]** (下線)、**[Static block]** (静的なブロック)、**[Static underline]** (静的な下線)、または **[None]** (なし) から選択します。

- **Jump scroll** (ジャンプ スクロール)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、ウィンドウがいっぱいになったときに、データが1行スクロールされるか、または一度に複数行スクロールされるかが決定されます。

チェックを入れると、下の[**Scroll rate**]（スクロール速度）設定に従って、データは一度に複数行上にスクロールされます。

- **Scroll rate**（スクロール速度）

工場出荷時の設定：24

これにより、上の[**Jump scroll**]（ジャンプ スクロール）オプションが選択されている場合にスクロールされる行数が決定されます。

- **Cursor moves right to left**（カーソルを右から左に移動する）

工場出荷時の設定：未チェック

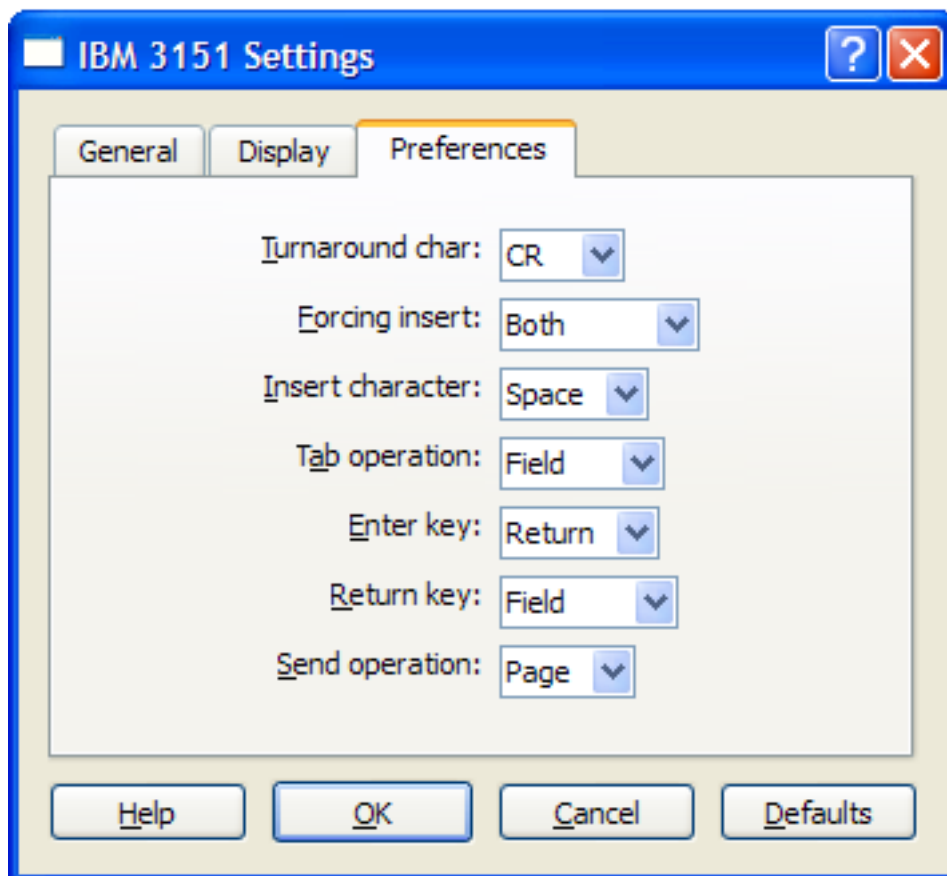
これにより、テキスト カーソルがディスプレイ上を移動する方向を変更できます。

- **Copy right to left**（右から左にコピーする）

工場出荷時の設定：未チェック

これにより、コピー コマンドを右から左の表示モードで動作させることができます。

## 設定



- **Turnaround char** (ターンアラウンド文字)

工場出荷時の設定 : CR

このオプションは、読み取りコマンドが受信されるか、またはどれかのブロック データ転送キーが押されたときに生成される行ターンアラウンド文字 (LTC) を指定します。[DC3]を選択すると、**XON/XOFF** の受信および送信ペースング文字が無効になることに注意してください。

- **Forcing insert** (強制挿入)

工場出荷時の設定 : [Both] (両方)

このオプションは、画面がいっぱいになっているときに、挿入コマンドが表示済みのデータに与える影響を指定します。

- **[Off]** (オフ) : 挿入操作を実行できません。
- **[Line]** (行) : たとえば **Ins Ln** キーを使用して、1 行または複数行を挿入できます。現在の行および以降のすべての行の内容が、挿入された行数だけ下に移動されるため、もともとディスプレイの下端にあった行が破棄されます。
- **[Character]** (文字) : 現在の行で 1 文字または複数文字を挿入できます。カーソル位置の右にある文字も一緒に移動されます。[Auto wrap] (自動折り返し) オプションが[No]

(いいえ)に設定されている場合は、もともと現在の行の最後にあった文字が破棄されます。  
[Yes] (はい)に設定されている場合は、以降のすべての行の文字も一緒に移動されるため、最後の行の最後にある文字が強制的に破棄されます。

- [Both] : [Line]と[Character]の設定の機能が有効になります。

- **Insert character** (挿入文字)

工場出荷時の設定 : [Space] (スペース)

このオプションの設定によって、**Insert** キーを押したときの効果が決定されます。

[Space]に設定されている場合は、現在のカーソル位置の後にスペースが挿入されます。

[Mode] (モード)に設定されている場合は、**Insert** キーが押されたときに、エミュレーションは挿入モードに入ります。

- **Tab operation** (タブ操作)

工場出荷時の設定 : [Field] (フィールド)

このオプションの設定によって、タブ ストップがフィールド属性文字またはカラム タブ定義のどちらに従うかが決定されます。

[Field]に設定されている場合、書式設定されたページ内のタブ ストップはフィールド属性文字によって指定されます。カラム タブ定義は無視されます。

[Column] (カラム)に設定されている場合、タブ ストップはカラム タブ定義によって指定されます。フィールド属性文字は無視されます。

このオプションを選択し、[Auto new line] (自動改行) のチェックを外すと、**Return** キーが押されるか、または **CR** 文字が受信されたときに、カーソルは次の行の最初の位置に移動しません。

このオプションと[Auto new line]オプションの両方を選択すると、**Return** キーが押されたときに、カーソルは次の行の後にある行の最初の位置に移動します。

- **Enter key** ([Enter]キー)

工場出荷時の設定 : [Return]

このオプションを使用すると、**Enter** キーが **Return** キーの機能または **Send** キーの機能のどちらを実行するかを指定できます。

- **Return key** ([Return]キー)

工場出荷時の設定 : [Field] (フィールド)

このオプションは、**Return** キーが押されたときに、保護されたフィールド内の行にカーソルが移動できるかどうかを指定します。

[Field]に設定されている場合、[Return]キーを押したときの結果は[Auto new line] (自動改行) オプションの設定によって決定され、カーソルは次の保護されていない行に移動します。

[New line] (改行)に設定されている場合、[Return]キーを押したときの結果は[Auto new line]オプションの設定によって決定されます。

- **Send operation** (送信操作)

工場出荷時の設定 : [Page] (ページ)

このオプションの設定によって、**Send** キーおよび **Send Line** キーを押したときの効果が決定されます。

**[Page]** に設定されている場合は、**Send** キーが押されたときに現在のページの内容がホストに送信され、**Send Line** キーが押されたときに現在の行の内容が送信されます。

**[Line]** (行) に設定されている場合は、**Send** キーが押されたときに現在の行の内容がホストに送信され、**Send Line** キーが押されたときに現在のページの内容が送信されます。

# 15 IBM 3270 ディスプレイ エミュレーション

この章では、IBM 3270 ディスプレイ エミュレーションの機能について説明します。

## IBM 3270 ディスプレイ エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、IBM 3270 ディスプレイ エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. [スタート]メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、[すべてのプログラム]→[HP]→[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]→[Session Wizard]（セッション ウィザード）の順に選択します。
2. [Session Name]（セッション名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. [Transport]（トランスポート）の方法を選択し、[Configure]（設定）ボタンをクリックして設定を指定します。
4. [Connection]（接続）の種類を選択し、[Configure]ボタンをクリックして設定を指定します。
5. [Emulation]（エミュレーション）一覧の[IBM3270 Display]（IBM3270 ディスプレイ）を選択し、[Configure]ボタンをクリックして設定を指定します（これらのオプションについては、[159 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します）。
6. [Next]（次へ）をクリックして、[Advanced Options]（詳細設定オプション）ダイアログを表示します。
7. [Next]をクリックして、[Finalization]（確定）ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、[Create icon on desktop for session]（デスクトップにセッションのアイコンを作成する）チェック ボックスにチェックを入れます。
9. [OK]をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、[File]（ファイル）メニュー

を表示し、[Open Session] (セッションを開く) を選択します。該当する.fts セッション ファイルの名前を選択し、[Open] (開く) をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから IBM 3270 ディスプレイ エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから [Session] (セッション) メニューを表示し、[Transport...] (トランスポート...) を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. [Session] メニューを表示し、[Connection...] (接続...) を選択して接続の方法を設定します。
3. [Session] メニューを表示し、[Emulation...] (エミュレーション...) を選択します。エミュレーションを [IBM3270 Display] (IBM3270 ディスプレイ) に設定します。
4. [Session] メニューで、関連する [Configure] (設定) オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。[Configure Emulation] (エミュレーションの設定) を選択することによって表示されるオプションは、[159 ページの「セッ トアップ オプション」](#)のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、[File] (ファイル) メニューを表示し、[Save Session As] (セッションに名前を付けて保存) を選択します。[File Name] (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、[Save] (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は.fts になります。
6. このセッションを実行するには、[File] メニューを表示し、[Open Session] (セッションを開く) を選択します。.fts セッション ファイルの名前を選択し、[Open] (開く) をクリックします。

## IBM 3270 ディスプレイ エミュレーションの機能

IBM 3270 ターミナル エミュレーションでは、強調表示されたフィールドの異なる表現や、テキストの色のホスト定義を指定できる拡張属性モードがサポートされています ([Attribute Settings] (属性設定) ダイアログを使用して色を変更することは可能ですが、このモードでは色が異なった方法でマッピングされるため、変更した色を保存できないことに注意してください)。このエミュレーションにはまた、ホストからのプロンプトを待つことなくデータの入力を続行できるように、先行入力機能も含まれています。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、[Tools] (ツール) メニューの [Key Macros...] (キー マクロ...) を選択して表示される [Key Macro Settings] (キー マクロの設定) ダイアログにある [Emulation Keys] (エミュレーション キー) 一覧を参照することによって特定できます。

右のカラムにあるかっこ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は **Shift** キーを、**C+**は **Control** キーを、**A+**は **Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。



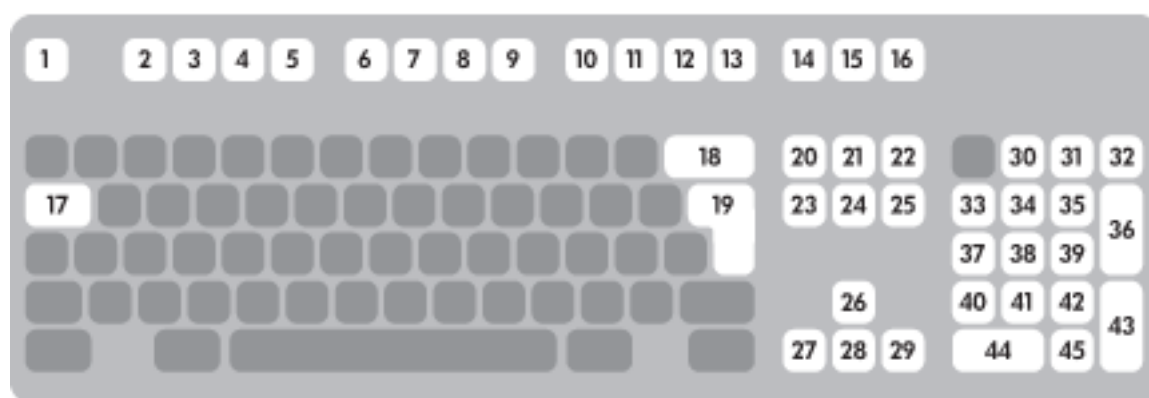
## IB\_ERASEINPUT (S+VK\_PAUSE)

これは、**Erase Input**の機能が、**Shift + Pause**というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

通常 IBM 3270 キーボード上にある特殊キーの機能は、**[Key Macro Settings]**ダイアログに一覧表示されている **IB** 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、IBM 3270 キーボードの機能が、101/102 キー キーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

**図 15-1** IBM 3270 ディスプレイ エミュレーションの 101/102 キー キーボード レイアウト



**表 15-1** IBM 3270 ディスプレイのキーボード マッピング


キー	キーモディファイア	判定	キー	キーモディファイア	判定
1	なし	RESET	24	なし	ERASE EOF
	Shift +	ATTN		Shift +	GO TO END OF LINE
	Alt +	QUIT		Alt +	ERASE INPUT
2	なし	F1	25	なし	PA2
	Shift +	F13		Shift +	COPY
				Alt +	RULE DISPLAY
3	なし	F2	26		CURSOR UP
	Shift +	F14			
	Alt +	NOTICE BOARD SETUP			
4	なし	F3	27	なし	CURSOR LEFT
	Shift +	F15		Alt +	PREVIOUS WORD
	Alt +	FN EDIT			

表 15-1 IBM 3270 ディスプレイのキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディファイア	判定	キー	キーモディファイア	判定
	なし	F4			
5	Shift +	F16	28		CURSOR DOWN
	Ctrl +	MONO CASE			
6	なし	F5	29	なし	CURSOR RIGHT
	Shift +	F17		Alt +	NEXT WORD
7	なし	F6	30	なし	/
	Shift +	F18		Shift +	REVERSE INPUT DIRECTION
8	なし	F7	31	なし	*
	Shift +	F19		Shift +	CLOSE (DELETE SPACE)
	Alt +	RECORD			
9	なし	F8	32	なし	SELECTABLE FIELD TAB
	Shift +	F20		Shift +	LOCAL NATIONAL MAP
	Alt +	PLAY		Shift + Ctrl +	PUSH MODE ON/OFF
				Shift + Ctrl + Alt +	ALTERNATE CODE PAGE +
10	なし	F9	33	なし	7
	Shift +	F21		Alt +	HOME
	Shift + Alt +	CURSOR SELECT			
11	なし	F10	34	なし	8
	Shift +	F22		Alt +	CURSOR UP
	Shift + Ctrl +	CURSOR FLASH ON/OFF			
	Alt +	DISPLAY ATTRIBUTES			
12	なし	F11	35	なし	9
	Shift +	F23		Alt +	PA1
	Shift + Ctrl +	CURSOR LINE/BLOCK			
13	なし	F12	36		+
	Shift +	F24			
14	なし	PRINT	37	なし	4
	Alt +	SYSREQ		Alt +	CURSOR LEFT
15	Alt +	TEST KEY TO HOST	38		5

表 15-1 IBM 3270 ディスプレイのキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディファイア	判定	キー	キーモディファイア	判定
16	なし	CLEAR	39	なし	6
	Shift +	ERASE INPUT		Alt +	CURSOR RIGHT
	Alt +	PAUSE			
	Shift + Alt + Ctrl +	DELAY 1 SECOND			
17	なし	TAB	40	なし	1
	Shift +	BACK TAB		Alt +	E EOF
	Ctrl +	FIELD TAB			
18	なし	BACKSPACE	41	なし	2
	Shift +	REVERSE SCREEN		Alt +	CURSOR DOWN
19		RETURN	42	なし	3
				Alt +	PA2
20	なし	INSERT	43		ENTER
	Shift +	DUPLICATE			
21	なし	HOME	44	なし	0
	Shift +	FIELD MARK		Alt +	INSERT
	Ctrl +	JUMP			
22	なし	PA1	45		.
	Shift +	PA3			
	Shift + Ctrl +	NOTICE BOARD COPY			
	Ctrl +	NOTICE BOARD JUMP			
23	Alt +	NOTICE BOARD ZOOM			
	なし	DELETE CHARACTER			
	Alt +	DELETE WORD			

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

## SysReq キーのサポート

[Telnet Options] (Telnet オプション) ダイアログで [SysReq] オプションが選択されている場合は、[SysReq] 機能にマッピングされているキーを使用すると、ホストのオペレーティング システム

とアプリケーションの間でディスプレイやキーボードの入力を切り替えることができます。これにより、オペレーティング システムに切り替え、LOGOFF コマンドを発行できます。

オペレーティング システムと通信している間、ステータス行には以下の記号が表示されます。



**注記：** すべての TN3270E サーバーが **SysReq** キーを完全にサポートしているわけではありません。

## ネットワーク仮想ターミナル モード

ネットワーク仮想ターミナル (NVT) モードを使用すると、オペレーターは完全な IBM ターミナル エミュレーション プロトコルが確立する前に、ネットワーク ゲートウェイと ASCII 形式で通信してルーティングやログオンなどを実行できます。

NVT モードの間、ステータス行には以下の記号が表示されます。



NVT モードでは、データ入力のための書式設定されていない画面が表示されるため、ほとんどのキーボード機能をローカル編集に使用できます。ただし、**Enter** キーが押されると、カーソルが置かれている行が **CR/LF** ターミネータを含む ASCII 文字列として Telnet を介して送信されます。その後、カーソルは次の行の先頭に置かれます。また、Telnet を介して受信された ASCII データも現在のカーソル位置に表示されます。**CR** 文字は「改行」文字として処理されるため、カーソルは次の行の先頭に移動し、必要に応じて表示がスクロールされます。

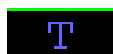
適切な詳細情報が入力されて IBM ホスト セッションが確立されると（これは自動的に実行される可能性があります）、画面がクリアされて完全な IBM3270 ターミナル エミュレーション モードに切り替わり、ステータス行に以下の記号が表示されます。



## ステータス行

IBM 3270 画面の最後の行は、ステータス情報を記号および英数字の形式で表示するために使用されます。

### 動作モードおよび通信



**T** は、Telnet セッションが実行中であることを示します。

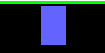



**?** は、オンラインになっているが、通信プロトコルが SNA (System Network Architecture) ではないことを示します。



**?** は、現在の画面がネットワーク仮想ターミナル画面であることを示します。この画面は、リモート ホストとの Telnet セッションが開始される前に IBM 3270 モードが開始されたときに表示さ

れます。この画面では、ログイン テキストを ASCII 形式で入力できます。ログオフすると、この画面に戻ります。


 は、現在の画面が IBM 3270 画面であることを示します。この画面は、ホストとの Telnet セッションを開始したときに表示されます。


 は現在、アプリケーションではなく、ホストのオペレーティング システムと通信していることを示します。


## 入力不可


キーボードまたはマウスからの入力 (**Reset** と **SysReq** を除く) をホストが受け付けないときは、×印の記号が表示されます。この右にある記号がその理由を示します。**Reset** キーを押すと、これらの記号の一部がステータス行から削除されます。

このエミュレーションには先行入力機能が搭載されているため、ほとんどの場合、入力できないことを示すメッセージがクリアされるまで待たなくてもデータ入力を続行できます。このとき、データはホストの準備が完了するまで格納されます。

 は、ホストからのデータにプログラミング エラーが検出されたことを示します。互換性のないアプリケーション ソフトウェアが原因として考えられます。このインジケータを削除し、キーボードのロックを解除するには、**Reset** キーまたは **SysReq** キーを押します。


 は、要求された機能が実行されている間、待つ必要があることを示します。


 は、数値ロック機能がアクティブなときに、数値フィールドに無効な文字を入力しようとしたことを示します。キーボードの数値ロック機能は、**Shift** キーを使用して上書きできます。**Reset** キーを押すことによって、キーボードのロックを解除し、インジケータを削除できます。

 は、間違った場所にデータを入力しようとしたことを示します。これは、以下のどれかを実行しようとした場合に発生します。

- 保護されたフィールド内、またはフィールド属性の位置にカーソルがあるときに、文字を入力、挿入、消去、または削除する。
- 有効なカーソル選択フィールド内にカーソルがないときに、カーソル選択操作を実行する。



**Reset** キーを押すことによって、キーボードのロックを解除し、インジケータを削除できます。

 は、入力の後、アプリケーション プログラムによってキーボードが無効にされたため、データを入力できないことを示します。


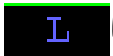
 は、カーソルがフィールドの最後にあるときに、保護されていないフィールドに文字を挿入しようとしたか、または行末での折り返しを有効にするための十分なスペースがないときに、次の行に折り返そうとしたことを示します。

**Reset** キーを押すことによって、キーボードのロックを解除し、インジケータを削除できます。


## 入力方向

  は、入力したときに画面上に文字が表示される方向を示します。方向は、キーパッドで **Shift** + / キーを押すことによって、左から右（通常）または右から左に切り替わります。


## バイリンガル キーボード モード

  は、バイリンガル キーボードをサポートするコード ページが選択されたときに、各国語文字セット（**N**）およびラテン文字セット（**L**）のどちらが有効になっているかを示します。キーパッドで **Shift** + - キーを押すと、2つの文字セットが切り替わります。

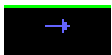
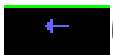
## 数値ロック

 は、数値ロック機能が有効になっていて、現在のカーソルが数値フィールド内にあることを示します。数値ロック機能が有効になっていて、保護されていないフィールド内に現在カーソルがあり、キーボードが小文字シフトのときは、**0~9**、小数点記号（.）、マイナス（-）、**Dup** キーのみを使用できます。

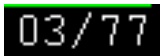
## 挿入モード

 は、キーボードが挿入モードになっていることを示します。カーソルの右側にある既存の文字が移動し、空いたスペースに新しい文字が入力されます。挿入モードを無効にするには、**Reset** キーまたは **SysReq** キーを押すか、あるいは **Enter**、**Clear**、**PA**、または **PF** などのキーを押してホストへのデータ送信の操作を実行します。

## 表示方向

  は、画面表示の方向を示します。右向き矢印は通常の左から右への表示であることを、左向き矢印は右から左へと表示する、左右が逆になった画面表示であることを示します。2つの表示方向は、**Shift** + **Backspace** キーを押すことによって切り替えることができます。

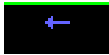
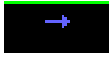
## カーソル位置

 は、テキスト カーソルの行位置とカラム位置を示します。

## テキスト表示オプション

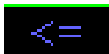
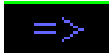
### 右から左に表示

**Shift** + **Backspace** キーを押すことによって、画面の内容を逆方向に（右から左へと左右が逆になった画面として）表示できます。これは切り替え機能であるため、キーをもう一度押すと通常の左から右への表示に戻ります。矢印が（行/カラム番号の横にある）ステータス行に表示され、通常表示（右向き矢印）と左右が逆になった表示（左向き矢印）のどちらになっているかを示します。



## 入力方向

入力したときに画面上に文字が表示される方向は、キーパッドで **Shift + /** キーを押すことによって、通常の左から右または右から左に切り替えることができます。以下の記号がステータス行に表示され、現在の入力方向を示します。



[**3270 Display Settings**] (3270 ディスプレイの設定) ダイアログの [**Display**] (ディスプレイ) タブで [**Symbol Swap**] (記号を入れ替える) オプションを選択すると、右から左への入力の際に丸括弧や山括弧などのテキスト記号が正しい方向で表示されるようになります。

## クローズ キー

テキストが同じ行または同じフィールド内で両方の入力方向モードを使用して入力されている場合、キーパッドで **Shift + \*** キーを押すことによって、右方向のテキストを強制的に左方向のテキストに結合させることができます。

## プッシュ モード

プッシュ モードを使用すると、画面の向きと反対方向で入力されているテキストを編集できます。このモードでは、カーソルが逆方向に動き、プッシュ セグメントが作成されます。プッシュ モードのオンとオフは、**Ctrl + Shift + -** (キーパッドのマイナス) キーを押すことによって切り替えます。

プッシュ モードには、境界モードと編集モードという 2 つのセカンダリ モードがあります。

境界モードは、プッシュ モードが開始されると有効になります。追加の文字を入力してもカーソルは現在の位置にとどまり、画面のテキストの表示方向とは反対の方向に押し出されます。

編集モードは、カーソルが境界位置からプッシュ セグメント領域に移動したときに有効になります。このモードでは、プッシュ セグメント内でテキストを編集でき、テキストはフィールドの通常の方向で入力されます。

## バイリンガル キーボードのサポート

バイリンガル キーボードをサポートするコード ページが選択されている場合は、キーパッドで **Shift + -** キーを押すことによって、各国語文字セットとラテン文字セットを切り替えることができます。**N** または **L** の文字がステータス行に表示され、どちらの文字セットが現在有効になっているかを示します。

[**3270 Display Settings**] (3270 ディスプレイの設定) ダイアログの [**Numeral Swap**] (数字を入れ替える) オプションを選択すると、ラテン文字セット モードのときにすべての数字が各国語文字セットで表示されます。

## 代替コード ページ

1つの言語が2つのコード ページ（たとえば、ヘブライ語（新コード）とヘブライ語（旧コード））でサポートされている場合は、テンキーで **Ctrl + Shift + Alt +-**キーを押すことによって、2つのコード ページを切り替えることができます。この機能は、**IB\_ALTCP** 仮想キー名を使用して別のキーまたはキーの組み合わせに割り当てることができます。

## キーストロークの記録および再生機能

キーストロークの記録/再生機能を使用すると、データを保存、取得、および表示するために **Fn** キーを使用して反復操作を行う必要がなくなります。**Fn** キーには合計で 1500 回分のキーストロークを保存できます。記録されている一連のキーストローク動作は途中で停止できるため、手動でキーストロークを入力してから記録または再生を続けることができます。ローカルの **Fn** キー機能は記録できません。

記録および再生を開始するために使用するキーと、キーボード上の任意のキーに割り当てるために使用できる、対応する仮想キーの名前は、以下のとおりです。

	101/102 キー キーボード	仮想キーの名前
<b>Record</b> (記録):	Alt + F7	IB_RECORD
<b>Pause</b> (一時停止):	Shift + Pause	IB_PAUSE
<b>Quit</b> (終了):	Alt + Escape	IB_QUIT
<b>Play</b> (再生):	Alt + F8	IB_PLAY
<b>Edit</b> (編集):	Alt + F3	IB_FEDIT

## キーストロークの記録

以下の手順では、キーストロークを記録する方法について説明します。

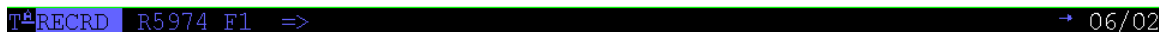
1. **Record** を押して、記録モードを開始します。




ステータス行に、**[RECRD]**という文字と、記録できる新しいキーストロークの数を示す **0~1500** の数字が表示されます。右側に表示される一連のボックスは、**Fn** キーを示します。黒い色のボックスは、その位置の **Fn** キーに、記録したキーストロークが現在保存されていることを示します。



2. キーストロークを保存する **Fn** キーを押します (101/102 キーボードでは、**Shift + Fn** も使用できます)。



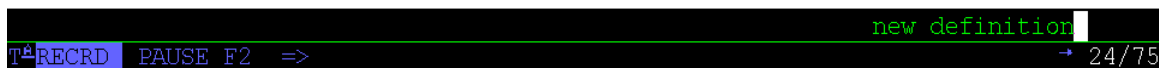
ステータス行に **[R\*\*\*\* F\*]** と表示されます。**R** は記録モードであることを、\*\*\*\* は保存できるキーストロークの数を、**F\*** は押されている **Fn** キーの番号を示します。


 **注記：** 以前に記録された **Fn** キーを押すと、記録されている内容が、これから記録するキーストロークに置き換えられます。また、**Delete** キーを押して **Fn** キーの内容を削除してから記録を開始することもできます。

3. 記録するキーストロークを入力します。



**Pause** を押すことによって、キーストロークが再生されているときにいつでも記録を停止し、手動でキーストロークを入力できます。記録を続けるには、もう一度 **Pause** を押します。



 **注記：** **Quit** キーを押すことによって、新しく記録したキーストロークをキャンセルできます。このキャンセルは、以前に記録したキーストロークには影響しません。

4. 記録を終了して保存するには、**Record** キーを押します。

## キーストロークの再生

**Fn** キーの内容を通常どおりに、または一度に1つのキーストロークを再生できます。以下の手順では、通常の再生について説明します。1つのキーストロークを再生する場合は、**[3270 Display Settings]** (3270 ディスプレイの設定) ダイアログの **[Notice Board Settings]** (Notice Board の設定) タブにある **[Single Step Macros]** (シングル ステップ マクロ) を選択します。

1. 再生を開始する場所にテキスト カーソルを置きます。

2. **Play** キーを押して、再生モードを開始します。

```
T▲PLAY P => F-KEY? ■■■■ ■■■■ ■■■■ → 24/61
```

ステータス行に、**[PLAY]**という文字と、**Fn** キーを示す一連のボックスが表示されます。黒い色のボックスは、その位置の **Fn** キーに、記録したキーストロークが現在保存されていることを示します。

3. 再生する記録済みデータが保存されている **Fn** キーを押します。

再生はすぐに開始され、ステータス行に**[P]**と表示されます。すべての記録済みキーストロークが自動的に再生されます。再生が完了すると、**[P]**の表示が消えます。

記録済みのキーストロークに **Pause** が含まれている場合、再生はその時点で停止し、手動でキーストロークを入力できます。**Play** を押すと、入力を停止した時点から再生が再開されます。

再生動作中にキャンセルする場合は、**Quit** キーを押します。

## マクロの編集

1. **Alt + F3** キーを押します。

```
T▲EDIT E => F-KEY? ■■■■ ■■■■ ■■■■ → 06/22
```

2. 編集するマクロが含まれている **Fn** キーを押します。

```
T▲ INS. | 5986 | F01 | 0001 | >>new definition<<
```

ステータス行に、**Fn** キー マクロに関する情報が以下のように表示されます。

- 現在のモードに応じて、**[EDIT]**または**[INSERT]**が表示されます。
  - 保存できる新しいキーストロークの数。
  - 現在の **Fn** キー番号。
  - マクロ内のカーソル位置（つまり、マクロの先頭からのキーストロークの数）。
  - マクロの内容。
3. 左または右カーソル キーを使用して、マクロ内のカーソルの文字位置を一度に1つずつ移動するか、または上または下カーソル キーを使用して一度に文字位置を20移動します。
  4. 必要に応じて、**Insert** キーを押して（ステータス行に示される）挿入モードと編集モードを切り替えます。
  5. マクロに必要な変更を加えます。

6. 編集した内容を保存するには、**Alt + F3** キーを押します。

7. **Quit** キーを押して終了します。

## エラー コード

記録または再生中にエラーが発生すると、以下のエラー コードがステータス行に表示される場合があります。

表 15-2 記録/再生のエラー コード

9001	記録できるキーストロークの最大数を超えました 対処方法： <b>Record</b> キーを押して、記録モードを終了します。新しいキーストローク シーケンスを記録するには、以下のどちらかの操作を行います
	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>Record</b> キーと、消去可能なデータが保存されている対象の <b>Fn</b> キーを押してから、新しいデータを入力します。または</li><li>● <b>Record</b> キーと、消去可能なデータが保存されている対象の <b>Fn</b> キーを押してから、<b>Delete</b> キーを押してそのキーの記録済みデータを消去します</li></ul>
9003	記録機能または再生機能の実行中に無効な <b>Fn</b> キーを押しました 対処方法： <b>Reset</b> キーを押します
9007	記録機能の実行中に無効なシーケンス キー（たとえば、Play）を押しました 対処方法： <b>Reset</b> キーを押します
9010	再生機能の実行中に、キーストロークが割り当てられていない <b>Fn</b> キーを押しました 対処方法： <b>Reset</b> キーを押します
9015	通信モードで、 <b>Quit</b> キーまたは <b>Pause</b> キーのどちらかを押しました 対処方法： <b>Reset</b> キーを押します
9019	記録モードまたは再生モードが有効な状態です。記録/再生の一時停止インジケータがステータス行に表示されていたときに、無効なキーを押しました（記録モードで Play キーを押したり、再生モードで Record キーを押したりするなど） 対処方法： <b>Reset</b> キーを押します

## Notice Board 機能

### はじめに

Notice Board は、コピーされたデータを保存したり、操作したりできる表示領域です。Notice Board は、**Alt + F2** キーを押すか、または[**3270 Display Settings**] (3270 ディスプレイの設定) ダイアログの[**Notice Board Settings**] (Notice Board の設定) タブにある[**Notice Board Enabled**] (Notice Board を有効にする) オプションを選択することによって表示できます ([168 ページの「Notice Board の設定」](#)を参照してください)。

Notice Board が有効になっている場合は、**Zoom** キーを押すと、全画面表示（つまり、現在カーソルが含まれている画面）モードと分割画面（ホスト画面と Notice Board）モードの間で表示が切り替

ります。[3270 Display Settings]ダイアログの[Notice Board Settings]タブにある[Zoom Settings]（ズームの設定）オプションによって、どちらの画面がもう一方の画面の上に表示されるかが決定されます。表示を見たとき、2つの画面の間の境界線の両端にあるポインターによって、どちらがホスト画面かが示されます。

## キーの機能

Notice Board 機能のために初期設定で使用されるキーと、キーボード上の任意のキーに機能を割り当てるために使用できる、対応する仮想キーの名前は、以下のとおりです。

	101/102 キー キーボード	仮想キーの名前
<b>NB Setup (NB の設定) :</b>	Alt + F2	IB_NB_SETUP
<b>Zoom (ズーム) :</b>	Alt + Page Up	IB_NB_ZOOM
<b>Jump (ジャンプ) :</b>	Ctrl + Page Up	IB_NB_JUMP
<b>NB Copy (NB のコピー) :</b>	Ctrl + Shift + Page Up	IB_NB_COPY
<b>Copy (コピー) :</b>	Shift + Page Down	IB_COPY

## 画面データのディスプレイへのコピー

1. テキスト カーソルを、コピーされる領域の先頭に置きます。
2. **Copy** キーを押してコピー機能を開始します。ステータス行に、使用可能なキーの機能が表示されることに注意してください。
3. カーソル キーを使用して、テキスト カーソルを、コピーされる表示領域の対角線上の反対側の角に移動します。現在選択されている領域が緑色で強調表示されます。**Return** キーを押すことによって、テキスト カーソルの位置を、選択されている領域の対角線上の反対側の2つの角の間で切り替えることができます。
4. **F13** キーを押して、選択されている領域をコピーします。コピーされた領域（つまり、対象領域）が赤色で強調表示されます。
5. カーソル キーを使用して、赤色の対象領域をディスプレイ上の必要な位置に移動します。また、**Jump** キーを使用して、対象領域をホスト画面または Notice Board に移動することもできます。
6. テンキーの **Enter** キーを押して、コピーされた領域をディスプレイ上の現在の位置に保存します。

## 画面データのファンクション キーへのコピー

以下の手順は、画面データをファンクション キーにコピーする方法を示しています。[3270 Display Settings] (3270 ディスプレイの設定) ダイアログには、この機能を有効にするかどうかや、選択されている領域内のすべての画面データ、またはユーザー入力フィールド内のデータのみ

どちらをコピーするかを決定するいくつかのオプションがあることに注意してください。詳しくは、[168 ページの「Notice Board の設定」](#)を参照してください。

1. テキスト カーソルを、コピーされる領域の先頭に置きます。
2. **Copy** キーを押してコピー機能を開始します。ステータス行に、使用可能なキーの機能が表示されることに注意してください。
3. カーソル キーを使用して、テキスト カーソルを、コピーされる表示領域の対角線上の反対側の角に移動します。現在選択されている領域が緑色で強調表示されます。**Return** キーを押すことによって、テキスト カーソルの位置を、選択されている領域の対角線上の反対側の 2 つの角の間で切り替えることができます。
4. **F14** キーを押して、選択されている領域をコピーします。
5. コピーされたデータを保存するために必要なファンクション キーを押します。
6. テンキーの **Enter** キーを押して、コピーされたデータを選択したファンクション キーに保存します。

## セットアップ オプション

IBM 3270 ディスプレイ エミュレーションは、**[3270 Display Settings]** (3270 ディスプレイの設定) ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定します。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用 :

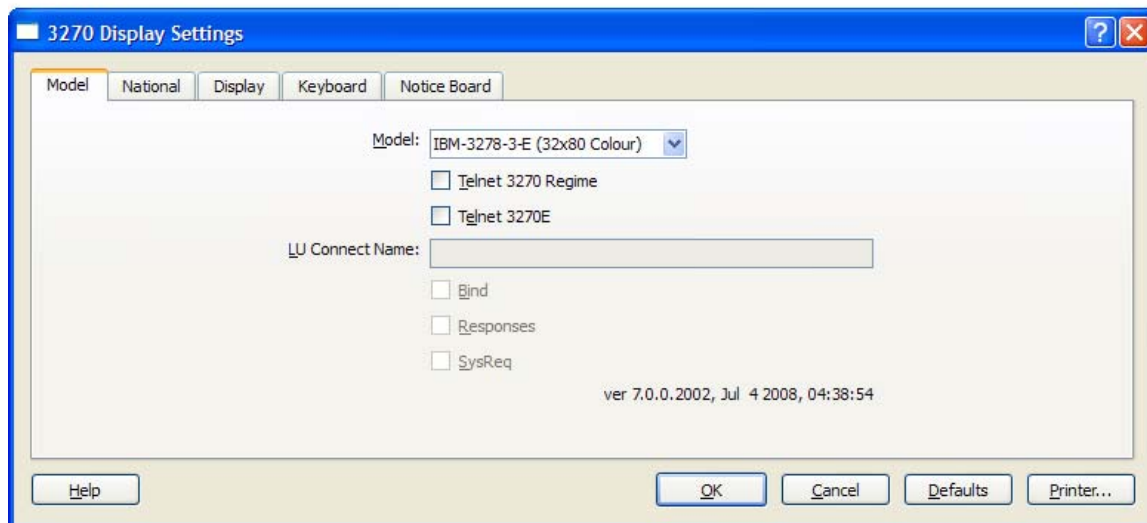
- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を**[IBM 3270 Display]** (IBM 3270 ディスプレイ) に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用 :

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]** → **[IBM 3270 Display]** の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]** 一覧の**[IBM 3270 Display]** を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[Model]** (モデル)、**[National]** (各国語)、**[Display]** (ディスプレイ)、**[Keyboard]** (キーボード)、**[Notice Board]** というラベルの付いた 5 つのタブにグループ化されています。

## モデルの設定



- **Model** (モデル)

工場出荷時の設定 : [IBM-3278-3-E (32x80 Colour)] (IBM-3278-3-E (32×80 カラー))

端末 ID 要求に 응답してホストに返される内容を指定します指定されたターミナルの一部の機能がサポートされない可能性があることに注意してください。

以下の 4 つの表示サイズのどれかを選択できます。

3278/9-2	24 行×80 カラム
3278/9-3	32 行×80 カラム
3278/9-4	43 行×80 カラム
3278/9-5	27 行×132 カラム

**E** 拡張の付いた **3278** の設定は、以下の拡張属性に対するサポートを提供します（これらは、**3279** では標準としてサポートされています）。

- 3270 のフィールド属性
- 強調表示の拡張

- 前景色
- クエリ応答受信構造化フィールド
- **Telnet 3270 Regime** (Telnet 3270 レジーム)
 

工場出荷時の設定：未チェック

Telnet 3270 レジームに対するサポートを有効にするには、このボックスにチェックを入れます。それ以外の場合、この機能は抑制されます。
- **Telnet 3270E**

工場出荷時の設定：未チェック

Telnet 3270E レジームに対するサポートを有効にするには、このボックスにチェックを入れます。それ以外の場合、この機能は抑制されます。
- **LU Connect Name** (LU 接続名)
 

Telnet セッションに割り当てるためにサーバーに要求するデバイス名を指定します。

デバイス名の後に**%s**を入力することによって、ローカル ホスト名を返すことができます。ユーザー名を返すには、デバイス名の後に**%u**を入力します。返される名前の文字数は1回ごとに指定できます。たとえば、**%.3s**にするとローカル ホスト名の最初の3文字が返され、**%-3s**にすると最後の3文字が返されます。

接続が続けて行われるたびに新しいデバイス名を自動的に割り当てるようにするには、名前の後に**%dN%** (Nは10進数値)を入力するか、または**%xN%** (Nは16進数値)を入力します。ホストがデバイス名を要求するたびに、デバイス名にカウンターが代入されます。ホストがそのデバイス名を使用中として拒否した場合、カウンターの値が、Nよりも小さい数のうち1ずつ増加し、それ以上の場合はNで割ったときの余りになります。すべての可能性が試されるまで名前が再試行されます。すべての可能性が試されると、エミュレーションはデバイス名拒否のエラーを報告します。

たとえば、**TEST%d4%**は、ホストがその名前を使用中として拒否するまで、すべての接続について**TEST1**になります。拒否された場合は、**TEST2**が使用されます。この名前がすでに使用されている場合は**TEST3**が使用され、それもすでに使用されていれば**[TEST0]**が使用されます。これらの値は電源を切断しても保持されるため、電源投入後の最初の接続が**TEST1**にはならない場合があります。最初の値はランダムに決定されることを想定してください。

TN3270E との接続に成功すると、接続に使用している LU デバイス名がステータス行に表示されます。指定したデバイスがサーバーまたはホストによって拒否された場合は、その理由を示すエラー メッセージ ボックスが表示されます。
- **Bind** (バインド)
 

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションにチェックを入れると、サーバーはエミュレーターに SNA バインド イメージおよびバインド解除通知を送信できます。
- **Responses** (レスポンス)
 

工場出荷時の設定：未チェック

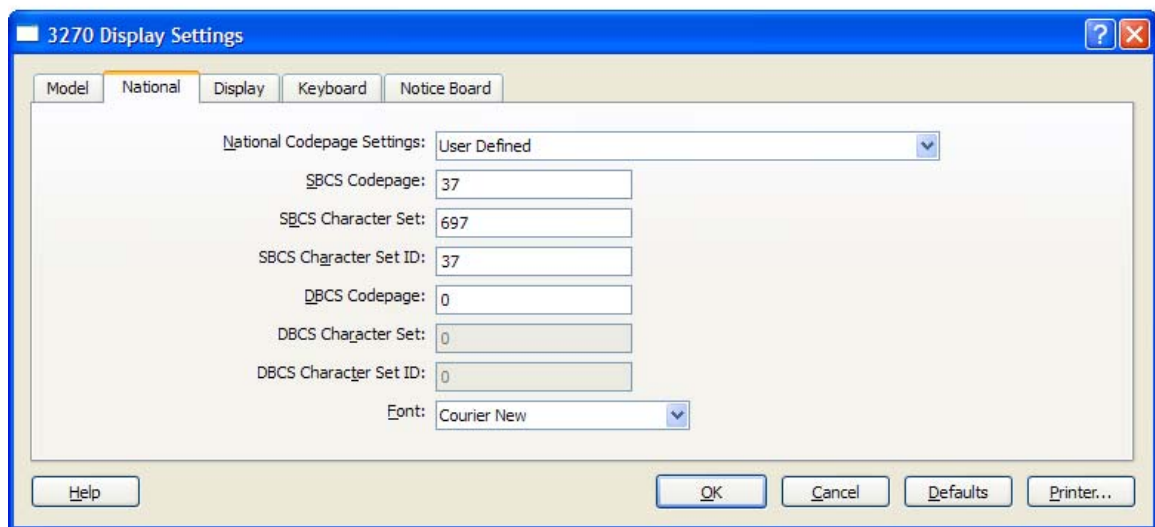
肯定的および否定的なレスポンス処理をサポートするには、このオプションにチェックを入れます。このオプションを使用すると、サーバーはホスト アプリケーションによって送信されるすべての明確な要求、例外の要求、およびレスポンスなしの要求をエミュレーターに反映できません。

- **SysReq**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションにチェックを入れると、**SysReq** キーの機能が有効になります。**SysReq** は一部のサーバーではサポートされていないか、または部分的にしかサポートされていない可能性があるため、SysReq キーの機能レベルはサーバーによって異なります。

## 各国語の設定



これらのオプションで、使用する文字セットを選択できます。1バイト文字セット（**SBCS**）用の入力と2バイト文字セット（**DBCS**）用の入力（サポートされている場合）がそれぞれ用意されています。これらのオプションの変更は、システム管理者のみが行ってください。変更されている設定を初期設定に戻す場合は、ダイアログの下部にある [**Defaults**]（初期設定）ボタンをクリックします。このセクションの最後にある表は、初期設定を示しています。

- **National Codepage Settings**（各国語コードページの設定）

工場出荷時の設定：[User Defined]（ユーザー定義）

ここでは、使用する各国語のコードページの種類を指定します。[**User Defined**]（ユーザー定義）を選択すると、以下のオプションを使用したコードページ、文字セット、および文字セットIDの手動での選択が有効になります。

- **SBCS Codepage**（SBCS コードページ） / **DBCS Codepage**（DBCS コードページ）

工場出荷時の設定：SBCS 37 - DBCS 0

ここでは、使用するコードページを数字で指定します。



- **SBCS Character Set** (SBCS 文字セット) / **DBCS Character Set** (DBCS 文字セット)  
工場出荷時の設定 : SBCS 697 - DBCS 0  
ここでは、使用する文字セットを数字で指定します。
- **SBCS Character Set ID** (SBCS 文字セット ID) / **DBCS Character Set ID** (DBCS 文字セット ID)  
工場出荷時の設定 : SBCS 37 - DBCS 0  
文字セット ID を指定します。
- **Font** (フォント)  
工場出荷時の設定 : [Courier New]  
これにより、文字を表示するために使用されるフォントを指定できます。使用可能な設定は、インストールされているフォントによって異なります。

**表 15-3 初期設定の言語、コードページ、および文字セットの設定**

言語	種類	コードページ	文字セット	CCSID
英語 (米国)	SBCS	37	697	37
英語 (英国)	SBCS	285	697	285
ベルギー語	SBCS	500	697	500
フランス語 (カナダ)	SBCS	37	697	37
デンマーク語	SBCS	277	697	277
フィンランド語	SBCS	278	697	278
ドイツ語	SBCS	273	697	273
オランダ語	SBCS	37	697	37
イタリア語	SBCS	280	697	280
フランス語 (スイス)	SBCS	500	697	500
ドイツ語 (スイス)	SBCS	500	697	500
スウェーデン語	SBCS	278	697	278
ノルウェー語	SBCS	277	697	277
フランス語	SBCS	297	697	297
スペイン語	SBCS	284	697	284
ポルトガル語	SBCS	37	697	37
日本語 (漢字+カタカナ)	SBCS	290	1172	290
	DBCS	300	1001	930
韓国語	SBCS	833	1173	833

**表 15-3 初期設定の言語、コードページ、および文字セットの設定 (続き)**

言語	種類	コードページ	文字セット	CCSID
	DBCS	834	934	933
簡体字中国語	SBCS	836	1174	836
	DBCS	837	937	937
繁体字中国語	SBCS	37	1175	37
	DBCS	835	935	935
ヘブライ語 (新コード)	SBCS	424	941	424
ヘブライ語 (旧コード)	SBCS	803	941	424
タイ語	SBCS	838	1176	838
ギリシャ語	SBCS	875	925	875
キリル文字	SBCS	880	960	880
トルコ語	SBCS	1026	1152	1026
ロシア語	SBCS	1025	1150	1025
チェコ語	SBCS	870	959	870
スロバキア語	SBCS	870	959	870
ポーランド語	SBCS	870	959	870
アイスランド語	SBCS	871	697	871
アラビア語	SBCS	420	697	285

**表 15-4 用意されている IBM EBCDIC コードページ**

コードページ	種類	国名
37	SBCS	米国、カナダ、オランダ、ポルトガル、ブラジル
273	SBCS	オーストリア、ドイツ
274	SBCS	ベルギー (旧)
277	SBCS	デンマーク、ノルウェー
278	SBCS	フィンランド、スウェーデン
280	SBCS	イタリア
284	SBCS	スペイン、ラテン アメリカ (スペイン語)
285	SBCS	英国
290	SBCS	日本語 (カタカナ)

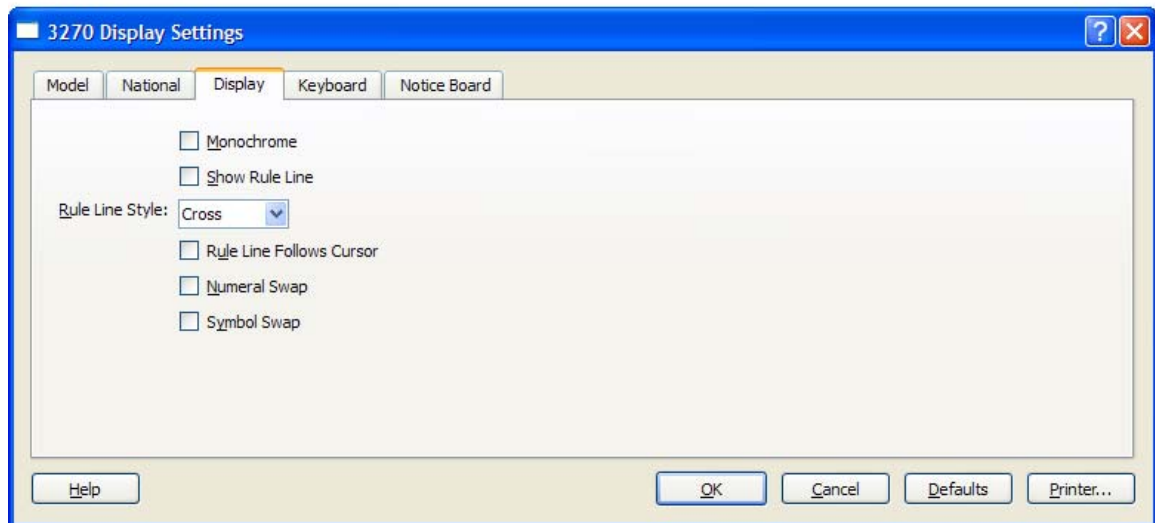
**表 15-4 用意されている IBM EBCDIC コードページ (続き)**

コードページ	種類	国名
297	SBCS	フランス
300	DBCS	日本語 (漢字)
420	SBCS	アラビア語
424	SBCS	ヘブライ語 (新コード)
500	SBCS	(ラテン 1) ベルギー、カナダ、スイス
803	SBCS	ヘブライ語 (旧コード)
833	SBCS	韓国語
834	DBCS	韓国語
835	SBCS	繁体字中国語
836	SBCS	簡体字中国語
837	DBCS	簡体字中国語
838	SBCS	タイ語
870	SBCS	(ラテン 2) チェコ語、スロバキア語、ポーランド語
871	SBCS	アイスランド語
875	SBCS	ギリシャ語
880	SBCS	キリル文字
905	SBCS	(ラテン 3) トルコ語 (旧)
1025	SBCS	ロシア語 (キリル文字)
1026	SBCS	(ラテン 5) トルコ語
1027	SBCS	日本語 (ラテン拡張)
1140	SBCS	(欧州) 米国、カナダ、オランダ、ポルトガル、ブラジル
1141	SBCS	(欧州) オーストリア、ドイツ
1142	SBCS	(欧州) デンマーク、ノルウェイ
1143	SBCS	(欧州) フィンランド、スウェーデン
1144	SBCS	(欧州) イタリア
1145	SBCS	(欧州) スペイン、ラテン アメリカ
1146	SBCS	(欧州) 英国
1147	SBCS	(欧州) フランス

表 15-4 用意されている IBM EBCDIC コードページ (続き)

コードページ	種類	国名
1148	SBCS	(欧州) ベルギー、カナダ、スイス
1149	SBCS	(欧州) アイスランド

## ディスプレイの設定



- **Monochrome** (モノクロ)

工場出荷時の設定：ターミナルの種類によって異なります


初期設定では、このオプションの設定は、選択した特定の IBM 3270 モデルで通常の表示文字となります。TeemTalk では、すべてのターミナル タイプがモノクロ表示とカラー表示の両方をサポートします。

モノクロが選択されている場合、文字は緑色で、強調表示されたフィールドは白色で表示されます。モノクロが選択されていない場合、[Attributes] (属性) ダイアログで指定した設定がディスプレイに使用されます。詳しくは、[54 ページの「表示属性」](#)の章を参照してください。

- **Show Rule Line** (罫線を表示する)

工場出荷時の設定：未チェック

これによって、カーソル位置でエミュレーション ワークスペースに罫線が表示されるかどうかが決まります。[Rule Line Style] (罫線スタイル) オプションの設定によって、水平、垂直、またはクロスのどれで表示されるのが決まります。

 **注記：** **Alt + Page Down** キーを押すことによって、罫線の表示のオンとオフを切り替えることもできます。

- **Rule Line Style** (罫線スタイル)

工場出荷時の設定 : [Cross] (クロス)

この設定によって、罫線が水平、垂直、またはクロスなどの形で表示されるかが決定されます。

- **Rule Line Follows Cursor** (罫線がカーソルを追随する)

工場出荷時の設定 : 未チェック

罫線がエミュレーション ワークスペースに表示されている場合、このオプションの設定によって、カーソルが動いたときに罫線がカーソルに追随するかどうか決定されます。

- **Numeral Swap** (数字を入れ替える)

工場出荷時の設定 : 未チェック

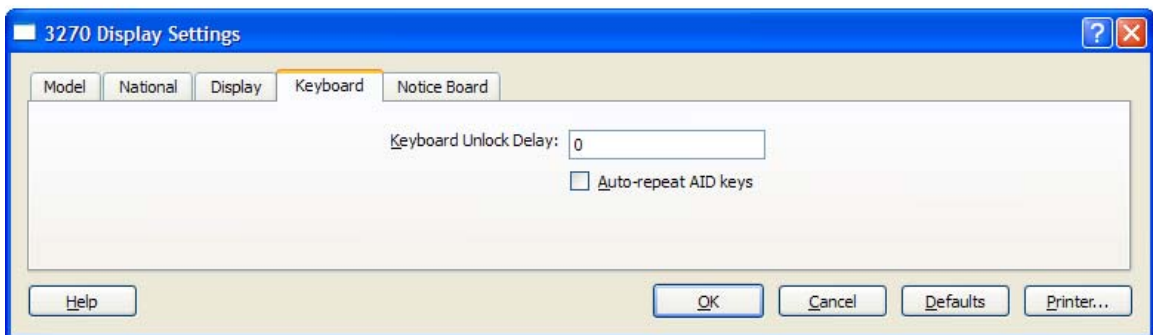
バイリンガル キーボードをサポートするコード ページを使用している場合、このオプションによって、ラテン モードのときにすべての数字が各国語文字セットを使用して表示されるようになります。

- **Symbol Swap** (記号を入れ替える)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションを選択すると、右から左への入力モードのときに括弧などの記号が正しい方向で表示されるようになります。

## キーボードの設定



- **Keyboard Unlock Delay** (キーボード ロック解除の遅延)

工場出荷時の設定 : 0

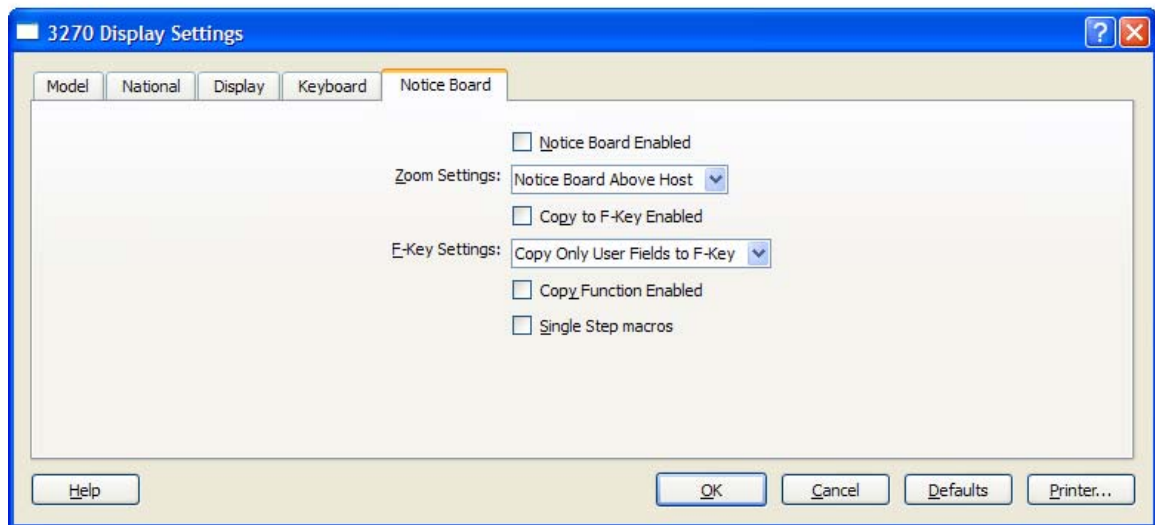
ホストによってキーボードがロック解除されたときに、文字が送信されるまでの遅延時間(ミリ秒)をここで指定します。

- **Auto-repeat AID Keys** ([AID]キーを自動的に繰り返す)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションを使用すると、AID キーだけのための自動繰り返しキー機能を無効にすることができます。

## Notice Board の設定



- **Notice Board Enabled** (Notice Board を有効にする)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションにチェックが入っている場合は、**Zoom** キーを押すと、全画面表示（つまり、現在カーソルが含まれている画面）モードと分割画面（ホスト画面と Notice Board）モードの間で表示が切り替わります。以下の [**Zoom Settings**]（ズームの設定）オプションによって、どちらの画面がもう一方の画面の上に表示されるかが決定されます。全画面表示または分割画面のどちらで表示されるかにかかわらず、ホスト画面には同じ行数とカラムが含まれていることに注意してください。

- **Zoom Settings**（ズームの設定）

工場出荷時の設定：[Notice Board Above Host]（Notice Board はホストの上）

これにより、Notice Board がホスト画面の上または下のどちらに表示されるかが決定されます。表示を見たとき、2つの画面の間の境界線の両端にあるポインターによって、どちらがホスト画面かが示されます。

- **Copy to F-Key Enabled**（ファンクション キーへのコピーを有効にする）

工場出荷時の設定：未チェック

これにより、画面データをファンクション キーにコピーする機能が有効になります。詳しくは、[158 ページの「画面データのファンクション キーへのコピー」](#)のセクションを参照してください。

- **F-Key Settings**（ファンクション キーの設定）

工場出荷時の設定：[Copy Only User Fields to F-Key]（ユーザー フィールドのみをファンクション キーにコピーする）

**[Copy Only User Fields to F-Key]**を選択すると、選択されている領域内のユーザー入力フィールドに含まれているデータのみをファンクション キーにコピーできます。

**[Copy All Data to F-Key]** (すべてのデータをファンクション キーにコピーする) を選択すると、選択されている領域 (保護されている領域および保護されていない領域) 内のすべての画面データをコピーできます。

詳しくは、[158 ページの「画面データのファンクション キーへのコピー」](#)のセクションを参照してください。

- **Copy Function Enabled** (コピー機能を有効にする)

工場出荷時の設定 : 未チェック

これにより、選択されたデータをディスプレイの別の領域またはファンクション キーにコピーするためにコピー機能を使用できるかどうかが決まります。

- **Single Step Macros** (シングル ステップ マクロ)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションを選択すると、**Fn** キーの再生コマンドを発行した後にキーストロークごとにスペースバーを押すことによって、**Fn** キー マクロを一度に1つのキーストロークだけ再生できます。ステータス行にはマクロの内容が表示され、ステータス行内のカーソル位置が、マクロの再生で到達した時点を示します。詳しくは、[155 ページの「キーストロークの再生」](#)のセクションを参照してください。

# 16 IBM 3270 プリンター エミュレーション

この章では、IBM 3270 プリンター エミュレーションの機能について説明します。

## IBM 3270 プリンター エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、IBM 3270 プリンター エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. [スタート]メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、[すべてのプログラム]→[HP]→[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]→[Session Wizard] (セッション ウィザード) の順に選択します。
2. [Session Name] (セッション名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. [Transport] (トランスポート) の方法を選択し、[Configure] (設定) ボタンをクリックして設定を指定します。
4. [Connection] (接続) の種類を選択し、[Configure] ボタンをクリックして設定を指定します。
5. [Emulation] (エミュレーション) 一覧の[IBM3270 Printer] (IBM3270 プリンター) を選択し、[Configure] ボタンをクリックして設定を指定します (これらのオプションについては、[172 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します)。
6. [Next] (次へ) をクリックして、[Advanced Options] (詳細設定オプション) ダイアログを表示します。
7. [Next] をクリックして、[Finalization] (確定) ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、[Create icon on desktop for session] (デスクトップにセッションのアイコンを作成する) チェック ボックスにチェックを入れます。
9. [OK] をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、[File] (ファイル) メニューを表示し、[Open Session] (セッションを開く) を選択します。該当する.tts セッション ファイルの名前を選択し、[Open] (開く) をクリックします。



## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから IBM 3270 プリンター エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから **[Session]** (セッション) メニューを表示し、**[Transport...]** (トランスポート...) を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]** メニューを表示し、**[Connection...]** (接続...) を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]** メニューを表示し、**[Emulation...]** (エミュレーション...) を選択します。エミュレーションを **[IBM3270 Printer]** (IBM3270 プリンター) に設定します。
4. **[Session]** メニューで、関連する **[Configure]** (設定) オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) を選択することによって表示されるオプションは、[172 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Save Session As]** (セッションに名前を付けて保存) を選択します。**[File Name]** (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]** (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は **.fts** になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]** メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## IBM 3287-1 プリンターのサポート

TN3287 での印刷は、**[3270 Printer Settings]** (3270 プリンターの設定) ダイアログにある **[Model]** (モデル) オプションを **[IBM-3287-1]** に設定することによってサポートされます。新しい Telnet 接続が確立されると、画面に現在のプリンター ステータスを示すメッセージ ボックスが表示されます。

印刷が開始されると **[Print Abort]** (印刷の中止) ボックスが表示され、印刷ジョブをキャンセルできるようになります。これにより、送信されている印刷データが停止されますが、ホストからは切断されないことに注意してください。

## セットアップ オプション

IBM 3270 プリンター エミュレーションは、**[3270 Printer Settings]** (3270 プリンターの設定) ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定されます。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用：

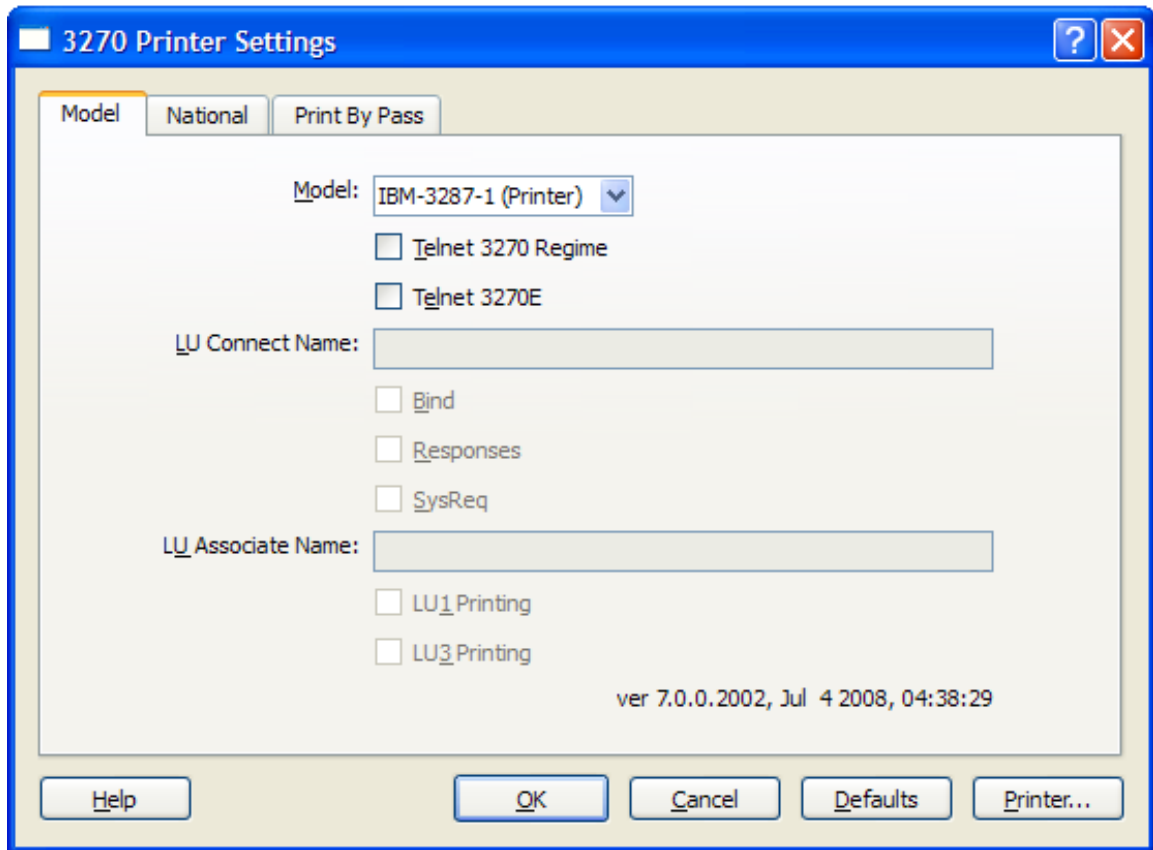
- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を**[IBM 3270 Printer]** (IBM3270 プリンター) に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用：

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]**→**[IBM 3270 Printer]**の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]**一覧の**[IBM 3270 Printer]**を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[Model]** (モデル)、**[National]** (各国語)、**[Print By Pass]** (印刷バイパス) というラベルの付いた 3 つのタブにグループ化されています。

## モデルの設定



- **Model** (モデル)  
工場出荷時の設定 : [IBM-3287-1 (Printer)] (IBM-3287-1 (プリンター))  
これにより、エミュレートする特定のプリンター モデルを指定できます。
- **Telnet 3270 Regime** (Telnet 3270 レジーム)  
工場出荷時の設定 : 未チェック  
このオプションを選択すると、Telnet 3270 レジームのサポートが抑制されます。
- **Telnet 3270E**  
工場出荷時の設定 : 未チェック  
このオプションを選択すると、TN3270E のサポートが抑制されます。
- **LU Connect Name** (LU 接続名)  
工場出荷時の設定 : 未指定

Telnet セッションに割り当てるためにサーバーに要求するデバイス名を指定します。これは、ターミナルまたはプリンター セッションのどちらかを要求するときに使用される可能性があります。

デバイス名の後に%**s**を入力することによって、ローカル ホスト名を返すことができます。ユーザー名を返すには、デバイス名の後に%**u**を入力します。返される名前の文字数は1回ごとに指定できます。たとえば、%**.3s**にするとローカル ホスト名の最初の3文字が返され、%**-.3s**にすると最後の3文字が返されます。

接続が続けて行われるたびに新しいデバイス名を自動的に割り当てるようにするには、名前の後に%**dN**% (**N**は10進数値)を入力するか、または%**xN**% (**N**は16進数値)を入力します。ホストがデバイス名を要求するたびに、デバイス名にカウンターが代入されます。ホストがそのデバイス名を使用中として拒否した場合、カウンターの値が、**N**よりも小さい数のうち1ずつ増加し、それ以上の場合は**N**で割ったときの余りになります。すべての可能性が試されるまで名前が再試行されます。すべての可能性が試されると、エミュレーションはデバイス名拒否のエラーを報告します。

たとえば、**TEST%d4**%は、ホストがその名前を使用中として拒否するまで、すべての接続について**TEST1**になります。拒否された場合は、**TEST2**が使用されます。この名前がすでに使用されている場合は**TEST3**が使用され、それもすでに使用されていれば**TEST0**が使用されます。これらの値は電源を切断しても保持されるため、電源投入後の最初の接続が**TEST1**にはならない場合があります。最初の値はランダムに決定されることを想定してください。

TN3270E との接続に成功すると、接続に使用している LU デバイス名がステータス行に表示されます。指定したデバイスがサーバーまたはホストによって拒否された場合は、その理由を示すエラー メッセージ ボックスが表示されます。

- **Bind** (バインド)

工場出荷時の設定：未チェック

これにより、サーバーがエミュレーターに SNA バインド イメージおよびバインド解除通知を送信できるかどうか決定されます。

- **Responses** (レスポンス)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションが選択されている場合は、肯定的および否定的なレスポンス処理がサポートされます。このオプションを使用すると、サーバーはホスト アプリケーションによって送信されるすべての明確な要求、例外の要求、およびレスポンスなしの要求をエミュレーターに反映できます。

- **SysReq**

工場出荷時の設定：未チェック

SNA 環境内にサーバーがあるときに、このオプションが選択されている場合は、**SysReq** キーの一部（または、サーバーによってはすべて）の機能がエミュレートされます。

- **LU Associate Name** (LU 関連名)

工場出荷時の設定：未指定

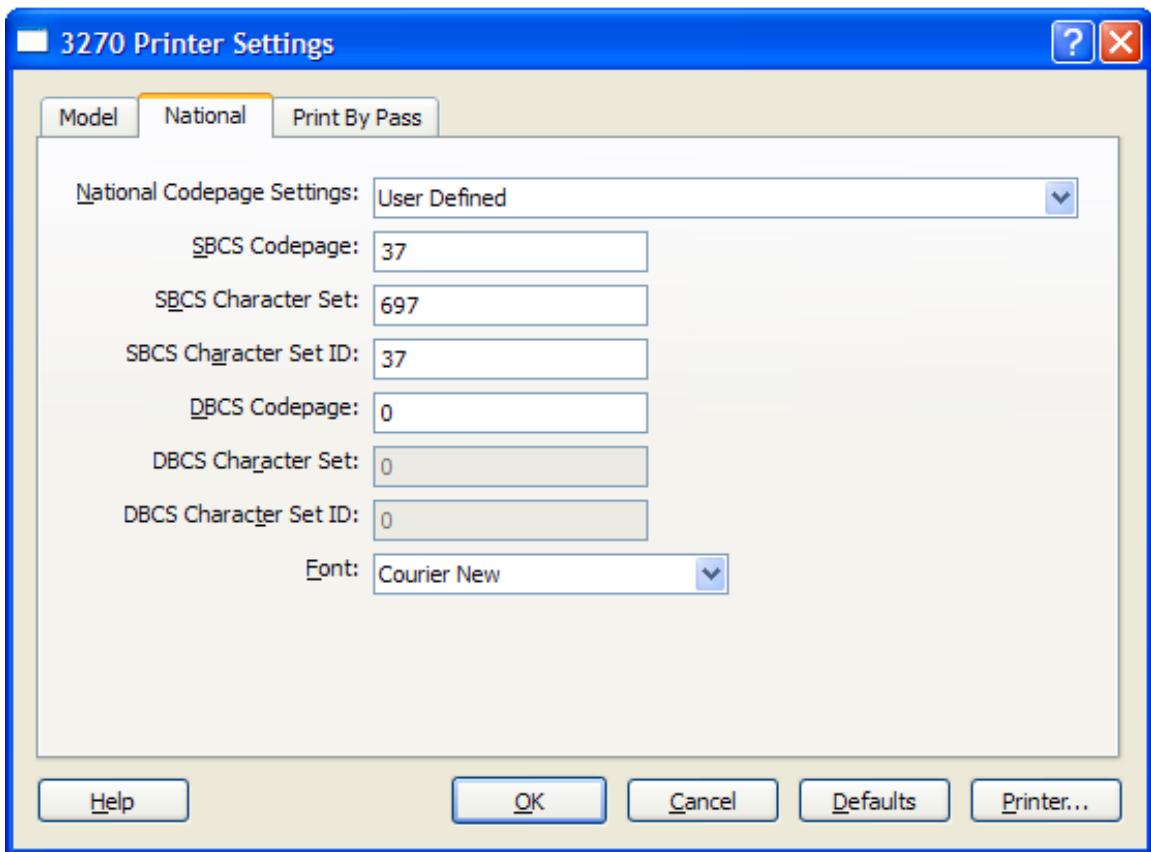
これにより、プリンターを関連付けるターミナルの名前を指定して、そのプリンターのデバイス名がこの Telnet セッションに割り当てられるようにすることができます。

- **LU1 Printing** および **LU3 Printing**

工場出荷時の設定：未チェック

これらのオプションは 3287-1 プリンターが選択されているときに適用され、サポートするプリンターの種類を指定できるようにします。

## 各国語の設定



これらのオプションで、使用する文字セットを選択できます。1 バイト文字セット (**SBCS**) 用の入力と 2 バイト文字セット (**DBCS**) 用の入力 (サポートされている場合) がそれぞれ用意されています。これらのオプションの変更は、システム管理者のみが行ってください。変更されている設定を初期設

定に戻す場合は、ダイアログの下部にある[Defaults]（初期設定）ボタンをクリックします。このセクションの最後にある表は、初期設定を示しています。

- **National Codepage Settings**（各国語コードページの設定）

工場出荷時の設定：[User Defined]（ユーザー定義）

ここでは、使用する各国語のコードページの種類を指定します。**[User Defined]**（ユーザー定義）を選択すると、以下のオプションを使用したコードページ、文字セット、および文字セット ID の手動での選択が有効になります。

- **SBCS Codepage**（SBCS コードページ）/**DBCS Codepage**（DBCS コードページ）

工場出荷時の設定：SBCS 37 - DBCS 0

ここでは、使用するコードページを数字で指定します。

- **SBCS Character Set**（SBCS 文字セット）/**DBCS Character Set**（DBCS 文字セット）

工場出荷時の設定：SBCS 697 - DBCS 0

ここでは、使用する文字セットを数字で指定します。

- **SBCS Character Set ID**（SBCS 文字セット ID）/**DBCS Character Set ID**（DBCS 文字セット ID）

工場出荷時の設定：SBCS 37 - DBCS 0

文字セット ID を指定します。

- **Font**（フォント）

工場出荷時の設定：[Courier New]

これにより、文字を表示するために使用されるフォントを指定できます。使用可能な設定は、インストールされているフォントによって異なります。

**表 16-1** 初期設定の言語、コードページ、および文字セットの設定

言語	種類	コードページ	文字セット	CCSID
英語（米国）	SBCS	37	697	37
英語（英国）	SBCS	285	697	285
ベルギー語	SBCS	500	697	500
フランス語（カナダ）	SBCS	37	697	37
デンマーク語	SBCS	277	697	277
フィンランド語	SBCS	278	697	278
ドイツ語	SBCS	273	697	273
オランダ語	SBCS	37	697	37
イタリア語	SBCS	280	697	280

**表 16-1 初期設定の言語、コードページ、および文字セットの設定 (続き)**

言語	種類	コードページ	文字セット	CCSID
フランス語 (スイス)	SBCS	500	697	500
ドイツ語 (スイス)	SBCS	500	697	500
スウェーデン語	SBCS	278	697	278
ノルウェー語	SBCS	277	697	277
フランス語	SBCS	297	697	297
スペイン語	SBCS	284	697	284
ポルトガル語	SBCS	37	697	37
日本語 (漢字+カタカナ)	SBCS	290	1172	290
	DBCS	300	1001	930
韓国語	SBCS	833	1173	833
	DBCS	834	934	933
簡体字中国語	SBCS	836	1174	836
	DBCS	837	937	937
繁体字中国語	SBCS	37	1175	37
	DBCS	835	935	935
ヘブライ語 (新コード)	SBCS	424	941	424
ヘブライ語 (旧コード)	SBCS	803	941	424
タイ語	SBCS	838	1176	838
ギリシャ語	SBCS	875	925	875
キリル文字	SBCS	880	960	880
トルコ語	SBCS	1026	1152	1026
ロシア語	SBCS	1025	1150	1025
チェコ語	SBCS	870	959	870
スロバキア語	SBCS	870	959	870
ポーランド語	SBCS	870	959	870
アイスランド語	SBCS	871	697	871
アラビア語	SBCS	420	697	285

**表 16-2 用意されている IBM EBCDIC コードページ**

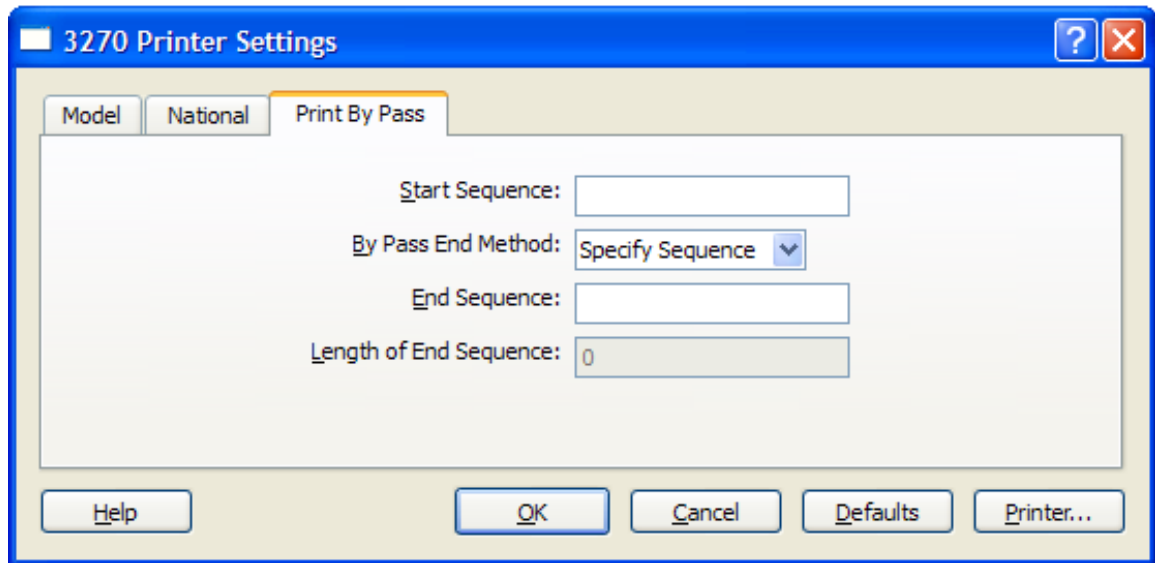
コードページ	種類	国名
37	SBCS	米国、カナダ、オランダ、ポルトガル、ブラジル
273	SBCS	オーストリア、ドイツ
274	SBCS	ベルギー（旧）
277	SBCS	デンマーク、ノルウェイ
278	SBCS	フィンランド、スウェーデン
280	SBCS	イタリア
284	SBCS	スペイン、ラテン アメリカ（スペイン語）
285	SBCS	英国
290	SBCS	日本語（カタカナ）
297	SBCS	フランス
300	DBCS	日本語（漢字）
420	SBCS	アラビア語
424	SBCS	ヘブライ語（新コード）
500	SBCS	（ラテン 1）ベルギー、カナダ、スイス
803	SBCS	ヘブライ語（旧コード）
833	SBCS	韓国語
834	DBCS	韓国語
835	SBCS	繁体字中国語
836	SBCS	簡体字中国語
837	DBCS	簡体字中国語
838	SBCS	タイ語
870	SBCS	（ラテン 2）チェコ語、スロバキア語、ポーランド語
871	SBCS	アイスランド語
875	SBCS	ギリシャ語
880	SBCS	キリル文字
905	SBCS	（ラテン 3）トルコ語（旧）
1025	SBCS	ロシア語（キリル文字）
1026	SBCS	（ラテン 5）トルコ語
1027	SBCS	日本語（ラテン拡張）



**表 16-2** 用意されている IBM EBCDIC コードページ (続き)

コードページ	種類	国名
1140	SBCS	(欧州) 米国、カナダ、オランダ、ポルトガル、ブラジル
1141	SBCS	(欧州) オーストリア、ドイツ
1142	SBCS	(欧州) デンマーク、ノルウェイ
1143	SBCS	(欧州) フィンランド、スウェーデン
1144	SBCS	(欧州) イタリア
1145	SBCS	(欧州) スペイン、ラテン アメリカ
1146	SBCS	(欧州) 英国
1147	SBCS	(欧州) フランス
1148	SBCS	(欧州) ベルギー、カナダ、スイス
1149	SBCS	(欧州) アイスランド

## 印刷バイパスの設定



- **Start Sequence** (開始シーケンス)

工場出荷時の設定：未指定

これにより、印刷バイパスを開始する文字または文字のシーケンスを入力できます。

文字はいくつかの方法で入力できます。たとえば、ASCII エスケープ文字を指定するには、**\_027**、**\u001B**、**\e**、**\033**、**^[**のどれかを入力できます。

- **By Pass End Method** (バイパスの終了方式)

工場出荷時の設定：[Specify Sequence] (シーケンスを指定する)

以下の印刷バイパスの方式から選択できます。**[Specify Sequence]**、**[Count in Header]** (ヘッダー内のカウント)、または**[End on Non-Hex]** (16 進以外で終了する)。

- **End Sequence** (終了シーケンス)

工場出荷時の設定：未指定

印刷バイパスの方式が**[Specify Sequence]** (シーケンスを指定する) に設定されている場合は、これにより、終了シーケンスを指定できます。

終了シーケンスの文字はいくつかの方法で入力できます。たとえば、ASCII エスケープ文字を指定するには、**\_027**、**\u001B**、**\e**、**\033**、**^[**のどれかを入力できます。

終了シーケンスが指定されている場合、開始と終了の間のデータ ストリーム内の文字はエンコードされた ASCII として解釈されます。たとえば、**1BOA** は ASCII 27 10 (**ESC LF**) になります。

終了シーケンスが指定されていない場合は、文字の 1 つのペアだけのためのバイパスと見なされます。

- **Length of End Sequence** (終了シーケンスの長さ)

工場出荷時の設定 : 0

印刷バイパスの方式が [**End on Non-Hex**] (16 進以外で終了する) に設定されている場合は、これにより、終了シーケンスの文字数を指定できます。バイパスは、終了シーケンスに続けて 16 進以外の文字 (0~9 および A~F の範囲を除く任意の文字) を受信するとすぐに終了します。

# 17 IBM 5250 ディスプレイ エミュレーション

この章では、IBM 5250 ディスプレイ エミュレーションの機能について説明します。

## IBM5250 ディスプレイ エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、IBM 5250 ディスプレイ エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. [スタート]メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、[すべてのプログラム]→[HP]→[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]→[Session Wizard] (セッション ウィザード) の順に選択します。
2. [Session Name] (セッション名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. [Transport] (トランスポート) の方法を選択し、[Configure] (設定) ボタンをクリックして設定を指定します。
4. [Connection] (接続) の種類を選択し、[Configure] ボタンをクリックして設定を指定します。
5. [Emulation] (エミュレーション) 一覧の[IBM5250 Display] (IBM5250 ディスプレイ) を選択し、[Configure] ボタンをクリックして設定を指定します (これらのオプションについては、[193 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します)。
6. [Next] (次へ) をクリックして、[Advanced Options] (詳細設定オプション) ダイアログを表示します。
7. [Next] をクリックして、[Finalization] (確定) ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、[Create icon on desktop for session] (デスクトップにセッションのアイコンを作成する) チェック ボックスにチェックを入れます。
9. [OK] をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、[File] (ファイル) メニュー

を表示し、**[Open Session]**（セッションを開く）を選択します。該当する**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]**（開く）をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから IBM 5250 ディスプレイ エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから**[Session]**（セッション）メニューを表示し、**[Transport...]**（トランスポート...）を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]**メニューを表示し、**[Connection...]**（接続...）を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]**メニューを表示し、**[Emulation...]**（エミュレーション...）を選択します。エミュレーションを**[IBM5250 Display]**（IBM5250 ディスプレイ）に設定します。
4. **[Session]**メニューで、関連する**[Configure]**（設定）オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]**（エミュレーションの設定）を選択することによって表示されるオプションは、[193 ページの「セッ アップ オプション」](#)のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、**[File]**（ファイル）メニューを表示し、**[Save Session As]**（セッションに名前を付けて保存）を選択します。**[File Name]**（ファイル名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]**（保存）をクリックします。セッション ファイルの拡張子は**.fts**になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]**メニューを表示し、**[Open Session]**（セッションを開く）を選択します。**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]**（開く）をクリックします。

## IBM5250 エミュレーションの機能

IBM 5250 ターミナル エミュレーションには、5250 タイプの英数字ターミナルをエミュレートできる機能があり、IBM AS/400、System/36、または System/38 を接続できます。

モノクロ（緑色/白色に加え、属性を使用した指定）およびカラーがサポートされています。色は**[Attribute Settings]**（属性設定）ダイアログを使用して変更できます。

先行入力機能が搭載されているため、ホストからのプロンプトを待つことなくデータ入力を続行できます。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、**[Tools]**（ツール）メニューの**[Key Macros...]**（キー マクロ...）を選択して表示される**[Key Macro Settings]**（キー マクロの設定）ダイアログにある**[Emulation Keys]**（エミュレーション キー）一覧を参照することによって特定できます。

右のカラムにあるカッコ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は **Shift** キーを、**C+**は **Control** キーを、**A+**は **Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

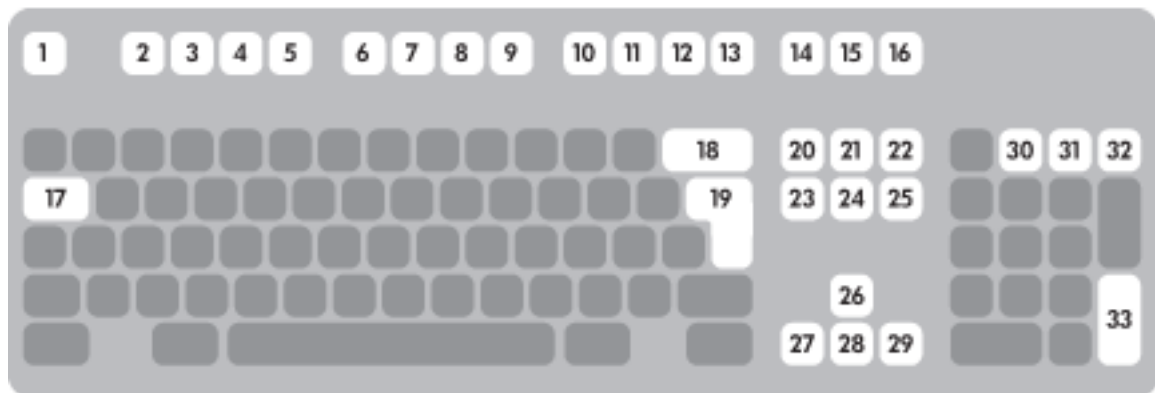
AS\_ERASEINPUT (A+VK\_PAUSE)

これは、**Erase Input** の機能が、**Alt + Pause** というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

通常 IBM 5250 キーボード上にある特殊キーの機能は、**[Key Macro Settings]**ダイアログに一覧表示されている **AS** 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、IBM 5250 キーボードの機能が、101/102 キー キーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

**図 17-1** IBM 5250 ディスプレイ エミュレーションの 101/102 キー キーボード レイアウト



**表 17-1** IBM5250 ディスプレイのキーボード マッピング


キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
1	なし	RESET	17	なし	TAB
	Shift +	ATTN		Shift +	BACK TAB
	Alt +	QUIT			
2	なし	F1	18	なし	BACKSPACE
	Shift +	F13		Shift +	REVERSE DISP
				Alt +	BACKSPACE (削除を行わない)
3	なし	F2	19	なし	FIELD EXIT
	Shift +	F14		Shift +	NEWLINE
4	なし	F3	20	なし	INSERT MODE
	Shift +	F15		Shift +	DUPLICATE
				Alt +	PA1

**表 17-1 IBM5250 ディスプレイのキーボード マッピング (続き)**

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
5	なし	F4	21	なし	HOME
	Shift +	F16		Shift +	FIELD MARK
	Alt +	RECORD KEYSTROKES		Alt +	PA2
	Ctrl +	MONO (モノクロ)			
6	なし	F5	22	なし	ROLL DOWN
	Shift +	F17		Alt +	PA3
	Alt +	PLAY KEYSTROKES			
7	なし	F6	23		DELETE
	Shift +	F18			
8	なし	F7	24	なし	ERASE EOF
	Shift +	F19		Shift +	END OF LINE
				Alt +	ERASE INPUT
9	なし	F8	25	なし	ROLL UP
	Shift +	F20		Alt +	RULE DISPLAY
10	なし	F9	26		CURSOR UP
	Shift +	F21			
	Ctrl +	CURSOR SELECT			
11	なし	F10	27	なし	CURSOR LEFT
	Shift +	F22		Shift +	CURSOR FAST LEFT
12	なし	F11	28		CURSOR DOWN
	Shift +	F23			
13	なし	F12	29	なし	CURSOR RIGHT
	Shift +	F24		Shift +	CURSOR FAST RIGHT
14	なし	PRINT	30	なし	/
	Shift +	SYSREQ		Shift +	REVERSE/NORMAL TOGGLE
	Ctrl +	LOCAL PRINT			
15	Alt +	TEST	31	なし	HELP
				Shift +	REVERSE CLOSE TEXT

表 17-1 IBM5250 ディスプレイのキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
16	なし	CLEAR	32	なし	FIELD MINUS
	Shift +	PAUSE		Shift +	LOCAL/GENERAL KEYBOARD
	Shift + Ctrl + Alt +	DELAY 1 SECOND		Shift + Ctrl +	PUSH MODE ON/OFF
			Shift + Ctrl + Alt +	ALTERNATE CODE PAGE	
			33	なし	ENTER
				Shift +	FIELD PLUS

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

## ネットワーク仮想ターミナル モード

ネットワーク仮想ターミナル (NVT) モードを使用すると、オペレーターは完全な IBM ターミナル エミュレーション プロトコルが確立する前に、ネットワーク ゲートウェイと (ASCII 形式で) 通信してルーティングやログオンなどを実行できます。NVT モードのときには、ステータス行に以下の記号が表示されません。



NVT モードではデータ入力用の書式設定されていない画面が表示されるため、単純な ASCII ターミナルとして基本的なキーボード機能を使用できます。データ キー以外の認識されるキーは、以下のとおりです。

- **Clear**  
画面を消去します
- **Enter**  
**CR** をホストに送信します
- **Newline**  
**CR** をホストに送信します
- **BackSpace**  
**BS** をホストに送信します
- **Tab**  
**HT** をホストに送信します




適切な詳細情報が入力されて IBM ホスト セッションが確立されると（自動的に実行されます）、画面がクリアされて完全な IBM5250 ターミナル エミュレーション モードに切り替わり、ステータス行に以下の記号が表示されます。





## ステータス行

IBM 5250 画面の最後の行は、ステータス情報を記号および英数字の形式で表示するために使用されます。


### 動作モードおよび通信

 **T** は、Telnet セッションが実行中であることを示します。



 は、現在の画面が IBM 5250 画面であることを示します。この画面は、ホストとの Telnet セッションを開始したときに表示されます。

 **M** は、1 つ以上のメッセージへのユーザーによる応答をシステムで待機していることを示します。

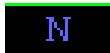
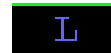
### 入力不可

 は、キーボードまたはマウスからの入力をホストが受け付けられないときに表示されます。エラー行に示されているとおりに、この原因がエラーの発生にあるときは、**Reset** キーを押すと、そのエラーが削除されます。または、**Help** キーを押すと詳細情報を取得できます。その他の使用できるキーは、**Attn**、**SysReq**、および **Print** のみです。このエミュレーションには先行入力機能が搭載されているため、ほとんどの場合、入力できないことを示すメッセージがクリアされるまで待たなくてもデータ入力を続行できます。このとき、データはホストの準備が完了するまで格納されます。


### 入力方向

  は、入力したときに画面上に文字が表示される方向を示します。方向は、キーパッドで **Shift +/** キーを押すことによって、左から右（通常）または右から左に切り替わります。

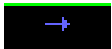
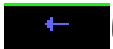
### バイリンガル キーボード モード

  は、バイリンガル キーボードをサポートするコード ページが選択されたときに、各国語文字セット（**N**）およびラテン文字セット（**L**）のどちらが有効になっているかを示します。キーパッドで **Shift +** キーを押すと、2 つの文字セットが切り替わります。


## 挿入モード

 は、キーボードが挿入モードになっていることを示します。カーソルの右側にある既存の文字が移動し、空いたスペースに新しい文字が入力されます。挿入モードを無効にするには、**Insert** キーをもう一度押すか、**Reset** キーを押すか、または **Enter**、**Clear**、**PF** などのキーを押してホストへのデータ送信の操作を実行します。

## 表示方向

  は、画面表示の方向を示します。右向き矢印は通常の左から右への表示であることを、左向き矢印は右から左へと表示する、左右が逆になった画面表示であることを示します。2つの表示方向は、**Shift + Backspace** キーを押すことによって切り替えることができます。

## カーソル位置

 は、テキスト カーソルの行位置とカラム位置を示します。

## FAX 画像のサポート

- **スクロール バー**  
割り当てられている画面領域よりも画像が大きい場合に表示されます。
- **EasyScroll**  
マウスで画像をドラッグしてスクロールできることを示す、IBM の用語です。
- **ズーム**  
画像の一部を強調表示して拡大し、割り当てられている領域全体にわたって表示されるようになります（縦横比は維持されます）。

回転や色調整などの追加機能はホストによって制御されます。

## ワード プロセッシング モード

IBM 5250 エミュレーションがワード プロセッシング モードになっているときは、以下のキーボード機能を使用できます。

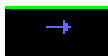
記号コマンド	<b>Alt + A</b>
太字の開始	<b>Alt + B</b>
テキストの中央揃え	<b>Alt + C</b>
次のテキスト カラム	<b>Alt + D</b>
半行下げ	<b>Alt + H</b>

強制タブ	<b>Alt + I</b>
属性の終了	<b>Alt + J</b>
停止コードの検索	<b>Alt + N</b>
新規ページの開始	<b>Alt + P</b>
強制ページ終了	<b>Alt + R</b>
停止コードの挿入	<b>Alt + S</b>
下線の開始	<b>Alt + U</b>
ワード単位で下線を引く	<b>Alt + W</b>
半行上げ	<b>Alt + Y</b>
行の開始	<b>Alt + Cursor Left</b>
行の終了	<b>Alt + Cursor Right</b>
ページの先頭	<b>Alt + Cursor Up</b>
ページの終了	<b>Alt + Cursor Down</b>
Carrier Return の挿入	<b>Alt + Field Exit</b>
強制スペース	<b>Alt + Space</b>

## テキスト表示オプション

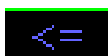
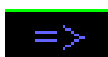
### 右から左に表示

**Shift + Backspace** キーを押すことによって、画面の内容を逆方向に（右から左へと左右が逆になった画面として）表示できます。これは切り替え機能であるため、キーをもう一度押すと通常の左から右への表示に戻ります。矢印が（行/カラム番号の横にある）ステータス行に表示され、通常表示（右向き矢印）と左右が逆になった表示（左向き矢印）のどちらになっているかを示します。



### 入力方向

入力したときに画面上に文字が表示される方向は、キーパッドで **Shift + /** キーを押すことによって、通常の左から右または右から左に切り替えることができます。以下の記号がステータス行に表示され、現在の入力方向を示します。



[5250 Display Settings] (5250 ディスプレイの設定) ダイアログの[Display] (ディスプレイ) タブで [Symbol Swap] (記号を入れ替える) オプションを選択すると、右から左への入力の際に丸括弧や山括弧などのテキスト記号が正しい方向で表示されるようになります。

## クローズ キー

テキストが同じ行または同じフィールド内で両方の入力方向モードを使用して入力されている場合、キーパッドで **Shift** +\*キーを押すことによって、右方向のテキストを強制的に左方向のテキストに結合させることができます。

## プッシュ モード

プッシュ モードを使用すると、画面の向きと反対方向で入力されているテキストを編集できます。このモードでは、カーソルが逆方向に動き、プッシュ セグメントが作成されます。プッシュ モードのオンとオフは、**Ctrl** + **Shift** +- (キーパッドのマイナス) キーを押すことによって切り替えます。

プッシュ モードには、境界モードと編集モードという 2 つのセカンダリ モードがあります。

境界モードは、プッシュ モードが開始されると有効になります。追加の文字を入力してもカーソルは現在の位置にとどまり、画面のテキストの表示方向とは反対の方向に押し出されます。

編集モードは、カーソルが境界位置からプッシュ セグメント領域に移動したときに有効になります。このモードでは、プッシュ セグメント内でテキストを編集でき、テキストはフィールドの通常の方法で入力されます。

## バイリンガル キーボードのサポート

バイリンガル キーボードをサポートするコード ページが選択されている場合は、キーパッドで **Shift** +-キーを押すことによって、各国語文字セットとラテン文字セットを切り替えることができます。**N** または **L** の文字がステータス行に表示され、どちらの文字セットが現在有効になっているかを示します。

[5250 Display Settings] (5250 ディスプレイの設定) ダイアログの[Display Settings] (ディスプレイ) タブで[Numeral Swap] (数字を入れ替える) オプションを選択すると、ラテン文字セット モードのときにすべての数字が各国語文字セットで表示されます。

## 代替コード ページ


1 つの言語が 2 つのコード ページ (たとえば、ヘブライ語 (新コード) とヘブライ語 (旧コード)) でサポートされている場合は、テンキーで **Ctrl** + **Shift** + **Alt** +-キーを押すことによって、2 つのコード ページを切り替えることができます。この機能は、**AS\_ALTCP** 仮想キー名を使用して別のキーまたはキーの組み合わせに割り当てることができます。

## キーストロークの記録および再生機能

キーストロークの記録/再生機能を使用すると、データを保存、取得、および表示するために **Fn** キーを使用して反復操作を行う必要がなくなります。**Fn** キーには合計で 1500 回分のキーストロークを保存できます。記録されている一連のキーストローク動作は途中で停止できるため、手動でキーストロークを入力してから記録または再生を続けることができます。ローカルの **Fn** キー機能は記録できません。

記録および再生を開始するために使用するキーと、キーボード上の任意のキーに割り当てるために使用できる、対応する仮想キーの名前は、以下のとおりです。

	101/102 キー キーボード	仮想キーの名前
<b>Record (記録)</b> :	Alt + F4	AS_RECORD
<b>Pause (一時停止)</b> :	Shift + Pause	AS_PAUSE
<b>Quit (終了)</b> :	Alt + Control (左)	AS_QUIT
<b>Play (再生)</b> :	Alt + F5	AS_PLAY

 **注記：** **Control (左)** が **Reset** キーとして定義されている場合、**Quit** は **Alt + Control (左)** となります。

## キーストロークの記録

以下の手順では、キーストロークを記録する方法について説明します。

1. **Record** を押して、記録モードを開始します。




ステータス行に、**[RECRD]**という文字と、記録できる新しいキーストロークの数を示す **0~1500** の数字が表示されます。右側に表示される一連のボックスは、**Fn** キーを示します。黒い色のボックスは、その位置の **Fn** キーに、記録したキーストロークが現在保存されていることを示します。

2. キーストロークを保存する **Fn** キーを押します (101/102 キーボードでは、**Shift + Fn** も使用できます)。



ステータス行に**[R\*\*\*\* F\*]**と表示されます。**R** は記録モードであることを、**\*\*\*\***は保存できるキーストロークの数を、**F\***は押されている **Fn** キーの番号を示します。


 **注記：** 以前に記録された **Fn** キーを押すと、記録されている内容が、これから記録するキーストロークに置き換えられます。また、**Delete** キーを押して **Fn** キーの内容を削除してから記録を開始することもできます。

3. 記録するキーストロークを入力します。



**Pause** を押すことによって、キーストロークが再生されているときにいつでも記録を停止し、手動でキーストロークを入力できます。一時停止モードは、ステータス行で以下の記号によって示されます。記録を続けるには、もう一度 **Pause** を押します。



 **注記：** **Quit** キーを押すことによって、新しく記録したキーストロークをキャンセルできます。このキャンセルは、以前に記録したキーストロークには影響しません。

4. 記録を終了して保存するには、**Record** キーを押します。

## キーストロークの再生

1. 再生を開始する場所にテキスト カーソルを置きます。
2. **Play** キーを押して、再生モードを開始します。



ステータス行に、**[PLAY]**という文字と、**Fn** キーを示す一連のボックスが表示されます。黒い色のボックスは、その位置の **Fn** キーに、記録したキーストロークが現在保存されていることを示します。

3. 再生する記録済みデータが保存されている **Fn** キーを押します

再生はすぐに開始され、ステータス行に**[P]**と表示されます。すべての記録済みキーストロークが自動的に再生されます。再生が完了すると、**[P]**の表示が消えます。

記録済みのキーストロークに **Pause** が含まれている場合、再生はその時点で停止し、手動でキーストロークを入力できます。**Play** を押すと、入力を停止した時点から再生が再開されます。

再生動作中にキャンセルする場合は、**Quit** キーを押します。

## エラー コード

記録または再生中にエラーが発生すると、以下のエラー コードがステータス行に表示される場合があります。

<b>9001</b>	記録できるキーストロークの最大数を超えました  対処方法： <b>Record</b> キーを押して、記録モードを終了します。新しいキーストローク シーケンスを記録するには、以下のどちらかの操作を行います
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Record</b> キーと、消去可能なデータが保存されている対象の <b>Fn</b> キーを押してから、新しいデータを入力します。または</li> <li>• <b>Record</b> キーと、消去可能なデータが保存されている対象の <b>Fn</b> キーを押してから、<b>Delete</b> キーを押してそのキーの記録済みデータを消去します</li> </ul>
<b>9003</b>	記録機能または再生機能の実行中に無効な <b>Fn</b> キーを押しました
<b>9007</b>	記録機能の実行中に無効なシーケンス キー（たとえば、 <b>Play</b> ）を押しました  対処方法： <b>Reset</b> キーを押します
<b>9010</b>	再生機能の実行中に、キーストロークが割り当てられていない <b>Fn</b> キーを押しました  対処方法： <b>Reset</b> キーを押します
<b>9015</b>	通信モードで、 <b>Quit</b> キーまたは <b>Pause</b> キーのどちらかを押しました  対処方法： <b>Reset</b> キーを押します
<b>9019</b>	記録モードまたは再生モードが有効な状態です。記録/再生の一時停止インジケーターステータス行に表示されていたときに、無効なキーを押しました（記録モードで <b>Play</b> キーを押したり、再生モードで <b>Record</b> キーを押したりするなど）  対処方法： <b>Reset</b> キーを押します

## セットアップ オプション

IBM 5250 ディスプレイ エミュレーションは、**[5250 Display Settings]**（5250 ディスプレイの設定）ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定します。このダイアログは、以下の3つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用：

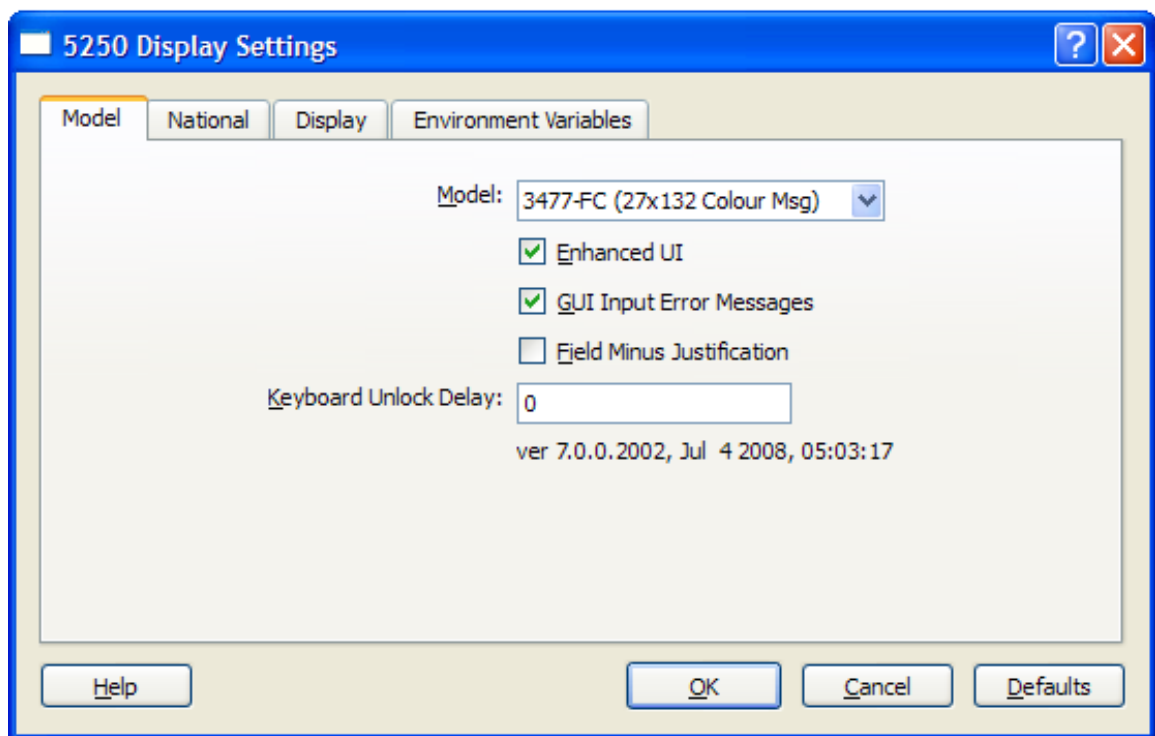
- **[Step 1]**（ステップ1）で、**[Emulation]**（エミュレーション）を**[IBM 5250 Display]**（IBM 5250 ディスプレイ）に設定し、**[Configure]**（設定）ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用：

- **[Session]**（セッション）メニューで、**[Emulation]**→**[IBM 5250 Display]**の順に選択し、**[Configure Emulation...]**（エミュレーションの設定...）を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]**一覧の**[IBM 5250 Display]**を選択し、**[Configure Emulation]**（エミュレーションの設定）をクリックします。

セットアップ オプションは、**[Model]**（モデル）、**[National]**（各国語）、**[Display]**（ディスプレイ）、**[Environment Variables]**（環境変数）というラベルの付いた4つのタブにグループ化されています。

## モデルの設定



- **Model** (モデル)

工場出荷時の設定 : [3477-FC (27x132 Colour Msg)] (3477-FC (27×132 カラー メッセージ))

端末 ID 要求に 응답してホストに返される内容を指定します指定されたターミナルの一部の機能がサポートされない可能性があることに注意してください。

ターミナル モデルおよびその表示特性は以下のとおりです。

5291_1	モノクロ	24×80
5292_2	カラー	24×80
5251_11	モノクロ	24×80
3179_2	カラー	24×80 (初期値)
3196_A1	モノクロ	24×80
3180_2	モノクロ	24×80 および 27×132
3477_FC	カラー	24×80 および 27×132
3477_FG	モノクロ	24×80 および 27×132
3486_BA	モノクロ	24×80
3487_HA	モノクロ	24×80



3487_HC	カラー	24×80
5555_B01	モノクロ	24×80
5555_C01	カラー	24×80

2 バイト文字セット（日本語など）がサポートされていて、その 2 バイト文字セットを使用する場合は、[5555\_B01]（モノクロ）または[5555\_C01]（カラー）を選択します。

- **Enhanced UI**（拡張された UI）

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションを選択すると、IBM 5250 拡張ユーザー インターフェイスによる画面上でのウィンドウ生成がサポートされます。メニューおよびスクロール バーはサポートされません。

- **GUI Input Error Messages**（GUI 入力エラー メッセージ）

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、ホストから送信されるエラー メッセージが 24 行目に表示されるのか、またはポップアップのエラー メッセージ ボックスに表示されるのが決定されます。このオプションを選択すると、24 行目がディスプレイに表示されない場合は、ホストのエラーメッセージをポップアップのメッセージ ボックスに表示できます。

- **Field Minus Justification**（Field Minus による調整）

工場出荷時の設定：未チェック

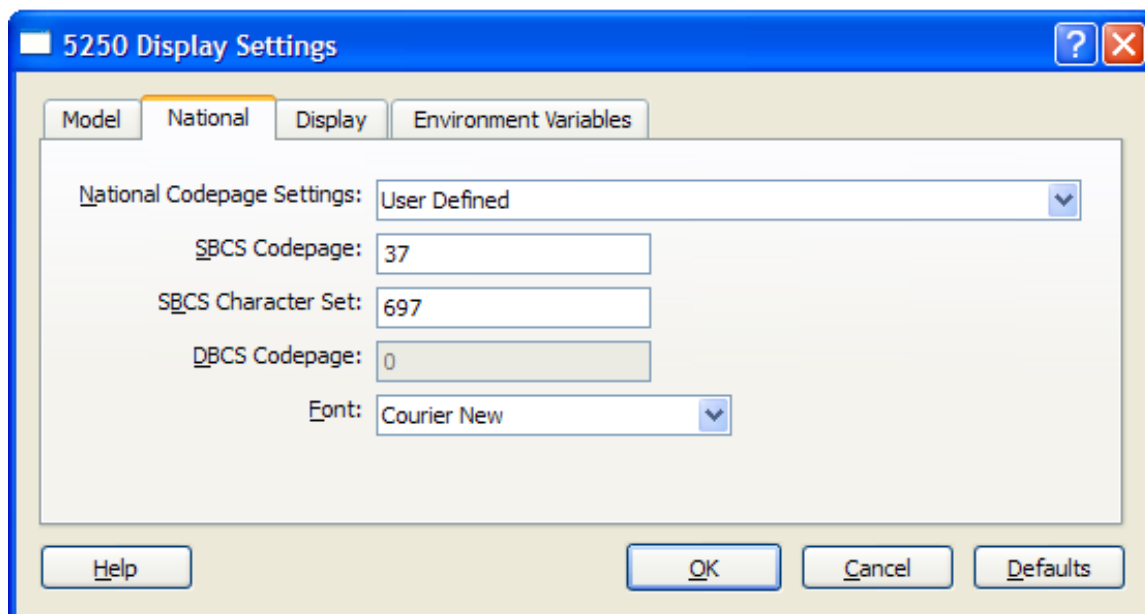
このオプションの設定によって、**Field Minus** キーを押した影響が最後の桁に及ぶか（チェックを外した場合）、または最後の桁の後に続くスペースに及ぶか（チェックを入れた場合）が決定されます。

- **Keyboard Unlock Delay**（キーボード ロック解除の遅延）

工場出荷時の設定： 0

ホストによってキーボードがロック解除されたときに、文字が送信されるまでの遅延時間（ミリ秒）をここで指定します。

## 各国語の設定



これらのオプションで、使用する文字セットを選択できます。1バイト文字セット（**SBCS**）用の入力と2バイト文字セット（**DBCS**）用の入力（サポートされている場合）がそれぞれ用意されています。これらのオプションの変更は、システム管理者のみが行ってください。変更されている設定を初期設定に戻す場合は、ダイアログの下部にある[**Defaults**]（初期設定）ボタンをクリックします。このセクションの最後にある表は、初期設定を示しています。

- **National Codepage Settings**（各国語コードページの設定）

工場出荷時の設定： [User Defined]（ユーザー定義）

ここでは、使用する各国語のコードページの種類を指定します。[**User Defined**]を選択すると、以下のオプションを使用して[**Codepage**]（コードページ）および[**Character Set**]（文字セット）を手動で選択できます。

- **SBCS Codepage**（SBCS コードページ）

工場出荷時の設定： 37

ここでは、使用する1バイト文字セットのコードページを数字で指定します。

- **SBCS Character Set**（SBCS 文字セット）

工場出荷時の設定： 697

ここでは、使用する1バイト文字セットを数字で指定します。

- **DBCS Codepage**（DBCS コードページ）

工場出荷時の設定： 0

ここでは、使用する 2 バイト文字セットのコードページを数字で指定します。

- **Font** (フォント)

工場出荷時の設定 : [Courier New]

これにより、文字を表示するために使用されるフォントを指定できます。使用可能な設定は、インストールされているフォントによって異なります。

**表 17-2 初期設定の言語、文字セット、およびコードページの設定**

言語	キーボードの種類	文字セット	1 バイト文字セットの コードページ	2 バイト文字セットの コードページ
英語 (米国)	USB	697	37	
英語 (英国)	UKB	697	285	
ベルギー語	BLI	697	500	
フランス語 (カナダ)	CAI	697	500	
デンマーク語	DMB	697	277	
フィンランド語	FNB	697	278	
ドイツ語	AGB	697	273	
オランダ語	NEB	697	37	
イタリア語	ITB	697	280	
フランス語 (スイス)	SFI	697	500	
ドイツ語 (スイス)	SGI	697	500	
スウェーデン語	SWB	697	278	
ノルウェー語	NWB	697	277	
フランス語	FAB	697	297	
スペイン語	SPB	697	284	
ポルトガル語	PRB	697	37	
日本語 (漢字+カタカナ)	JKB	1172	290	300
韓国語	KOB	1173	833	834
簡体字中国語	RCB	1174	836	837
繁体字中国語	TAB	1175	37	835
ヘブライ語 (新コード)	NCB	941	424	
ヘブライ語 (旧コード)		941	803	
タイ語	THB	1176	838	

**表 17-2** 初期設定の言語、文字セット、およびコードページの設定 (続き)

言語	キーボードの種類	文字セット	1 バイト文字セットの コードページ	2 バイト文字セットの コードページ
ギリシャ語	GNB	925	875	
キリル文字	CYB	960	880	
トルコ語	TRB	1152	1026	
ロシア語	RUB	1150	1025	
チェコ語	CSB	959	870	
スロバキア語	SKB	959	870	
ポーランド語	POB	959	870	
アイスランド語	ICB	697	871	
アラビア語		697	420	

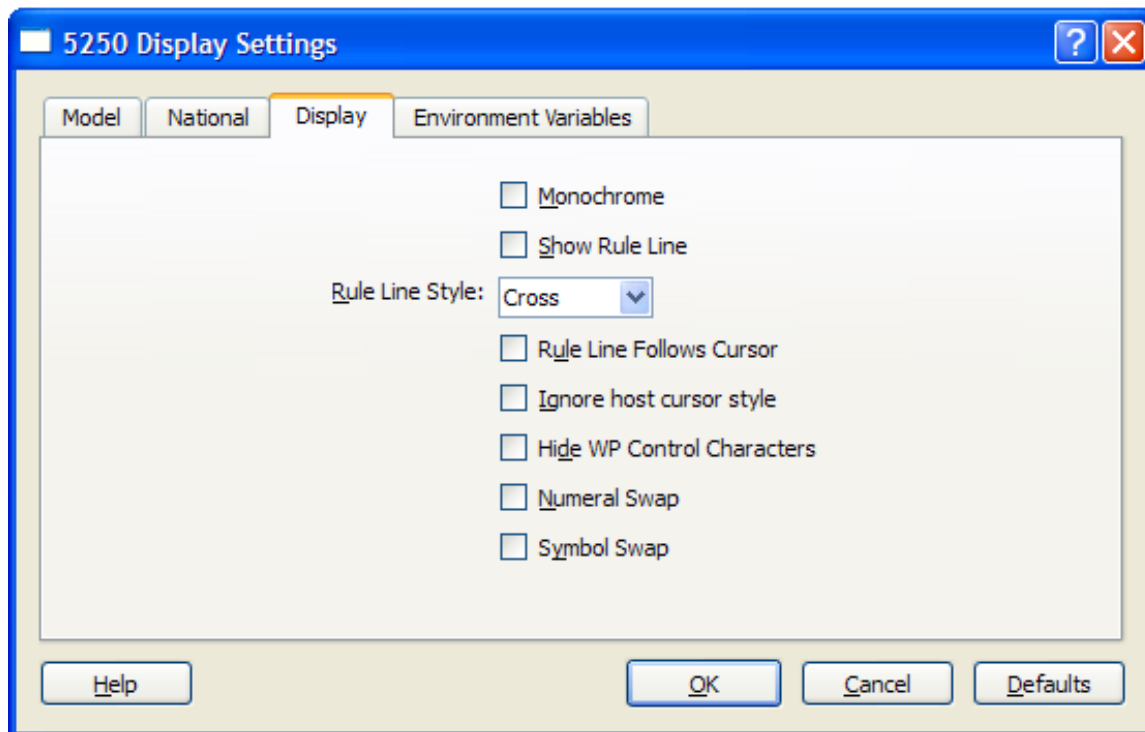
**表 17-3** 用意されている IBM EBCDIC コードページ

コードページ	種類	国名
37	SBCS	米国、カナダ、オランダ、ポルトガル、 ブラジル
273	SBCS	オーストリア、ドイツ
274	SBCS	ベルギー (旧)
277	SBCS	デンマーク、ノルウェイ
278	SBCS	フィンランド、スウェーデン
280	SBCS	イタリア
284	SBCS	スペイン、ラテン アメリカ (スペイン 語)
285	SBCS	英国
290	SBCS	日本語 (カタカナ)
297	SBCS	フランス
300	DBCS	日本語 (漢字)
420	SBCS	アラビア語
424	SBCS	ヘブライ語 (新コード)
500	SBCS	(ラテン 1) ベルギー、カナダ、スイス
803	SBCS	ヘブライ語 (旧コード)

**表 17-3** 用意されている IBM EBCDIC コードページ (続き)

コードページ	種類	国名
833	SBCS	韓国語
834	DBCS	韓国語
835	DBCS	繁体字中国語
836	SBCS	簡体字中国語
837	DBCS	簡体字中国語
838	SBCS	タイ語
870	SBCS	(ラテン 2) チェコ語、スロバキア語、ポーランド語
871	SBCS	アイスランド語
875	SBCS	ギリシャ語
880	SBCS	キリル文字
905	SBCS	(ラテン 3) トルコ語 (旧)
1025	SBCS	ロシア語 (キリル文字)
1026	SBCS	(ラテン 5) トルコ語
1027	SBCS	日本語 (ラテン拡張)
1140	SBCS	(欧州) 米国、カナダ、オランダ、ポルトガル、ブラジル
1141	SBCS	(欧州) オーストリア、ドイツ
1142	SBCS	(欧州) デンマーク、ノルウェイ
1143	SBCS	(欧州) フィンランド、スウェーデン
1144	SBCS	(欧州) イタリア
1145	SBCS	(欧州) スペイン、ラテン アメリカ
1146	SBCS	(欧州) 英国
1147	SBCS	(欧州) フランス
1148	SBCS	(欧州) ベルギー、カナダ、スイス
1149	SBCS	(欧州) アイスランド

## ディスプレイの設定



- **Monochrome** (モノクロ)

工場出荷時の設定：ターミナルの種類によって異なります


初期設定では、このオプションの設定は、選択した特定の IBM 5250 モデルで通常の表示文字となります。TeemTalk では、すべてのターミナル タイプがモノクロ表示とカラー表示の両方をサポートします。

モノクロが選択されている場合、文字は緑色で、強調表示されたフィールドは白色で表示されます。モノクロが選択されていない場合、[Attributes] (属性) ダイアログで指定した設定がディスプレイに使用されます。詳しくは、[54 ページの「表示属性」](#)の章を参照してください。

- **Show Rule Line** (罫線を表示する)

工場出荷時の設定：未チェック

これによって、カーソル位置でエミュレーション ワークスペースに罫線が表示されるかが決定されます。[Rule Line Style] (罫線スタイル) オプションの設定によって、水平、垂直、またはクロスのもので表示されるのが決定されます。

 **注記：** **Alt + Page Down** キーを押すことによって、罫線の表示のオンとオフを切り替えることもできます。

- **Rule Line Style** (罫線スタイル)

工場出荷時の設定：[Cross] (クロス)

この設定によって、罫線が水平、垂直、またはクロスなどの形で表示されるかが決定されます。

- **Rule Line Follows Cursor** (罫線がカーソルを追随する)

工場出荷時の設定：未チェック

罫線がエミュレーション ワークスペースに表示されている場合、このオプションの設定によって、カーソルが動いたときに罫線がカーソルに追従するかどうか決定されます。

- **Ignore Host Cursor Style** (ホスト カーソル スタイルを無視)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションを選択すると、TeemTalk はホストからのカーソル スタイル変更コマンドを無視します。

- **Hide WP Control Characters** (WP 制御文字を非表示)

工場出荷時の設定：未チェック

これにより、ワード プロセッシング文字の表示のオンとオフを切り替えることができます。

- **Numeral Swap** (数字を入れ替える)

工場出荷時の設定：未チェック

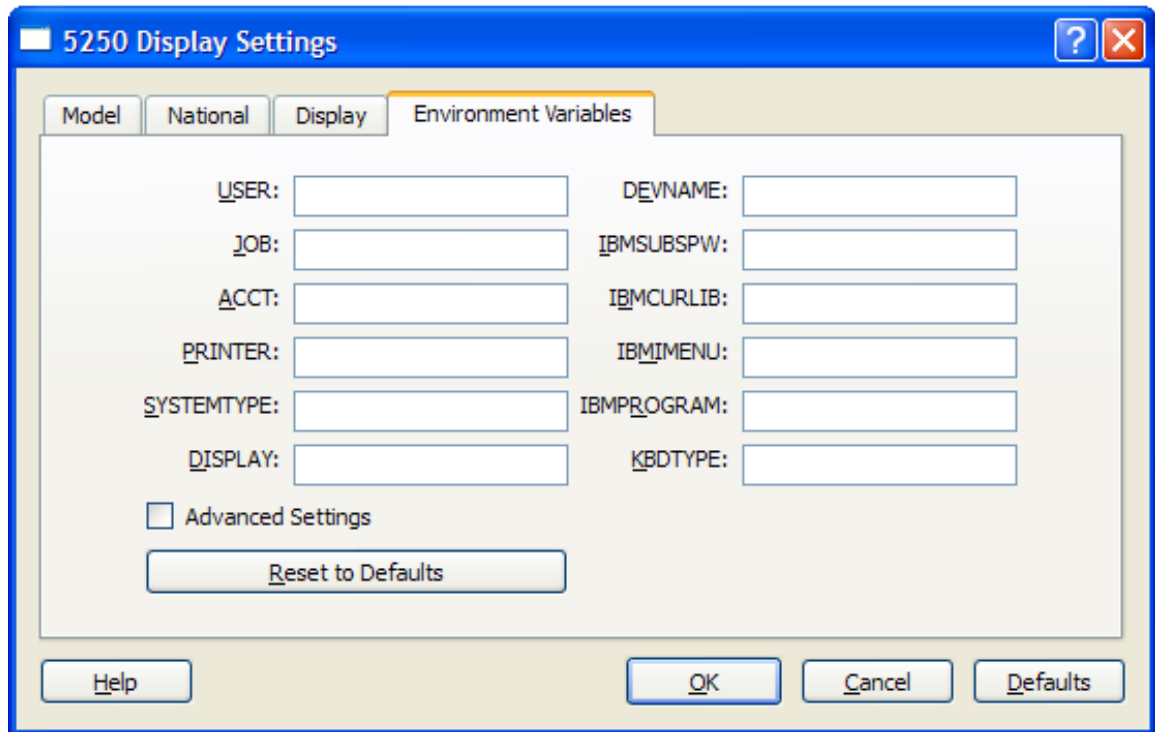
バイリンガル キーボードをサポートするコード ページを使用している場合、このオプションによって、ラテン モードのときにすべての数字が各国語文字セットを使用して表示されるようになります。

- **Symbol Swap** (記号を入れ替える)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションを選択すると、右から左への入力モードのときに括弧などの記号が正しい方向で表示されるようになります。

## 環境変数



- **USER**  
リモート システムへのログオンに使用するユーザー名またはアカウント名を指定します。
- **JOB**  
リモート システムにログインするときに使用するジョブ ID を指定します。
- **ACCT**  
リモート システムにログインするときに使用するアカウント ID を指定します。
- **PRINTER**  
プリンター出力の初期設定の場所を指定します。
- **SYSTEMTYPE**  
この変数を送信するシステムによって使用されるオペレーティング システムの種類を指定します。
- **DISPLAY**  
クライアントの X ディスプレイの位置を指定します。
- **DEVNAME**  
これにより、この Telnet セッションに割り当てるためにサーバーに要求するデバイス名を入力できます。



デバイス名の後に%**s**を入力することによって、ローカル ホスト名を返すことができます。ユーザー名を返すには、デバイス名の後に%**u**を入力します。返される名前の文字数は1回ごとに指定できます。たとえば、%**.3s**にするとローカル ホスト名の最初の3文字が返され、%**-.3s**にすると最後の3文字が返されます。

接続が続けて行われるたびに新しいデバイス名を自動的に割り当てるようにするには、名前の後に%**dN%** (Nは10進数値)を入力するか、または%**xN%** (Nは16進数値)を入力します。ホストによってデバイス名が要求されるたびに、カウンターの値が、Nよりも小さい数のうちは1ずつ増加し、それ以上の場合はNで割ったときの余りになります。このカウンターの値がデバイス名に代入されます。

たとえば、**TEST%d4%**の場合、最初の接続では**TEST1**が、2回目の接続では**TEST2**が、3回目の接続では**TEST3**が、4回目の接続では**TEST0**が、5回目の接続では**TEST1**が割り当てられます。

**TEST%d100%**の場合、最初の接続で**TEST1**が、2回目の接続で**TEST2**が割り当てられます。99回目の接続では**TEST99**が、100回目の接続では**TEST0**が、101回目の接続では**TEST1**が割り当てられます。

これらの値は電源を切断しても保持されるため、電源投入後の最初の接続が**TEST1**にはならない場合があります。最初の値はランダムに決定されることを想定してください。また、ユニットごとに単一のカウンターがあるため、同時実行セッションは連続する値で開始されます。たとえば、セッション1が**TEST1**を使用している場合、セッション2は**TEST2**を使用します。

デバイス名の不一致が発生した場合 (デバイス名がホスト上ですでに使用されている場合など) は、同じセッション中にホストによってデバイス名がもう一度確認されます。この場合は、1つの接続に対して**TEST1**、**TEST2**、...という順に試行が行われ、デバイス名のどれかがホストによって受け入れられるか、またはすべての可能性を試行するまで試行が繰り返されます。後者の場合、すべての名前が試行されたことをホストに通知するために、同じ名前が2回連続で送信されます。

受け入れ可能なデバイス名を以前のセッションがネゴシエーションする前に複数の5250セッションが同時に開始されると、2つのセッションが同時にカウンターにアクセスし、可能性のある名前の一部が各セッションで試行されなくなることがあります。このことによって問題が発生するのは、各セッションが異なる係数値を使用している場合 (たとえば、セッション1のデバイス名が**TEST%d4%**でセッション2のデバイス名が**ANOTHER%d100%**) か、または各セッションが異なるホストに接続している場合のみです。

- **IBMSUBSPW**

これによって、標準の起動画面で必要となる初期パスワード エントリを指定して、起動画面が表示されないように設定できます。このエントリは、最大10文字まで設定できます。

- **IBMCURLIB**

これによって、標準の起動画面で必要となる初期ライブラリ エントリを指定して、起動画面が表示されないように設定できます。このエントリは、最大10文字まで設定できます。

- **IBMMENU**

これによって、標準の起動画面で必要となる初期メニュー エントリを指定して、起動画面が表示されないように設定できます。このエントリは、最大10文字まで設定できます。

- **IBMPROGRAM**

これによって、実行する初期プログラムの名前を指定できます。このエントリは、最大 10 文字まで設定できます。

- **KBDTYPE**

ここでは、使用するキーボードの種類を指定します。

- **Advanced Settings** (詳細設定)

工場出荷時の設定：未チェック

チェックを入れると、**[Refresh]** (更新) ボタンおよび**[Value for Do Not Report]** (レポートなしの値) オプションが表示されます。

- **Value for Do Not Report** (レポートなしの値)

工場出荷時の設定： [!]

ここでは、環境変数がレポートされないことを示すために使用する文字列を指定します。

# 18 IBM 5250 プリンター エミュレーション

この章では、IBM 5250 プリンター エミュレーションの機能について説明します。

## IBM5250 プリンター エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、IBM 5250 プリンター エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. **[スタート]**メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]**（セッション ウィザード）の順に選択します。
2. **[Session Name]**（セッション名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. **[Transport]**（トランスポート）の方法を選択し、**[Configure]**（設定）ボタンをクリックして設定を指定します。
4. **[Connection]**（接続）の種類を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します。
5. **[Emulation]**（エミュレーション）一覧の**[IBM5250 Printer]**（IBM5250 プリンター）を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します（これらのオプションについては、[206 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します）。
6. **[Next]**（次へ）をクリックして、**[Advanced Options]**（詳細設定オプション）ダイアログを表示します。
7. **[Next]**をクリックして、**[Finalization]**（確定）ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**[Create icon on desktop for session]**（デスクトップにセッションのアイコンを作成する）チェック ボックスにチェックを入れます。
9. **[OK]**をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、**[File]**（ファイル）メニューを表示し、**[Open Session]**（セッションを開く）を選択します。該当する**.fts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]**（開く）をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから IBM 5250 プリンター エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから **[Session]** (セッション) メニューを表示し、**[Transport...]** (トランスポート...) を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]** メニューを表示し、**[Connection...]** (接続...) を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]** メニューを表示し、**[Emulation...]** (エミュレーション...) を選択します。エミュレーションを **[IBM5250 Printer]** (IBM5250 プリンター) に設定します。
4. **[Session]** メニューで、関連する **[Configure]** (設定) オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) を選択することによって表示されるオプションは、[206 ページの「セットアップ オプション」](#) のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Save Session As]** (セッションに名前を付けて保存) を選択します。**[File Name]** (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]** (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は **.fts** になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]** メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## セットアップ オプション

IBM 5250 プリンター エミュレーションは、**[5250 Printer Settings]** (5250 プリンターの設定) ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定されます。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用：

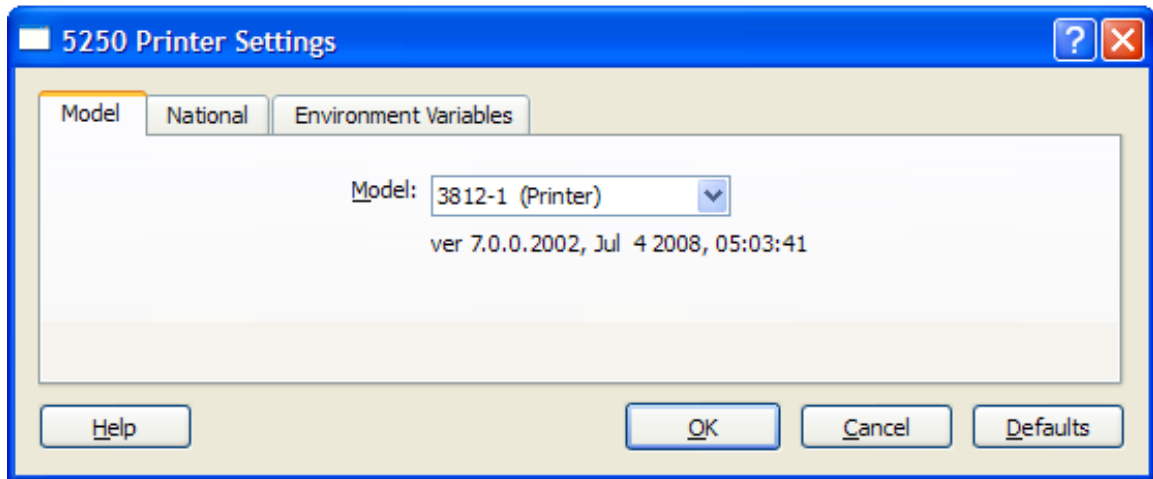
- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を **[IBM 5250 Printer]** (IBM 5250 プリンター) に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用：

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]** → **[IBM 5250 Printer]** の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]** 一覧の **[IBM 5250 Printer]** を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[Model]** (モデル)、**[National]** (各国語)、**[Print By Pass]** (印刷バイパス) というラベルの付いた 3 つのタブにグループ化されています。

## モデルの設定



- **Model** (モデル)

工場出荷時の設定 : [3812-1 (Printer)] (3812-1 (プリンター))

これにより、エミュレートするプリンターのモデルを指定できます。以下の2つのオプションがあります。

- **3812-14**

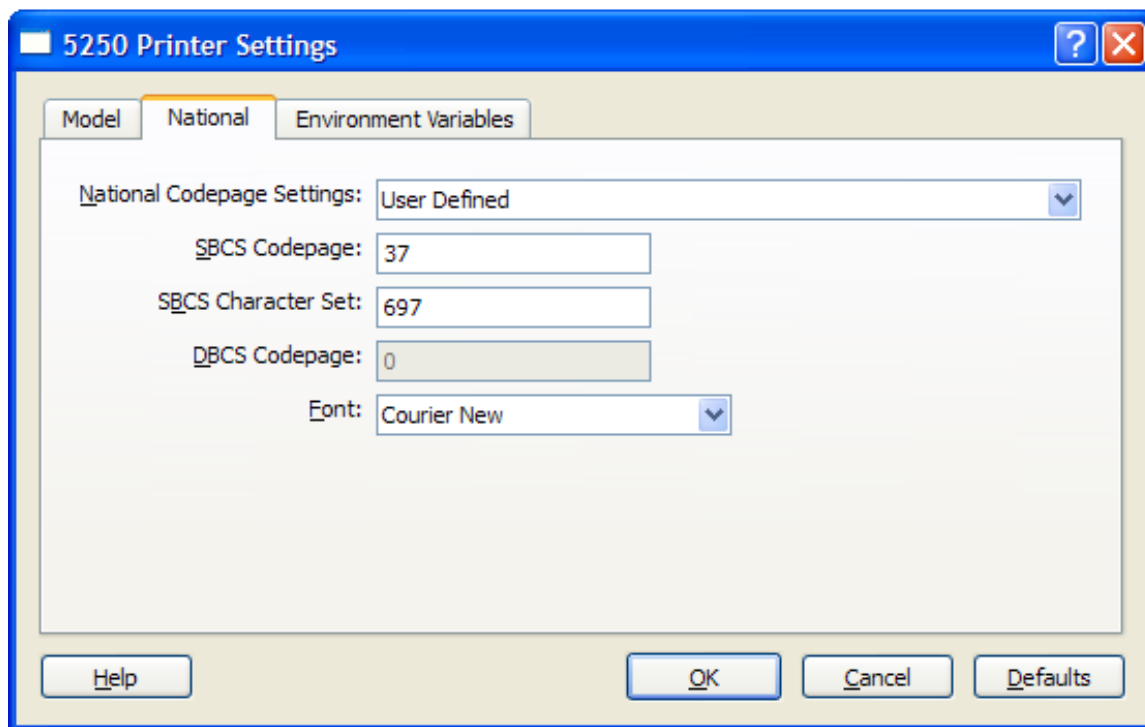
1バイト プリンターです。

- **5553\_B01**

2バイト プリンターです。

日本語などの2バイト文字セットを使用している場合は、2バイト プリンターを選択します。

## 各国語の設定



これらのオプションで、使用する文字セットを選択できます。1バイト文字セット（**SBCS**）用の入力と2バイト文字セット（**DBCS**）用の入力（サポートされている場合）がそれぞれ用意されています。これらのオプションの変更は、システム管理者のみが行ってください。変更されている設定を初期設定に戻す場合は、ダイアログの下部にある[Defaults]（初期設定）ボタンをクリックします。このセクションの最後にある表は、初期設定を示しています。

- **National Codepage Settings**（各国語コードページの設定）

工場出荷時の設定： [User Defined]（ユーザー定義）

ここでは、使用する各国語のコードページの種類を指定します。[User Defined]を選択すると、以下のオプションを使用して[Codepage]（コードページ）および[Character Set]（文字セット）を手動で選択できます。

- **SBCS Codepage**（SBCS コードページ）

工場出荷時の設定： 37

ここでは、使用する1バイト文字セットのコードページを数字で指定します。

- **SBCS Character Set**（SBCS 文字セット）

工場出荷時の設定： 697

ここでは、使用する1バイト文字セットを数字で指定します。

- **DBCS Codepage**（DBCS コードページ）

工場出荷時の設定： 0

ここでは、使用する 2 バイト文字セットのコードページを数字で指定します。

- **Font** (フォント)

工場出荷時の設定： [Courier New]

これにより、文字を表示するために使用されるフォントを指定できます。使用可能な設定は、インストールされているフォントによって異なります。

**表 18-1 初期設定の言語、文字セット、およびコードページの設定**

言語	キーボードの種類	文字セット	1 バイト文字セットの コードページ	2 バイト文字セットの コードページ
英語 (米国)	USB	697	37	
英語 (英国)	UKB	697	285	
ベルギー語	BLI	697	500	
フランス語 (カナダ)	CAI	697	500	
デンマーク語	DMB	697	277	
フィンランド語	FNB	697	278	
ドイツ語	AGB	697	273	
オランダ語	NEB	697	37	
イタリア語	ITB	697	280	
フランス語 (スイス)	SFI	697	500	
ドイツ語 (スイス)	SGI	697	500	
スウェーデン語	SWB	697	278	
ノルウェー語	NWB	697	277	
フランス語	FAB	697	297	
スペイン語	SPB	697	284	
ポルトガル語	PRB	697	37	
日本語 (漢字+カタカナ)	JKB	1172	290	300
韓国語	KOB	1173	833	834
簡体字中国語	RCB	1174	836	837
繁体字中国語	TAB	1175	37	835
ヘブライ語 (新コード)	NCB	941	424	
ヘブライ語 (旧コード)		941	803	

**表 18-1** 初期設定の言語、文字セット、およびコードページの設定 (続き)

言語	キーボードの種類	文字セット	1 バイト文字セットの コードページ	2 バイト文字セットの コードページ
タイ語	THB	1176	838	
ギリシャ語	GNB	925	875	
キリル文字	CYB	960	880	
トルコ語	TRB	1152	1026	
ロシア語	RUB	1150	1025	
チェコ語	CSB	959	870	
スロバキア語	SKB	959	870	
ポーランド語	POB	959	870	
アイスランド語	ICB	697	871	
アラビア語		697	420	

**表 18-2** 用意されている IBM EBCDIC コードページ

コードページ	種類	国名
37	SBCS	米国、カナダ、オランダ、ポルトガル、 ブラジル
273	SBCS	オーストリア、ドイツ
274	SBCS	ベルギー (旧)
277	SBCS	デンマーク、ノルウェイ
278	SBCS	フィンランド、スウェーデン
280	SBCS	イタリア
284	SBCS	スペイン、ラテン アメリカ (スペイン 語)
285	SBCS	英国
290	SBCS	日本語 (カタカナ)
297	SBCS	フランス
300	DBCS	日本語 (漢字)
420	SBCS	アラビア語
424	SBCS	ヘブライ語 (新コード)
500	SBCS	(ラテン 1) ベルギー、カナダ、スイス



**表 18-2** 用意されている IBM EBCDIC コードページ (続き)

コードページ	種類	国名
803	SBCS	ヘブライ語 (旧コード)
833	SBCS	韓国語
834	DBCS	韓国語
835	DBCS	繁体字中国語
836	SBCS	簡体字中国語
837	DBCS	簡体字中国語
838	SBCS	タイ語
870	SBCS	(ラテン 2) チェコ語、スロバキア語、ポーランド語
871	SBCS	アイスランド語
875	SBCS	ギリシャ語
880	SBCS	キリル文字
905	SBCS	(ラテン 3) トルコ語 (旧)
1025	SBCS	ロシア語 (キリル文字)
1026	SBCS	(ラテン 5) トルコ語
1027	SBCS	日本語 (ラテン拡張)
1140	SBCS	(欧州) 米国、カナダ、オランダ、ポルトガル、ブラジル
1141	SBCS	(欧州) オーストリア、ドイツ
1142	SBCS	(欧州) デンマーク、ノルウェイ
1143	SBCS	(欧州) フィンランド、スウェーデン
1144	SBCS	(欧州) イタリア
1145	SBCS	(欧州) スペイン、ラテン アメリカ
1146	SBCS	(欧州) 英国
1147	SBCS	(欧州) フランス
1148	SBCS	(欧州) ベルギー、カナダ、スイス
1149	SBCS	(欧州) アイスランド

## 環境変数

5250 Printer Settings

Model National Environment Variables

USER: [ ] DEVNAME: [ ]

JOB: [ ] IBMIGCFEAT: [ ]

ACCT: [ ] IBMMSGQNAME: [ ]

PRINTER: [ ] IBMMSGQLIB: [ ]

SYSTEMTYPE: [ ] IBMFONT: 10

DISPLAY: [ ] IBMFORMFEED: [! Don't Report] ▾

IBMTRANSFORM: Yes (1) ▾

IBMFRTPMDL: \*None ▾

IBMPPRSRC1: [! Don't Report] ▾

IBMPPRSRC2: [! Don't Report] ▾

IBMENVELOPE: [! Don't Report] ▾

IBMASCII899: [! Don't Report] ▾

IBMWSCSTNAME: [ ]

IBMWSCSTLIB: [ ]

Advanced Settings

Reset to Defaults

Help OK Cancel Defaults

このタブのオプションは、環境変数および Telnet 5250E プロトコルの一部として渡される値を指定します。

入力する値には以下のルールが適用されることに注意してください。

- 「,」という値は変数を削除します。
- 「CURRENTVALUE,NAME=VALUE」という値は、「VALUE」という値を持つ「NAME」という名前の新しい変数を追加します。
- 「,」を入力するには「,,」を使用します。

- 「=」を入力するためには「==」を使用します。
- 「[!]」で開始される値はレポートされません（これは初期設定の **Do Not Report**（レポートなし）文字列で、変更できます）。

以下は、環境変数およびその値の説明の一覧です。

- **USER**

リモート システムへのログオンに使用するユーザー名またはアカウント名を指定します。

- **JOB**

リモート システムにログインするときに使用するジョブ ID を指定します。

- **ACCT**

リモート システムにログインするときに使用するアカウント ID を指定します。

- **PRINTER**

プリンター出力の初期設定の場所を指定します。

- **SYSTEMTYPE**

この変数を送信するシステムによって使用されるオペレーティング システムの種類を指定します。

- **DISPLAY**

クライアントの X ディスプレイの位置を指定します。

- **DEVNAME**

プリンター デバイスの名前を指定します。

- **IBMIGCFEAT**

これは常に **[Don't Report]**（レポートなし）に設定します。

- **IBMMSGQNAME**

プリンターの動作メッセージが送信されるメッセージ キューの名前を指定します。

- **IBMMSGQLIB**

メッセージ キュー ライブラリを指定します。

- **IBMFONT**

工場出荷時の設定： 10

1 バイト プリンターが使用するフォント識別子およびポイント サイズを指定します。

- **IBMFORMFEED**

工場出荷時の設定： **[! Don't Report]**（! レポートなし）

これは常に **[Don't Report]**（レポートなし）に設定します。**[IBMPPRSRC1]** オプションは、使用する用紙の形式を指定するために使用します。

- **IBMTRANSFORM**

工場出荷時の設定 : [Yes (1)] (はい (1))

プリンターでホスト印刷変換機能を使用して ASCII 形式のプリンター データを生成するかどうかを指定します。これは常に[Yes] (はい) に設定します。[IBMMFRTPMDL]オプションでは、プリンターの製造元、種類、およびモデルを指定する必要があります。

- **IBMMFRTPMDL**

工場出荷時の設定 : \*[None] (なし)

プリンターの製造元、種類、およびモデルを指定します。このエントリは、\* (アスタリスク) 文字を含め、AS400 プリンター タイプ文字列と完全に一致する必要があります。IBM AS/400 V3R1 で有効なエントリは以下のとおりです。AS/400 の設定によっては、この一覧の内容が変わる場合があります。

**表 18-3 IBM 5250 プリンターの製造元、種類、およびモデルの値**

*IBM2380	*IBM2381	*IBM2390	*IBM2391	*IBM3812
*IBM3816	*IBM3912HP	*IBM3916HP	*IBM39302	*IBM39303
*IBM4019	*IBM4019HP	*IBM4029	*IBM4029HP	*IBM4037
*IBM4039HP	*IBM4070	*IBM4070EP	*IBM4072	*IBM4076
*IBM42011	*IBM42012	*IBM42013	*IBM42021	*IBM42022
*IBM42023	*IBM42071	*IBM42072	*IBM42081	*IBM42082
*IBM4212	*IBM4216	*IBM4226	*IBM4230	*IBM4232
*IBM47121	*IBM47122	*IBM47221	*IBM47222	*IBM4770
*IBM5152	*IBM5201	*IBM5202	*IBM5204	*IBM5216
*IBM6404	*IBM6404EP	*IBM6408	*IBM6408EP	*IBM6412
*IBM6412EP	*HPII	*HPIID	*HPIIP	*HPIII
*HPIIID	*HPIIIP	*HPIIISI	*HP4	*HP310
*HP500	*HP520	*HP550C	*HP560C	*HPPAINT
*CPQPM15	*CPQPM20	*EPAP2250	*EPAP3250	*EPAP5000
*EPAP5500	*EPDFX5000	*EPDFX8000	*EPFX850	*EPFX870
*EPFX1170	*EPLX810	*EPLQ510	*EPLQ570	*EPLQ860
*EPLQ870	*EPLQ1070	*EPLQ1170	*EPLQ2550	*EPSQ870
*EPSQ1170	*EPEPL7000	*EPEPL8000	*NECP2	*NECP2200
*NECP2200XE	*NECP5200	*NECP5300	*NECP6200	*NECP6300
*OKI184IBM	*OKI320IBM	*OKI321IBM	*OKI390IBM	*OKI391IBM
*OKI393IBM	*OKI590IBM	*OKI591IBM	*OKI400	*OKI800
*OKI810	*OKI820	*OKI3410	*PAN1123EP	*PAN1124EP
*PAN1124IEP	*PAN1180EP	*PAN1180IEP	*PAN1191EP	*PAN1624EP

表 18-3 IBM 5250 プリンターの製造元、種類、およびモデルの値 (続き)

*PAN1654EP	*PAN1695EP	*PAN2123EP	*PAN2124EP	*PAN2180EP
*PAN2624EP	*PAN4410HP	*PAN4420HP	*PAN4430HP	*PAN4450IHP
*PAN4451HP				

- **IBMPPRSRC1/IBMPPRSRC2**

工場出荷時の設定 : [! Don't Report] (! レポートなし)

これらのオプションは、使用する用紙の形式を指定します。可能な設定は以下のとおりです。

表 18-4 IBM 5250 プリンターの用紙の形式

<b>Don't Report</b> (レポートなし)	値は返されません
<b>*NONE</b>	給紙元は定義されません
<b>*MFR</b>	プリンターの製造元、種類、およびモデルに基づいて、使用する用紙の種類がシステムによって決定されます
<b>*LET</b>	レターサイズ用の紙 (8.5×11 インチ)
<b>*LEGL</b>	リーガルサイズ用の紙 (8.5×14 インチ)
<b>*EXE</b>	エグゼクティブサイズ用の紙 (7.3×10.5 インチ)
<b>*A4</b>	A4 サイズ用の紙 (210×297 mm)
<b>*A5</b>	A5 サイズ用の紙 (148×210 mm)
<b>*B5</b>	B5 サイズ用の紙 (182×257 mm)
<b>*C80</b>	連続用紙、幅 8.0 インチ ([IBMPPRSRC1] (IBM プリンター ソース 1) のみ)
<b>*C132</b>	連続用紙、幅 13.2 インチ ([IBMPPRSRC1] (IBM プリンター ソース 1) のみ)
<b>*A3</b>	A3 サイズ用の紙 (297×420 mm)
<b>*B4</b>	B4 サイズ用の紙 (257×364 mm)
<b>*LEDG</b>	帳簿サイズ用の紙 (11×17 インチ)

- **IBMENVELOPE**

工場出荷時の設定 : [! Don't Report] (! レポートなし)

ここでは、使用する封筒の形式を指定します。可能な設定は以下のとおりです。

表 18-5 IBM 5250 プリンターの封筒の形式の値

<b>Don't Report</b> (レポートなし)	値は返されません
<b>*NONE</b>	封筒の給紙元は定義されません
<b>*MFR</b>	プリンターの製造元、種類、およびモデルに基づいて、使用する封筒の種類がシステムによって決定されます

表 18-5 IBM 5250 プリンターの封筒の形式の値 (続き)

*B5	B5 サイズの封筒 (176×250 mm)
*MON	モナーク サイズの封筒 (3.9×7.5 インチ)
*N9	洋形 9 号の封筒 (3.9×7.5 インチ)
*N10	洋形 10 号の封筒 (4.1×9.5 インチ)
*C5	C5 サイズの封筒 (162×229 mm)
*DL	DL サイズの封筒 (110×220 mm)

- **IBMASCII899**

工場出荷時の設定 : [! Don't Report] (! レポートなし)

1 バイト プリンターで ASCII コード ページ 899 をインストールするかどうかを指定します。  
[Don't Report] (レポートなし) を選択すると、値は返されません。

- **IBMWSCSTNMAME**

ポインターを含むオブジェクトの名前をワークステーションのカスタマイジング テーブルに指定します。

- **IBMWSCSTLIB**

ポインターを含むオブジェクトのライブラリ名をワークステーションのカスタマイジング テーブルに指定します。

- **Advanced Settings** (詳細設定)

工場出荷時の設定 : 未チェック

チェックを入れると、[Refresh] (更新) ボタンおよび [Value for Do Not Report] (レポートなしの値) オプションが表示されます。

- **Value for Do Not Report** (レポートなしの値)

工場出荷時の設定 : [!]

ここでは、環境変数がレポートされないことを示すために使用する文字列を指定します。

# 19 TA6530 エミュレーション

この章では、Tandem 6530 ターミナル エミュレーションの機能について説明します。

## TA6530 エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、TA6530 エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. **[スタート]**メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]**（セッション ウィザード）の順に選択します。
2. **[Session Name]**（セッション名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. **[Transport]**（トランスポート）の方法を選択し、**[Configure]**（設定）ボタンをクリックして設定を指定します。
4. **[Connection]**（接続）の種類を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します。
5. **[Emulation]**（エミュレーション）一覧の**[TA6530]**を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します（これらのオプションについては、[223 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します）。
6. **[Next]**（次へ）をクリックして、**[Advanced Options]**（詳細設定オプション）ダイアログを表示します。
7. **[Next]**をクリックして、**[Finalization]**（確定）ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**[Create icon on desktop for session]**（デスクトップにセッションのアイコンを作成する）チェック ボックスにチェックを入れます。
9. **[OK]**をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、**[File]**（ファイル）メニューを表示し、**[Open Session]**（セッションを開く）を選択します。該当する**.tts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]**（開く）をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから TA6530 エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから **[Session]** (セッション) メニューを表示し、**[Transport...]** (トランスポート...) を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]** メニューを表示し、**[Connection...]** (接続...) を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]** メニューを表示し、**[Emulation...]** (エミュレーション...) を選択します。エミュレーションを **[TA6530]** に設定します。
4. **[Session]** メニューで、関連する **[Configure]** (設定) オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) を選択することによって表示されるオプションは、[223 ページの「セツトアップ オプション」](#) のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Save Session As]** (セッションに名前を付けて保存) を選択します。**[File Name]** (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]** (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は **.fts** になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]** メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## 動作モード

Tandem 6530 エミュレーションは、会話モード、ブロック モード、または ANSI モードという 3 つの主要なモードのどれかで動作します。会話モードおよびブロック モードは、通常、NonStop ホストシステム上で実行されるアプリケーションのために使用されます。ANSI モードは、LXN ホストシステム上で実行されるアプリケーションのためのものです。

### 会話モード

会話モードでは、文字が入力されると同時にホストに送信されます。このため、文字、単語、または行単位でのやり取りが必要なアプリケーションに適しています。

表示メモリは、400 行で構成される 1 つの長いページとして扱われ、そのうち一度に表示できる行数は 24 行です。現在表示されている行の上または下にある行は、カーソルまたは表示コントロールキーを使用してスクロール表示できます。すべての表示メモリが使用されると、新しいデータによって、それまで表示されていたすべての行のデータが 1 行上に移動し、先頭の行が削除されます。このため、常に最も古いデータが最初に削除されます。

会話モードが有効になっている状態では、ステータス行に **[CONV]** と表示されます。



## ブロック モード

ブロック モードでは、文字は通信バッファに格納され、アプリケーションから要求があるまでホストに転送されません。要求があると、文字はブロックとして送信されます。これによって、大量のデータを入力してからローカルで編集し、その編集したデータを送信できます。

ブロック モードには、ブロック非保護モードとブロック保護モードという2つのサブモードがあります。ブロック非保護モードでは、任意の種類 of 文字を画面上の任意の位置に入力できます（25行目を除く）。ブロック保護モードでは、アプリケーションによって、フィールドと呼ばれる保護されたエリアと、保護されていないエリアに画面が分割されます。保護されたフィールド内にはカーソルを移動できません。このフィールドには、プロンプトまたは情報が表示されるか、または何も表示されません。カーソルは保護されていないフィールドにのみ移動できます。このフィールドでは、入力できる文字の種類も定義できます。

ブロック モードでは、表示メモリはページ単位に分割され、ページ数はアプリケーションによって決定されます。

ブロックモードが有効になっている状態ではステータス行に**[BLOCK]**と表示され、ブロック保護モードが有効になっている状態ではステータス行に**[PROT]**と表示されます。

## ANSI モード

ANSI モードでは、文字が入力されると同時にホストに送信され、標準的な ANSI (American National Standard Institute) 関数が実行されます。LXN ホスト システム上で実行されるアプリケーションは、通常、これらの関数を認識して使用します。

ANSI モードが有効になっている状態では、ステータス行に**[ANSI]**と表示されます。

## 罫線カーソル

**Alt + Page Up** キーを押すことによって、クロス形の罫線カーソルを表示できます。通常のカーソルに戻すには、**Alt + Page Down** を押します。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能な限り一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、**[Tools]** (ツール) メニューの**[Key Macros...]** (キー マクロ...) を選択して表示される**[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) ダイアログにある**[Emulation Keys]** (エミュレーション キー) 一覧を参照することによって特定できます。

右のカラムにあるカッコ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は**Shift** キーを、**C+**は**Control** キーを、**A+**は**Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

TA\_LINEINS (C+VK\_INSERT)

これは、**Insert Line** の機能が、**Control + Insert** というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

通常 TA6530 キーボード上にある特殊キーの機能は、[Key Macro Settings] ダイアログに一覧表示されている **TA** 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、TA6530 キーボードの機能が、101/102 キー キーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

図 19-1 TA6530 エミュレーションの 101/102 キー キーボード レイアウト

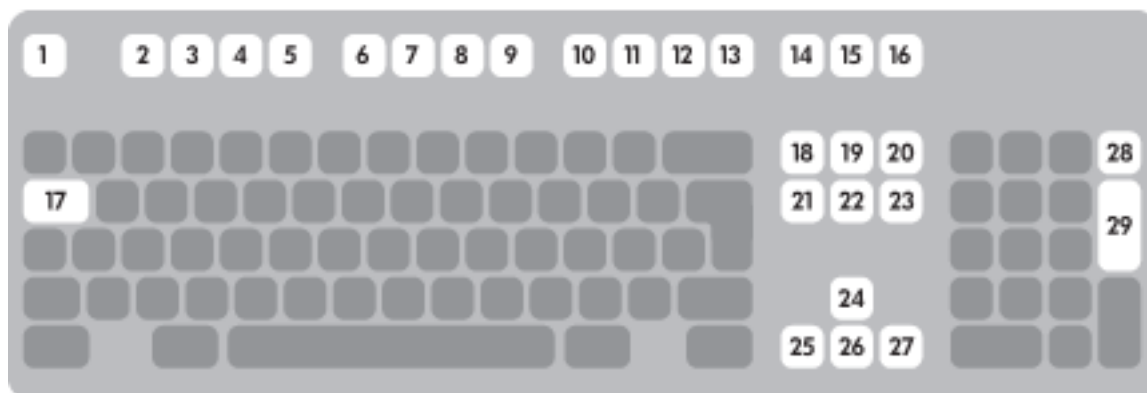



表 19-1 TA6530 のキーボード マッピング

キー	キーモディファイア	判定	キー	キーモディファイア	判定
1	なし	ESCAPE	15	Ctrl +	ERASE LINE
	Shift +	DELETE		Shift + Ctrl +	ERASE PAGE
2	なし	F1	16	なし	BREAK
	Shift +	Shift + F1		Shift +	Shift + BREAK
	Alt +	F13			
3	なし	F2	17	なし	TAB
	Shift +	Shift + F2		Shift +	BACKTAB
	Alt +	F14			
4	なし	F3	18	なし	CHARACTER INSERT
	Shift +	Shift + F3		Shift +	INSERT
	Alt +	F15		Ctrl +	LINE INSERT
	Shift + Alt +	Shift + F15			

表 19-1 TA6530 のキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディファイア	判定	キー	キーモディファイア	判定
5	なし	F4	19	なし	HOME
	Shift +	Shift + F4		Ctrl +	HOME + CONTROL
	Alt +	F16			
	Shift + Alt +	Shift + F16			
6	なし	F5	20	なし	PAGE UP
	Shift +	Shift + F5		Shift +	Shift + PAGE UP
7	なし	F6	21	なし	CHARACTER DELETE
	Shift +	Shift + F6		Ctrl +	LINE DELETE
8	なし	F7	22		END
	Shift +	Shift + F7			
9	なし	F8	23	なし	PAGE DOWN
	Shift +	Shift + F8		Shift +	Shift + PAGE DOWN
10	なし	F9	24	なし	CURSOR UP
	Shift +	Shift + F9		Alt +	ROLL UP
				Shift + Alt +	Shift + ROLL UP
11	なし	F10	25		CURSOR LEFT
	Shift +	Shift + F10			
12	なし	F11	26	なし	CURSOR DOWN
	Shift +	Shift + F11		Alt +	ROLL DOWN
				Shift + Alt +	Shift + ROLL DOWN
13	なし	F12	27		CURSOR RIGHT
	Shift +	Shift + F12			
14	なし	PRINT SCREEN	28	なし	-
	Shift +	Shift + PRINT SCREEN		Alt +	TAB SET
				Shift + Alt +	TAB CLEAR
				Ctrl + Alt +	TAB CLEAR ALL
			29	なし	+
		Alt +		,	

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

## ステータス行

TA6530 エミュレーション画面の最後の行 (25 行目) は、メッセージおよびステータス情報を表示するために使用されます。それよりも上にある行を、以降の行と分ける境界線の表示を有効または無効にできます。このためには、**[TA6530 Settings]** (TA6530 の設定) ダイアログで **[Status border]** (ステータス境界) オプションを使用します。

ステータス行は、2 つにフィールドに分割されています。先頭の左側のフィールドは、最大 64 文字のメッセージを表示するために使用されます。2 番目のフィールドには現在の動作状況が表示され、通常は以下の状態インジケータの少なくとも 1 つが表示されます。

- **ANSI**

エミュレーションが ANSI モードで動作しています。

- **BLOCK**

エミュレーションがブロック モードで動作しています。

- **CNTRL**

表示コントロール モードが有効になっています。このモードでは、受信された制御コードが表示されますが、処理はされません。

- **CONV**

エミュレーションが会話モードで動作しています。

- **HOLD**

一時停止画面が有効になっています。ANSI モードで **Ctrl + S** キーを押すと、エミュレーションは受信データの処理を停止します。停止状態を解除して通常の処理を続行するには、**Ctrl + Q** を押します。

- **INS**

挿入モードが有効になっています。ブロック モードでは、キーボードから入力された文字はカーソル位置に挿入され、既存の文字が上書きされることはありません。

- **LOCKED**

キーボードがアプリケーションによって一時的にロックされています。

- **NUM**

Num Lock が有効になっています。Num Lock は、**Alt + Num Lock** キーを一緒に押すことによってオンとオフが切り替わります。

- **PROT**

ブロック保護モードが有効になっています。詳しくは、[219 ページの「ブロック モード」](#)を参照してください。

エミュレーションでエラーが検出されると、ステータス行が一時的にエラー行に置き換わり、以下のどちらかのメッセージが表示されます。

- **INVALID LANGUAGE SET REQUESTED** (無効な言語セットが要求されました)  
無効な各国語文字セットを使用しようとしてしました。
- **INVALID DATA** (無効なデータ)  
ブロック保護モードのときに無効な文字を現在のフィールドに入力しようとしてしました。

## セットアップ オプション

TA6530 エミュレーションは、[**Tandem Settings**] (Tandem の設定) ダイアログにあるセットアップオプションを使用して設定されます。このダイアログは、以下の3つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用 :

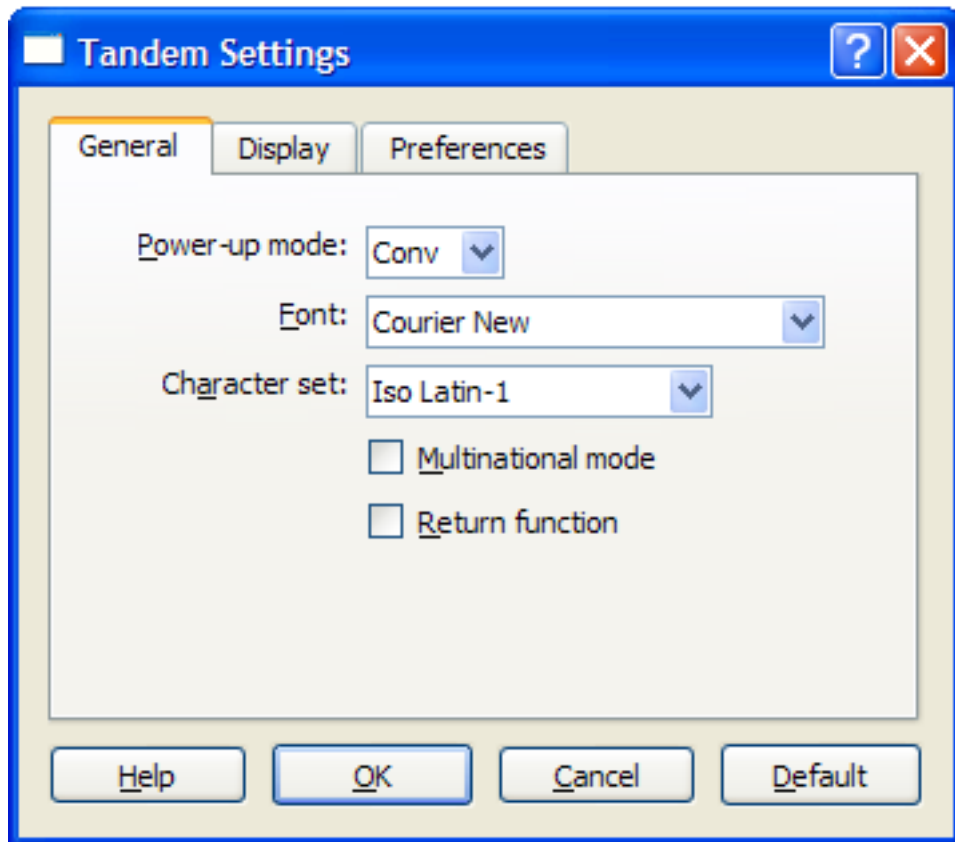
- [**Step 1**] (ステップ 1) で、[**Emulation**] (エミュレーション) を [**TA6530**] に設定し、[**Configure**] (設定) ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用 :

- [**Session**] (セッション) メニューで、[**Emulation**] → [**TA6530**] の順に選択し、[**Configure Emulation...**] (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、[**Emulation**] 一覧の [**TA6530**] を選択し、[**Configure Emulation**] (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、[**General**] (全般)、[**Display**] (ディスプレイ)、[**Preferences**] (設定) というラベルの付いた3つのタブにグループ化されています。


## 一般設定



- **Power-up mode** (電源投入モード)

工場出荷時の設定 : [Conversational] (会話)

このオプションによって、TA6530 エミュレーションが開始されたときに有効になる動作モードが決定されます。

 **注記 :** 現在の設定を変更しても TeemTalk を再起動するまで有効にならないため、新しい設定を保存してから TeemTalk を終了する必要があります。

会話モードおよびブロック モードは、通常、NonStop ホスト システム上で実行されるアプリケーションのために使用され、ANSI モードは、LXN ホスト システム上で実行されるアプリケーションのために使用されます。[File] (ファイル) メニューの [Save session] (セッションを保存) を選択して新しい設定を保存してから、エミュレーションを終了します。

- **Font** (フォント)

工場出荷時の設定 : [Courier New]

表示される文字に使用するフォントを指定できます。使用可能な設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。

- **Character set** (文字セット)

工場出荷時の設定 : [Iso Latin-1]

表示される文字に使用する文字セットを指定します。

- **Multinational mode** (多国語モード)

工場出荷時の設定 : 未チェック

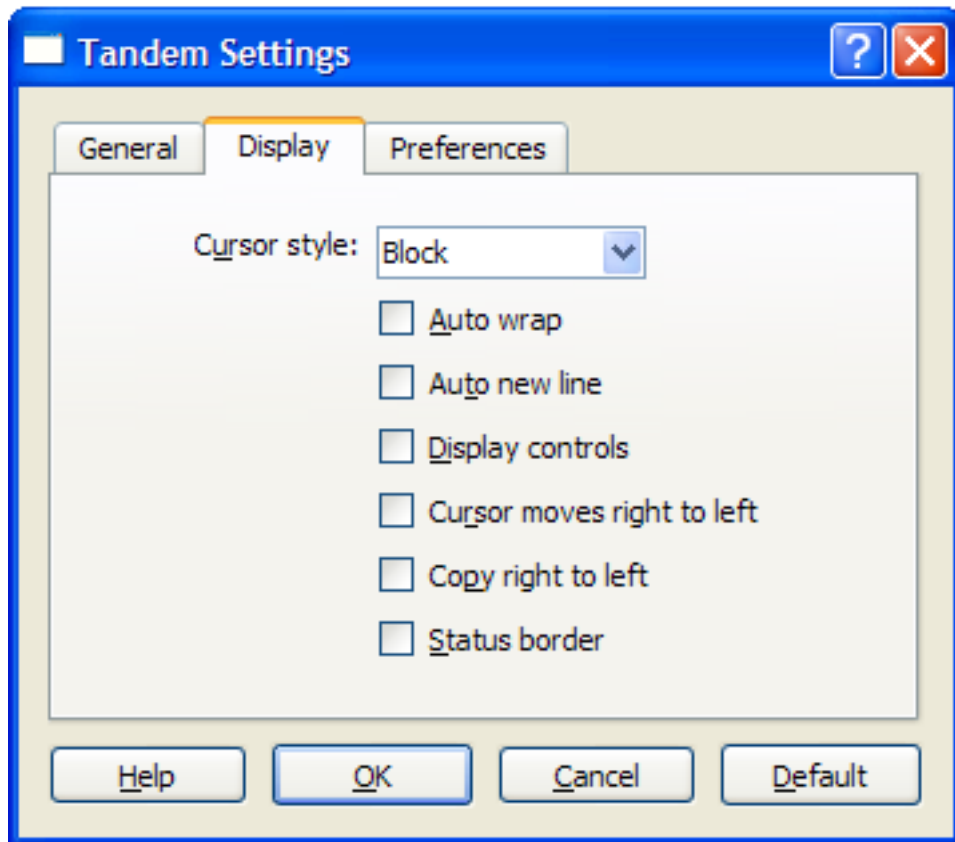
このオプションは、システムに、各国語置換文字セットをサポートする言語が設定されている場合にのみ使用できます。これによって、文字を生成するために使用される文字セットの種類が決定されます。チェックを外すと、TeemTalk は、選択されたキーボード言語に固有の文字セットが使用される各国語モードになります。チェックを入れると、TeemTalk は、2 つの文字テーブルからなる文字セットが使用される多国語モードになります。これにより、任意のキーボード言語の文字を生成できます。

- **Return function** (リターン機能)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションは、ブロック モードのときに **Enter** キーの機能がアプリケーションによって定義されるようにするかどうかを指定します。チェックを入れると、このキーはアプリケーションに固有のファンクション キーとして認識されます。通常、このオプションにはチェックを入れません。

## ディスプレイの設定



- **Cursor style** (カーソル スタイル)

工場出荷時の設定 : [Block] (ブロック)

これにより、テキスト カーソルの表示方法を指定できます。[**Block**]、[**Underline**] (下線)、[**Static block**] (静的なブロック)、[**Static underline**] (静的な下線)、または[**None**] (なし) から選択します。

- **Auto wrap** (自動折り返し)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションの設定によって、右マージンに達したときに文字が次の行に折り返すかどうかが決まります。チェックを外すと、右マージンに達したときに、新しい文字が受信されるたびに最後の文字位置がその文字で上書きされます。

- **Auto new line** (自動改行)

工場出荷時の設定 : 未チェック

チェックを入れると、受信したすべてのライン フィード コマンドにキャリッジ リターン コマンドが追加されます。

- **Display controls** (制御文字を表示する)



工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、受信した制御コードを処理するか、または表示するかが決定されます。チェックを入れると、ほとんどの制御コードについて、制御コードを表す文字が画面に表示されます。

- **Cursor moves right to left** (カーソルを右から左に移動する)

工場出荷時の設定：未チェック

これにより、テキスト カーソルがディスプレイ上を移動する方向を変更できます。

- **Copy right to left** (右から左にコピーする)

工場出荷時の設定：未チェック

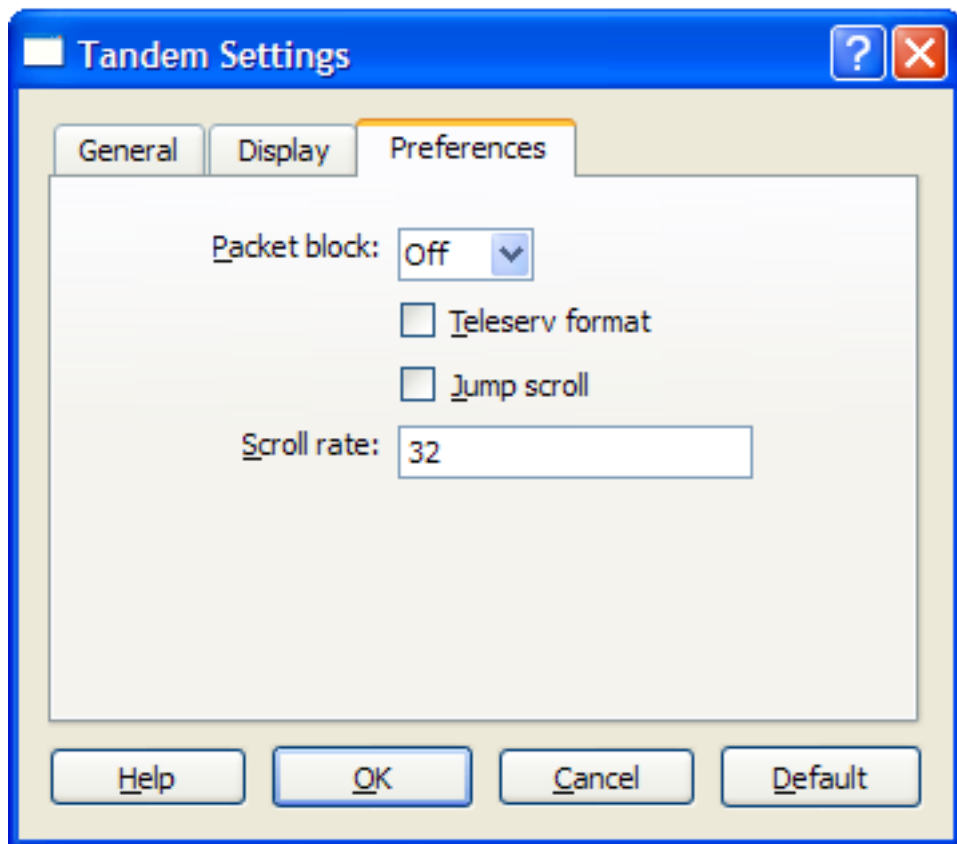
これにより、コピー コマンドを右から左の表示モードで動作させることができます。

- **Status border** (ステータス境界)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションを使用すると、ディスプレイ上でステータス行とその他の行を区切るための細い境界線を表示できます。

## 設定



- **Packet block** (パケット ブロック)

工場出荷時の設定 : [Off] (オフ)

このオプションは、X.25 通信回線をサポートするためにパケット ブロックを使用するかどうかを指定し、使用する場合は、パケット ブロックのサイズを指定します。このサイズは、一覧から 128 バイト単位で設定できます。また、このオプションを[Off]に設定すると、初期設定サイズの 260 バイトになります。

- **Telserv format** (Telserv 形式)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションの設定によって、ネットワーク データの処理方法が決定されます。チェックを入れると、データは Tandem ネットワーク サーバー (Telserv) 形式で処理されます。チェックを外すと、データはシリアル形式で処理されます。

- **Jump scroll** (ジャンプ スクロール)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションの設定によって、ウィンドウがいっぱいになったときに、データが 1 行スクロールされるか、または一度に複数行スクロールされるかが決定されます。

チェックを入れると、下の[**Scroll rate**]（スクロール速度）設定に従って、データは一度に複数行上にスクロールされます。

- **Scroll rate**（スクロール速度）

工場出荷時の設定： 32

これにより、上の[**Jump scroll**]（ジャンプ スクロール）オプションが選択されている場合にスクロールされる行数が決定されます。

## 20 Wyse エミュレーション

この章では、Wyse ターミナル エミュレーションの機能について説明します。

### はじめに

Wyse ターミナル エミュレーション スイートは、以下のエミュレーションで構成されています。これらのエミュレーションは、[**Wyse Settings**] (Wyse の設定) ダイアログの [**Emulation mode**] (エミュレーション モード) オプションを使用して選択できます。

- **ADDS A2**

Wyse WY-50/50+/60 ターミナルでエミュレートされたときに、ADDS Viewpoint A2 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **HZ 1500**

Wyse WY-50/50+/60 ターミナルでエミュレートされたときに、Hazeline 1500 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **Stratus V102**

Stratus V102 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **TVI910、TVI920、および TVI925**

Wyse WY-50/50+/60 ターミナルでエミュレートされたときに、TeleVideo 910+、920、および 925 ターミナルをそれぞれ動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **TVI950 および TVI955**

TeleVideo 950 および 955 ターミナルをそれぞれ動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **WY50、WY50+、および WY60**

Wyse WY-50、WY-50+、および WY-60 ターミナルをそれぞれ動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **Wyse PCTerm**

Wyse でサポートされている PC Term の個人設定用に設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

### Wyse エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

## TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、Wyse エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. **[スタート]**メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]**（セッション ウィザード）の順に選択します。
2. **[Session Name]**（セッション名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. **[Transport]**（トランスポート）の方法を選択し、**[Configure]**（設定）ボタンをクリックして設定を指定します。
4. **[Connection]**（接続）の種類を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します。
5. **[Emulation]**（エミュレーション）一覧の**[Wyse]**を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します（これらのオプションについては、[237 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します）。
6. **[Next]**（次へ）をクリックして、**[Advanced Options]**（詳細設定オプション）ダイアログを表示します。
7. **[Next]**をクリックして、**[Finalization]**（確定）ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**[Create icon on desktop for session]**（デスクトップにセッションのアイコンを作成する）チェック ボックスにチェックを入れます。
9. **[OK]**をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、**[File]**（ファイル）メニューを表示し、**[Open Session]**（セッションを開く）を選択します。該当する**.tts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]**（開く）をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから Wyse エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから**[Session]**（セッション）メニューを表示し、**[Transport...]**（トランスポート...）を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]**メニューを表示し、**[Connection...]**（接続...）を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]**メニューを表示し、**[Emulation...]**（エミュレーション...）を選択します。エミュレーションを**[Wyse]**に設定します。
4. **[Session]**メニューで、関連する**[Configure]**（設定）オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]**（エ

ミュレーションの設定)を選択することによって表示されるオプションは、[237 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します。

5. このセッションを保存するには、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Save Session As]** (セッションに名前を付けて保存) を選択します。**[File Name]** (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]** (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は**.tts**になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]**メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。**.tts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## 表示形式

初期設定では、ディスプレイはステータス行、データ領域、およびラベル行の3つのエリアに分割されます。ステータス行は、エミュレーションに関連する情報およびアプリケーションからのメッセージを表示するために使用されます。エミュレーションによって表示できるステータス メッセージについては、[235 ページの「ステータス行」](#)セクションで説明しています。

データ領域は、キーボードまたはアプリケーションから入力されたデータが表示される場所です。初期設定では、データ領域は24行×80カラムに設定されています。

ラベル行は、データ領域が24行または42行に設定されている場合に、画面の下部に表示されます。ラベル行は、ホストによって定義されたメッセージまたはファンクション キー ラベルを表示するために使用できます。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、**[Tools]** (ツール) メニューの**[Key Macros...]** (キー マクロ...) を選択して表示される**[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) ダイアログにある**[Emulation Keys]** (エミュレーション キー) 一覧を参照することによって特定できます。

右のカラムにあるカッコ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は**Shift** キーを、**C+**は**Control** キーを、**A+**は**Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

WY\_INLINE (S+C+VK\_INSERT)

これは、**Insert Line**の機能が、**Shift + Control + Insert**というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

通常 Wyse キーボード上にある特殊キーの機能は、**[Key Macro Settings]**ダイアログに一覧表示されている**WY** 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、Wyse キーボードの機能が、101/102 キー キーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

図 20-1 Wyse エミュレーションの 101/102 キー キーボード レイアウト



表 20-1 Wyse シリーズのキーボード マッピング

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
1	なし	ESCAPE	17	なし	TAB
	Shift +	Shift + ESCAPE		Shift +	Shift + TAB
2	なし	F1	18	なし	BACKSPACE
	Shift +	Shift + F1		Shift +	Shift + BACKSPACE
	Alt +	F11		Ctrl + Alt +	DEL KEY
	Shift + Alt +	Shift + F11		Shift + Alt +	Shift + DEL KEY
3	なし	F2	19	なし	INSERT
	Shift +	Shift + F2		Shift +	REPLACE
	Alt +	F12		Alt +	INSERT CHARACTER
	Shift + Alt +	Shift + F12		Ctrl +	INSERT LINE
4	なし	F3	20	なし	HOME
	Shift +	Shift + F3		Shift +	Shift + HOME
	Alt +	F13			
5	なし	F4	21	なし	PAGE UP
	Shift +	Shift + F4		Shift +	Shift + PAGE UP
	Alt +	F14			
	Shift + Alt +	Shift + F14			


表 20-1 Wyse シリーズのキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
6	なし	F5	22	なし	DELETE
	Shift +	Shift + F5		Shift +	Shift + DELETE
	Alt +	F15		Ctrl +	DELETE CHARACTER
	Shift + Alt +	Shift + F15		Shift + Ctrl +	DELETE LINE
7	なし	F6	23	なし	CLEAR LINE
	Shift +	Shift + F6		Shift +	CLEAR SCREEN
	Alt +	F16		Alt +	END
	Shift + Alt +	Shift + F16		Shift + Ctrl +	Shift + END
8	なし	F7	24	なし	PAGE DOWN
	Shift +	Shift + F7		Shift +	Shift + PAGE DOWN
9	なし	F8	25	なし	CURSOR UP
	Shift +	Shift + F8		Shift +	Shift + CURSOR UP
				Alt +	COMPOSE CHARACTER
				Shift + Alt +	CHARACTER SET
10	なし	F9	26	なし	CURSOR LEFT
	Shift +	Shift + F9		Shift +	Shift + CURSOR LEFT
11	なし	F10	27	なし	CURSOR DOWN
	Shift +	Shift + F10		Shift +	Shift + CURSOR DOWN
12	なし	F11	28	なし	CURSOR RIGHT
	Shift +	Shift + F11		Shift +	Shift + CURSOR RIGHT
13	なし	F12	29	Shift + Ctrl +	SPLIT
	Shift +	Shift + F12			
14	なし	PRINT	30	なし	キーパッドの 5
	Shift + Ctrl +	Shift + PRINT		Shift +	Shift + キーパッドの 5
		SEND			
	Shift +				



表 20-1 Wyse シリーズのキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
15	Shift + Ctrl +	FUNCTION	31	なし	ENTER
	Alt +	PAUSE		Shift +	Shift + ENTER
16	なし	BREAK	32	なし	RETURN
	Shift +	ANSWERBACK		Shift +	Shift + RETURN
	Shift + Ctrl +	FDXBLK			

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

## ステータス行

ステータス行は、2 つにセクションに分割されます。左側のセクションにはエミュレーションに関するメッセージが表示され、右側のセクションはホストからのメッセージを表示するために使用されます。表示されるステータス行の種類は、[Wyse Settings] (Wyse の設定) ダイアログの [Status line] (ステータス行) オプションの設定によって決定されます。[Extended] (拡張) ステータス行には、[Standard] (標準) ステータス行とほとんど同じ情報が表示されますが、ローカル編集モードに関する情報を表示するフィールドが追加されます。

エミュレーション ステータス メッセージは、[Standard] ステータス行と [Extended] ステータス行のどちらが表示されるのかによって、ステータス行の最初のセクションに沿った 6 つまたは 8 つのフィールドのどれかに表示されます。メッセージおよびその意味を以下に示します。

FDX	1-	1					
1	2	3	4	5	6	7	8

表 20-2 Wyse ターミナルのステータス行のメッセージ

フィールド 1	両方	現在のキーボード モードを示します  [CAPS]は、Caps Lock がオンになっていることを示します。Caps Lock キーを押すと、このモードのオンとオフが切り替わります  [LOCK]は、キーボードがロックされていることを示します。このメッセージは、[CAPS]メッセージおよび[NUM]メッセージよりも優先されます  [NUM]は、Num Lock がオンになっていることを示します。[Num Lock]キーを押すと、このモードのオンとオフが切り替わります
フィールド 2	両方	現在表示されているページの番号を示します。現在のページが 0 の場合、メッセージは表示されません

**表 20-2 Wyse ターミナルのステータス行のメッセージ (続き)**

フィールド 3	両方	[*]は、モニター モードがオンになっていることを示します。このモードでは、受信されたコードは処理されませんが、記号の形式で表示されます
フィールド 4	両方	現在の動作モードを示します <b>[FDX]</b> は、全二重モードを示します <b>[HDX]</b> は、半二重モードを示します <b>[LCL]</b> は、ローカル モードを示します <b>[BLK]</b> は、ブロック モードを示します <b>[HBLK]</b> は、半二重ブロック モードを示します <b>[HLD]</b> は、ディスプレイの更新が中断されていることを示します。 <b>[Hold]</b> キーを押すと、ディスプレイ更新のオンとオフが切り替わります
フィールド 5	両方	<b>[&gt;AUX]</b> は、エミュレーションが補助印刷モードまたは透過印刷モードであることを示します <b>[&lt;AUX]</b> は、エミュレーションが補助受信モードであることを示します <b>[=AUX]</b> は、エミュレーションが補助受信モードおよび補助印刷モードであることを示します <b>[%AUX]</b> は、画面印刷操作が進行中であることを示します
フィールド 6	標準	<b>[rrr-ccc]</b> は、カーソルの現在の行位置およびカラム位置を示します
フィールド 6	拡張	<b>[PROT]</b> は、保護モードがオンになっていることを示します
フィールド 7	拡張	<b>[WPRT]</b> は、保護モードのときに書き込み禁止モードがオンになっていることを示します
フィールド 8	拡張	<b>[INS]</b> は、挿入モードがオンになっていることを示します

## セットアップ オプション

Wyse エミュレーションは、**[Wyse Settings]** (Wyse の設定) ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定されます。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

**セッション ウィザードの使用 :**

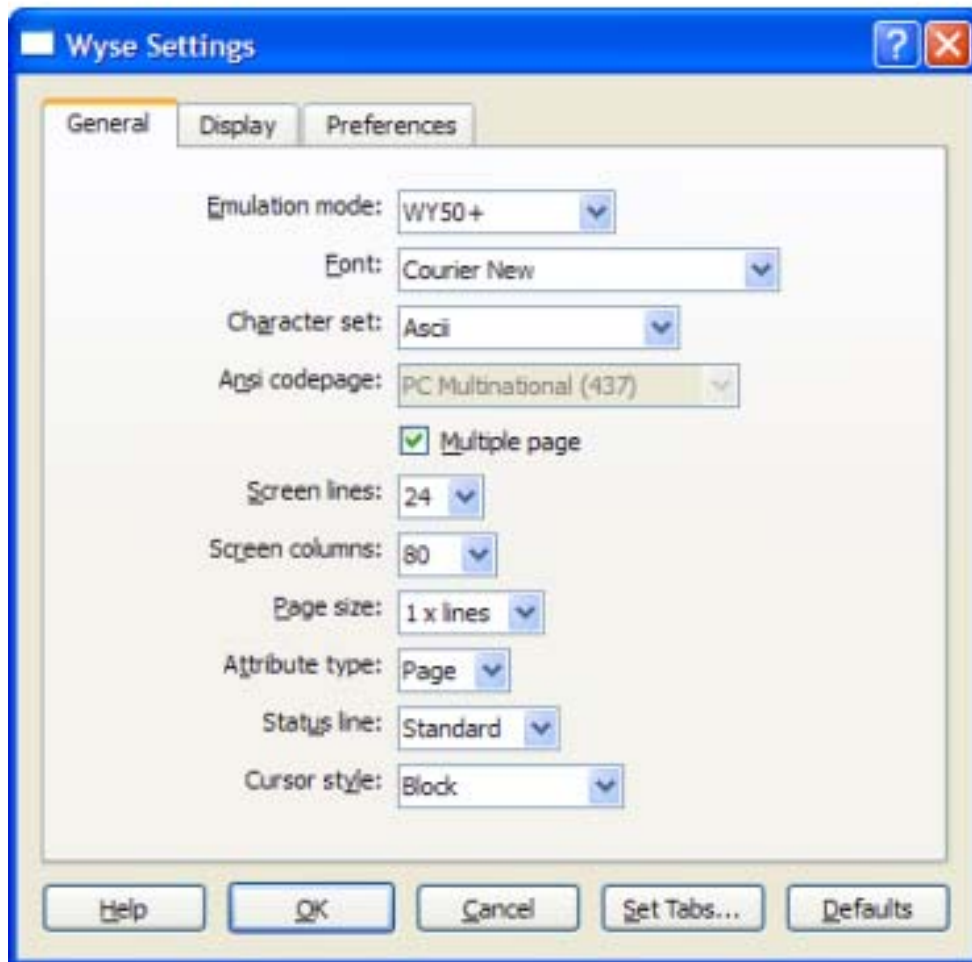
- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を **[Wyse]** に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

**TeemTalk ウィンドウの使用 :**

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]** → **[Wyse]** の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]** 一覧の **[Wyse]** を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[General]** (全般)、**[Display]** (ディスプレイ)、**[Preferences]** (設定) というラベルの付いた 3 つのタブにグループ化されています。

## 一般設定



- **Emulation mode** (エミュレーション モード)

工場出荷時の設定 : [WY50+]

ここでは、Wyse WY-50/50+/60 ターミナルによってサポートされている、エミュレートする特定のターミナルを指定します。以下の中から選択します。

- **ADDS A2**

Wyse WY-50/50+/60 ターミナルでエミュレートされたときに、ADDS Viewpoint A2 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **HZ 1500**

Wyse WY-50/50+/60 ターミナルでエミュレートされたときに、Hazeltine 1500 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **Stratus V102**

Stratus V102 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **TVI910、TVI920、および TVI925**

Wyse WY-50/50+/60 ターミナルでエミュレートされたときに、TeleVideo 910+、920、および 925 ターミナルをそれぞれ動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **TVI950 および TVI955**

TeleVideo 950 および 955 ターミナルをそれぞれ動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **WY50、WY50+、および WY60**

Wyse WY-50、WY-50+、および WY-60 ターミナルをそれぞれ動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **Wyse PCTerm**

Wyse でサポートされている PC Term の個人設定用に設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **Font** (フォント)

工場出荷時の設定 : [Courier New]

表示される文字に使用するフォントを指定できます。使用可能な設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。

- **Character set** (文字セット)

工場出荷時の設定 : [Ascii] (ASCII)

表示される文字に使用する文字セットを指定します。

- **Ansi codepage** (ANSI コードページ)

工場出荷時の設定 : [PC Multinational (437)] (PC 多国語 (437))

このオプションによって、多国語モードのときに多国語文字セットの後半部分を形成する文字のセットが決定されます。

- **Multiple page** (複数ページ)

工場出荷時の設定 : チェック済み

このオプションは、WY-50+、WY-60、およびすべての TVI エミュレーションに適用されます。このオプションによって、表示メモリの複数のページにアクセスできるようにするかどうかが決まります。チェックを入れると、すべてのページにアクセスできるようになります。[**Auto page**] (自動ページ) オプションも参照してください。

TVI エミュレーションでは、[**Screen lines**] (画面の行数) 設定および [**Page size**] (ページ サイズ) 設定に関係なく、このオプションおよび [**Auto page**] オプションが選択されている場合には 2 ページ (1 ページ 24 行) がサポートされます。

- **Screen lines** (画面の行数)

工場出荷時の設定： 24

このオプションは WY-50+ および WY-60 エミュレーションに適用され、ステータス行の下の画面に表示されるデータ行の数を指定します。他のエミュレーションでは、24 行およびラベル行のみがサポートされます。

Screen lines (画面 表示への影響 の行数)	
24	24 行のデータ行および下部にラベル行
25	25 行のデータ行。ただし、ラベル行はなし
42	42 行のデータ行および下部にラベル行
43	43 行のデータ行。ただし、ラベル行はなし

- **Screen columns** (画面のカラム数)

工場出荷時の設定： 80


このオプションを使用すると、ディスプレイの幅として 80 または 132 カラムを指定できます。

- **Page size** (ページ サイズ)

工場出荷時の設定： [1 x lines] (1×行)

このオプションは WY-50+ および WY-60 エミュレーションに適用され、表示メモリのページのサイズを **[Lines]** (行) 設定の倍数で指定します。他のエミュレーションでは、**[1 x lines]** のみがサポートされます。

**[1 + Rest]** (1 + 残り) 設定を選択すると表示メモリが 2 ページに分割され、最初のページには **[Lines]** オプションで指定した行数が、2 つ目のページには残りのすべての行が表示されます。

 **注記：** ページの書式を変更すると、表示メモリ全体がクリアされ、カーソルがホーム位置に移動し、スクロール マージンがリセットされます。

- **Attribute type** (属性の種類)

工場出荷時の設定： [Page] (ページ)

このオプションの設定によって、表示属性を行の最後まで適用するか、ページの最後まで適用するかが決定されます。**[Character]** (文字) 設定は WY-60 エミュレーションのみに適用され、属性は画面に表示される文字にのみ適用されます。WY-50、ADDS A2、および HZ 1500 エミュレーションでは、**[Page]** (ページ) 設定のみがサポートされます。

- **Status line** (ステータス行)

工場出荷時の設定： [Standard] (標準)

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、画面上部に表示されるステータス行の種類を指定するか、または画面からステータス行を削除できます。

**[Standard]** ステータス行と **[Extended]** (拡張) ステータス行には、どちらもエミュレーションまたはアプリケーションの状態に関するメッセージが表示されます。**[Extended]** ステータ

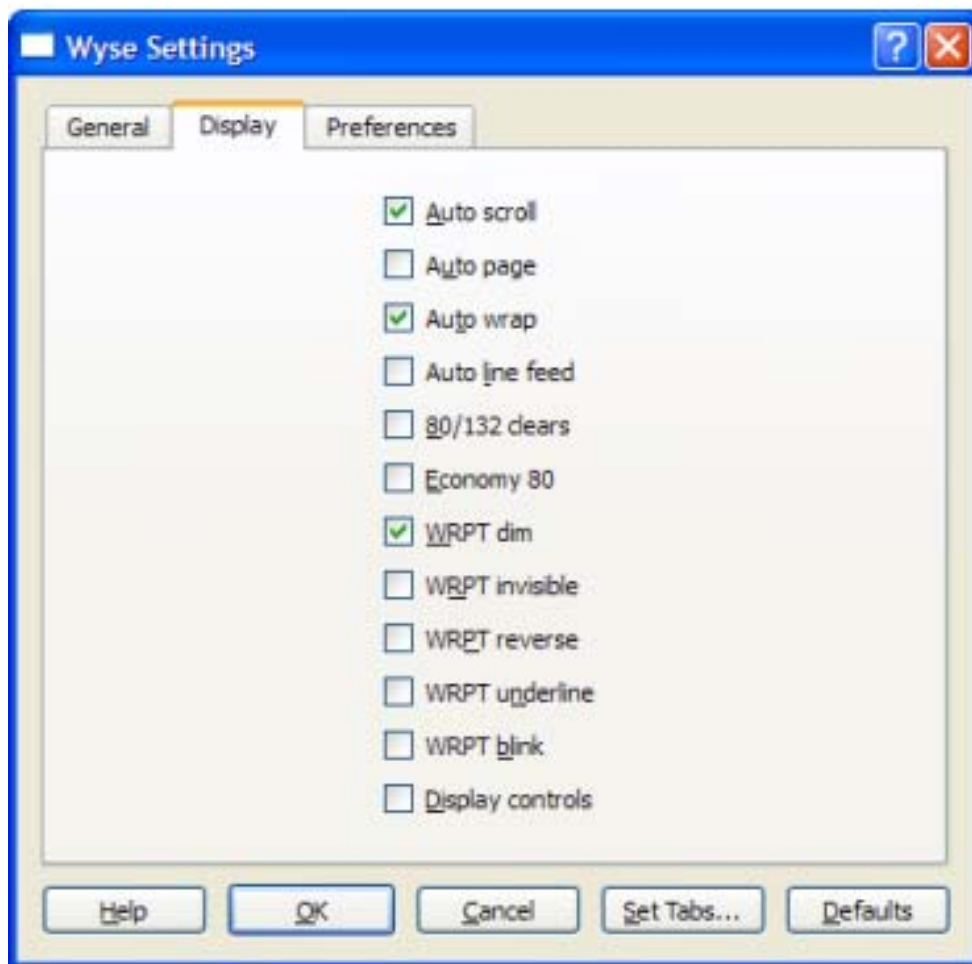
ス行には、編集ステータス メッセージも表示されます。詳しくは、[235 ページの「ステータス行」](#)のセクションを参照してください。

- **Cursor style** (カーソル スタイル)

工場出荷時の設定 : [Block] (ブロック)

これにより、テキスト カーソルの表示方法を指定できます。**[Block]**、**[Underline]** (下線)、**[Static block]** (静的なブロック)、**[Static underline]** (静的な下線)、または**[None]** (なし) から選択します。

## 表示



- **Auto scroll** (自動スクロール)

工場出荷時の設定：チェック済み


このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、現在のページの最後の行より下にカーソルが移動したときに行われる動作を決定します。チェックを入れると、表示されているデータが上にスクロールされ、カーソルは最後の行にとどまります。チェックを外すと、同じページの最上部にカーソルが移動します。

- **Auto page** (自動ページ)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションは、WY-50+、WY-60、およびすべてのTVIエミュレーションに適用されます。このオプションによって、カーソルがページの最上部または最下部に達したときに行われる動作が決定されます。

チェックを外すと、[**Auto Scroll**]オプションの設定に沿って、カーソルが同じページの最上部に移動するか、またはデータが下から上にスクロールされます。チェックを入れると、新しいページのメモリが表示されます。

 **注記：** その他のエミュレーションでは、常に新しいページのメモリが表示されます。



- **Auto wrap** (自動折り返し)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、右マージンに達したときに文字が次の行に折り返すかどうかが決まります。チェックを外すと、右マージンに達したときに、新しい文字が受信されるたびに最後の文字位置がその文字で上書きされます。

- **Auto line feed** (自動ライン フィード)

工場出荷時の設定：未チェック

チェックを入れると、受信されたすべてのキャリッジ リターン コマンドにライン フィード コマンドが追加されます。

- **80/132 clears** (80/132 クリア)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションは WY-50+ および WY-60 エミュレーションに適用され、カラムの数が変更されたときにデータの表示がクリアされるかどうかを決定します。その他のエミュレーションでは、カラムの数が変更されると画面は常にクリアされます。

- **Economy 80** (エコノミー 80)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションは WY-50+ および WY-60 エミュレーションに適用され、80 カラムのディスプレイにより多くの行の表示メモリを追加できます。

- **WRPT dim**

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、書き込み禁止文字がディスプレイ上で表示される方法を指定できます。このオプションをチェックすると、書き込み禁止文字が淡色で表示されます。

- **WRPT invisible**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、書き込み禁止文字がディスプレイ上で表示される方法を指定できます。このオプションをチェックすると、書き込み禁止文字が表示されなくなります。WY-50+ および WY-60 エミュレーションでも、この非表示属性はサポートされています。

- **WRPT reverse**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、書き込み禁止文字がディスプレイ上で表示される方法を指定できます。このオプションをチェックすると、書き込み禁止文字が反転表示されます。

- **WRPT underline**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、書き込み禁止文字がディスプレイ上で表示される方法を指定できます。このオプションをチェックすると、書き込み禁止文字に下線が引かれます。WY-50+および WY-60 エミュレーションでも、この下線属性がサポートされています。

- **WRPT blink**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、書き込み禁止文字がディスプレイ上で表示される方法を指定できます。このオプションをチェックすると、書き込み禁止文字が点滅します。

- **Display controls** (制御文字を表示する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションによって、受信した制御コードを処理するか、または表示するかが決定されます。

## 設定



- **DEL = destBS**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションは WY-50+および WY-60 エミュレーションに適用され、表示されている文字に対して ASCII **DEL** 文字が及ぼす影響を決定します。その他のエミュレーションでは、**DEL** 文字が無視されます。

チェックを外すと、**DEL** 文字は無視されます。チェックを入れると、**DEL** 文字は削除を行うバックスペースとして解釈されるため、カーソルの左側にある文字が削除され、その位置にカーソルが移動します。

- **Margin bell** (マージン ベル)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、指定したカラムにカーソルが達したときに警告音を発生させるかどうかを決定します。初期設定のベル カラム番号は、80 カラムモードのときが 72、132 カラム モードのときが 124 です。

- **Enhance** (拡張)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションをチェックすると、特定の Wyse 以外のターミナルでは通常サポートされていない Wyse コードのセットも TeemTalk によって認識されるようになります。
- **Answerback** (アンサーバック)

工場出荷時の設定：未指定

これにより、ANSI モード問い合わせコマンドに回答してホストに送信されるアンサーバック文字列を指定できます。この文字列は、最大 30 文字の長さにすることができます。
- **Answerback concealed** (アンサーバックを表示しない)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションにチェックを入れると、上のテキスト ボックスで指定されたアンサーバック文字列が変更ないようにロックされ、アスタリスクとして表示されます。このオプションのチェックを外すと、アンサーバック文字列が削除されることに注意してください。
- **Answerback mode** (アンサーバック モード)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、アンサーバック メッセージが **ENQ** 文字に回答してホストに自動的に送信されるようにするかどうかを決定します。
- **Send ACK** (ACK を送信する)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、特定のコマンドが実行された後に ASCII ACK 文字がホスト ポートに送信されるようにするかどうかを決定します。
- **Colour support** (カラー サポート)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションをチェックすると、ディスプレイに使用される色を決定するために、追加のホスト コマンド セットが認識されるようになります。Wyse 60 カラー コマンドを使用する Wyse 60 を除いたすべてのモードで、Wyse 350 カラー コマンドが認識されるようになります。
- **Application key mode** (アプリケーション キー モード)

工場出荷時の設定：未チェック

アプリケーション キー モードを選択すると、ファンクション キーおよび特定の編集キーが押されたときに、それらのキーが再定義されているかどうかに関係なくアプリケーション コードが送信されるようになります。このオプションを選択しないと、プログラムされているキーの定義が送信されます。
- **CR = CR/NULL**

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションでは、**CR** 時の **NULL** の自動送信を無効にできます。
- **Block mode** (ブロック モード)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションはすべてのエミュレーションに適用されます。ブロック モードでは、キーボードから入力されたデータが表示され、ローカルで処理されるため、データを編集してからデータのブロックをホストに送信できます。ブロック モードが無効に設定されている場合、データはキーボードから入力されたときにホストに送信されます。

- **Block end** (ブロック終了)

工場出荷時の設定：[US CR]

このオプションはすべてのエミュレーションに適用され、データのブロックがホストに送信されたときに行およびブロックの終了を示すために使用される ASCII 文字を指定します。

[US/CR]に設定すると、行終端子が **US** 文字、ブロック終端子が **CR** 文字になります。[CRLF/ETX]に設定すると、行終端子が **CR** 文字および **LF** 文字、ブロック終端子が **ETX** 文字になります。

- **Jump scroll** (ジャンプ スクロール)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、ウィンドウがいっぱいになったときに、データが 1 行スクロールされるか、または一度に複数行スクロールされるかが決定されます。

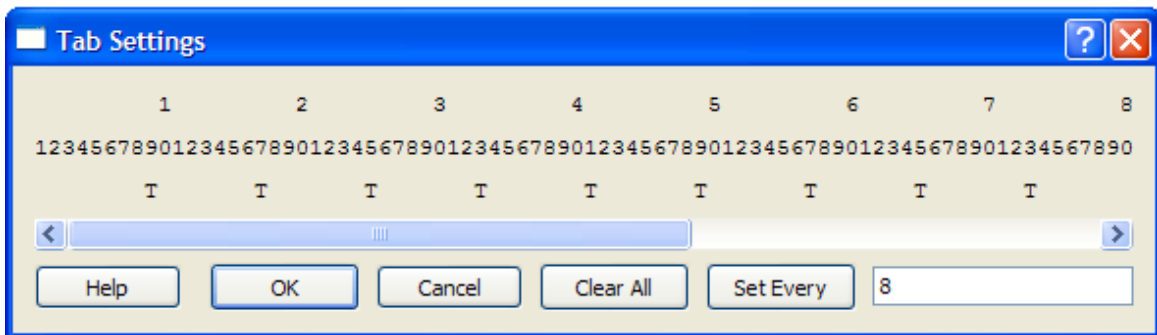
チェックを入れると、下の[**Scroll rate**] (スクロール速度) 設定に従って、データは一度に複数行上にスクロールされます。

- **Scroll rate** (スクロール速度)

工場出荷時の設定： 24

これにより、上の[**Jump scroll**]オプションが選択されている場合にスクロールされる行数が決定されます。

## タブの設定



[**Wyse Settings**] (Wyse の設定) ダイアログの一番下にある[**Set Tabs...**] (タブの設定...) ボタンをクリックすると、タブ ストップを設定できる[**Tab Settings**] (タブの設定) ダイアログが表示されます。

初期設定では、タブ ストップは 8 カラムごとに設定され、該当するカラム番号の下にある[T]の文字で示されています。タブ ストップを 8 カラムごと以外の規則的な間隔で設定する場合は、[Set Every] (設定間隔) ボタンの横にあるボックスに各タブ ストップ間に必要なカラムの数を入力してから、このボタンをクリックします。

関連するカラム番号の上または下にあるマウス ポインターをクリックすることによって、個々のタブ ストップのオン/オフを切り替えることができます。

すべてのタブ ストップを削除するには、[Clear All] (すべてクリア) ボタンをクリックします。

現在のタブ ストップを保存するには、[File] (ファイル) メニューの[Save Session] (セッションを保存) を選択します。

# 21 MDIS Prism エミュレーション

この章では、MDIS (McDonnell Douglas Information Systems) Prism のターミナル エミュレーションの機能について説明します。

## はじめに

MD Prism シリーズのターミナル エミュレーション スイートは、以下の個人設定で構成されています。これらの個人設定は、**[MD Prism Settings]** (MD Prism の設定) ダイアログの**[General]** (全般) タブの**[Personality]** (個人設定) オプションを使用して選択できます。

### Prism 8/12

MDIS Prism 8 および Prism 12 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

### Prism 9

MDIS Prism 9 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

## MD Prism エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

## TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、MD Prism エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. **[スタート]**メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]** (セッション ウィザード) の順に選択します。
2. **[Session Name]** (セッション名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. **[Transport]** (トランスポート) の方法を選択し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックして設定を指定します。
4. **[Connection]** (接続) の種類を選択し、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します。
5. **[Emulation]** (エミュレーション) 一覧の**[MD Prism]**を選択し、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します (これらのオプションについては、[254 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します)。

6. **[Next]** (次へ) をクリックして、**[Advanced Options]** (詳細設定オプション) ダイアログを表示します。
7. **[Next]** をクリックして、**[Finalization]** (確定) ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**[Create icon on desktop for session]** (デスクトップにセッションのアイコンを作成する) チェック ボックスにチェックを入れます。
9. **[OK]** をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。該当する**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから MD Prism エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから**[Session]** (セッション) メニューを表示し、**[Transport...]** (トランスポート...) を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]** メニューを表示し、**[Connection...]** (接続...) を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]** メニューを表示し、**[Emulation...]** (エミュレーション...) を選択します。エミュレーションを**[MD Prism]**に設定します。
4. **[Session]** メニューで、関連する**[Configure]** (設定) オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) を選択することによって表示されるオプションは、[254 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Save Session As]** (セッションに名前を付けて保存) を選択します。**[File Name]** (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]** (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は**.fts**になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]** メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、**[Tools]** (ツール) メニューの**[Key Macros...]** (キー マクロ...) を選択して表示される**[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) ダイアログにある**[Emulation Keys]** (エミュレーション キー) 一覧を参照することによって特定できます。



右のカラムにあるカッコ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は **Shift** キーを、**C+**は **Control** キーを、**A+**は **Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

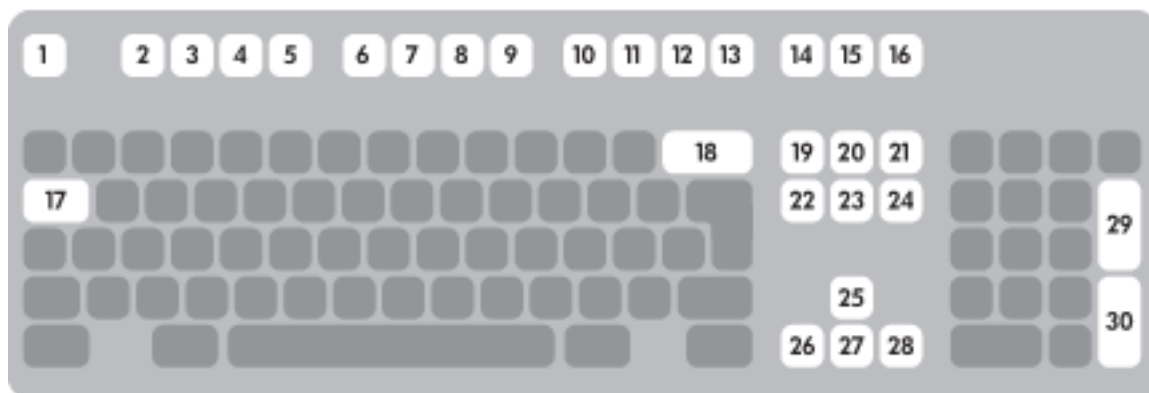
MD\_F20 (A+VK\_F10)

これは、**F20** の機能が、**Alt + F10** というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

通常 MDIS Prism キーボード上にある特殊キーの機能は、**[Key Macro Settings]** ダイアログに一覧表示されている **MD** 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、MDIS キーボードの機能が、101/102 キー キーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

**図 21-1** MDIS Prism エミュレーションの 101/102 キー キーボード レイアウト




**表 21-1** MDIS Prism のキーボード マッピング

キー	キーモディファイア	判定	キー	キーモディファイア	判定
1		ESC	16		BREAK
2	なし	PF1	17	なし Shift +	TAB BACKTAB
3	なし	PF2	18	なし Shift +	DELETE BACKSPACE
4	なし Alt +	PF3 F13	19		FIND
5	なし Shift + Alt +	PF4 TTY 印刷モード F14	20		INSERT
6	Alt +	HELP (F15)	21		REMOVE

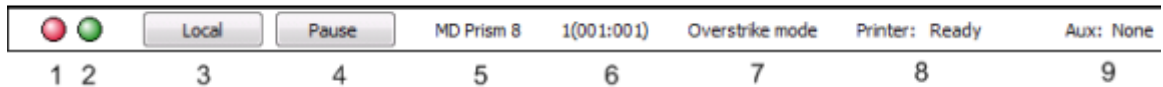
表 21-1 MDIS Prism のキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
7	Alt +	DO (F16)	22		SELECT
8	なし	F7	23		PREVIOUS PAGE
	Alt +	F17			
9	なし	F8	24		NEXT PAGE
	Alt +	F18			
10	なし Alt +	F9 F19	25	なし	CURSOR UP
				Ctrl +	SCROLL UP
				Alt +	COMPOSE CHARACTER
				Shift + Ctrl +	SETUP
11	なし Alt +	F10 F20	26	なし	CURSOR LEFT
				Ctrl +	SCROLL LEFT
12		F11	27	なし	CURSOR DOWN
				Ctrl +	SCROLL DOWN
				Alt +	DATATALK
13		F12	28	なし	CURSOR RIGHT
				Ctrl +	SCROLL RIGHT
14	Ctrl +	PRINT SCREEN	29	なし	,
	Shift + Ctrl +	PRINT SCROLLING REGION		Alt +	-
15		HOLD SCREEN	30		ENTER

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

## ステータス バー

TeemTalk ウィンドウ内のエミュレーション ワークスペースの下には、さまざまな動作のステータスを示すとともに、モードを切り替えるためのボタンを備えたステータス バーがあります。このステータス バーに表示される情報は、現在のターミナル エミュレーションによって異なります。



番号	説明
1	このランプは、ホストに接続されているかどうかを示します。接続されていないときは赤色に、接続されているときは緑色に点灯します
2	このランプは、ホストとの間でデータが送受信されているかどうかを示します。操作が行われていないときは暗い緑色に、ホストにデータが送信されているときは赤色に、ホストからデータを受信しているときは明るい緑色に点灯します
3	このボタンを使用すると、 <b>[Local]</b> （ローカル）モードと <b>[Online]</b> （オンライン）モードを切り替えることができます。このラベルは、ボタンをクリックしたときの切り替え先のモードを示します
4	このボタンを使用すると、ウィンドウ内のデータのスクロールを <b>[Pause]</b> （一時停止）または <b>[Resume]</b> （再開）できます。このラベルは、ボタンをクリックしたときに実行される操作を示します
5	現在のターミナル エミュレーションを示します
6	アクティブなセッションと現在のページ番号（常に 1）、およびテキスト カーソルの場所を行:カラムの形式で表示します
7	現在、 <b>[Overstrike mode]</b> （上書きモード）と <b>[Insert mode]</b> （挿入モード）のどちらがアクティブかを示します。 <b>[Overstrike mode]</b> （初期設定）では、新しい文字が、カーソル位置にある既存の文字を置き換えます。 <b>[Insert mode]</b> がアクティブな場合、新しい文字は既存の文字を削除することなくカーソル位置に挿入され、既存の文字は右に移動します

番号	説明
8	<p>プリンターのステータスを以下のように示します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[None]</b> (なし) は、プリンターの電源が入っていないか、プリンターが接続されていないか、またはプリンターのインストールおよび設定が行われていないことを示します</li> <li>• <b>[Not Ready]</b> (準備中) は、プリンターで印刷データを受信する準備ができていないことを示します</li> <li>• <b>[Ready]</b> (準備完了) は、プリンターで印刷データを受信する準備ができていることを示します</li> <li>• <b>[Auto]</b> (自動印刷) は、エミュレーションが自動印刷モードであることを示します。このモードでは、カーソルを次の行に移動するコマンドが発行されると、現在のカーソル行がプリンターに送信されます</li> <li>• <b>[Controller]</b> (コントローラー) は、エミュレーションがプリンター制御モードであることを示します。このモードでは、ホストによってプリンターが直接制御されます。キーボードまたはマウスから発行された画面印刷コマンドは無視されます</li> <li>• <b>[Tty Print]</b> (TTY 印刷) は、エミュレーションが TTY 印刷モードであることを示します。このモードでは、受信した画面上の文字 (ただし、CR と LF 以外の制御コードを除く) がプリンターに送信されます</li> <li>• <b>[ErrGen]</b> (エラー発生) は、エラーが発生し、そのエラーを示すメッセージ ボックスが表示されることを示します</li> </ul>
9	<p>Aux ポートのステータスを以下のように示します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Ready]</b> (準備完了) は、Aux ポートで双方向出力を行う準備ができていることを示します</li> <li>• <b>[In Use]</b> (使用中) は、Aux ポートが現在ビジー状態であることを示します</li> <li>• <b>[None]</b> (なし) は、Aux ポートが使用できないか、または Aux ポートが設定されていないことを示します</li> </ul>

## セットアップ オプション

MD Prism エミュレーションは、**[MD Prism Settings]** (MD Prism の設定) ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定されます。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用 :

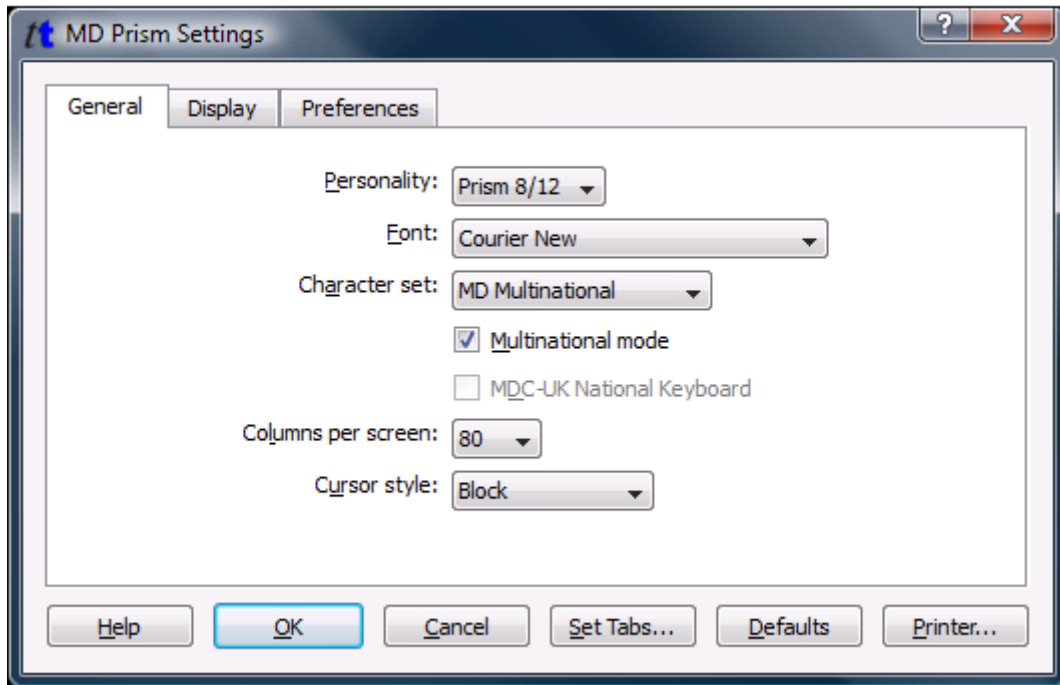
- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を**[MD Prism]**に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用 :

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]**→**[MD Prism]**の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]**一覧の**[MD Prism]**を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[General]** (全般)、**[Display]** (ディスプレイ)、**[Preferences]** (設定) というラベルの付いた 3 つのタブにグループ化されています。

## 一般設定



- **Personality**（個人設定）

工場出荷時の設定：[Prism 8/12]

エミュレートする特定の MD Prism ターミナルを指定します。以下の中から選択します。

- **[Prism 8/12]** : McDonnell Douglas Prism-8 および Prism-12 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。
- **[Prism 9]** : McDonnell Douglas Prism-9 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

- **Font**（フォント）

工場出荷時の設定：[Courier New]

表示される文字に使用するフォントを指定できます。使用可能な設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。

- **Character set**（文字セット）

工場出荷時の設定：[Multinational]（多国語）

表示される文字に使用する文字セットを指定します。

[**Iso Hebrew**] (ISO ヘブライ語) が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1** : [Multinational] の 8 ビット モードおよび左から右への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F2** : [National] (各国語) の 7 ビット モード (小文字の英字がヘブライ語として表示される) および右から左への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F3** : 左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

- **Multinational mode** (多国語モード)

工場出荷時の設定 : チェック済み

このオプションは、システムに、各国語置換文字セットをサポートする言語が設定されている場合にのみ使用できます。

このオプションの設定によって、文字を生成するために使用される文字セットの種類が決定されます。チェックを外すと、TeemTalk は、選択されたキーボード言語に固有の文字セットが使用される各国語モードになります。チェックを入れると (初期設定)、TeemTalk は、2 つの文字テーブルからなる文字セットが使用される多国語モードになります。これにより、任意のキーボード言語の文字を生成できます。

- **MDC-UK National Keyboard** (MDC-UK 各国語キーボード)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションは、TeemTalk に各国語モードが設定されている場合にのみ使用できます。

システムが英国ロケールに設定されている場合、このオプションの設定によって、**?**、**\$**、および**#**記号が自動的に再マッピングされます。

- **Columns per screen** (画面あたりのカラム数)

工場出荷時の設定 : 80

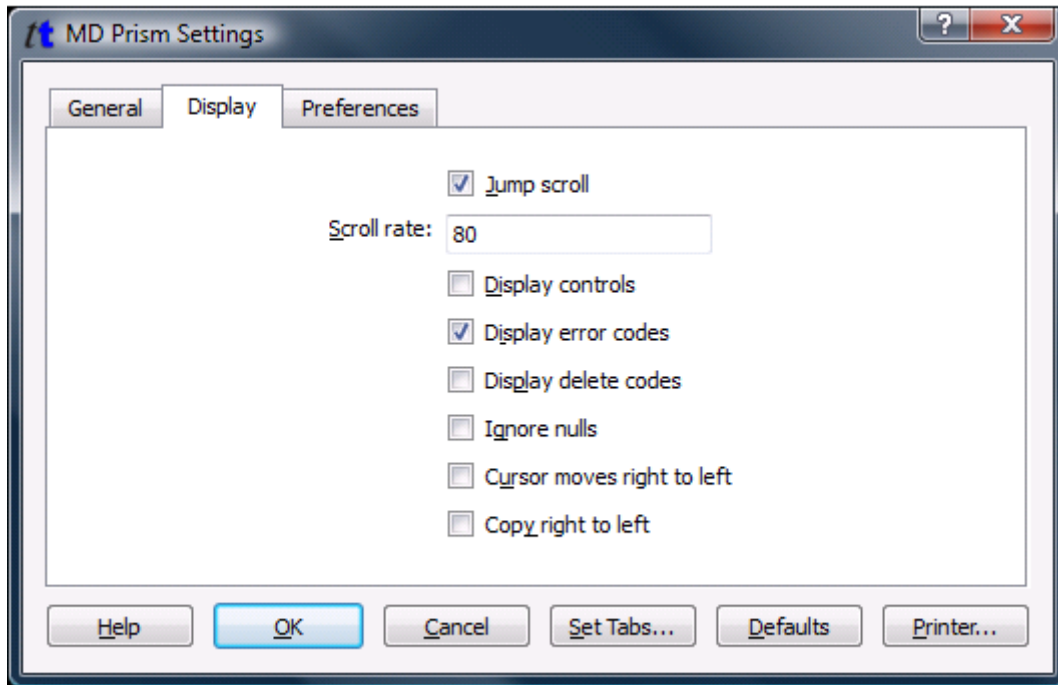
このオプションを使用すると、ワークスペースの幅として 80 または 132 カラムを指定できます。**[132]** に設定されている場合は、**[Use 80 column font]** (80 カラムのフォントを使用する) オプションの設定によって、幅の狭いフォントを使用して 132 カラムをすべて表示するか、または通常の (80 カラムの) フォントを使用して一度に 80 カラムのみを表示し、残りのカラムを表示するために水平方向にスクロールできるようにするかが決定されます。

- **Cursor style** (カーソル スタイル)

工場出荷時の設定 : [Block] (ブロック)

これにより、テキスト カーソルの表示方法を指定できます。**[Block]**、**[Underline]** (下線)、**[Static block]** (静的なブロック)、**[Static underline]** (静的な下線)、または**[None]** (なし) から選択します。

## ディスプレイの設定



- **Jump scroll** (ジャンプ スクロール)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、ウィンドウがいっぱいになったときに、データが1行スクロールされるか、または一度に複数行スクロールされるかが決定されます。

チェックを入れると、下の[**Scroll rate**] (スクロール速度) 設定に従って、データは一度に複数行上にスクロールされます。

- **Scroll rate** (スクロール速度)

工場出荷時の設定：80

これにより、上の[**Jump scroll**] (ジャンプ スクロール) オプションが選択されている場合にスクロールされる行数が決定されます。

- **Display controls** (制御文字を表示する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、受信した制御コードを処理するか、または表示するかが決定されます。チェックを入れると、ほとんどの制御コードについて、制御コードを表す文字が画面に表示されます。

- **Display error codes** (エラー コードを表示)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションによって、エラー コードが受信されたときに視覚的なインジケータが表示されるかどうかが決まります。チェックを入れると、受信されたエラー コードが逆疑問符として表示され、無視されません。

- **Display delete codes** (削除コードを表示)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションによって、削除コード (16 進数の 7F) が受信されたときにビジュアル インジケータが表示されるかどうかが決まります。チェックを入れると、削除コードの受信時に記号が表示されます。

- **Ignore nulls** (null を無視する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、ホストから受信した NULL 文字を処理するか、または無視するかが決定されます。

- **Cursor moves right to left** (カーソルを右から左に移動する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定により、テキスト カーソルがディスプレイ上を移動する方向を変更できます。

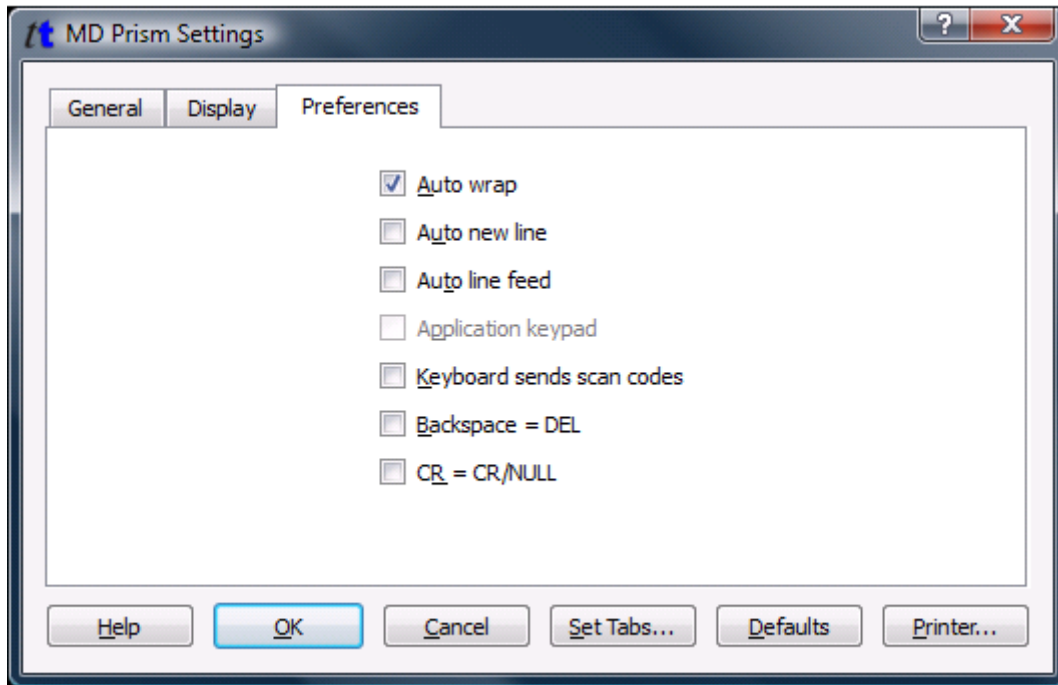
- **Copy right to left** (右から左にコピーする)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定により、コピー コマンドを右から左の表示モードで動作させることができます。



## 設定



- **Auto wrap** (自動折り返し)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、右マージンに達したときに文字が次の行に折り返すかどうかが決まります。チェックを外すと、右マージンに達したときに、新しい文字が受信されるたびに最後の文字位置がその文字で上書きされます。

- **Auto new line** (自動改行)

工場出荷時の設定：未チェック

チェックを入れると、受信したすべてのライン フィード コマンドにキャリッジ リターン コマンドが追加されます。

- **Auto line feed** (自動ライン フィード)

工場出荷時の設定：未チェック

チェックを入れると、受信したすべてのキャリッジ リターン コマンドにライン フィード コマンドが追加されます。

- **Application keypad** (アプリケーション キーパッド)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、キーボードの右側にあるキーパッドでキーを押したときの効果が決まります。

チェックを外すと、キーパッドは数値モードになり、キーはキー キャップに表示されている文字を生成します。チェックを入れると、キーパッドはアプリケーション モードになり、キーは押されたときに制御機能を生成します。

- **Keyboard sends scan codes** (キーボードはスキャン コードを送信する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定により、キーを押したり離したりしたときに、ホストにキーボードのスキャン コードを送信するか、または ASCII コードを送信するかが決定されます。

- **Backspace = DEL**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、バックスペース コマンドで削除が実行されるかどうか決定されます。

- **CR = CR/NULL**

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションでは、**CR** 時の **NULL** の自動送信を無効にできます。

## 22 ICL DOC-18 エミュレーション

この章では、ICL DOC-18 ターミナル エミュレーションの機能について説明します。

### はじめに

DOC-18 モードは ICL VT220+ (DOC-18) をエミュレートし、ICL の Office Power アプリケーションとともに使用します。

DOC-18 は VT300 8 ビット エミュレーションと同じ動作を実行しますが、テンキーは初期設定でアプリケーション モードに設定され、ディスプレイは 25 行に設定され、特殊文字設定は有効になります。また、テンキー上の **F1**~**F4** キーの機能はキーボードの上部に並ぶ最初の 4 つのファンクションキーにマップされ、**F5**~**F12** は VT220 キーボードの対応するキーと同じ機能を実行します。

### DOC-18 エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

#### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、ICL DOC-18 エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. **[スタート]**メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]** (セッション ウィザード) の順に選択します。
2. **[Session Name]** (セッション名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. **[Transport]** (トランスポート) の方法を選択し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックして設定を指定します。
4. **[Connection]** (接続) の種類を選択し、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します。
5. **[Emulation]** (エミュレーション) 一覧の**[Doc 18]**を選択し、**[Configure]** ボタンをクリックして設定を指定します。(これらのオプションについては、[266 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します)。
6. **[Next]** (次へ) をクリックして、**[Advanced Options]** (詳細設定オプション) ダイアログを表示します。
7. **[Next]** をクリックして、**[Finalization]** (確定) ダイアログを表示します。

- このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**[Create icon on desktop for session]** (デスクトップにセッションのアイコンを作成する) チェック ボックスにチェックを入れます。
- [OK]** をクリックしてセッションを作成し、終了します。
- このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。該当する **.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから DOC-18 エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

- メニュー バーから **[Session]** (セッション) メニューを表示し、**[Transport...]** (トランスポート...) を選択してトランスポートの方法を設定します。
- [Session]** メニューを表示し、**[Connection...]** (接続...) を選択して接続の方法を設定します。
- [Session]** メニューを表示し、**[Emulation...]** (エミュレーション...) を選択します。エミュレーションを **[Doc 18]** に設定します。
- [Session]** メニューで、関連する **[Configure]** (設定) オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) を選択することによって表示されるオプションは、[266 ページの「セッ トアップ オプション」](#) のセクションで説明します。
- このセッションを保存するには、**[File]** (ファイル) メニューを表示し、**[Save Session As]** (セッションに名前を付けて保存) を選択します。**[File Name]** (ファイル名) フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]** (保存) をクリックします。セッション ファイルの拡張子は **.fts** になります。
- このセッションを実行するには、**[File]** メニューを表示し、**[Open Session]** (セッションを開く) を選択します。**.fts** セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]** (開く) をクリックします。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、**[Tools]** (ツール) メニューの **[Key Macros...]** (キー マクロ...) を選択して表示される **[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) ダイアログにある **[Emulation Keys]** (エミュレーション キー) 一覧を参照することによって特定できます。

右のカラムにあるかっこ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+** は **Shift** キーを、**C+** は **Control** キーを、**A+** は **Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

VT\_F20 (A+VK\_F10)

これは、**F20**の機能が、**Alt + F10**というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。

通常 DEC VT キーボード上にある特殊キーの機能は、[**Key Macro Settings**]ダイアログに一覧表示されている **VT** 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、ICL DOC-18 キーボードの機能が、101/102 キー キーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

図 22-1 DOC-18 エミュレーションの 101/102 キー キーボード レイアウト

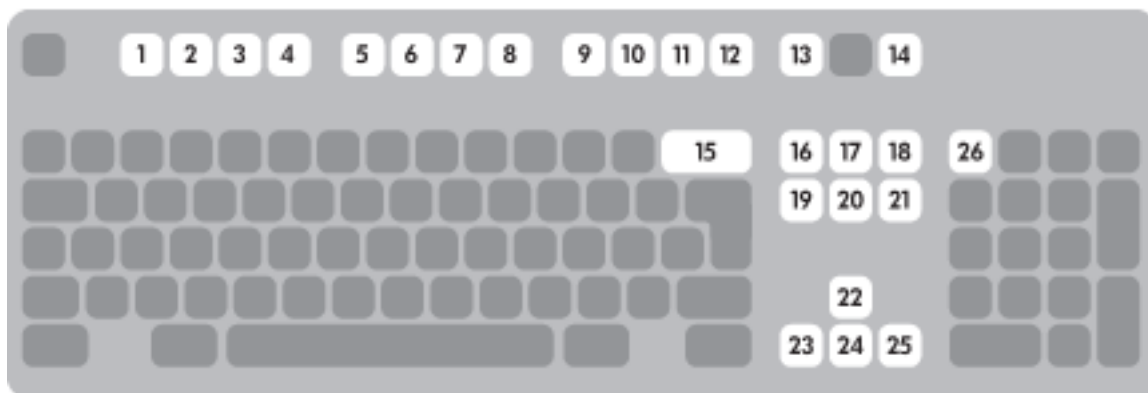



表 22-1 VT シリーズ キーボード レイアウト：通常モード

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
1	なし Alt +	PF1 F11	14		BREAK
2	なし Alt +	PF2 F12	15	なし Shift +	DELETE BACKSPACE
3	なし Alt +	PF3 F13	16		FIND
4	なし Alt +	PF4 F14	17		INSERT HERE
5	Alt +	HELP	18		REMOVE
6	なし Alt +	F6 DO	19		SELECT
7	なし Alt +	F7 F17	20		PREVIOUS SCREEN
8	なし Alt +	F8 F18	21		NEXT SCREEN

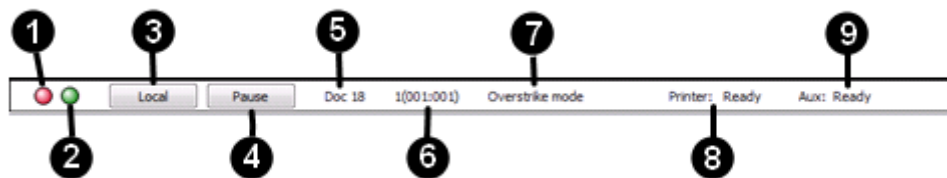
表 22-1 VT シリーズ キーボード レイアウト：通常モード（続き）

キー	キーモディファイア	判定	キー	キーモディファイア	判定
9	なし	F9	22	なし	UP
	Alt +	F19		Alt +	COMPOSE CHARACTER
10	なし	F10	23	Ctrl +	SCROLL UP
	Alt +	F20		なし	LEFT
11		F11	24	Ctrl +	SCROLL LEFT
				なし	DOWN
12		F12	25	Alt +	DATATALK
				Ctrl +	SCROLL DOWN
13	Ctrl +	PRINT	26	なし	RIGHT
	Shift + Ctrl +	PRINT SCROLLING REGION		Ctrl +	SCROLL RIGHT
				なし	NUMLOCK

 **注記：** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

## ステータス バー

TeemTalk ウィンドウ内のエミュレーション ワークスペースの下には、さまざまな動作のステータスを示すとともに、モードを切り替えるためのボタンを備えたステータス バーがあります。このステータス バーに表示される情報は、現在のターミナル エミュレーションによって異なります。



番号	説明
1	このランプは、ホストに接続されているかどうかを示します。接続されていないときは赤色に、接続されているときは緑色に点灯します
2	このランプは、ホストとの間でデータが送受信されているかどうかを示します。操作が行われていないときは暗い緑色に、ホストにデータが送信されているときは赤色に、ホストからデータを受信しているときは明るい緑色に点灯します
3	このボタンを使用すると、 <b>[Local]</b> （ローカル）モードと <b>[Online]</b> （オンライン）モードを切り替えることができます。このラベルは、ボタンをクリックしたときの切り替え先のモードを示します

番号	説明
4	このボタンを使用すると、ウィンドウ内のデータのスクロールを <b>[Pause]</b> （一時停止）または <b>[Resume]</b> （再開）できます。このラベルは、ボタンをクリックしたときに実行される操作を示します
5	現在のターミナル エミュレーションを示します
6	アクティブなセッションと現在のページ番号（常に 1）、およびテキスト カーソルの場所を行:カラムの形式で表示します
7	現在、 <b>[Overstrike mode]</b> （上書きモード）と <b>[Insert mode]</b> （挿入モード）のどちらがアクティブかを示します。 <b>[Overstrike mode]</b> （初期設定）では、新しい文字が、カーソル位置にある既存の文字を置き換えます。 <b>[Insert mode]</b> がアクティブな場合、新しい文字は既存の文字を削除することなくカーソル位置に挿入され、既存の文字は右に移動します
8	プリンターのステータスを以下のように示します <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[None]</b>（なし）は、プリンターの電源が入っていないか、プリンターが接続されていないか、またはプリンターのインストールおよび設定が行われていないことを示します</li> <li>• <b>[Not Ready]</b>（準備中）は、プリンターで印刷データを受信する準備ができていないことを示します</li> <li>• <b>[Ready]</b>（準備完了）は、プリンターで印刷データを受信する準備ができていないことを示します</li> <li>• <b>[Auto]</b>（自動印刷）は、エミュレーションが自動印刷モードであることを示します。このモードでは、カーソルを次の行に移動するコマンドが発行されると、現在のカーソル行がプリンターに送信されます</li> <li>• <b>[Controller]</b>（コントローラー）は、エミュレーションがプリンター制御モードであることを示します。このモードでは、ホストによってプリンターが直接制御されます。キーボードまたはマウスから発行された画面印刷コマンドは無視されます</li> <li>• <b>[Tty Print]</b>（TTY 印刷）は、エミュレーションが TTY 印刷モードであることを示します。このモードでは、受信した画面上の文字（ただし、CR と LF 以外の制御コードを除く）がプリンターに送信されます</li> <li>• <b>[ErrGen]</b>（エラー発生）は、エラーが発生し、そのエラーを示すメッセージ ボックスが表示されることを示します</li> </ul>
9	Aux ポートのステータスを以下のように示します <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Ready]</b>（準備完了）は、Aux ポートで双方向出力を行う準備ができていないことを示します</li> <li>• <b>[In Use]</b>（使用中）は、Aux ポートが現在ビジー状態であることを示します</li> <li>• <b>[None]</b>（なし）は、Aux ポートが使用できないか、または Aux ポートが設定されていないことを示します</li> </ul>

## セットアップ オプション

DOC-18 エミュレーションは、**[Doc 18 Settings]** (Doc 18 の設定) ダイアログにあるセットアップオプションを使用して設定されます。このダイアログは、以下の3つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用 :

- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を**[Doc 18]**に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

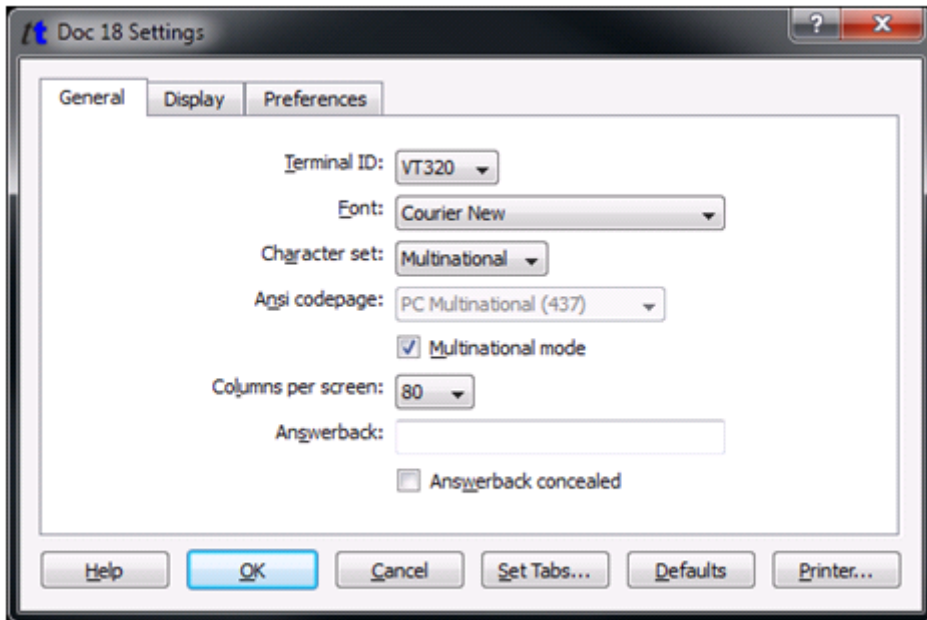
TeemTalk ウィンドウの使用 :

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]** → **[Doc 18]**の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]**一覧の**[Doc 18]**を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[General]** (全般)、**[Display]** (ディスプレイ)、**[Preferences]** (設定) というラベルの付いた3つのタブにグループ化されています。



## 一般設定



- **Terminal ID** (端末 ID)

工場出荷時の設定 : [VT320]

端末 ID 要求に応答してホストに返される内容を指定します。指定されたターミナルの一部の機能がサポートされない可能性があることに注意してください。

- **Font** (フォント)

工場出荷時の設定 : [Courier New]

表示される文字に使用するフォントを指定できます。使用可能な設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。

- **Character set** (文字セット)

工場出荷時の設定 : [Multinational] (多国語)

表示される文字に使用する文字セットを指定します。

**[Iso Hebrew]** (ISO ヘブライ語) が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1** : [Multinational] の 8 ビット モードおよび左から右への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F2** : [National] (各国語) の 7 ビット モード (小文字の英字がヘブライ語として表示される) および右から左への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F3** : 左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

- **Ansi codepage** (ANSI コードページ)

工場出荷時の設定 : [PC Multinational (437)] (PC 多国語 (437))

このオプションは、[Character set] (文字セット) オプションが PC Ansi (PC ANSI) に設定されている場合に、表示のために使用する文字セットを指定します。

各コード ページは、2 つの文字テーブルで構成されます。最初のテーブルは、標準の ASCII 文字セットです。2 つ目のテーブルには、コード ページごとに異なる特殊文字が含まれています。

**[PC Hebrew (862)]** (PC ヘブライ語 (862)) が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1** : [Multinational] の 8 ビット モードおよび左から右への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F2** : [National] (各国語) の 7 ビット モード (小文字の英字がヘブライ語として表示される) および右から左への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F3** : 左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

- **Multinational mode** (多国語モード)

工場出荷時の設定 : チェック済み

このオプションは、システムに、各国語置換文字セットをサポートする言語が設定されている場合にのみ使用できます。

このオプションの設定によって、文字を生成するために使用される文字セットの種類が決定されます。チェックを外すと、TeemTalk は、選択されたキーボード言語に固有の文字セットが使用される各国語モードになります。チェックを入れると (初期設定)、TeemTalk は、2 つの文字テーブルからなる文字セットが使用される多国語モードになります。これにより、任意のキーボード言語の文字を生成できます。

- **Columns per screen** (画面あたりのカラム数)

工場出荷時の設定 : 80

このオプションを使用すると、ワークスペースの幅として 80 または 132 カラムを指定できます。

- **Answerback** (アンサーバック)

工場出荷時の設定 : 未指定

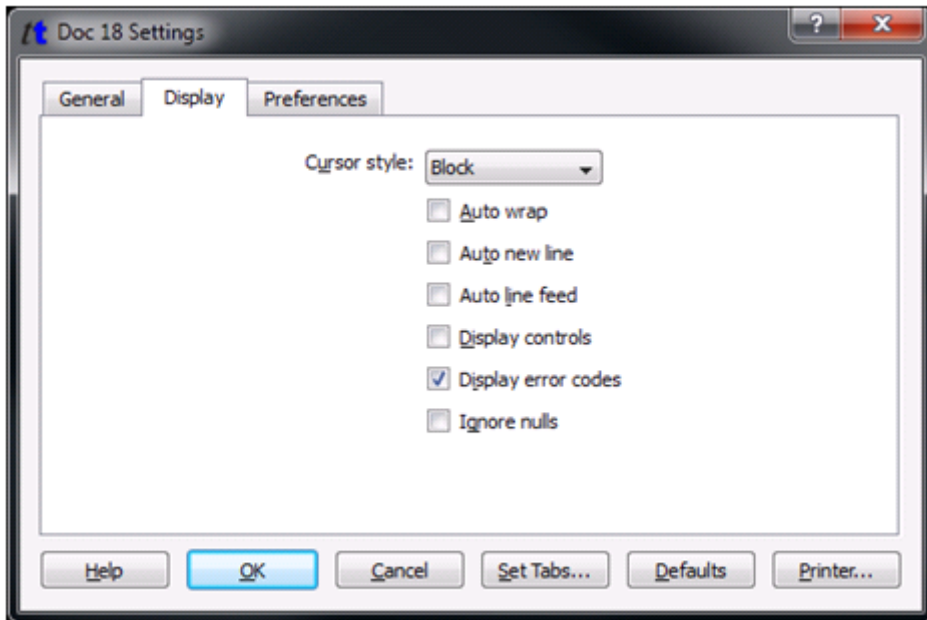
これにより、ANSI モード問い合わせコマンドに応答してホストに送信されるアンサーバック文字列を指定できます。この文字列は、最大 30 文字の長さにすることができます。

- **Answerback concealed** (アンサーバックを表示しない)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションを選択すると、**[Answerback]** の文字列が変更ないようにロックされ、アスタリスクとして表示されます。このオプションのチェックを外すと、**[Answerback]** の文字列は削除されます。

## ディスプレイの設定



- **Cursor style** (カーソル スタイル)  
工場出荷時の設定 : [Block] (ブロック)  
これにより、テキスト カーソルの表示方法を指定できます。**[Block]**、**[Underline]** (下線)、**[Static block]** (静的なブロック)、**[Static underline]** (静的な下線)、または**[None]** (なし) から選択します。
- **Auto wrap** (自動折り返し)  
工場出荷時の設定 : 未チェック  
このオプションの設定によって、右マージンに達したときに文字が次の行に折り返すかどうかが決まります。チェックを外すと、右マージンに達したときに、新しい文字が受信されるたびに最後の文字位置がその文字で上書きされます。
- **Auto new line** (自動改行)  
工場出荷時の設定 : 未チェック  
チェックを入れると、受信したすべてのライン フィード コマンドにキャリッジ リターン コマンドが追加されます。
- **Auto line feed** (自動ライン フィード)  
工場出荷時の設定 : 未チェック  
チェックを入れると、受信したすべてのキャリッジ リターン コマンドにライン フィード コマンドが追加されます。
- **Display controls** (制御文字を表示する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、受信した制御コードを処理するか、または表示するかが決定されます。チェックを入れると、ほとんどの制御コードについて、制御コードを表す文字が画面に表示されます。

- **Display error codes** (エラー コードを表示)

工場出荷時の設定：チェック済み

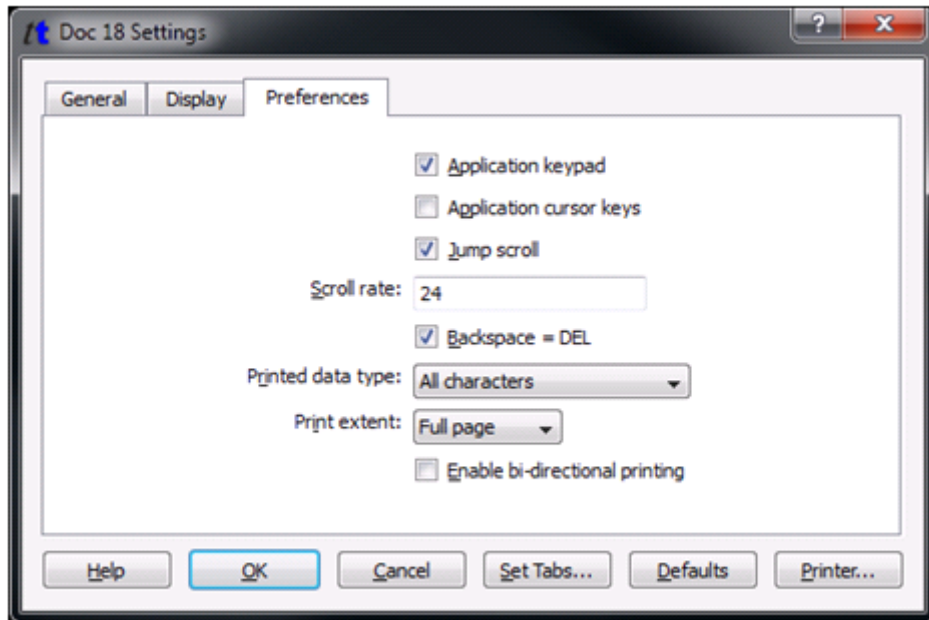
このオプションによって、エラー コードが受信されたときに視覚的なインジケータが表示されるかどうかが決まります。チェックを入れると、受信されたエラー コードが逆疑問符として表示され、無視されません。

- **Ignore nulls** (null を無視する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、ホストから受信した NULL 文字を処理するか、または無視するかが決定されます。

## 設定



- **Application keypad** (アプリケーション キーパッド)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、キーボードの右側にあるキーパッドでキーを押したときの効果が決定されます。

チェックを外すと、キーパッドは数値モードになり、キーはキー キャップに表示されている文字を生成します。チェックを入れると、キーパッドはアプリケーション モードになり、キーは押されたときに制御機能を生成します。

- **Application cursor keys** (アプリケーション カーソル キー)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションにチェックを入れると、カーソル キーは押されたときにアプリケーション プログラム コードを生成します。チェックを外すと、キーは通常のカーソル移動コマンドを生成します。

- **Jump scroll** (ジャンプ スクロール)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、ウィンドウがいっぱいになったときに、データが1行スクロールされるか、または一度に複数行スクロールされるかが決定されます。

チェックを入れると、**[Scroll rate]** (スクロール速度) 設定に従って、データは一度に複数行上にスクロールされます。

- **Scroll rate** (スクロール速度)

工場出荷時の設定：24

これにより、**[Jump scroll]**オプションが選択されている場合にスクロールされる行数が決定されます。

- **Backspace = DEL**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、バックスペース コマンドで削除が実行されるかどうかが決まります。

- **Printed data type** (印刷されるデータの種類)

工場出荷時の設定：[All characters] (すべての文字)

このオプションの設定によって、プリンターに送信される文字の範囲が決定されます。[All characters]、[Ascii characters] (ASCII 文字)、[National only] (各国語のみ)、[Multinational + line drawing] (多国語+行描画)、または[National + line drawing] (各国語+行描画) から選択します。

- **Print extent** (印刷の範囲)

工場出荷時の設定：[Full page] (ページ全体)

このオプションの設定によって、画面印刷コマンドで印刷される表示領域が決定されます。[Full page]または[Scroll region] (スクロール領域) のどちらかを選択します。

- **Enable bi-directional printing** (双方向印刷を有効にする)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、プリンターからのデータを、印刷コントローラー モード中にホストに転送できるかどうかが決まります。

# 23 Siemens 97801 エミュレーション

この章では、Siemens 97801 ターミナル エミュレーションの機能について説明します。

## はじめに

Siemens 97801 モードは、Siemens 97801 ターミナルを動作させるように設計されたソフトウェアとの互換性を提供します。

## Siemens 97801 エミュレーション セッションの作成

TeemTalk セッション ウィザードを使用して、または TeemTalk の実行中にセッションを作成できます。

### TeemTalk セッション ウィザードの使用

ここでは、TeemTalk セッション ウィザードを使用して、Siemens 97801 エミュレーション セッションを作成する方法について説明します。

1. **[スタート]**メニューから TeemTalk セッション ウィザードを実行するには、**[すべてのプログラム]**→**[HP]**→**[HP TeemTalk ターミナル エミュレーター]**→**[Session Wizard]**（セッションウィザード）の順に選択します。
2. **[Session Name]**（セッション名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力します。
3. **[Transport]**（トランスポート）の方法を選択し、**[Configure]**（設定）ボタンをクリックして設定を指定します。
4. **[Connection]**（接続）の種類を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します。
5. **[Emulation]**（エミュレーション）一覧の**[Siemens 97801]**を選択し、**[Configure]**ボタンをクリックして設定を指定します（これらのオプションについては、[278 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します）。
6. **[Next]**（次へ）をクリックして、**[Advanced Options]**（詳細設定オプション）ダイアログを表示します。
7. **[Next]**をクリックして、**[Finalization]**（確定）ダイアログを表示します。
8. このセッションのショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**[Create icon on desktop for session]**（デスクトップにセッションのアイコンを作成する）チェック ボックスにチェックを入れます。

9. **[OK]**をクリックしてセッションを作成し、終了します。
10. このセッションを実行するには、セッションのデスクトップ アイコンを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックします。または、TeemTalk を実行して、**[File]**（ファイル）メニューを表示し、**[Open Session]**（セッションを開く）を選択します。該当する**.fts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]**（開く）をクリックします。

## TeemTalk エミュレーター ウィンドウの使用

ここでは、TeemTalk エミュレーター ウィンドウから Siemens 97801 エミュレーション セッションを作成するための手順について説明します。

1. メニュー バーから**[Session]**（セッション）メニューを表示し、**[Transport...]**（トランスポート...）を選択してトランスポートの方法を設定します。
2. **[Session]**メニューを表示し、**[Connection...]**（接続...）を選択して接続の方法を設定します。
3. **[Session]**メニューを表示し、**[Emulation...]**（エミュレーション...）を選択します。エミュレーションを**[Siemens 97801]**に設定します。
4. **[Session]**メニューで、関連する**[Configure]**（設定）オプションを選択することによって、トランスポート、接続、およびエミュレーションを設定できます。**[Configure Emulation]**（エミュレーションの設定）を選択することによって表示されるオプションは、[278 ページの「セットアップ オプション」](#)のセクションで説明します。
5. このセッションを保存するには、**[File]**（ファイル）メニューを表示し、**[Save Session As]**（セッションに名前を付けて保存）を選択します。**[File Name]**（ファイル名）フィールドに、今後名前を選択できるように、このセッション設定を識別する一意の名前を入力し、**[Save]**（保存）をクリックします。セッション ファイルの拡張子は**.fts**になります。
6. このセッションを実行するには、**[File]**メニューを表示し、**[Open Session]**（セッションを開く）を選択します。**.fts**セッション ファイルの名前を選択し、**[Open]**（開く）をクリックします。

## キーボード マッピング

コンピューターのキーボードの機能は、エミュレートするターミナルに可能なかぎり一致するようにマッピングされます。キーの機能のマッピングは、**[Tools]**（ツール）メニューの**[Key Macros...]**（キー マクロ...）を選択して表示される**[Key Macro Settings]**（キー マクロの設定）ダイアログにある**[Emulation Keys]**（エミュレーション キー）一覧を参照することによって特定できます。

右のカラムにあるかっこ内の情報は、左のカラムで指定されたキーの機能の初期設定のマッピングを示します。この一覧で、**S+**は **Shift** キーを、**C+**は **Control** キーを、**A+**は **Alt** キーを示します。たとえば、以下のように指定します。

SI\_F20 (A+VK\_F10)

これは、**F20**の機能が、**Alt + F10**というキーの組み合わせにマッピングされていることを示します。



通常 Siemens 97801 キーボード上にある特殊キーの機能は、[Key Macro Settings]ダイアログに一覧表示されている **SI** 仮想キーの名前を使用して、キーボード上の任意のキーにマッピングできます。

以下のページの図は、Siemens 97801 キーボードの機能が、101/102 キー キーボード上のどのキーにマッピングされているかを示しています。

図 23-1 Siemens 97801 エミュレーションの 101/102 キー キーボード レイアウト

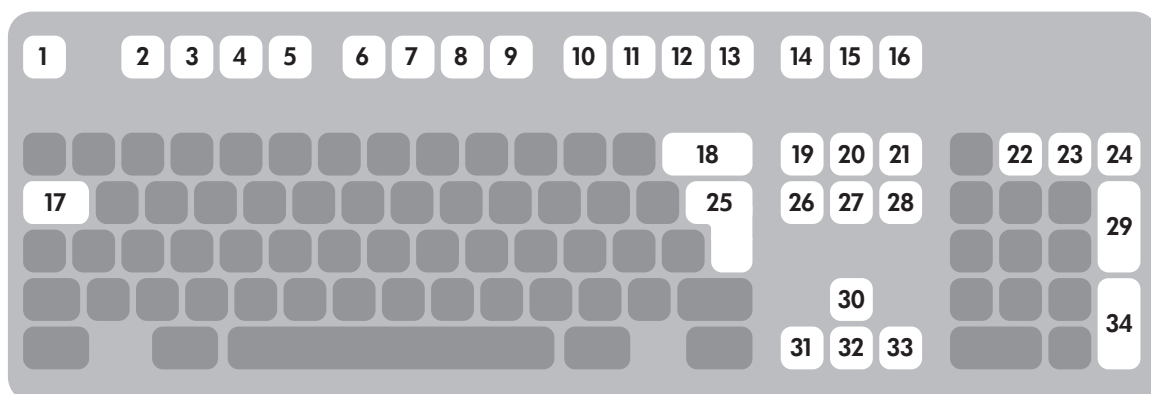



表 23-1 Siemens 97801 のキーボード マッピング

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
1		Escape	18	なし Alt +	BackSpace Delete
2	なし Alt +	F1 F18'	19	なし Alt +	Insert Character Insert Line
3	なし Alt +	F2 F19'	20	なし Alt +	Home CE
4	なし Alt +	F3 F20'	21	なし Alt +	Scroll Up Page
5	なし Alt +	F4 F21'	22		キーパッドの除算記号
6	なし Alt +	F5 F22'	23		キーパッドの乗算記号
7	なし Alt +	F6 F16	24	なし Alt +	キーパッドのマイナス Endmarke

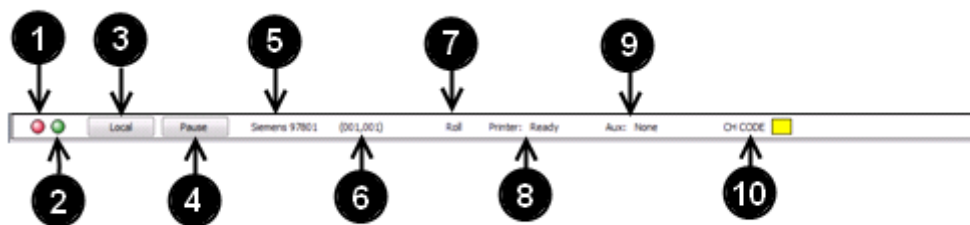
表 23-1 Siemens 97801 のキーボード マッピング (続き)

キー	キーモディ ファイア	判定	キー	キーモディ ファイア	判定
8	なし	F7	25	なし	Return
	Alt +	F17		Alt +	Compose Character
9	なし	F8	26	なし	Delete Character
	Alt +	F18		Alt +	Delete Line
10	なし	F9	27	なし	End
	Alt +	F19		Alt +	スタート
11	なし	F10	28	なし	Scroll Down
	Alt +	F20		Alt +	Help
12	なし	F11	29	なし	キーパッドのプラス
	Alt +	F21		Alt +	キーパッドの等号
13	なし	F12	30	なし	Cursor Up
	Alt +	F22		Alt +	CH Code
14	なし	F13	31	なし	Cursor Left
	Alt +	Print (印刷)		Alt +	Delete Word
15	なし	F14	32	なし	Cursor Down
	Alt +	キーパッドの 00		Alt +	モード
16	なし	F15	33	なし	Cursor Right
	Alt +	Break		Alt +	Insert Word
17	なし	Tab	34	なし	キーパッドの Enter
	Shift +	Back Tab		Alt +	メニュー

 **注記:** マークされていないキーはすべて、キートップの刻印に示されているとおりに機能します。

## ステータス バー

TeemTalk ウィンドウ内のエミュレーション ワークスペースの下には、さまざまな動作のステータスを示すとともに、モードを切り替えるためのボタンを備えたステータス バーがあります。このステータス バーに表示される情報は、現在のターミナル エミュレーションによって異なります。



番号	説明
1	このランプは、ホストに接続されているかどうかを示します。接続されていないときは赤色に、接続されているときは緑色に点灯します
2	このランプは、ホストとの間でデータが送受信されているかどうかを示します。操作が行われていないときは暗い緑色に、ホストにデータが送信されているときは赤色に、ホストからデータを受信しているときは明るい緑色に点灯します
3	このボタンを使用すると、 <b>[Local]</b> （ローカル）モードと <b>[Online]</b> （オンライン）モードを切り替えることができます。このラベルは、ボタンをクリックしたときの切り替え先のモードを示します
4	このボタンを使用すると、ウィンドウ内のデータのスクロールを <b>[Pause]</b> （一時停止）または <b>[Resume]</b> （再開）できます。このラベルは、ボタンをクリックしたときに実行される操作を示します
5	現在のターミナル エミュレーションを示します
6	アクティブなセッションと現在のページ番号（常に 1）、およびテキスト カーソルの場所を行:カラムの形式で表示します
7	<b>[Roll]</b> （ロール）または <b>[Scroll]</b> （スクロール）のどちらかのテキスト バッファ モードであることを示します。 <b>[Roll]</b> モードでは、スクロール領域全体が移動します。 <b>[Scroll]</b> モードでは、カーソル行の上または下にあるスクロール領域のみが移動します
8	プリンターのステータスを以下のように示します <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[None]</b>（なし）は、プリンターの電源が入っていないか、プリンターが接続されていないか、またはプリンターのインストールおよび設定が行われていないことを示します</li> <li>• <b>[Not Ready]</b>（準備中）は、プリンターで印刷データを受信する準備ができていないことを示します</li> <li>• <b>[Ready]</b>（準備完了）は、プリンターで印刷データを受信する準備ができていないことを示します</li> <li>• <b>[Auto]</b>（自動印刷）は、エミュレーションが自動印刷モードであることを示します。このモードでは、カーソルを次の行に移動するコマンドが発行されると、現在のカーソル行がプリンターに送信されます</li> <li>• <b>[Controller]</b>（コントローラー）は、エミュレーションがプリンター制御モードであることを示します。このモードでは、ホストによってプリンターが直接制御されます。キーボードまたはマウスから発行された画面印刷コマンドは無視されます</li> <li>• <b>[Tty Print]</b>（TTY 印刷）は、エミュレーションが TTY 印刷モードであることを示します。このモードでは、受信した画面上の文字（ただし、CR と LF 以外の制御コードを除く）がプリンターに送信されます</li> <li>• <b>[ErrGen]</b>（エラー発生）は、エラーが発生し、そのエラーを示すメッセージ ボックスが表示されることを示します</li> </ul>

番号	説明
9	<p>Aux ポートのステータスを以下のように示します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Ready]</b> (準備完了) は、Aux ポートで双方向出力を行う準備ができていることを示します</li> <li>• <b>[In Use]</b> (使用中) は、Aux ポートが現在ビジー状態であることを示します</li> <li>• <b>[None]</b> (なし) は、Aux ポートが使用できないか、または Aux ポートが設定されていないことを示します</li> </ul>
10	<p>国際文字セット A が 7 ビット G0 領域に読み込まれると、この仮想ランプ (CH CODE LED) が点灯します (初期設定)。代替セットがホストまたは (各国語文字セットを選択する) CH CODE キーのどちらかから G0 に読み込まれると、ランプは消灯します</p>

## セットアップ オプション

Siemens 97801 エミュレーションは、**[Siemens 97801 Settings]** (Siemens 97801 の設定) ダイアログにあるセットアップ オプションを使用して設定されます。このダイアログは、以下の 3 つの方法のどれかを使用して表示できます。

セッション ウィザードの使用 :

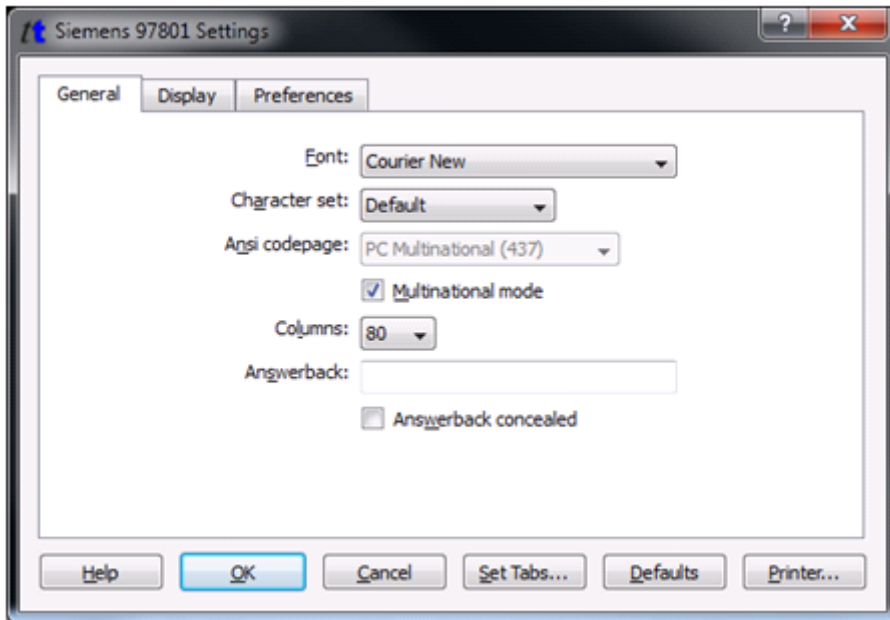
- **[Step 1]** (ステップ 1) で、**[Emulation]** (エミュレーション) を**[Siemens 97801]**に設定し、**[Configure]** (設定) ボタンをクリックします。

TeemTalk ウィンドウの使用 :

- **[Session]** (セッション) メニューで、**[Emulation]** → **[Siemens 97801]**の順に選択し、**[Configure Emulation...]** (エミュレーションの設定...) を選択します。
- 設定バーで、**[Emulation]** 一覧の**[Siemens 97801]**を選択し、**[Configure Emulation]** (エミュレーションの設定) をクリックします。

セットアップ オプションは、**[General]** (全般)、**[Display]** (ディスプレイ)、**[Preferences]** (設定) というラベルの付いた 3 つのタブにグループ化されています。

## 一般設定



- **Font** (フォント)

工場出荷時の設定 : [Courier New]

表示される文字に使用するフォントを指定できます。使用可能な設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。

- **Character set** (文字セット)

工場出荷時の設定 : 初期設定

表示される文字に使用する文字セットを指定します。

**[Iso Hebrew]** (ISO ヘブライ語) が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1** : [Multinational]の 8 ビット モードおよび左から右への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F2** : [National] (各国語) の 7 ビット モード (小文字の英字がヘブライ語として表示される) および右から左への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F3** : 左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

- **Ansi codepage** (ANSI コードページ)

工場出荷時の設定 : [PC Multinational (437)] (PC 多国語 (437))

このオプションは、**[Character set]** (文字セット) オプションが**[PC Ansi]** (PC ANSI) に設定されている場合に、表示のために使用する文字セットを指定します。

[**Iso Hebrew**] (ISO ヘブライ語) が選択されている場合は、以下のキーの機能が有効になります。

- **Ctrl + Alt + F1** : [Multinational] の 8 ビット モードおよび左から右への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F2** : [National] (各国語) の 7 ビット モード (小文字の英字がヘブライ語として表示される) および右から左への入力を選択します。
- **Ctrl + Alt + F3** : 左から右への入力と右から左への入力を切り替えます。

- **Multinational mode** (多国語モード)

工場出荷時の設定 : チェック済み

このオプションは、システムに、各国語置換文字セットをサポートする言語が設定されている場合にのみ使用できます。

このオプションの設定によって、文字を生成するために使用される文字セットの種類が決定されます。チェックを外すと、TeemTalk は、選択されたキーボード言語に固有の文字セットが使用される各国語モードになります。チェックを入れると (初期設定)、TeemTalk は、2 つの文字テーブルからなる文字セットが使用される多国語モードになります。これにより、任意のキーボード言語の文字を生成できます。

- **Columns** (カラム)

工場出荷時の設定 : 80

このオプションを使用すると、ワークスペースの幅として 80 または 132 カラムを指定できます。

- **Cursor style** (カーソル スタイル)

工場出荷時の設定 : [Block] (ブロック)

これにより、テキスト カーソルの表示方法を指定できます。[**Block**]、[**Underline**] (下線)、[**Static block**] (静的なブロック)、[**Static underline**] (静的な下線)、または[**None**] (なし) から選択します。

- **Answerback** (アンサーバック)

工場出荷時の設定 : 未指定

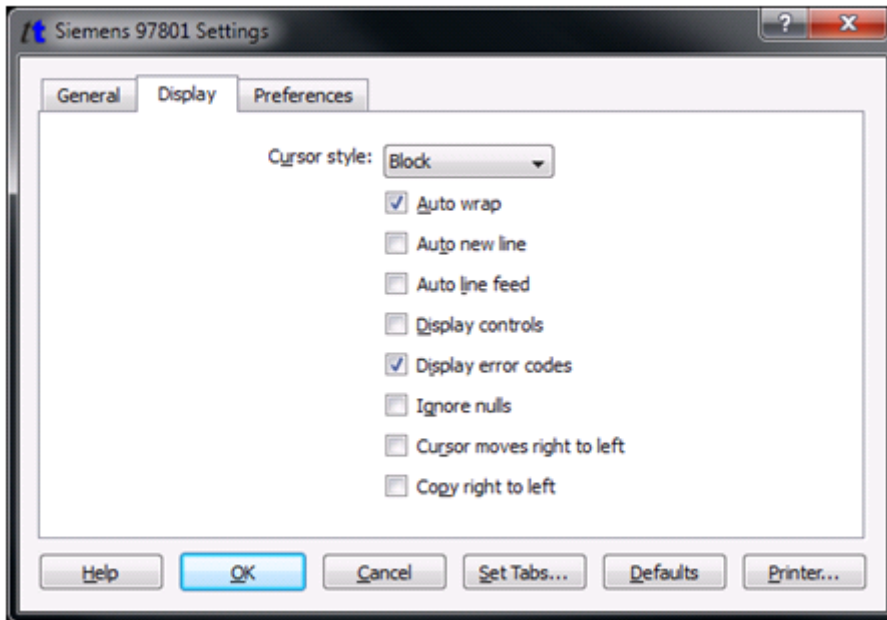
これにより、ANSI モード問い合わせコマンドに回答してホストに送信されるアンサーバック文字列を指定できます。この文字列は、最大 30 文字の長さにすることができます。

- **Answerback concealed** (アンサーバックを表示しない)

工場出荷時の設定 : 未チェック

このオプションを選択すると、上のテキスト ボックスで指定された[**Answerback**]文字列が変更ないようにロックされ、アスタリスクとして表示されます。このオプションのチェックを外すと、[**Answerback**]文字列が削除されることに注意してください。

## ディスプレイの設定



- **Cursor style** (カーソル スタイル)  
工場出荷時の設定 : [Block] (ブロック)  
これにより、テキスト カーソルの表示方法を指定できます。[Block]、[Underline] (下線)、[Static block] (静的なブロック)、[Static underline] (静的な下線)、または[None] (なし) から選択します。
- **Auto wrap** (自動折り返し)  
工場出荷時の設定 : チェック済み  
このオプションの設定によって、右マージンに達したときに文字が次の行に折り返すかどうかが決まります。チェックを外すと、右マージンに達したときに、新しい文字が受信されるたびに最後の文字位置がその文字で上書きされます。
- **Auto new line** (自動改行)  
工場出荷時の設定 : 未チェック  
チェックを入れると、受信したすべてのライン フィード コマンドにキャリッジ リターン コマンドが追加されます。
- **Auto line feed** (自動ライン フィード)  
工場出荷時の設定 : 未チェック  
チェックを入れると、受信したすべてのキャリッジ リターン コマンドにライン フィード コマンドが追加されます。
- **Display controls** (制御文字を表示する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、受信した制御コードを処理するか、または表示するかが決定されます。チェックを入れると、ほとんどの制御コードについて、制御コードを表す文字が画面に表示されます。

- **Display error codes** (エラー コードを表示)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションによって、エラー コードが受信されたときに視覚的なインジケータが表示されるかどうか決定されます。チェックを入れると、受信されたエラー コードが逆疑問符として表示され、無視されません。

- **Ignore nulls** (null を無視する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、ホストから受信した NULL 文字を処理するか、または無視するかが決定されます。

- **Cursor moves right to left** (カーソルを右から左に移動する)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定により、テキスト カーソルがディスプレイ上を移動する方向を変更できます。

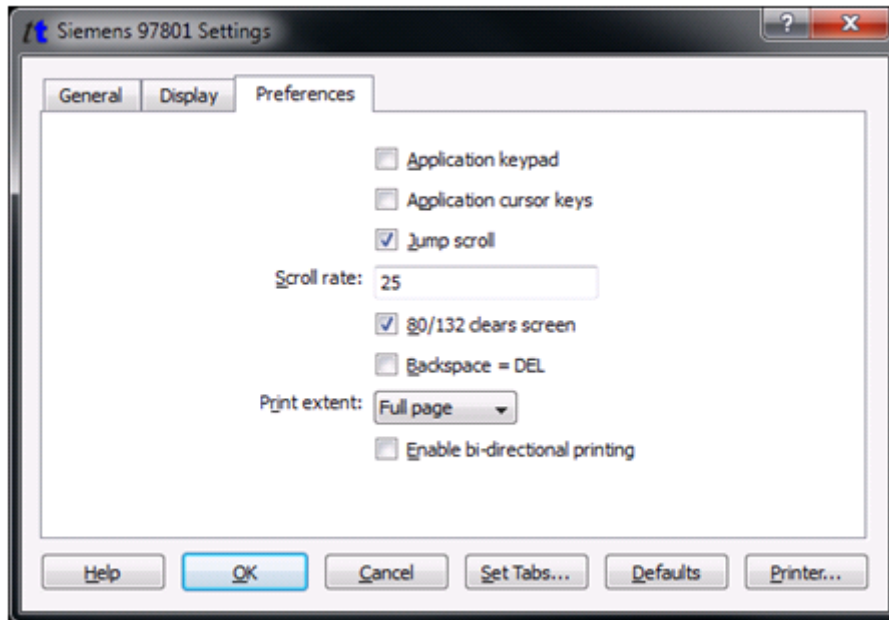
- **Copy right to left** (右から左にコピーする)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定により、コピー コマンドを右から左の表示モードで動作させることができます。



## 設定



- **Application keypad** (アプリケーション キーパッド)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、キーボードの右側にあるキーパッドでキーを押したときの効果が決定されます。

チェックを外すと、キーパッドは数値モードになり、キーはキー キャップに表示されている文字を生成します。チェックを入れると、キーパッドはアプリケーション モードになり、キーは押されたときに制御機能を生成します。

- **Application cursor keys** (アプリケーション カーソル キー)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションにチェックを入れると、カーソル キーは押されたときにアプリケーション プログラム コードを生成します。チェックを外すと、キーは通常のカーソル移動コマンドを生成します。

- **Jump scroll** (ジャンプ スクロール)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションの設定によって、ウィンドウがいっぱいになったときに、データが1行スクロールされるか、または一度に複数行スクロールされるかが決定されます。

チェックを入れると、下の[**Scroll rate**] (スクロール速度) 設定に従って、データは一度に複数行上にスクロールされます。

- **Scroll rate** (スクロール速度)

工場出荷時の設定： 25

これにより、上の[**Jump scroll**] (ジャンプ スクロール) オプションが選択されている場合にスクロールされる行数が決定されます。

- **80/132 clears screen** (80/132 画面クリア)

工場出荷時の設定：チェック済み

このオプションによって、カラムの数が変更されたときにデータの表示がクリアされるかどうか決定されます。

- **Backspace = DEL**

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、バックスペース コマンドで削除が実行されるかどうか決定されます。

- **Print extent** (印刷の範囲)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、画面印刷コマンドで印刷される表示領域が決定されます。  
[**Full page**] (ページ全体) または [**Scroll region**] (スクロール領域) のどちらかを選択します。

- **Enable bi-directional printing** (双方向印刷を有効にする)

工場出荷時の設定：未チェック

このオプションの設定によって、プリンターからのデータを、印刷コントローラー モード中にホストに転送できるかどうか決定されます。

## 24 スクリプトの実行

この章では、スクリプト プログラムの実行方法について説明します。

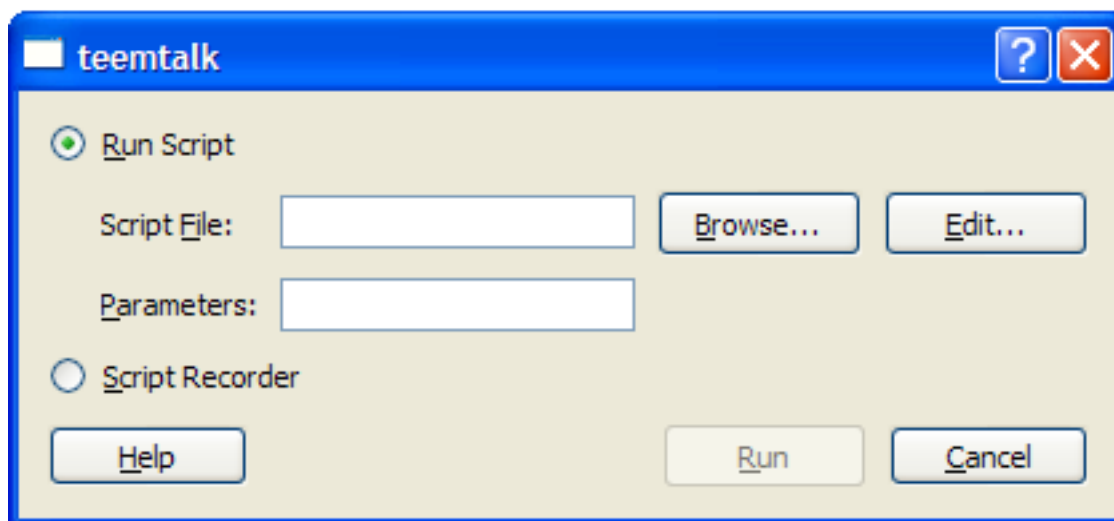
### はじめに

TeemTalk には、さまざまな操作を自動化できるスクリプト言語が用意されています。スクリプト ファイルで使用できるコマンドは、『HP TeemTalk ターミナル エミュレーター 7.0 Programmer's Manual』（HP TeemTalk Terminal Emulator 7.0 プログラマーズ マニュアル）で説明されています。この章では、スクリプト ファイルを実行するためのオプションについて説明します。

### [Tools]（ツール）メニューのスクリプト項目

TeemTalk の[Tools]メニューからスクリプトを実行するには、以下の操作を行います。

1. **[Tools]**（ツール）メニューから**[Script...]**（スクリプト...）を選択します。



2. **[Run Script]**（スクリプトを実行）を選択します。
3. **[Script File]**（スクリプト ファイル）ボックスにスクリプト ファイルの名前を入力するか、または**[Browse]**（参照）ボタンをクリックしてファイルを選択します。
4. スクリプトを編集する場合は、**[Edit]**（編集）ボタンをクリックすると編集できます。これにより、編集機能を搭載した**[Script Editor]**（スクリプト エディター）ウィンドウが表示されるため、スクリプト ファイルを表示および編集できます。

5. **[Parameters]** (パラメーター) ボックスを使用すると、必要に応じて、スクリプト内の**[ArgV#]** タイプ変数の値を指定できます。値が複数ある場合は、カンマで区切ります。正しい変数に値が割り当てられるように、正しい順序で値を入力していることを確認する必要があります。
6. **[Run]** (実行) をクリックしてスクリプトを実行します。

## キーまたはボタンの定義の使用

キーまたはボタンが押されたときにスクリプトが実行されるようにプログラミングできます。そのためには、パラメーターを含むスクリプト ファイルの名前を<' (開始山括弧に一重引用符) および'> (一重引用符と終了山括弧) で囲みます。

たとえば、キーまたはボタンをプログラミングして、スクリプト ファイル **myscript.scr** を実行することで、値 **value1** および値 **value2** がそれぞれ変数 **ArgV1** および変数 **ArgV2** に割り当てられるようにするには、キーまたはボタンの定義で以下のように入力します。

```
<'myscript.scr(value1,value2)'\>
```

## 25 ホスト通信のキャプチャ

この章では、ホストとエミュレーターとの通信をファイルにキャプチャして再生する方法について説明します。

### はじめに

TeemTalk には、ホストとエミュレーターとの通信をファイルにキャプチャして再生できる機能が用意されています。これには、[Tools] (ツール) メニューの[Capture File] (ファイルをキャプチャ) オプションと[Replay File] (ファイルを再生) オプションを使用します。

初期設定のキャプチャ状態では受信されたホスト データのみをキャプチャしますが、以下のコマンドライン オプションを使用すると、受信されたデータとエミュレーションによってホストに送り返されたデータの両方をキャプチャできます。

#### **-debug**

ホストによって送信されたデータのみをキャプチャします。

#### **-debug2way**

ホストとエミュレーションの両方によって送信されたデータをキャプチャします。

初期設定の再生状態ではエミュレーションが対象ですが、以下のコマンドライン オプションを使用すると、ホストのみ、またはホストとエミュレーションの両方を再生の対象にすることができます。

#### **-replay**

エミュレーションのみを対象に再生します。

#### **-replayhost**

ホストのみを対象に再生します。

#### **-replayboth**

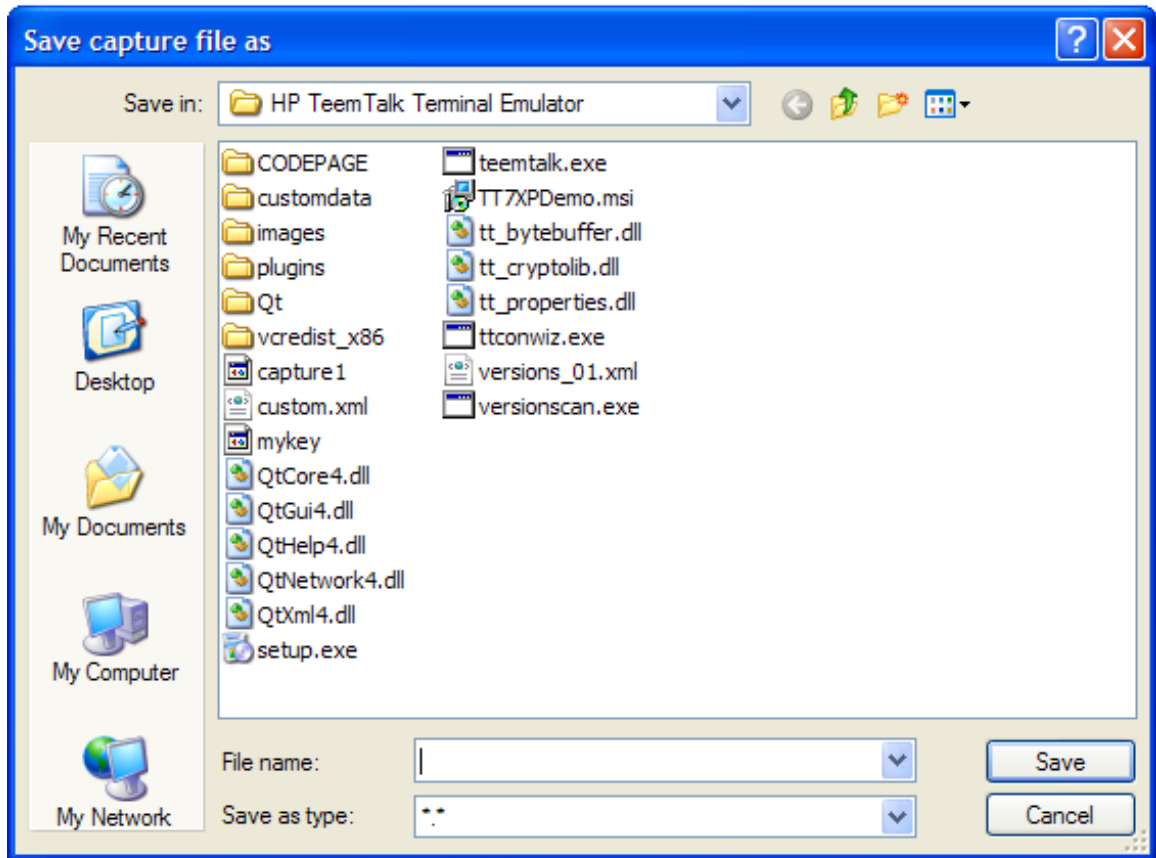
ホストとエミュレーションの両方を対象に再生します。

**0~10** の範囲の数字を追加することで、再生の実行速度を変更できます。**0** が最も速く、**10** が最も遅くなります。たとえば、以下のように指定します。**-replayhost8**

## ファイルをキャプチャ

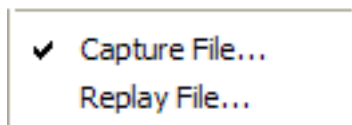
ファイルへのキャプチャ処理を開始するには、以下の操作を行います。

1. **[Tools]** (ツール) メニューの**[Capture File]** (ファイルをキャプチャ) オプションを選択し、**[Save capture file as]** (キャプチャ ファイルに名前を付けて保存) ダイアログを表示します。



2. **[File name]** (ファイル名) ボックスにキャプチャ ファイルの名前を入力し、**[Save]** (保存) ボタンをクリックします。

指定したファイルにホストとエミュレーションとの通信が記録され、**[Tools]**メニューの**[Capture File]**項目の横には、ファイルへのキャプチャ処理が実行中であることを示すチェック マークが表示されます。

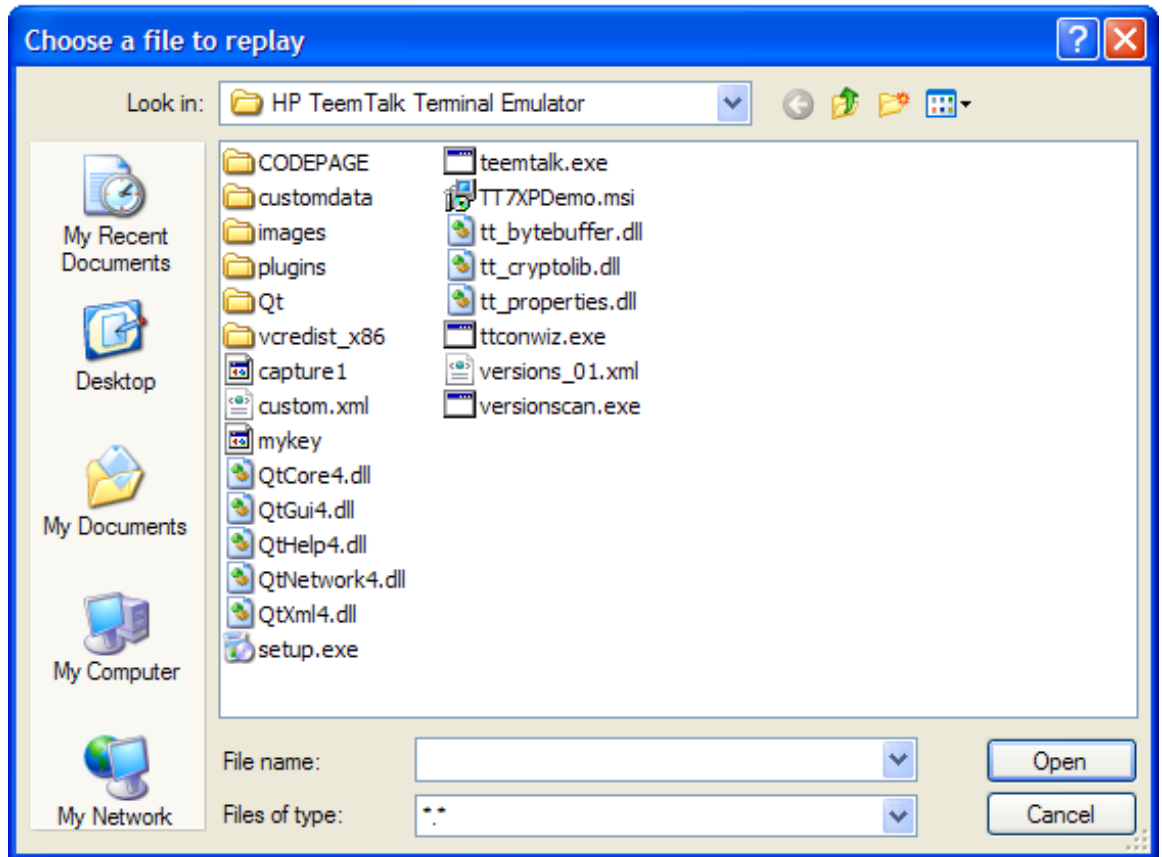


ファイルへのキャプチャ処理を停止するには、[Tools]メニューの[Capture File]を選択します。これによって処理が停止し、チェック マークが外れます。

## ファイルを再生

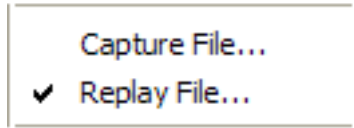
ファイルの再生処理を開始するには、以下の操作を行います。

1. [Tools] (ツール) メニューの[Replay File] (ファイルを再生) オプションを選択し、[Choose a file to replay] (再生するファイルの選択) ダイアログを表示します。



- 再生するキャプチャ ファイルの名前を **[File name]** (ファイル名) ボックスに入力し、**[Open]** (開く) ボタンをクリックします。

キャプチャ ファイルに記録されたホストとエミュレーションとの通信が再生され、**[Tools]** メニューの **[Replay File]** 項目の横には、ファイルの再生処理が実行中であることを示すチェックマークが表示されます。



ファイルの再生処理を停止するには、**[Tools]** メニューの **[Replay File]** を選択します。これによって処理が停止し、チェック マークが外れます。

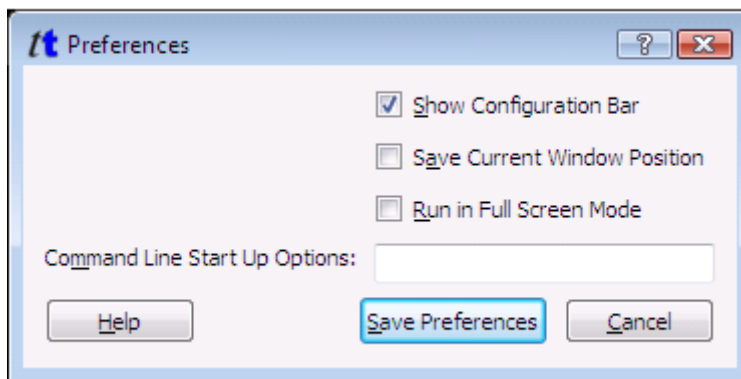


## 26 設定およびコマンド ライン オプション

この章では、**[Preferences]** (設定) ダイアログと、TeemTalk の起動設定の指定に使用できるコマンドライン オプションについて説明します。

### 設定

**[Preferences]** ダイアログには、TeemTalk のいくつかのオプションのユーザー コントロールおよび TeemTalk コマンド ライン オプションを入力できる代替の場所があります。これらの設定は、**[File]** (ファイル) メニューから **[Preferences...]** オプションを選択すると表示できます。



以下の説明に沿って目的のオプションを指定し、**[Save Preferences]** (設定を保存) ボタンをクリックします。設定ダイアログで行った変更は TeemTalk のすべてのセッションに影響を与えることに注意してください。

- **Show Configuration Bar** (設定バーを表示)

工場出荷時の設定 : チェック済み

チェックを入れると、設定バーが表示されます。このオプションは**[Session]** (セッション) メニューの表示には影響しません。

- **Save Current Window Position** (現在のウィンドウ位置を保存)

工場出荷時の設定 : 未チェック

チェックを入れると、**[Save Preferences]** ボタンをクリックしたときに TeemTalk ウィンドウの現在のサイズおよび位置が保存され、次回起動したときに復元されます。以前に設定済みの場合に新しいサイズと位置を保存するときには、再度**[Save Preferences]** ダイアログを表示し、**[Save Current Windows Position]** にチェックが入っていることを確認して、**[Save Preferences]** ボタンをクリックします。

- **Run in Full Screen Mode** (全画面表示モードで実行)

工場出荷時の設定：未チェック

チェックを入れると、エミュレーション ワークスペースが画面全体に表示され、ウィンドウのフレーム、ソフト ボタン、メニュー、および設定バーが削除されます。このオプションは次回起動時まで有効にならないことと、**[Show Configuration Bar]**および**[Save Current Window Position]**オプションが選択されていてもこのオプションが優先されることに注意してください。

- **Command Line Start Up Options** (コマンド ラインの起動オプション)

工場出荷時の設定：空白

このフィールドは、TeemTalk のコマンド ライン オプションを指定できる代替の場所です。ここに入力できる有効なオプションの説明については、この章の残りの部分を参照してください。

## コマンド ライン オプション

TeemTalk を実行するためのコマンド ラインでは、起動設定を変更するオプションを指定できます。これらのオプションは、TeemTalk アプリケーションの名前の後ろに入力します。各オプションの前には、スペースを入力する必要があります。

たとえば、設定バーとソフト ボタンを表示しないで TeemTalk を実行するには、コマンド ラインに以下のように入力します。

```
teemtalk.exe -cfg -bl0
```

この場合、**-cfg**によって設定バーが削除され、**-bl0**によってソフト ボタンが削除されます。

以下の表では、現在 TeemTalk でサポートされているすべてのコマンド ライン オプションについて説明します。

## セッション設定

表 26-1 セッション設定に影響を与えるコマンド スイッチ

機能	コマンド スイッチ	説明
セッション ファイルをロー ド	<b>+lsf"mysessionfile.tts"</b>	<b>[TeemTalk Session Wizard]</b> (TeemTalk セッション ウィザード) または <b>[Save Session As]</b> (セッションに名前を付けて保存) ダイアログを使用して以前に作成したセッション設定ファイルがある場合は、そのファイルに保存されている設定をロードできます。指定するファイル名には拡張子 <b>.tts</b> を含める必要があり、名前全体を二重引用符で囲む必要があります。
言語/コード ページ ファイ ルのパス	<b>-langdir"full directory path"</b>	言語ファイルおよびコードページ ファイルの完全なディレクトリ パスを指定します
変換ファイル	<b>-transl"filename"</b>	使用する変換ファイルの名前とパス (オプション) を指定します。入力にディレクトリの/文字または¥文字が含まれていない場合は、言語ディレクトリ内のパスとみなされます。入力を_で始めると、先頭にアプリケーション名 ( <b>teemtalk_</b> ) が追加されます

表 26-1 セッション設定に影響を与えるコマンド スイッチ (続き)

機能	コマンド スイッチ	説明
セッション保存のクエリメッセージを表示しない	<b>-qss &lt;n&gt;</b>	<p>変更されたが保存されていないセッションを終了しようとした場合の動作を指定できます。初期設定では、終了する前に新しい設定を保存するかどうかを尋ねるメッセージ ボックスが表示されます。オプションの&lt;n&gt;の値を指定しないでこのコマンド ライン オプションを使用すると、メッセージが表示されなくなります</p> <p>値&lt;n&gt;はオプションであり、以下のどちらかを指定できます</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 セッションを保存</li> <li>2 キャンセル (初期設定の動作)</li> </ol>
ホスト接続の終了時にダイアログを表示しない	<b>-rce &lt;n&gt;</b>	<p>ホストの切断時の動作を指定できます。初期設定では、再接続するか、キャンセルするか、TeemTalkを終了するかを尋ねるダイアログ ボックスが表示されます。オプションの値を指定しないでこのコマンド ライン オプションを使用すると、メッセージが表示されなくなります</p> <p>&lt;n&gt;の値はオプションであり、以下のどれか 1 つを指定できます</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 再接続</li> <li>2 キャンセル (初期設定の動作)</li> <li>3 終了</li> </ol>
エミュレーションのみにファイルを再生	<b>-replay &lt;n&gt;</b>	<p>ファイルの再生がホストではなくエミュレーションのみ (初期設定) に送信されるように指定します。オプションの&lt;n&gt;パラメーターは再生の速度を指定するものであり、0 から 10 までの数値です。0 (初期設定) は最高の速度、10 は最低の速度です</p>
ホストのみにファイルを再生	<b>-replayhost &lt;n&gt;</b>	<p>ファイルの再生がエミュレーションではなくホストのみに送信されるように指定します。オプションの&lt;n&gt;パラメーターは再生の速度を指定するものであり、0 から 10 までの数値です。0 (初期設定) は最高の速度、10 は最低の速度です</p>
ホストとエミュレーションの両方にファイルを再生	<b>-replayboth &lt;n&gt;</b>	<p>ファイルの再生がホストとエミュレーションの両方に送信されるように指定します。オプションの&lt;n&gt;パラメーターは再生の速度を指定するものであり、0 から 10 までの数値です。0 (初期設定) は最高の速度、10 は最低の速度です</p>
デバッグを有効化	<b>-debug</b>	<p>受信したホスト データを、後に[Tools] (ツール) メニューの[Capture File] (ファイルをキャプチャ) および[Replay File] (ファイルを再生) オプションを使用して再生できるようにファイルに記録できます</p>
双方向でのデバッグを有効化	<b>-debug2way</b>	<p>受信したホスト データと、ホストから送り返されたデータの両方を、後に[Tools] (ツール) メニューの[Capture File] および[Replay File] オプションを使用して再生できるようにファイルに記録できます</p>
ビット単位のデバッグ フラグを設定	<b>-debug=NN</b>	<p>ビット単位のデバッグ フラグを設定します</p>

## ウィンドウの外観

表 26-2 ウィンドウの外観に影響を与えるコマンド スイッチ

機能	コマンド スイッチ	説明
スプラッシュ画面を表示しない	<b>-spl</b>	TeemTalk の起動時に最初のスプラッシュ画面が表示されないようにします
ウィンドウを全画面表示	<b>+wfs</b>	エミュレーション ワークスペースを画面全体に表示します。ウィンドウのフレーム、ソフト ボタン、メニュー バー、および設定バーも削除されることに注意してください
ウィンドウを最小化して表示	<b>+wmn</b>	起動時に TeemTalk ウィンドウを最小化します
ウィンドウを最大化して表示	<b>+wmx</b>	起動時に TeemTalk ウィンドウを最大化します
ウィンドウ位置を設定	<b>+pos left , down</b>	画面の左上隅に対する TeemTalk ウィンドウの左上隅の相対的な位置を指定します。 <b>left</b> および <b>down</b> の値（カンマで区切ります）はピクセル数で指定します。たとえば、画面の左端から 200 ピクセル、上端から 100 ピクセルの位置にウィンドウを配置するには、次のように入力します： <b>+pos200, 100</b>
ウィンドウ サイズの設定	<b>+siz width , depth</b>	TeemTalk ウィンドウのサイズを指定します。 <b>width</b> と <b>depth</b> の数値（カンマで区切ります）はピクセル数で指定します。たとえば、1280×1024 ピクセルのウィンドウ サイズを指定するには、次のように入力します： <b>+siz1280,1024</b>
ウィンドウのサイズ変更を無効化	<b>-wrđ</b>	TeemTalk ウィンドウのサイズを変更できないようにします
ウィンドウのフレームを削除	<b>-wfr</b>	ウィンドウのフレームを表示から削除します。タイトル バー、システム メニュー、最小化ボタン、および最大化ボタンも削除されることに注意してください
タイトル バーを削除	<b>-ttb</b>	タイトル バーを表示から削除します。ウィンドウのフレーム、システム メニュー、最小化ボタン、および最大化ボタンも削除されることに注意してください
タイトル バーを追加	<b>+ttb</b>	タイトル バーを表示に追加します
ウィンドウ タイトル	コマンド オプション： <b>+wtl"title"</b>	タイトル バーに表示されるタイトルを指定できます。これは、TeemTalk の複数のインスタンスを実行している場合に役立ちます。タイトルを指定しない場合は、使用しているエミュレーターのバージョン名が表示されます
ウィンドウ サブタイトル	コマンド オプション： <b>+stl"subtitle"</b>	タイトル バーに表示されるタイトルの後ろに追加されるサブタイトルを指定します
システム メニューを削除	<b>-sys</b>	システム メニューを表示から削除します。ウィンドウのフレーム、最小化ボタン、および最大化ボタンも削除されることに注意してください
システム メニューを追加	<b>+sys</b>	システム メニューを表示に追加しますタイトル バーを有効にする必要があることに注意してください
最小化ボタンを削除/無効化	<b>-mnb</b>	最小化ボタンを削除または無効にします。ウィンドウのフレームも削除されることに注意してください

表 26-2 ウィンドウの外観に影響を与えるコマンド スイッチ (続き)

機能	コマンド スイッチ	説明
最小化ボタンを追加/有効化	<b>+mnb</b>	最小化ボタンを追加または有効にします。システム タイトル バーおよびシステム メニューを有効にする必要があることに注意してください
最大化ボタンを削除/無効化	<b>-mxb</b>	最大化ボタンを削除または無効にします。ウィンドウのフレームも削除されることに注意してください
最大化ボタンを追加/有効化	<b>+mxb</b>	最大化ボタンを追加または有効にします。システム タイトル バーおよびシステム メニューを有効にする必要があることに注意してください
メニュー バーを削除	<b>-mnu</b>	メニュー バーを表示から削除します
<b>[File]</b> (ファイル) メニューを削除	<b>-mfi</b>	メニュー バーから <b>[File]</b> メニューを削除します
<b>[File]</b> メニューの個々の項目を削除	<b>-ffd</b>	<b>[Factory Default]</b> (工場出荷時の設定に戻す) を削除します
	<b>-frt</b>	<b>[Reset Terminal]</b> (端末をリセット) を削除します
	<b>-fnw</b>	<b>[New Window]</b> (新規ウィンドウ) を削除します
	<b>-fnt</b>	<b>[New Tab]</b> (新規タブ) を削除します
	<b>-fct</b>	<b>[Close Tab]</b> (タブを閉じる) を削除します
	<b>-fos</b>	<b>[Open Session]</b> (セッションを開く) を削除します
	<b>-fss</b>	<b>[Save Session]</b> (セッションを保存) を削除します
	<b>-fsa</b>	<b>[Save Session As]</b> (セッションに名前を付けて保存) を削除します
	<b>-fps</b>	<b>[Print Screen]</b> (画面を印刷) を削除します
	<b>-fpr</b>	<b>[Preferences]</b> (設定) を削除します
	<b>-fex</b>	<b>[Exit]</b> (終了) を削除します
<b>[Edit]</b> (編集) メニューを削除	<b>-med</b>	メニュー バーから <b>[Edit]</b> メニューを削除します
<b>[Edit]</b> メニューの個々の項目を削除	<b>-eop</b>	<b>[Clipboard Options]</b> (クリップボード オプション) を削除します
	<b>-ecb</b>	<b>[Clear Buffer]</b> (バッファをクリア) を削除します
	<b>-eec</b>	<b>[Copy]</b> (コピー) を削除します
	<b>-eep</b>	<b>[Paste]</b> (貼り付け) を削除します
	<b>-esa</b>	<b>[Select All]</b> (すべて選択) を削除します
<b>[Edit]</b> (表示) メニューを削除	<b>-mvi</b>	メニュー バーから <b>[View]</b> メニューを削除します
<b>[View]</b> メニューの個々の項目を削除	<b>-vto</b>	<b>[Toolbars]</b> (ツールバー) を削除します
	<b>-vwi</b>	<b>[Windows]</b> (ウィンドウ) を削除します

表 26-2 ウィンドウの外観に影響を与えるコマンド スイッチ (続き)

機能	コマンド スイッチ	説明
	-vst	[Status Bar] (ステータス バー) を削除します
[Connection] (接続) メニューを削除	-mco	メニュー バーから [Connection] メニューを削除します
[Connection] メニューの個々の項目を削除	-ccn	[Connect] (接続) を削除します
	-cdi	[Disconnect] (切断) を削除します
[Session] (セッション) メニューを削除	-mse	メニュー バーから [Session] メニューを削除します
[Session] メニューの個々の項目を削除	-str	[Transport] (トランスポート) を削除します
	-sco	[Connection] (接続) を削除します
	-sem	[Emulation] (エミュレーション) を削除します
	-sct	[Configure Transport] (トランスポートの設定) を削除します
	-scc	[Configure Connection] (接続の設定) を削除します
	-sce	[Configure Emulation] (エミュレーションの設定) を削除します
[Tools] (ツール) メニューを削除	-mto	メニュー バーから [Tools] メニューを削除します
[Tools] メニューの個々の項目を削除	-tat	[Attributes] (属性) を削除します
	-tkm	[Key Macros] (キー マクロ) を削除します
	-tma	[Mouse Actions] (マウス動作) を削除します
	-tsb	[Soft Buttons] (ソフト ボタン) を削除します
	-tal	[Auto Logon] (自動ログオン) を削除します
	-tcf	[Capture File] (ファイルをキャプチャ) を削除します
	-trf	[Replay File] (ファイルを再生) を削除します
	-tep	[Emulation Printer] (エミュレーション プリンター) を削除します
[Help] (ヘルプ) メニューを削除	-mhe	メニュー バーから [Help] メニューを削除します
[Help] メニューの個々の項目を削除	-hth	[HP TeemTalk Help] (HP TeemTalk のヘルプ) を削除します
	-hab	[About] (バージョン情報) を削除します
エミュレーション ステータス バーを削除	-esb	エミュレーション ステータス バーを表示から削除します

表 26-2 ウィンドウの外観に影響を与えるコマンド スイッチ (続き)

機能	コマンド スイッチ	説明
設定バーを削除	<b>-cfg</b>	設定バーを表示から削除します。 <b>[Session]</b> メニューもメニュー バーから削除されることに注意してください
設定バーの個々の項目を削除	<b>-ctr</b>	<b>[Transport]</b> を削除します
	<b>-cco</b>	<b>[Connection]</b> を削除します
	<b>-cem</b>	<b>[Emulation]</b> を削除します
	<b>-ccb</b>	<b>[Connect/Disconnect]</b> を削除します
ウィンドウ ステータスバーを削除	<b>-wsb</b>	ウィンドウ ステータス バーを表示から削除します
ソフト ボタンを削除	<b>-bl0</b> または <b>+bl0</b>	ソフト ボタンを表示から削除します
表示するソフト ボタンのレベル	<b>+bl1 ~+bl4</b>	一度に表示するソフト ボタンのレベルの数を指定します

## エミュレーション ワークスペース

表 26-3 エミュレーション ワークスペースに影響を与えるコマンド スイッチ

機能	コマンド スイッチ	説明
マウス カーソル スタイル	<b>+cu style</b>	エミュレーション ワークスペースでのマウス カーソルの表示方法を指定できます。 <b>style</b> は、以下のオプションから選択できます  <b>0</b> 空白のカーソル <b>1</b> I字型 (初期設定) <b>2</b> 矢印 <b>3</b> 上向き矢印 <b>4</b> 十字型 <b>5</b> 砂時計/時計 <b>6</b> 縦方向のサイズ変更 <b>7</b> 横方向のサイズ変更 <b>8</b> 対角方向のサイズ変更 (¥) <b>9</b> 対角方向のサイズ変更 (/) <b>10</b> 全方向のサイズ変更 <b>11</b> 縦方向の分割 <b>12</b> 横方向の分割 <b>13</b> 指さしている手 <b>14</b> 斜線入りの円 <b>15</b> 疑問符付きの矢印 <b>16</b> 砂時計/時計付きの矢印
Reflection 4 カラーのサポート	<b>+r4c</b>	VT ターミナル エミュレーションで Reflection 4 カラー コマンドを処理できるようにします



# A キーとボタンのプログラミング

この付録では、キーまたはボタンを押すことで特定のキーの機能や文字を生成するため、キーまたはボタンをプログラミングする方法について説明します。

## はじめに

TeemTalk には、定義した機能が実行されるようにキーおよびボタンをプログラミングする、さまざまな方法が用意されています。ここでは、キーの機能および特殊文字をユーザー定義に含める方法について説明します。

キーおよびボタンの機能は、[Tools] (ツール) メニューから表示される以下のダイアログの設定を使用して再定義できます。

**[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) : [36 ページの「キーの機能の定義」](#) セクションで説明しています。

**[Mouse Action Settings]** (マウス動作の設定) : [44 ページの「マウスの機能の定義」](#) セクションで説明しています。

**[Soft Button Settings]** (ソフト ボタンの設定) : [52 ページの「ソフト ボタンの機能の定義」](#) セクションで説明しています。

## キーの機能の組み合わせおよびシーケンスの設定

キーの組み合わせまたはシーケンスの機能が実行されるように、キーまたはボタンをプログラミングできます。たとえば、**Alt** と **F4** を同時に押した場合や、**F2**、**F3**、**F4** を順に押した場合と同じ機能を、1つのキーまたはボタンで実行されるようにプログラミングできます。

## 仮想キーの名前

キーの機能は、[Key Macro Settings] (キー マクロの設定) ダイアログの [Emulation Keys] (エミュレーション キー) および [Virtual Keys] (仮想キー) リスト ボックスに一覧表示される仮想キーの名前によって識別されます。ユーザー定義ボックスに入力する仮想キーの名前は、<文字>文字で囲む必要があります。仮想キーの名前に含まれる **VK\_** や **VT\_** などの部分は省略できます。

たとえば、DEC VT ターミナル エミュレーションが実行されている場合の **Return** キー機能の仮想キーの名前は、**VT\_RETURN** です。これを以下のようにユーザー定義ボックスに入力します。

<RETURN>

## キーの組み合わせ

2つ以上の他のキーを同時に押した場合と同じ機能が実行されるようにキーまたはボタンをプログラミングするには、<文字、その後ろに+ (プラス記号) で結合した仮想キーの名前、最後に>文字を入力します。

たとえば、押したときに **Alt + F4** を同時に押した場合と同じ機能が実行されるようにキーまたはボタンをプログラミングするには、ユーザー定義ボックスに次の文字を入力します。

<ALT+F4>

## キー シーケンス

一連のキーを順に押した場合と同じ機能が実行されるようにキーまたはボタンをプログラミングするには、各仮想キーの名前をそれぞれ<文字>文字で囲み、必要な順序で入力します。括弧に入れた各キー名は、スペースを挿入することなく前のキー名に続けて入力する必要があります。

たとえば、押したときに **F2**、**F3**、**F4** を順に押した場合と同じ機能が実行されるようにキーまたはボタンをプログラミングするには、ユーザー定義ボックスに以下のように入力します。

<F2><F3><F4>

## 特殊文字の設定

### 制御文字

ユーザー定義で特定の文字を指定できる、さまざまな方法があります。たとえば、**ESC** 文字は、以下の 5 つの入力方法のどれかを使用して指定できます。

**\_027** 10 進数値（アンダースコア文字の後ろに 3 桁の数字）

**¥033** 16 進数値（円記号の後ろに 3 桁の数字）

**¥u001B** Unicode 値（円記号および u 文字の後ろに Unicode 値）

**^[ Ctrl** キー値（^はキーボードの **Ctrl** キーを表します）

**\e ESC** の追加の値

### バックスラッシュ値

次のバックスラッシュ値を使用できます。

**\u** Unicode イントロデューサー

**\n** ライン フィード

**\r** キャリッジ リターン

**\e** エスケープ

\文字と^文字は値のイントロデューサーとして使用されるため、これらを文字値として入力するには、その前にバックスラッシュ文字を入力する必要があります。つまり、\は\\、^を入力するには\^として入力します。

### ユーロ文字

ユーロ文字は、Unicode 値 **\u20ac** の入力によって指定できます。

## スクリプト ファイルの実行

スクリプト ファイルを実行するマクロを定義できます。そのためには、ファイル名および引数を <'（開始丸括弧に単一引用符）>'（一重引用符と終了丸括弧）で囲みます。たとえば、スクリプト

ファイル **myscript.scr** を実行して、2 つの変数に値 **value1** および **value2** を割り当てるには、マクロ定義に以下のように入力します。

```
<'myscript.scr(value1,value2)'>
```

## B 仮想キーの名前

この付録では、キーの機能を定義し、特定のキーの機能をマクロ定義に含めるために使用できる仮想キーの名前の一覧を示します。

### はじめに

この付録では、TeemTalk でサポートされる仮想キーの名前の一覧を示します。仮想キーの名前を使用すると、キーボードのキーを再定義し、特殊なキーの機能をマクロ定義に含めることができます。

使用できる仮想キーの名前は、実行されているターミナル エミュレーションによって異なります。**[Key Macro Settings]** (キー マクロの設定) ダイアログおよび**[Soft Button Settings]** (ソフトボタンの設定) ダイアログの**[Emulation Keys]** (エミュレーション キー) および**[Virtual Keys]** (仮想キー) リスト ボックスには、現在のターミナル エミュレーションの実行中に使用できる、すべての仮想キーの名前が一覧表示されます。

以下のセクションでは、各ターミナル エミュレーションに該当する仮想キーの名前の一覧を示します。「標準仮想キーの名前」セクションは、すべてのターミナル エミュレーションに適用されることに注意してください。

各ターミナル エミュレーションのセクションで一覧表示される仮想キーの名前には、キーボードのキーの機能に対して TeemTalk での初期設定のマッピングを示す追加の列があります。以下のような省略形が適用されていることに注意してください。

**S + Shift** キー

**C + Ctrl** キー

**A + Alt** キー

### 標準仮想キーの名前

このセクションに示す仮想キーの名前は、すべてのターミナル エミュレーションに適用されます。

表 B-1 標準仮想キーの名前

キーの機能	仮想キーの名前
0~9	VK_0~VK_9
A~Z	VK_A~VK_Z
Alt (右)	VK_RALT
アプリケーション	VK_APPS
アポストロフィ	VK_APOSTROPHE
Attention	VK_ATT
BackSpace	VK_BACK

**表 B-1** 標準仮想キーの名前 (続き)

キーの機能	仮想キーの名前
空白キー	VK_NONAME
Break	VK_BREAK
Capital	VK_CAPITAL
Clear	Clear (OEM)
カンマ	VK_COMMA
Compose Character	VK_COMPOSE
Ctrl (左)	VK_CONTROL
Ctrl (右)	VK_RCONTROL
Copy	VK_COPY
Cursor Up	VK_UP
Cursor Down	VK_DOWN
Cursor Left	VK_LEFT
Cursor Right	VK_RIGHT
Cursor Select	VK_CRSEL
Datatak	VK_DATATALK
Delete	VK_DELETE
End	VK_END
等号	VK_EQUAL
Erase End Of File	VK_EREOF
Escape	VK_ESCAPE
ユーロ記号	VK_EUROSIGN
Execute	VK_EXECUTE
エミュレーター終了	VK_EXIT
ExSel	VK_EXSEL
F1~F24	VK_F1~VK_F24
Help	VK_HELP
Hold Screen	VK_HOLDSCREEN
Home	VK_HOME
ハイフン	VK_HYPHEN
Insert	VK_INSERT

**表 B-1 標準仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前
メニュー	VK_MENU
Num Lock	VK_NUMLOCK
テンキーの 0~9	VK_NUMPAD0~VK_NUMPAD9
テンキーのプラス記号 (+)	VK_ADD
テンキーの除算記号 (/)	VK_DIVIDE
テンキーの小数点 (.)	VK_DECIMAL
テンキーの乗算記号 (*)	VK_MULTIPLY
テンキーのマイナス記号 (-)	VK_SUBTRACT
Off ( `  ) 102 キー キーボード	VK_OFF
PA1	VK_PA1
Page Down	VK_NEXT
Page Up	VK_PRIOR
Paste	VK_PASTE
Pause	VK_PAUSE
ピリオド	VK_PERIOD
再生	VK_PLAY
Print	VK_PRINT
Print Screen	VK_SNAPSHOT
引用符 (後ろ)	VK_BACKQUOTE
Return	VK_RETURN
Scroll Lock	VK_SCROLL
Select	VK_SELECT
セミコロン (; :)	VK_SEMICOLON
セパレーター	VK_SEPARATOR
Setup	VK_SETUP
Shift	VK_SHIFT
Shift (右)	VK_RSHIFT
バックslash	VK_BACKSLASH
slash	VK_SLASH
スペースバー	VK_SPACE

**表 B-1** 標準仮想キーの名前 (続き)

キーの機能	仮想キーの名前
角括弧 (左)	VK_LBRACKET
角括弧 (右)	VK_RBRACKET
Tab	VK_TAB
Windows (左)	VK_LWIN

## マウス ボタン

**表 B-2** マウス ボタン

マウス動作	仮想キーの名前
左クリック	VK_MSE_B1_CLK
右クリック	VK_MSE_B2_CLK
ミドル クリック	VK_MSE_B4_CLK
左ダブルクリック	VK_MSE_B1_DBL
右ダブルクリック	VK_MSE_B2_DBL
ミドル ダブルクリック	VK_MSE_B4_DBL

## 拡張キーボードの機能

**表 B-3** 拡張キーボードの機能

キーの機能	仮想キーの名前
ブラウザの[戻る]	VK_BROWSER_BACK
ブラウザの[進む]	VK_BROWSER_FORWARD
ブラウザの[中止]	VK_BROWSER_STOP
ブラウザの[更新]	VK_BROWSER_REFRESH
ブラウザの[ホーム]	VK_BROWSER_HOME
ブラウザの[お気に入り]	VK_BROWSER_FAVORITES
ブラウザの[検索]	VK_BROWSER_SEARCH
日本語 (漢字)	VK_KANJI
日本語 (かな)	VK_KANA
韓国語 (ハングル)	VK_HANGUEL
韓国語の漢字	VK_HANJA

**表 B-3 拡張キーボードの機能 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前
メール起動	VK_LAUNCH_MAIL
メディアの選択を開始	VK_LAUNCH_MEDIA_SELECT
アプリケーション 1 を起動	VK_LAUNCH_APP1
アプリケーション 2 を起動	VK_LAUNCH_APP2
メディア再生/一時停止	VK_MEDIA_PLAY_PAUSE
メディア停止	VK_MEDIA_STOP
メディアの前トラック	VK_MEDIA_PREV_TRACK
メディアの次トラック	VK_MEDIA_NEXT_TRACK
音量を下げる	VK_VOLUME_DOWN
音量を上げる	VK_VOLUME_UP
音量ミュート (消音)	VK_VOLUME_MUTE

## AT&T 4410 の仮想キーの名前

AT&T 4410 ターミナル エミュレーションが実行されている場合は、[302 ページの「標準仮想キーの名前」](#) セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。

**表 B-4 AT&T 4410 の仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
BackSpace	AT_BACKSPACE	VK_BACK
Break	AT_BREAK	
Clear	AT_CLEAR	VK_F10
Cursor Up	AT_UP	VK_UP
Cursor Down	AT_DOWN	VK_DOWN
Cursor Left	AT_LEFT	VK_LEFT
Cursor Right	AT_RIGHT	VK_RIGHT
Delete	AT_DELETE	VK_DELETE
Escape	AT_ESCAPE	VK_ESCAPE
F1~F8	AT_F1~F8	VK_F1~VK_F8
Home Down	AT_HOMEDOWN	VK_END
Home Up	AT_HOMEUP	VK_HOME




**表 B-4 AT&T 4410 の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Line Feed	AT_LINEFEED	VK_F9
Num Lock	AT_NUMLOCK	A+VK_NUMLOCK
Return	AT_RETURN	VK_RETURN
Setup	AT_SETUP	VK_F11
Tab	AT_TAB	VK_TAB

## DEC VT510 の仮想キーの名前

DEC VT ターミナル エミュレーションのどれかが実行されている場合は、[302 ページの「標準仮想キーの名前」](#) セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。

 **注記：** ICL DOC-18 エミュレーションでも、これらの仮想キーの名前が使用されます。

**表 B-5 DEC VT510 および ICL DOC-18 の仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Back Tab	VT_CSIZ	S+VK_TAB
Break	VT_BREAK	VK_PAUSE
BackSpace	VT_BACKSPACE	S+VK_BACK
Compose Character	VK_COMPOSE	A+VK_UP
Cursor Up	VT_UP	VK_UP
Cursor Down	VT_DOWN	VK_DOWN
Cursor Left	VT_LEFT	VK_LEFT
Cursor Right	VT_RIGHT	VK_RIGHT
Datatak	VK_DATATALK	A+VK_DOWN
Delete	VT_DELETE	VK_BACK
DO (F16)	VT_DO	A+VK_F6
Enter	VT_ENTER	VK_SEPARATOR
Escape	VT_ESCAPE	VK_ESCAPE
F6~F12	VT_F6~VT_F12	VK_F6~VK_F12
F13~F14	VT_F13~VT_F14	A+VK_F3~A+VK_F4
F17~F20	VT_F17~VT_F20	A+VK_F7~A+VK_F10

**表 B-5 DEC VT510 および ICL DOC-18 の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Find	VT_FIND	VK_INSERT
Help (F15)	VT_HELP	A+VK_F5
Hold Screen	VT_HOLD	VK_SCROLL
Insert	VT_INSERT	VK_HOME
キーパッドの 0~9	VT_PAD0~9	VK_NUMPAD0~9
キーパッドのカンマ	VT_COMMA	A+VK_ADD
キーパッドの小数点	VT_PADDECIMAL	VK_DECIMAL
キーパッドのマイナス	VT_MINUS	VK_SUBTRACT
Next Page	VT_NEXT	VK_NEXT
PF1~PF4	VT_PF1~VT_PF4	VK_F1~VK_F4
Previous Page	VT_PREV	VK_END
Print	VT_PRINT	C+VK_PRINT
TTY 印刷モード	VT_PRINTTTY	S+VK_F4
Print Scrolling Region	VT_PRINTSCROLL	S+C+VK_PRINT
Remove	VT_REMOVE	VK_PRIOR
Return	VT_RETURN	VK_RETURN
Scroll Down	VT_PANDOWN	C+VK_DOWN
Scroll Left	VT_PANLEFT	C+VK_LEFT
Scroll Right	VT_PANRIGHT	C+VK_RIGHT
Scroll Up	VT_PANUP	C+VK_UP
Select	VT_SELECT	VK_DELETE
Setup	VT_SETUP	S+C+VK_UP
Tab	VT_TAB	VK_TAB

## HP 700-92/96 の仮想キーの名前

HP ターミナル エミュレーションが実行されている場合は、[302 ページの「標準仮想キーの名前」](#)セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。

**表 B-6 HP 700-92/96 の仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
BackSpace	HP_BACKSPACE	VK_BACK
Clear Display	HP_CLEARMEM	C+VK_F4
Clear Line	HP_CLEARLINE	C+VK_F3
Column Width	HP_COLUMNWIDTH	VK_F12
Compose Character	HP_COMPOSE	A+VK_UP
Cursor Up	HP_UP	VK_UP
Cursor Down	HP_DOWN	VK_DOWN
Cursor Left	HP_LEFT	VK_LEFT
Cursor Right	HP_RIGHT	VK_RIGHT
Cursor Home	HP_HOMEUP	VK_HOME
Shift +カーソルをホーム位置に	HP_HOMEDOWN	VK_END
Delete	HP_DELETE	S+VK_BACK
Delete Character	HP_DELETECHAR	VK_DELETE
Delete Line	HP_DELETELIN	C+VK_F2
Delete Wrap	HP_DELETEWRAP	C+VK_DELETE
Enter	HP_SEND	VK_SEPARATOR
Escape	HP_ESCAPE	VK_ESCAPE
F1~F8	HP_F1~HP_F8	VK_F1~VK_F8
Hard Reset	HP_HARDRESET	C+VK_F8
Insert Character	HP_INSERTMODE	VK_INSERT
Insert Line	HP_INSERTLINE	C+VK_F1
Insert Wrap	HP_INSERTWRAP	C+VK_INSERT
メニュー	HP_MENU	S+VK_F9
モード選択キー	HP_MODES	VK_F11
Next Page	HP_NEXTPAGE	VK_NEXT
Previous Page	HP_PREVPAGE	VK_PRIOR
Print	HP_PRINT	A+VK_PRINT
Return	HP_RETURN	VK_RETURN
Scroll Down	HP_ROLLODOWN	S+VK_DOWN
Scroll Up	HP_ROLLUP	S+VK_UP

**表 B-6 HP 700-92/96 の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Select	HP_SELECT	C+VK_F5
Soft Reset	HP_SOFTRESET	C+VK_F7
Tab	HP_TAB	VK_TAB
Shift + Tab	HP_BACKTAB	S+VK_TAB
ユーザー キー モード	HP_USER	VK_F10
ユーザー キー定義メニュー	HP_FKEYDEFS	S+VK_F10
ユーザー システム	HP_SYSTEM	VK_F9

## IBM 3151 の仮想キーの名前

IBM 3151 ターミナル エミュレーションが実行されている場合は、[302 ページの「標準仮想キーの名前」](#)セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。

**表 B-7 IBM 3151 の仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Alrm Up	I51_ALRMUP	C+VK_F11
Alrm Down	I51_ALRMDN	C+VK_F12
BackSpace	I51_BACKSPACE	VK_BACK
Back Tab	I51_BACKTAB	VK_END
Break	I51_BREAK	C+VK_F3
キャンセル	I51_CANCEL	A+VK_F2
Clear	I51_CLEAR	VK_PRIOR
Compose Character	I51_COMPOSE	A+VK_UP
Cursor Up	I51_UP	VK_UP
Cursor Down	I51_DOWN	VK_DOWN
Cursor Left	I51_LEFT	VK_LEFT
Cursor Right	I51_RIGHT	VK_RIGHT
Cursor Select	I51_CRSEL	C+VK_F9
Cursor Select	I51_CRSEL	C+VK_NUMPAD8
PF キーの定義	I51_DEFPFKEY	S+VK_INSERT
Del	I51_DEL	C+VK_HOME

**表 B-7 IBM 3151 の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Delete	I51_DELETE	VK_DELETE
Delete Line	I51_DELETELINE	C+VK_DELETE
Display Message	I51_DSPMSG	C+VK_F10
Display Message	I51_DSPMSG	C+VK_NUMPAD9
Enter	I51_ENTER	VK_SEPARATOR
Erase End Of Field	I51_EREOP	VK_NEXT
Erase EOP	I51_EREOP	C+VK_NEXT
Erase Input	I51_ERINP	C+VK_PRIOR
Escape	I51_ESCAPE	VK_ESCAPE
F1~F12	I51_F1~I51_F12	VK_F1~VK_F12
F13~F24	I51_F13~I51_F24	S+VK_F1~S+VK_F12
Hold	I51_HOLD	VK_PAUSE
Home	I51_HOME	VK_HOME
Insert Line	I51_INSERTLINE	C+VK_INSERT
Insert Mode	I51_INSERT	VK_INSERT
Jump	I51_JUMP	C+VK_F5
Jump	I51_JUMP	C+VK_DIVIDE
Line Feed	I51_LINEFEED	C+VK_RETURN
Local	I51_LOCAL	C+VK_END
Local	I51_LOCAL	C+VK_ADD
テンキーの 0~9	I51_NUMPAD0~9	VK_NUMPAD0~9
PA1~PA3	I51_PA1~I51_PA3	C+VK_NUMPAD1~3
Print Message	I51_PRTMSG	C+VK_F2
Print Line	I51_PRTLINE	VK_SCROLL
Print Screen	I51_PRTSCRN	C+VK_F6
Print View	I51_PRTVIEW	VK_SNAPSHOT
Reset	I51_RESET	A+VK_F1
Return	I51_RETURN	VK_RETURN
Send	I51_SEND	C+VK_SEPARATOR
Send Line	I51_SNDLINE	C+VK_F8

**表 B-7 IBM 3151 の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Send Message	I51_SNDMSG	C+VK_F7
Send Message	I51_SNDMSG	C+VK_MULTIPLY
Setup	I51_SETUP	C+VK_F4
Setup	I51_SETUP	C+VK_SUBTRACT
Sub	I51_SUB	C+VK_NUMPAD4
Sup	I51_SUP	C+VK_NUMPAD7
Tab	I51_TAB	VK_TAB
Trace	I51_TRACE	C+VK_F1
TXF1~TXF12	I51_TXF1~I51_TXF12	S+C+VK_F1~F12

## IBM 3270 の仮想キーの名前

IBM 3270 ターミナル エミュレーションが実行されている場合は、[302 ページの「標準仮想キーの名前」](#)セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。

**表 B-8 IBM 3270 の仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
代替コード ページ	IB_ALTCP	S+A+C+VK_SUBTRACT
Attention	IB_ATTN	S+VK_ESCAPE
Back Tab	IB_BACKTAB	S+VK_TAB
BackSpace	IB_BACKSPACE	VK_BACK
Clear	IB_CLEAR	VK_PAUSE
Close (Delete Space)	IB_REV_CL	S+VK_MULTIPLY
Copy	IB_COPY	S+VK_NEXT
Cursor Up	IB_UP	VK_UP
Cursor Down	IB_DOWN	VK_DOWN
Cursor Left	IB_LEFT	VK_LEFT
Cursor Right	IB_RIGHT	VK_RIGHT
Cursor Select	IB_CURSORSEL	S+A+VK_F9
Cursor Flash On/Off	IB_FLCR	S+C+VK_F10
Cursor Line/Block	IB_ALTCR	S+C+VK_F11

**表 B-8 IBM 3270 の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Delay 1 Second	IB_DELAY	S+A+C+VK_PAUSE
Delete Character	IB_DELCHAR	VK_DELETE
Delete Word	IB_DELWORD	A+VK_DELETE
Display Attributes	IB_DISPATTR	A+VK_F10
Duplicate	IB_DUP	S+VK_INSERT
Enter	IB_ENTER	VK_SEPARATOR
Erase End Of Field	IB_ERASEEOF	VK_END
Erase Input	IB_ERASEINPUT	S+VK_PAUSE
F1~F12	IB_F1~IB_F12	VK_F1~VK_F12
F13~F24	IB_F13~IB_F24	S+VK_F1~S+VK_F12
Field Mark	IB_FIELDMARK	S+VK_HOME
Fn Edit	IB_FEDIT	A+VK_F3
Go To End Of Line	IB_GO_EOL	S+VK_END
Home	IB_HOME	VK_HOME
Insert Mode	IB_INSERT	VK_INSERT
Jump	IB_JUMP	C+VK_HOME
Local National Map	IB_LCLMAP	S+VK_SUBTRACT
Mono Case	IB_MONO	C+VK_F4
Next Word	IB_NEXTWORD	A+VK_RIGHT
Notice Board Copy	IB_NB_COPY	S+C+VK_PRIOR
Notice Board Jump	IB_NB_JUMP	C+VK_PRIOR
Notice Board Setup	IB_NB_SETUP	A+VK_F2
Notice Board Zoom	IB_NB_ZOOM	A+VK_PRIOR
Num Lock	IB_NUMLOCK	A+VK_NUMLOCK
PA1	IB_PA1	VK_PRIOR
PA2	IB_PA2	VK_NEXT
PA3	IB_PA3	S+VK_PRIOR
Pause	IB_PAUSE	A+VK_PAUSE
Play Keystrokes	IB_PLAY	A+VK_F8
Previous Word	IB_PREVWORD	A+VK_LEFT

**表 B-8 IBM 3270 の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Print Screen	IB_PRINT	VK_SNAPSHOT
Push Mode On/Off	IB_PUSH	S+C+VK_SUBTRACT
Quit	IB_QUIT	A+VK_ESCAPE
Record Keystrokes	IB_RECORD	A+VK_F7
Reset	IB_RESET	VK_ESCAPE
Return	IB_RETURN	VK_RETURN
Reverse Input Direction	IB_REV_IP	S+VK_DIVIDE
Reverse Screen	IB_REV_SC	S+VK_BACK
Rule Display	IB_RULE	A+VK_NEXT
Selectable Field Tab	IB_FIELDTAB	VK_SUBTRACT
System Request	IB_SYSREQ	A+VK_ESCAPE
Tab	IB_TAB	VK_TAB
Test Key To Host	IB_TEST	A+VK_SCROLL

## IBM 5250 の仮想キーの名前

IBM 5250 ターミナル エミュレーションが実行されている場合は、[302 ページの「標準仮想キーの名前」](#) セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。

**表 B-9 IBM 5250 の仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
代替コード ページ	AS_ALTCP	S+A+C+VK_SUBTRACT
Attention	AS_ATTN	S+VK_ESCAPE
Back Tab	AS_BACKTAB	S+VK_TAB
BackSpace	AS_BACKSPACE	VK_BACK
Backspace (削除を行わない)	AS_NONDESTBS	A+VK_BACK
Clear	AS_CLEAR	VK_PAUSE
Cursor Up	AS_UP	VK_UP
Cursor Down	AS_DOWN	VK_DOWN
Cursor Left	AS_LEFT	VK_LEFT
Cursor Right	AS_RIGHT	VK_RIGHT



**表 B-9 IBM 5250 の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Cursor Fast Left	AS_FASTLEFT	S+VK_LEFT
Cursor Fast Right	AS_FASTRIGHT	S+VK_RIGHT
Cursor Select	AS_CURSORSEL	C+VK_F9
Delay 1 Second	AS_DELAY	S+A+C+VK_PAUSE
Delete Character	AS_DELCHAR	VK_DELETE
Duplicate	AS_DUP	S+VK_INSERT
Enter	AS_ENTER	VK_SEPARATOR
Erase End Of Field	AS_ERASEEOF	VK_END
Erase Input	AS_ERASEINPUT	A+VK_PAUSE
F1~F12	AS_F1~AS_F12	VK_F1~VK_F12
F13~F24	AS_F13~AS_F24	S+VK_F1~S+VK_F12
Field Exit	AS_FIELDEXIT	VK_RETURN
Field Mark	AS_FIELDMARK	S+VK_HOME
Field Minus	AS_FIELDMINUS	VK_SUBTRACT
Field Plus	AS_FIELDPLUS	S+VK_SEPARATOR
Go To End Of Line	AS_GO_EOL	S+VK_END
Help	AS_HELP	VK_MULTIPLY
Home	AS_HOME	VK_HOME
Insert Mode	AS_INSERT	VK_INSERT
Local/General Keyboard	AS_LCLMAP	S+VK_SUBTRACT
Monochrome	AS_MONO	C+VK_F4
New Line	AS_NEWLINE	S+VK_RETURN
PA1	AS_PA1	A+VK_INSERT
PA2	AS_PA2	A+VK_HOME
PA3	AS_PA3	A+VK_PRIOR
Pause	AS_PAUSE	A+VK_PAUSE
Play Keystrokes	AS_PLAY	A+VK_F5
Print Local	AS_PRINTLOCAL	C+VK_SNAPSHOT
Print	AS_PRINT	VK_SNAPSHOT
Push Mode On/Off	AS_PUSH	S+C+VK_SUBTRACT

**表 B-9 IBM 5250 の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Quit	AS_QUIT	A+VK_ESCAPE
Record Keystrokes	AS_RECORD	A+VK_F4
Reset	AS_RESET	VK_ESCAPE
Reverse Close Text	AS_REV_CL	S+VK_MULTIPLY
Reverse/Normal Toggle	AS_REV_IP	S+VK_DIVIDE
Reverse Whole Screen	AS_REV_SC	S+VK_BACK
Roll Down	AS_ROLLODOWN	VK_PRIOR
Roll Up	AS_ROLLUP	VK_NEXT
Rule Display	AS_RULE	A+VK_NEXT
System Request	AS_SYSREQ	A+VK_SNAPSHOT
Tab	AS_TAB	VK_TAB
Test	AS_TEST	A+VK_SCROLL

## IBM 5250 ワード プロセッシング モード

**表 B-10 IBM 5250 ワード プロセッシング モード**

キーの機能	仮想キーの名前
太字の開始	AS_WP_BOLD
下線の開始	AS_WP_UNDERLINE
ワード単位で下線を引く	AS_WP_WORD_UNDER
属性の終了	AS_WP_END_ATTR
テキストの中央揃え	AS_WP_CENTRE
半行上げ	AS_WP_HI_UP
半行下げ	AS_WP_HI_DOWN
次のテキスト カラム	AS_WP_NEXT_COL
行の開始	AS_WP_BEG_LINE
行の終了	AS_WP_END_LINE
ページの先頭	AS_WP_TOP_PAGE
ページの終了	AS_WP_END_PAGE
新規ページの開始	AS_WP_NEW_PAGE

**表 B-10 IBM 5250 ワード プロセッシング モード (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前
Carrier Return の挿入	AS_WP_RETURN
停止コードの挿入	AS_WP_STOP_CODE
停止コードの検索	AS_WP_FIND_STOP
強制ページ終了	AS_WP_REQD_PAGE
強制スペース	AS_WP_REQD_SPACE
強制タブ	AS_WP_REQD_TAB
記号コマンド	AS_WP_SYMBOLS

## TA6530 の仮想キーの名前

TA6530 ターミナル エミュレーションが実行されている場合は、[302 ページの「標準仮想キーの名前」](#) セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。

**表 B-11 TA6530 の仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
BackSpace	TA_BACKSPACE	VK_BACK
Back Tab	TA_BACKTAB	S+VK_TAB
Break	TA_BREAK	VK_PAUSE
Shift + Break	TA_S_BREAK	S+VK_PAUSE
Character Delete	TA_CHARDEL	VK_DELETE
Character Insert	TA_CHARINS	VK_INSERT
Cursor Up	TA_UP	VK_UP
Cursor Down	TA_DOWN	VK_DOWN
Cursor Left	TA_LEFT	VK_LEFT
Cursor Right	TA_RIGHT	VK_RIGHT
Delete	TA_DEL	S+VK_ESCAPE
End	TA_END	VK_END
Erase Line	TA_ERASELINE	C+VK_SCROLL
Erase Page	TA_ERASEPAGE	S+C+VK_SCROLL
Escape	TA_ESC	VK_ESCAPE
F1~F12	TA_F1~TA_F12	VK_F1~VK_F12

**表 B-11 TA6530 の仮想キーの名前（続き）**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
F13~F16	TA_F13~TA_F16	A+VK_F3~A+VK_F6
Shift + F1~F12	TA_S_F1~TA_S_F12	S+VK_F1~S+VK_F12
Shift + F13~F16	TA_S_F13~TA_S_F16	S+A+VK_F3~F6
Home	TA_HOME	VK_HOME
Home + Ctrl	TA_C_HOME	C+VK_HOME
Insert	TA_INSERT	S+VK_INSERT
Line Delete	TA_LINEDEL	C+VK_DELETE
Line Insert	TA_LINEINS	C+VK_INSERT
Num Lock	TA_NUMLOCK	VK_NUMLOCK
テンキーの 0~9	TA_PAD0~TA_PAD9	VK_NUMPAD0~9
テンキーのカンマ	TA_PADCOMMA	A+VK_ADD
テンキーの小数点	TA_PADDECIMAL	VK_DECIMAL
テンキーの Enter	TA_ENTER	VK_SEPARATOR
Shift + テンキーの Enter	TA_S_ENTER	S+VK_SEPARATOR
テンキーの Enter+Ctrl	TA_C_ENTER	C+VK_SEPARATOR
テンキーのマイナス記号	TA_PADMINUS	VK_SUBTRACT
Page Down	TA_PAGEDOWN	VK_NEXT
Shift + Page Down	TA_S_PAGEDOWN	S+VK_NEXT
Page Up	TA_PAGEUP	VK_PRIOR
Shift + Page Up	TA_S_PAGEUP	S+VK_PRIOR
Print Screen	TA_PRTSCR	VK_PRINT
Shift + Print Screen	TA_S_PRTSCR	C+VK_PRINT
Return	TA_RETURN	VK_RETURN
Shift + Return	TA_S_RETURN	S+VK_RETURN
Return+Ctrl	TA_C_RETURN	C+VK_RETURN
Roll Up	TA_ROLLUP	A+VK_UP
Shift + Roll Up	TA_S_ROLLUP	S+A+VK_UP
Roll Down	TA_ROLLDOWN	A+VK_DOWN
Shift + Roll Down	TA_S_ROLLDOWN	S+A+VK_DOWN
Tab	TA_TAB	VK_TAB

**表 B-11 TA6530 の仮想キーの名前（続き）**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Tab Clear	TA_TABCLEAR	S+A+VK_SUBTRACT
Tab Clear All	TA_TABCLRALL	A+C+VK_SUBTRACT
Tab Set	TA_TABSET	A+VK_SUBTRACT

## Wyse 仮想キーの名前

Wyse ターミナル エミュレーションが実行されている場合は、[302 ページの「標準仮想キーの名前」](#)セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。

**表 B-12 Wyse 仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Answerback	WY_ANSWERBACK	S+VK_PAUSE
BackSpace	WY_BACKSPACE	VK_BACK
Break	WY_BREAK	VK_PAUSE
Character Set	WY_CHARSET	S+A+VK_UP
Clear Line	WY_CLRLINE	VK_END
Clear Screen	WY CLRSCRN	S+C+VK_END
Compose Character	WY_COMPOSE	A+VK_UP
Cursor Up	WY_UP	VK_UP
Shift + Cursor Up	WY_S_UP	S+VK_UP
Cursor Down	WY_DOWN	VK_DOWN
Shift + Cursor Down	WY_S_DOWN	S+VK_DOWN
Cursor Left	WY_LEFT	VK_LEFT
Shift + Cursor Left	WY_S_LEFT	S+VK_LEFT
Cursor Right	WY_RIGHT	VK_RIGHT
Shift + Cursor Right	WY_S_RIGHT	S+VK_RIGHT
Delete	WY_DELETE	VK_DELETE
Shift + Delete	WY_S_DELETE	S+A+VK_DELETE
Delete Character	WY_DELCHAR	C+VK_DELETE
Delete Line	WY_DELLINE	S+C+VK_DELETE
Del Key	WY_DELKEY	A+VK_BACK

**表 B-12 Wyse 仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Shift + Del Key	WY_S_DELKEY	S+A+VK_BACK
End	WY_END	A+VK_END
Shift + End	WY_S_END	S+C+VK_END
Enter	WY_ENTER	VK_SEPARATOR
Shift + Enter	WY_S_ENTER	S+VK_SEPARATOR
Escape	WY_ESC	VK_ESCAPE
Shift + Escape	WY_S_ESC	S+C+VK_ESCAPE
F1~F12	WY_F1~WY_F12	VK_F1~VK_F12
Shift + F1~F12	WY_S_F1~WY_S_F12	S+VK_F1~12
F11~F16	WY_F11~WY_F16	A+VK_F1~6
Shift + F11~F16	WY_S_F11~WY_S_F16	S+A+VK_F1~6
FDXBLK	WY_FDXBLK	S+C+VK_PAUSE
Function	WY_FUNCT	S+C+VK_SCROLL
Home	WY_HOME	VK_HOME
Shift + Home	WY_S_HOME	S+VK_HOME
Insert	WY_INSERT	VK_INSERT
Insert Character	WY_INSCHAR	A+VK_INSERT
Insert Line	WY_INSLINE	C+VK_INSERT
キーパッドの 5	WY_KP5	VK_NUMPAD5
Shift + テンキーの 5	WY_S_KP5	S+VK_NUMPAD5
Num Lock	WY_NUMLOCK	VK_NUMLOCK
Page Up	WY_PAGEUP	VK_PRIOR
Shift + Page Up	WY_S_PAGEUP	S+VK_PRIOR
Page Down	WY_PAGEDOWN	VK_NEXT
Shift + Page Down	WY_S_PAGEDOWN	S+VK_NEXT
Pause	WY_PAUSE	A+VK_SCROLL
Print	WY_PRINT	VK_SNAPSHOT
Shift + Print	WY_S_PRINT	S+VK_SNAPSHOT
Replace	WY_REPLACE	S+VK_INSERT
Return	WY_RETURN	VK_RETURN

**表 B-12 Wyse 仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Shift + Return	WY_S_RETURN	S+VK_RETURN
Send	WY_SEND	S+VK_SNAPSHOT
Split	WY_SPLIT	S+C+VK_SUBTRACT
Tab	WY_TAB	VK_TAB
Shift + Tab	WY_S_TAB	S+VK_TAB

## MDIS Prism 仮想キーの名前

MDIS Prism ターミナル エミュレーションのどれかが実行されている場合は、「標準仮想キーの名前」セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。

**表 B-13 MD Prism の仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Back Tab	MD_CSIZ	S+VK_TAB
BackSpace	MD_BACKSPACE	S+VK_BACK
Break	MD_BREAK	VK_PAUSE
Compose Character	MD_COMPOSE	A+VK_UP
Cursor Down	MD_DOWN	VK_DOWN
Cursor Left	MD_LEFT	VK_LEFT
Cursor Right	MD_RIGHT	VK_RIGHT
Cursor Up	MD_UP	VK_UP
Datatak	MD_DATATALK	A+VK_DOWN
Delete	MD_DELETE	VK_BACK
Do (F16)	MD_DO	A+VK_F6
Enter	MD_ENTER	VK_SEPARATOR
Escape	MD_ESCAPE	VK_ESCAPE
F6~F12	MD_F6~MD_F12	VK_F6~VK_F12
F13~F14	MD_F13~MD_F14	A+VK_F3~A+VK_F4
F17~F20	MD_F17~MD_F20	A+VK_F7~A+VK_F10
Find	MD_FIND	VK_INSERT
Help (F15)	MD_HELP	A+VK_F5

**表 B-13 MD Prism の仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
Hold Screen	MD_HOLD	VK_SCROLL
Insert	MD_INSERT	VK_HOME
キーパッドの 0~9	MD_PAD0~9	VK_NUMPAD0~9
キーパッドのカンマ	MD_COMMA	VK_ADD
キーパッドの小数点	MD_PADDECIMAL	VK_DECIMAL
キーパッドのマイナス	MD_MINUS	A+VK_ADD
Left	MD_LEFT	VK_LEFT
Next Page	MD_NEXT	VK_NEXT
PF1~PF4	MD_PF1~MD_PF4	VK_F1~VK_F4
Previous Page	MD_PREV	VK_END
Print Screen	MD_PRINT	C+VK_PRINT
TTY 印刷モード	MD_PRINTTTY	S+VK_F4
Print Scrolling Region	MD_PRINTSCROLL	S+C+VK_PRINT
Remove	MD_REMOVE	VK_PRIOR
Return	MD_RETURN	VK_RETURN
Scroll Down	MD_PANDOWN	C+VK_DOWN
Scroll Left	MD_PANLEFT	C+VK_LEFT
Scroll Right	MD_PANRIGHT	C+VK_RIGHT
Scroll Up	MD_PANUP	C+VK_UP
Select	MD_SELECT	VK_DELETE
Setup	MD_SETUP	S+C+VK_UP
Tab	MD_TAB	VK_TAB
Up	MD_UP	VK_UP

## Siemens 97801 仮想キーの名前

Siemens 97801 ターミナル エミュレーションが実行されている場合は、「標準仮想キーの名前」セクションに一覧表示されているすべての VK\_形式の仮想キーの名前に加え、以下の仮想キーの名前を使用できます。



**表 B-14 Siemens 97801 仮想キーの名前**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
BackSpace	SI_BACKSPACE	VK_BACK
Back Tab	SI_BACKTAB	S+VK_TAB
Break	SI_BREAK	A+VK_PAUSE
CE	SI_CE	A+VK_HOME
CH Code	SI_CHCODE	A+VK_UP
Compose Character	SI_COMPOSE	A+VK_RETURN
Cursor Down	SI_DOWN	VK_DOWN
Cursor Left	SI_LEFT	VK_LEFT
Cursor Right	SI_RIGHT	VK_RIGHT
Cursor Up	SI_UP	VK_UP
Delete	SI_DELETE	A+VK_BACK
Delete Character	SI_DELCHAR	VK_DELETE
Delete Line	SI_DELLINE	A+VK_DELETE
Delete Word	SI_DELWORD	A+VK_LEFT
End	SI_END	VK_END
Endmarke	SI_ENDMARKE	A+VK_SUBTRACT
Escape	SI_ESCAPE	VK_ESCAPE
F1~F12	SI_F1~SI_F12	VK_F1~VK_F12
F13	SI_F13	VK_SNAPSHOT
F14	SI_F14	VK_SCROLL
F15	SI_F15	VK_PAUSE
F16~F22	SI_F16~SI_F22	A+VK_F6~A+VK_F12
F18'~F22'	SI_F18'~F22'	A+VK_F1~A+VK_F5
Help	SI_HELP	A+VK_NEXT
Home	SI_HOME	VK_HOME
Insert Character	SI_INSCHAR	VK_INSERT
Insert Line	SI_INSLINE	A+VK_INSERT
Insert Word	SI_INSWORD	A+VK_RIGHT
キーパッドの 0~9	SI_PAD0~SI_PAD9	VK_NUMPAD0~VK_NUMPAD9
キーパッドの 00	SI_PAD00	A+VK_SCROLL

**表 B-14 Siemens 97801 仮想キーの名前 (続き)**

キーの機能	仮想キーの名前	初期設定のマッピング
キーパッドの小数点	SI_PADDECIMAL	VK_DECIMAL
キーパッドの除算記号	SI_PADDIVIDE	VK_DIVIDE
キーパッドの Enter	SI_PADENTER	VK_SEPARATOR
キーパッドの等号	SI_PADEQUALS	A+VK_ADD
キーパッドのマイナス	SI_PADMINUS	VK_SUBTRACT
キーパッドの乗算記号	SI_PADMULTIPLY	VK_MULTIPLY
キーパッドのプラス	SI_PADPLUS	VK_ADD
メニュー	SI_MENU	A+VK_SEPARATOR
モード	SI_MODE	A+VK_DOWN
Page	SI_PAGE	A+VK_PRIOR
Print	SI_PRINT	A+VK_SNAPSHOT
Return	SI_RETURN	VK_RETURN
Scroll Down	SI_SCROLLDOWN	VK_NEXT
Scroll Up	SI_SCROLLUP	VK_PRIOR
スタート	SI_START	A+VK_END
Tab	SI_TAB	VK_TAB

## C 製品仕様

この付録では、各ターミナル エミュレーションによって提供されるサポートのレベルについて説明します。

### はじめに

以下のセクションでは、各ターミナル エミュレーションによって提供されるサポートのレベルについて、製品の範囲全体にわたって説明します。お使いの製品バージョンで、ここに示すターミナル エミュレーションの一部がサポートされない場合があることに注意してください。

### 全般

#### 制限事項

- キー クリックはサポートされません。
- ID カードおよび磁気カード リーダーは、ユニットのキーボードに接続されているウェッジ形のデータ デバイスによってサポートされます。
- ダウンロードできるプログラム モジュールはありません。
- キーボードのレイアウトが異なる場合がありますが、実質的にネイティブ ターミナルと同じ機能を提供します。
- スクリーンセーバーはありません。
- 組み込み製品/Thin Client ではファイル転送プロトコルがサポートされません。
- 組み込み製品/Thin Client では API がサポートされません。
- スムーズ スクロールおよび可変スクロールはサポートされません。
- グラフィックスおよび APA グラフィックスがありません。

### Telnet

#### 仕様

- RFC 854、855、856、857、858、860、1091、1408、1571、1572 を実装しています。
- IBM 5250 の場合は RFC 1205、2877 を実装しています。
- IBM 3270 の場合は RFC 2355、1576、1646、1647 を実装しています。

### AixTerm

- 縦方向のタブ ストップがありません。
- 代替表示種別の選択がありません。

- 文字列の反転の選択ができません。
- グラフィック表示でフォントの選択ができません。
- 仮想ターミナル コマンドが利用できません。
- curses の修正の設定がありません。
- ページ スクロールが利用できません。
- 代替のスクリーン バッファがありません。
- X Window の機能が利用できません。

## DEC VT シリーズ エミュレーション

### 仕様

- 『Digital VT 420 Programmer's Manual』 (Digital VT 420 プログラマーズ マニュアル) (EK-VT420-RM-001)

### 制限事項

- DEC マルチセッション プロトコルおよび SSU プロトコルは実装されていません。

## HP 700-92/96 エミュレーション

### 仕様

- 『HP 2392A Reference Guide』 (HP 2392A リファレンス ガイド) (02394-90001、1984年4月)

## IBM 3270 エミュレーション

### 仕様

- 『3270 Information Display System Data Stream Programmer's Reference』 (3270 情報表示システム データ ストリーム プログラマーズ リファレンス) (GA23-0059-07)

### 制限事項

- ダブル バイトでの印刷はできません。

## IBM 5250 エミュレーション

### 仕様

- 『5494 Remote Control Unit Functions Reference Release 2.0』 (5494 リモート コントロールユニット機能リファレンス リリース 2.0) (SC30-3533-02)

### 制限事項

- 右から左への書き込みモードでテキスト支援がありません。
- ダブル バイトでの印刷はできません。

- 3812-1 非ホスト印刷変換 (Non-HPT) 印刷プロトコルはサポートされません。
- 電卓/16 進数キーがありません。
- パスワードの暗号化ができません。
- 補助ポートのサポートはありません。
- 制御装置のカスタマイズができません。
- この仕様は、5250 デバイス機能レポート バイト 0~5 (表示セッションの場合は 0x7f、0x11、0x4e、0x00、0x03、および 0x80) によっても定義されます。

## IBM 3151 ネイティブ エミュレーション モデル 11 および 31

### 仕様

- 『IBM 3151 Ascii Display Station Reference Manual』(IBM 3151 ASCII ディスプレイ ステーション リファレンス マニュアル) (GA18-2634- 01、1989 年)

## Stratus V102

### 仕様

- 『V102 Display Terminal Operator's Manual』(V102 ディスプレイ ターミナル オペレーターズ マニュアル) (TVI 131974-00、1985 年 6 月)

### 制限事項

- ページ印刷フリップ モードはサポートされません。
- シリアル設定コマンドはサポートされません。
- 文字セット選択コマンドはサポートされません。

## Tandem 6526/6530 エミュレーション

### 仕様

- 『Tandem 653x Multi-Page Terminal Programmer's Guide』(Tandem 653x マルチページ ターミナル プログラマーズ ガイド) (82310-B00、1983 年 12 月)

### 制限事項

- Telnet ラインモードはサポートされません。
- ANSI メディア コピー コマンドはサポートされません。
- 補助ポートのサポートはありません。
- 拡張バッファおよびカーソル コマンドのサポートはありません。
- 文字列設定、マシン、およびディレクトリ コマンドはサポートされません。
- データ テーブル再定義コマンドはサポートされません。

- リモートでの終了はサポートされません。
- I/O デバイスおよびファイル コマンドはサポートされません。
- カラー設定コマンドはサポートされません。

## Televideo 955

### 仕様

- 『Televideo 955 Display Terminal Operator's Manual』 (Televideo 955 ディスプレイ ターミナル オペレーターズ マニュアル) (131969-00- B、1985 年 9 月)

### 制限事項

- ページ印刷フリップ モードはサポートされません。
- シリアル設定コマンドはサポートされません。
- 文字セット選択コマンドはサポートされません。

## Wyse 60 ネイティブ エミュレーション

### 仕様

- 『WY-60 Programmer's Guide』 (WY-60 プログラマーズ ガイド) (880261-01 Rev A)

### 制限事項

- 64 色ではなく 16 色のみがサポートされます。
- 一部のカラー コマンドはサポートされません。
- ページ編集モードがありません。
- モデムおよび補助ポート コマンドはサポートされません。
- キーボード スキャン コード モードがありません。
- 文字セル サイズ コマンドはサポートされません。
- ファンクション キー ラベル保存コマンドはサポートされません。
- フォントの自動ロードはサポートされません。
- リモート Caps Lock コマンドはサポートされません。
- NULL 無視コマンドはサポートされません。
- 属性上書きモードはサポートされません。
- インテンシティ無効化コマンドはサポートされません。
- 一部の個人設定選択コマンドはサポートされません。
- Wyseword モードはサポートされません。

# Wyse 50、50+、TVI 910、950、ADDS-A2、HZ 1500、 Wyse PC-Term

## 仕様

- 『WY355/ES Reference Manual』 (WY355/ES リファレンス マニュアル) (883227-01 Rev. A)

## 制限事項

すべてのモード :

- 該当する場合、上記の Wyse 60 と同様

TVI モード :

- 印刷/行終了文字の選択

Wyse PC-Term :

- 初期設定単位コマンドはサポートされません。
- 方向付きのプログラム キーはサポートされません。
- 印刷終了文字の設定がサポートされません。
- 区切り文字の定義がサポートされません。

# Siemens 97801

## サポートされる機能 :

- ダウンロード可能な文字セット
- ダウンロード可能なソフト フォント
- ダウンロード可能な Compose Key 設定およびテーブル

# 索引

- A**
- ADDS-A2
    - 仕様 329
    - 制限事項 329
  - AIXTerm
    - 制限事項 325
  - AIXTerm エミュレーション 80
  - Ansi BBS エミュレーション 80
  - AT&T 386 エミュレーション 80
  - AT&T 4410 エミュレーション
    - 仮想キーの名前 306
    - キーボード マッピング 88
    - 表示 88
    - ファンクション キー 88
    - ファンクション キーのプログラミング 88
  - [Autologon Options] (自動ログオン オプション) ダイアログ 34
- C**
- Clipboard Options (クリップボード オプション) 60
- D**
- DEC VT510
    - 仮想キーの名前 307
  - [DOC-18 Settings] (DOC-18 の設定) ダイアログ
    - 一般設定 267
    - 設定 271
    - ディスプレイの設定 269
  - DOC-18 エミュレーション
    - TeemTalk ウィザード 262
    - キーボード マッピング 262
    - ステータス バー 264
    - セッション ウィザード 261
    - セッションの作成 261, 262
    - セットアップ オプション 266
- E**
- [Edit] (編集) メニュー
    - Clear Buffer (バッファをクリア) 59
    - Clipboard Options (クリップボード オプション) 59
    - Copy (コピー) 59
    - Paste Rect (矩形貼り付け) 59
    - Paste (貼り付け) 59
    - Select All (すべて選択) 60
- F**
- [File] (ファイル) メニュー
    - New Tab (新規タブ) 9
    - New Window (新規ウィンドウ) 9
    - Open Session (セッションを開く) 7
    - Save Session As (セッションに名前を付けて保存) 3, 10
    - Save Session (セッションを保存) 10, 101, 248
  - FTP 77
- H**
- HP 700-92/96
    - 仮想キーの名前 308
    - 仕様 326
  - [HP 700-92/96 Settings] (HP 700-92/96 の設定) ダイアログ
    - 一般設定 120
    - 構成設定 122
    - 設定 125
  - HP 700-92/96 エミュレーション
    - TeemTalk ウィンドウ 105
    - 開始カラム 114
    - キーボード マッピング 105
    - セッション ウィザード 104
    - セッションの作成 104, 105
    - 設定の選択 110
  - セットアップ オプション 119
  - タブ 114
  - デバイス制御 111
  - デバイス モード 112
  - 表示の設定 107
  - ファンクション キー 107
  - ファンクション キーのプログラミング 115
  - マージン 114
  - モード選択 108
  - 文字表示の属性 118
- I**
- HP へのお問い合わせ 2
  - HZ 1500
    - 仕様 329
    - 制限事項 329
  - IBM 3151
    - 仮想キーの名前 310
    - 仕様 327
  - [IBM 3151 Settings] (IBM 3151 の設定) ダイアログ
    - 一般設定 136
    - 設定 142
    - ディスプレイの設定 139
  - IBM 3151 エミュレーション
    - TeemTalk ウィザード 129
    - キーボード マッピング 129
    - ステータス行 132
    - セッション ウィザード 128
    - セッションの作成 128, 129
    - セットアップ オプション 135
    - ファンクション キー 134
  - IBM 3270
    - 仮想キーの名前 312
  - IBM 3270 ディスプレイ
    - 拡張属性 146
    - コードページ 164
- 330 索引



- 仕様 326
  - 先行入力機能 146
  - フォント 163
  - IBM 3270 ディスプレイ エミュレーション
    - Notice Board 157
    - SysReq キーのサポート 149
    - TeemTalk ウィンドウ 146
    - カーソル位置 152
    - キーストロークの記録 154
    - キーストロークの再生 154
    - キーボード マッピング 146
    - クローズ キー 153
    - 数値ロック 152
    - ステータス行 150
    - セッションの作成 145, 146
    - セットアップ オプション 159
    - 挿入モード 152
    - 代替コード ページ 154
    - テキスト表示オプション 152
    - 動作モード 150
    - 入力不可 151
    - 入力方向 152, 153
    - ネットワーク仮想ターミナルモード 150
    - バイリンガル キーボード 152
    - バイリンガル キーボードのサポート 153
    - 表示方向 152
    - プッシュ モード 153
    - 右から左に表示 152
  - IBM 3270 ディスプレイの設定ダイアログ
    - Notice Board の設定 168
    - 各国語の設定 162
    - キーボードの設定 167
    - ディスプレイの設定 166
    - モデルの設定 160
  - IBM 3270 プリンター
    - コードページ 178
    - 制限事項 326
    - フォント 176
  - IBM 3270 プリンター エミュレーション
    - 171
    - IBM 3287-1 プリンターのサポート 171
    - TeemTalk ウィンドウ 171
    - セッション ウィザード 170
    - セッションの作成 170
    - セットアップ オプション 172
  - IBM 3270 プリンターの設定ダイアログ
    - 印刷バイパスの設定 180
    - 各国語の設定 175
    - モデルの設定 173
  - IBM 3370 エミュレーション
    - セッション ウィザード 145
    - セッションの作成 145
  - IBM 5250
    - 仮想キーの名前 314
    - コードページ 210
  - IBM 5250 ディスプレイ
    - クローズ キー 190
    - コードページ 198
    - 仕様 326
    - 制限事項 326
    - 先行入力機能 183
    - 代替コード ページ 190
    - 入力方向 189
    - バイリンガル キーボードのサポート 190
    - フォント 197
    - プッシュ モード 190
    - 右から左に表示 189
  - IBM5250 ディスプレイ エミュレーション
    - FAX 画像のサポート 188
    - TeemTalk ウィンドウ 183
    - キーストロークの記録 190
    - キーストロークの再生 190
    - キーボード マッピング 183
    - 機能 183
    - ステータス行 187
    - セッション ウィザード 182
    - セッションの作成 182
  - セットアップ オプション 193
  - テキスト表示オプション 189
  - ネットワーク仮想ターミナルモード 186
  - ワード プロセッシング モード 188
  - IBM 5250 ディスプレイの設定ダイアログ
    - 各国語の設定 196
    - 環境変数の設定 202
    - ディスプレイの設定 200
    - モデルの設定 194
  - IBM 5250 プリンター
    - 仕様 326
    - 制限事項 326
    - フォント 209
  - IBM 5250 プリンター エミュレーション
    - TeemTalk ウィンドウ 206
    - セッション ウィザード 205
    - セッションの作成 205
    - セットアップ オプション 206
  - IBM 5250 プリンターの設定ダイアログ
    - 各国語の設定 208
    - 環境変数の設定 212
    - モデルの設定 207
  - IBM 5250 ワード プロセッシングモード
    - 仮想キーの名前 316
  - ICL DOC-18
    - 仮想キーの名前 307
- K**
- [Key Macro Settings] (キー マクロの設定) ダイアログ 36
- L**
- [Local] (ローカル) / [Online] (オンライン) モード ボタン 10
- M**
- MDIS Prism
    - 仮想キーの名前 321

[MDIS Prism Settings] (MDIS Prism  
の設定) ダイアログ  
一般設定 255  
設定 259  
ディスプレイの設定 257  
MDIS Prism エミュレーション  
TeemTalk ウィザード 250  
キーボード マッピング 250  
ステータス バー 252  
セッション ウィザード 249  
セッションの作成 249, 250  
セットアップ オプション  
254  
[Mouse Action Settings] (マウス動  
作の設定) ダイアログ 45

## R

Run in Full Screen Mode (全画面  
表示モードで実行)  
Show Configuration Bar (設定  
バーを表示) 291

## S

Sco Console エミュレーション  
80  
[Session] (セッション) メニュー  
[Connection] (接続) 12  
Transport (トランスポート)  
12  
Siemens 97801  
仮想キーの名前 322  
仕様 329  
制限事項 329  
[Siemens 97801 Settings]  
(Siemens 97801 の設定) ダイア  
ログ  
一般設定 279  
設定 283  
ディスプレイの設定 281  
Siemens 97801 エミュレーション  
TeemTalk ウィザード 274  
キーボード マッピング 274  
ステータス バー 276  
セッション ウィザード 273

セッションの作成 273, 274  
セットアップ オプション  
278  
Siemens エミュレーション 273  
SSH2  
[SSH2 Profile Settings] (SSH2  
プロファイルの設定) ダイア  
ログ 16, 21, 26  
[SSH2 Settings] (SSH2 の設定)  
ダイアログ 20  
SSH2 プロファイル作成ウィ  
ザード 17, 22  
新しい公開キーを使用した認証  
プロファイルの作成 21  
パスワードを使用する認証プロ  
ファイルの作成 16  
ホスト接続の作成 15  
SSL  
エラー メッセージ 30  
証明書 30  
Stratus V102  
仕様 327  
制限事項 327

## T

TA6530  
エラー メッセージ 223  
仮想キーの名前 317  
仕様 327  
制限事項 327  
[TA6530 Settings] (TA6530 の設  
定) ダイアログ  
一般設定 224  
設定 228  
ディスプレイの設定 226  
TA6530 エミュレーション  
ANSIモード 219  
TeemTalk ウィンドウ 218  
会話モード 218  
キーボード マッピング 219  
罫線カーソル 219  
ステータス行 222  
セッション ウィザード 217  
セッションの作成 217, 218  
セットアップ オプション  
223  
動作モード 218  
ブロック モード 219  
[Tab Settings] (タブの設定) ダイ  
アログ  
VT シリーズ 101  
Wyse 247  
TCP/IP  
[TCP/IP Settings] (TCP/IP の設  
定) ダイアログ 14  
TeemTalk ウィンドウ  
エミュレーション ステータス  
行 9  
エミュレーション ワークス  
ペース 9  
ステータス バー 9  
設定バー 8  
ソフト ボタン 9  
タイトル バー 8  
メニュー バー 8  
Televideo 955  
仕様 328  
制限事項 328  
Telnet  
[Telnet Settings] (Telnet の設定)  
ダイアログ 13  
仕様 325  
[Tools] (ツール) メニュー  
Attributes (属性) 54  
Key Macros (キー マクロ) 37  
Mouse Actions (マウス動作)  
44  
Soft Buttons (ソフト ボタ  
ン) 52  
SSH2 Profile (SSH2 プロファイ  
ル) 16, 21  
Status Bar (ステータス バー)  
10  
Toolbars (ツールバー) 9  
構成 9  
スクリプト 285  
ファイルをキャプチャ 287,  
288  
ファイルを再生 287, 289  
TTY 印刷モード  
VT シリーズ 87

TVI 910  
仕様 329  
制限事項 329  
TVI 950  
仕様 329  
制限事項 329

**V**

[View] (表示) メニュー  
Soft Buttons (ソフト ボタン) 51

VT100+エミュレーション 80  
VT100 エミュレーション 80  
VT510 7ビット エミュレーション 81  
VT510 8ビット エミュレーション 81  
VT52 エミュレーション 80  
VT+HP220 エミュレーション 81  
VT PCTerm エミュレーション 80  
[VT Series Settings] (VT シリーズの設定) ダイアログ  
一般設定 90  
設定 98  
ディスプレイの設定 95  
VT-UTF8 エミュレーション 81  
VT シリーズ  
[Tab Settings] (タブの設定) ダイアログ 101  
キーボード マッピング 82  
仕様 326  
制限事項 326  
タブの設定の保存 101  
補助ポートの設定 101  
VT シリーズ エミュレーション  
AT&T 4410 エミュレーション 88  
TeemTalk ウィンドウ 82  
TTY 印刷モード 87  
ステータス バー 86  
セッション ウィザード 81  
セッションの作成 81, 82  
セットアップ オプション 89  
入力方向 87  
表示のスクロール 87

**W**

Wyse  
[Tab Settings] (タブの設定) ダイアログ 247  
仮想キーの名前 319  
タブの設定の保存 248

Wyse 50  
仕様 329  
制限事項 329

Wyse 50+  
仕様 329  
制限事項 329

Wyse 60 ネイティブ  
仕様 328  
制限事項 328

Wyse PC-Term  
仕様 329  
制限事項 329

[Wyse Settings] (Wyse の設定) ダイアログ  
一般設定 238  
設定 245  
ディスプレイの設定 242

Wyse エミュレーション  
TeemTalk ウィンドウ 231  
キーボード マッピング 232  
ステータス行 235  
セッション ウィザード 231  
セッションの作成 230, 231  
セットアップ オプション 237  
表示形式 232

**あ**

アプリケーションの設定  
Command Line Start Up  
Options (コマンド ラインの起動オプション) 292  
Save Current Window Position (現在のウィンドウ位置を保存) 291  
Show Configuration Bar (設定バーを表示) 291

**え**

エミュレーション  
AIXTerm 80  
Ansi BBS 80  
AT 386 80  
ATT4410 80  
HP 700-92/96 104  
IBM 3151 128  
IBM 3270 ディスプレイ 145  
IBM 3270 プリンター 170  
IBM 5250 ディスプレイ 182  
IBM 5250 プリンター 205  
ICL DOC-18 261  
MDIS Prism 249  
Sco Console 80  
Siemens 97801 273  
TA6530 217  
VT100 80  
VT100+ 80  
VT510 7ビット 81  
VT510 8ビット 81  
VT52 80  
VT+HP220 81  
VT PCTerm 80  
VT-UTF8 81  
VT シリーズ 80  
Wyse 230  
仕様 : ADDS-A2 329  
仕様 : DEC VT シリーズ 326  
仕様 : HP 700-92/96 326  
仕様 : HZ 1500 329  
仕様 : IBM 3151 327  
仕様 : IBM 3270 ディスプレイ 326  
仕様 : Siemens 97801 329  
仕様 : Stratus V102 327  
仕様 : TA6530 327  
仕様 : Televideo 955 328  
仕様 : Telnet 325  
仕様 : TVI 910 329  
仕様 : TVI 950 329  
仕様 : Wyse 50 329  
仕様 : Wyse 50+ 329  
仕様 : Wyse 60 ネイティブ 328

仕様 : Wyse PC-Term 329  
制限事項 : ADDS-A2 329  
制限事項 : AixTerm 325  
制限事項 : DEC VT シリーズ  
326  
制限事項 : HZ 1500 329  
制限事項 : IBM3270 プリン  
ター 326  
制限事項 : IBM 5250 ディスプ  
レイ 326  
制限事項 : IBM5250 プリン  
ター 326  
制限事項 : Siemens 97801  
329  
制限事項 : Stratus V102 327  
制限事項 : Televideo 955 328  
制限事項 : TVI 910 329  
制限事項 : TVI 950 329  
制限事項 : Wyse 50 329  
制限事項 : Wyse 50+ 329  
制限事項 : Wyse 60 ネイティ  
ブ 328  
制限事項 : Wyse PC-Term 329  
制限事項制限 : TA6530 327  
制限事項 : 全般 325  
エミュレーションの選択  
セッション ウィザード 4  
設定バー 10  
エミュレーション ワークスペ  
ース 9

## お

お問い合わせ先 2

## か

仮想キー

拡張キーボードの機能 305  
名前 299, 302  
標準名 302  
マウス ボタン 47, 305

仮想キーの名前

AT&T 4410 306  
DEC VT510 307  
HP 700-92/96 308  
IBM 3151 310  
IBM 3270 312

IBM 5250 314  
IBM 5250 ワード プロセッシ  
ング モード 316  
ICL DOC-18 307  
MDIS Prism 321  
Siemens 97801 322  
TA6530 317  
Wyse 319  
各国語モード 39

## き

キーボード

各国語モード 39  
キーの機能の再定義 36  
キーのプログラミング 299  
合成文字シーケンス 39  
多国語モード 39  
マッピング 36  
キーボード マッピング  
AT&T 4410 88  
DOC-18 262  
HP 700-92/96 105  
IBM 3151 129  
IBM 3270 ディスプレイ 146  
IBM 5250 ディスプレイ 183  
MDIS Prism 250  
Siemens 97801 274  
TA6530 219  
VT シリーズ エミュレーショ  
ン 82  
Wyse 232

## け

言語/コードページ ファイルのパ  
ス 292

## こ

合成文字シーケンス 39  
コマンド ライン オプション  
ウィンドウの外観 294  
エミュレーション ワークス  
ペース 298  
セッション設定 292

## し

自動ログオン 34

シリアル 31

## す

スクリプト

[Tools] (ツール) メニューから  
実行 285

キーまたはボタンの定義を使用  
した実行 286

マクロからの実行 300

スクリプトの実行

[Tools] (ツール) メニューか  
ら 285

キーまたはボタンの定義の使  
用 286

マクロの使用 300

スクロールの制御 10

ステータス行

IBM 3151 132

IBM 3270 ディスプレイ 150

IBM 5250 ディスプレイ 187

TA6530 222

VT シリーズ 86

Wyse 235

ステータス バー

VT シリーズの拡張機能 86

一時停止/再開ボタン 10

接続ステータス ランプ 10

ターミナル エミュレーション  
インジケータ 10

データ転送ランプ インジケ  
ータ 10

ローカル/オンライン ボタン  
10

## せ

セッション

[Open Session] (セッションを  
開く) メニュー項目からの実  
行 7

コマンド ラインからの実行 7  
実行 7

接続タイプ 11

デスクトップ アイコンからの  
実行 7

トランスポート 11

- セッション ウィザード
    - [Advanced Options] (詳細設定 オプション) ダイアログ 5
    - セッション ウィザードの使用 3
    - セッションの作成 3
    - セッション ファイルの作成 7
    - セッション名 3
    - 接続情報 3
    - デスクトップ アイコンの作成 6
  - セッション設定の実行
    - TeemTalk メニュー 7
    - コマンド ライン オプション 7
  - セッションの保存 10
  - セッション ファイルをロード 292
  - 設定バー 9
  - 設定ファイル 7
- そ**
- ソフト ボタン
    - [Attached to the window] (ウィンドウに固定する) オプション 53
    - [Levels #] (レベル#) ボタン 51
    - [Soft Buttons Settings] (ソフトボタンの設定) ダイアログ 51
    - ウィンドウから切り離す 51
    - 機能の定義 52
    - 削除 51
    - 表示されるレベル 53
    - レベル 51
- た**
- ターミナル エミュレーション インジケータ 10
  - 多国語モード 39
- つ**
- 通信プロトコル
    - SSH2 12
    - SSL 12
    - TCP/IP 12
    - シリアル 12
- て**
- ディスプレイ
    - カーソルを右から左に移動する、IBM 5250 ディスプレイ 189
    - 右から左に入力、IBM 3270 ディスプレイ 153
    - 右から左に入力、IBM 5250 ディスプレイ 189
    - 右から左に表示、IBM 3270 ディスプレイ 152
  - データ スクロールの一時的停止/再開 10
  - データ転送ランプ インジケータ 10
  - テクニカル サポートへのお問い合わせ 2
  - デスクトップ アイコン
    - セッション設定の実行 7
- と**
- トランスポートの選択
    - [Session] (セッション) メニュー 12
    - セッション ウィザード 4
    - 設定バー 9
- に**
- 認証プロファイル
    - SSH2 16
- ひ**
- 表示
    - [Attributes] (属性) ダイアログ 54
    - [Pause] (一時停止) / [Resume] (再開) ボタンによるスクロール 10
    - TeemTalk ウィンドウ 8
    - ウィンドウの要素を削除 292
    - エミュレーション ワークスペース 9
    - カスタマイズ 54
    - 画面の背景色 56
    - キーボード マッピング 88
    - 新規ウィンドウ 9
    - 新規タブ 9
- ステータス行 9
  - ステータス バー 9, 10
  - 設定 57
  - 設定バー 8, 9
  - 属性の無効化 56
  - ソフト ボタン 9
  - タイトル バー 8
  - テキスト属性 54
  - テキストの前景色および背景色 56
  - メニュー バー 8
- ふ**
- ファイルをキャプチャ 288
  - ファイルを再生 289
  - ファンクション キー
    - AT&T 4410 88
  - ファンクション キーのプログラミング
    - AT&T 4410 88
- へ**
- 変換ファイルのパス 292
- ほ**
- ホスト接続
    - SSH2 12
    - SSL 12
    - TCP/IP 12
    - シリアル 12
    - 接続ステータス ランプ 10
    - データ転送ランプ インジケータ 10
    - トランスポート 12
    - ローカル/オンライン ボタン 10
  - ホスト接続ランプ インジケータ 10
  - ホスト通信
    - キャプチャの概要 287
    - ファイルへのキャプチャ 288
    - ファイルを再生 289
  - ホストへの接続 11
- ま**
- マウス ボタン
    - CR を送信 46

- カーソルを移動 45
- 仮想キー 47
- 仮想キーの名前 305
- 機能の再定義 44
- 行選択 45
- 矩形選択 45
- 矩形貼り付け 46
- コピー 45
- コピー/貼り付け 46
- 初期設定の機能 44
- 選択 45
- 選択カーソル 46
- 選択を拡張 45
- 単語選択 45
- 貼り付け 45
- プログラミング 299
- マクロ 46
- マクロの定義 46
- マクロ
  - キー シーケンスの設定 299
  - キーの組み合わせの設定 299
  - スクリプト ファイルの実行 300
  - 特殊文字の設定 300

## み

- 右から左に入力
  - IBM 3270 ディスプレイ 153
  - IBM 5250 ディスプレイ 189

## ゆ

- ユーロ文字 300

## よ

- 用語および表記規則 2